

KS折式輪轉機一台を加へ、朝夕とも二段を發行し、販賣方面に於ても整備を以つて聞えてゐる。これに對抗する青森日報(朝刊四頁夕刊四頁)は太田鐵次君の個人經營で、創刊明治十三年、歴史は東奥日報よりも古い。外に青森報知新聞あり、昭和二年四月の創刊で、部數千六百と稱してゐる。

青森で面白いのは市内の販賣戰で、市近郊を合せて大約一萬四千人の世帯數に對し、大約一萬六千部の新聞が讀まれてゐる。これについて新聞研究所は、昭和二年秋次のやうな調査報告をした。多少の誤りは免れぬとしても、青森市に於ける大勢を觀察する參考にはなり得ると思ふ。

市内販賣部數

東奥日報	六五〇〇一六七〇〇
青森日報	一七〇〇一〇〇〇〇
東朝	二二〇〇(殘一五〇〇)
東日	二二〇〇(殘一五〇〇)
報知	六〇〇(殘一五〇)
時事	三五〇
國民	二二〇
每夕	二五〇(殘一〇〇)

北海タイムス 一五〇一〇〇〇
中 央 一〇〇〇(殘二〇〇)
函館新聞 一〇〇〇(殘一〇〇)
小樽新聞 三〇〇
弘前新聞 五〇〇
弘前大正 五〇〇
八戸毎日 五〇〇
河 北 二〇〇
都 外 三〇〇
中 外 一〇〇
日 本 二〇〇
日 本 一五〇
(右の數字に對し時事は自社の分八一五だと云つてゐる)
右の數字は昭和二年十月上旬から中旬にかけて賣捌乃至專賣店に渡された定數の大體である。他に萬朝、やまと等も幾らかづゝ入つてゐる。

弘前と八戸

弘前市は人口三萬六千二百、世帯數六千五百、此處には弘前新聞(朝刊四頁)と弘前大正報(朝刊四頁)の二新聞がある。縣廳所在地ではあるが、地の利を得ず、全縣的の勢力とはなり得ない。弘前大正は販賣部數一千九百と稱してゐる。

山形縣

八戸町には八戸毎日新聞(朝刊四頁)はちのへ(朝刊四頁)の二新聞がある。八戸毎日は大正十年の創立で、販賣部數三千五百と稱してゐる。

▲人口……一〇三、七、三二二
▲世帯數……二六、〇〇六

山形縣には約二十種近くの新聞がある。人口は全國第二十八位、宮城縣と秋田縣の間にあつて、人口の割には非常に新聞が多いと云はれ得る。これは山形市、米澤市、鶴岡市、酒田市等相當の都會が諸方に點在するのが一つの理由であらう。併し何と云つても山形市は第一の中心地で、最も有力なる新聞が發行されてゐる。

山形の二紙

山形市は人口五萬五千九百、世帯數一萬、此處に山形新聞(朝刊四頁夕刊四頁)、日刊山形(朝刊四頁夕刊四頁)の二有力紙を初め、山形民報(夕刊四頁)、新山形(夕刊四頁)及び山形民聲、昭和新聞等がある。

東京各新聞

山形民報は非政友派を標榜し、社長は齊藤庄之助君、新式輪轉機

國民の分は本社の直通で外に福島中繼三通話あり。

米澤市其他

第二中心地の米澤市は人口四萬四千六百、世帯數八千、此處には米澤新聞(朝刊四頁)、夕刊よねさは(夕刊四頁)及び米澤朝報の三紙がある。米澤新聞は主幹素月長平君、個人經營で置賜一市三郡に勢力を張つてゐる。夕刊よねさは民政黨系で社主加藤富之助君、二千五百を出してゐるといふ。

第三中心地酒田市には酒田新聞(夕刊四頁)、兩羽朝日新聞其他があり、第四中心地鶴岡市(人口三萬一千八百、世帯數六千)には鶴岡日報(朝刊四頁)、鶴岡新聞(朝刊四頁)其他がある。

秋田縣

▲人口……一、〇三、四、四一〇
▲世帯數……二六、〇〇六

山形縣の新聞が多過ぎるのに對して、此處は反對に少な過ぎると云つてもいい位だ。秋田縣は人口全國第二十九位、山形縣と大分縣の間にあつる。新聞中心地は秋田市

秋田魁外二紙

秋田市は人口四萬三千八百、世帯數七千九百。此地發行の最も有力な新聞は、自ら北日本の大新聞を以て任ずる秋田魁新報(朝刊四頁夕刊四頁)である。民政系に屬し、二十萬圓の株式會社で、安藤和風、中村重悳の二君が當務となつてゐる。地元には於ける通信完備し、地方種を中心に取扱つてゐる。事是他の二紙の眞似の出来ない處であり、又安藤君が夕刊に書いてゐる「問題の問題」其他の諸文は大なる權威となつてゐる。同紙が今日の地盤を築いたのは、井上廣居、安藤和風、中村重悳三君協力の賜と云はれる。井上君は秋田市にあり、安藤君は俳人として舊くから中央文壇に知られ、中村君は安藤君の推薦によつて入社した人

東京紙の立場

東京各紙は、販賣に編輯に猛闘争をやつてゐる。東朝、東日、時事、報知、國民の五紙は各支局を有し、國民が地方版を持たぬだけで他は皆地方版を持つてゐる。即ち東日東朝は八段、報知は七段、時事は四段で山形との組合せである。何分にも東京から時間がかゝるのでニュースの競争では随分苦しいらしい。それに電話も東京直通線がないため非常に不便で、大部分は電報で通信してゐる。従つ

購入の計畫ありと。新山形は五萬圓の匿名組合で、社長は菅野彦吉君、販賣部數五千と稱してゐる。山形市に於ける東京各紙と地元新聞との競争とは可なり猛烈で、國民、報知、東朝、東日、時事支局長の二八會に對し、山形新聞、日刊山形、山形民報、新山形の四社は山形記者俱樂部を組織し、兩者の軋轢は容易に解かるべくもなかつたが、昭和二年春川會山形市長の仲裁で漸く融和し、新に山形記者協會を組織した。事の起りは各官公衙が新聞材料公表の時刻を二様にし、東京新聞は地理的關係上地方新聞より一日遅れて掲載せねばならぬといふので、何時も十二時間乃至二十四時間位早く提供してゐたといふにあるといふ。

次に山形市に於ける東京各社支局の通信施設を示す(昭和二年四月)

局員	通信	豫約	段數
國民	二	三	二
報知	一	二	五
朝日	三	三	八
東日	四	四	二
時事	四	四	一

て突發事件以外は大部分書き原稿で送るのだから、地元新聞には大に有利な譯である。

併し東京新聞の強味とする處は如何なる政黨にも左右されず、常に公正なる立場から批判し、遠慮氣兼ねなくどしどし報道の出来る事、殊に地方紙はお互に醜い泥試合を續けてゐる現状なのだから公平なる報道を得んとするには讀者はどうしても東京紙に頼る外はない。これは單に政府問題ばかりでなく、社會部の突發事件ですら地方紙は色々の縁故關係から抹殺して了ふ事が少なくない。そんな事から東京紙は政黨連にも役人連にも煙たがられてゐる。

推定部數の一

次に地元三紙の販賣部數、及び移入紙について、同縣下の某販賣業者は次の如くに推定してゐる、

東日	一〇、〇〇〇
東朝	六、五〇〇
時事	二、〇〇〇
秋田魁新報	三〇、〇〇〇
秋田新聞	八、〇〇〇
秋田時事新報	三、五〇〇

推定部數の二

右に對して今一つ推定部數がある、それは秋田縣某官憲方面の調査推定にかゝるもので、これ又信用し得べきものではないが、多少の參考材料にはなる。その概數は次の如くである。

秋田魁新報	五〇、〇〇〇
秋田新聞	一〇、〇〇〇
秋田時事新報	七、〇〇〇

新潟縣

東日	二〇、〇〇〇
東朝	一八、〇〇〇
時事	九、〇〇〇
報知	九、〇〇〇
時報	九、〇〇〇
中國	四、五〇〇
中外	四、〇〇〇
中央	四、〇〇〇
民衆	四、〇〇〇
外國	八、〇〇〇
中朝	二、〇〇〇
萬朝	二、〇〇〇
大朝	九〇〇
大朝	九〇〇

新潟縣は人口全國第七位、福岡縣と靜岡縣の間にある大縣だが、地理的關係其他から、全地域が三つ乃至四つに分たれその一つ一つに新聞中心地があるため、全縣的に一二の新聞が發達すべく不便である。従つて河北新報とか福岡日日とかは比すべきものはないが、地方紙として相當有力のものに二つある。

二新聞中心地

先づ本縣を地域的に區別すると

新潟の二紙

新潟毎日二十萬圓の株式會社

次の如くなる。

- 一、上越。高田市(人口三萬八百、世帯數五千五百)を中心とする頸城三郡。
- 二、中越。長岡市(人口五萬三千百、世帯數一萬百)を中心とする古志、三島、南蒲原、刈羽、魚沼三郡。
- 三、下越。新潟市(人口十萬八千九百、世帯數二萬二千)を中心とする市西北中蒲原四郡
- 四、佐渡。佐渡全島。

而してこれ等の各地は、それぞれその中心地發行新聞の勢力範圍となり、此の分野は可なり侵し難いものになつてゐる。

而して右の中、比較的領域も廣く人口も多いのは、長岡市と新潟の領域で、ついで高田。佐渡は最も狭小である。

新潟市では新潟毎日新聞(朝刊六頁夕刊四頁)最も有力とせられついで新潟新聞(朝刊四頁夕刊四頁)新潟時事新聞(朝刊四頁夕刊四頁)あり、外に新潟民報(夕刊四頁)新潟朝日新聞其他がある

尚ほ此の他新發出町、柏崎町、三條等からもそれ／＼新聞が發行され、全縣下の新聞數は二十餘種に上る。

東京各紙

東京各紙は今の處まだそれ程力を入れて居らぬらしいが、やがて上越鐵道が完成すれば、東京長岡間の時間が七時間も短縮され東京新聞は三版縮切のものが朝に來るやうになる。地元各紙はうっかりして居られない。

信濃毎日新聞

長野市は人口六萬六千五百、世帯數一萬三千三百(但し其後近郊を合併したため増加した)此處に信濃毎日新聞(朝刊六頁夕刊四頁)長野新聞(朝刊四頁夕刊四頁)、信濃日日新聞(朝刊四頁)の三紙がある、中にあつて最も有力なのは信濃毎日である。

長野縣

長野縣は人口全國第九位、靜岡縣と廣島縣の間であり、比較的富の分配平衡を得、教育も平均して高く、且つ産業が盛んであるから新聞購讀者も一般に行き亘つてゐる。

で政友系に屬し、事務理事は小柳調平君である。縣下新聞經營者中の雄と稱される。紙面は金のかゝつてゐる割に面白さが足りないといふはれるが、縣下の一流紙たる事は動かない。目下四台の輪轉機を使用してゐる。

新潟新聞は民政系で同じく二十萬圓の株式會社、社長は久須美東馬君である。明治十年の創刊で最も古い歴史を持つ。紙面はやゝ堅ぐるしいと云はれる。

新潟時事は大正十三年の創刊で政友本黨の機關として生れたのだが、政界の動搖に關聯して政黨關係から疎隔するやうになり、一時は日魯漁業の支配人三浦良次君の手に經營が移つたが、最近では純政友機關となり、再び山川健君が入つて經營の衝に當るらしい模様である。

新潟民報は六萬圓の株式會社で販賣部數一萬五千五百と自稱してゐる。

右の各社何れも事業部の活動が盛んだが、中でも新潟毎日、新潟時事は宣傳に抜け目がない。

長岡と高田

長岡市には北越新報(朝刊六頁夕刊四頁)越後新聞(朝刊四頁夕刊四頁)及び長岡日報(夕刊四頁)其他がある。

北越新報は明治十四年の創刊で社長である。民政系に屬し、政友系の新潟毎日と共に、本縣での二大新聞と云はれる。堅實なる經營振りを以つて聞え、紙面は相當金のかゝつてゐる割に榮へない。主筆は關太郎君。

越後新聞は十五萬圓の株式會社で社長は木村清三郎君、政治と經濟を標語として紙面の特色を地方色の高調につとめ、昭和二年一月朝刊を畫刊に改めた。これは思ひ切つた改革であるが相當効果があつたやうである。此社の支配人は今成幸一君、主筆は藤井浩然君。共に才人。

高田市には高田新聞(朝刊四頁夕刊四頁)又は二頁)高田日報(朝刊六頁)越後新聞(夕刊四頁)其他がある。新潟や長岡に比較すると總てが不活潑だが、殊に販賣政策に苦心が足りないやうである。

佐渡には相川の佐渡新聞(朝刊四頁)外に二三の新聞がある。

機を使用し、部数は三萬を前後し
てゐると推定する向きもある。

長野新聞は四萬圓の株式會社で
信濃毎日につぐ有力紙、昭和二年
丸山盛雄君が辭任して主筆の政友
會代議士山本慎平君が社長となつ
た。丸山君は六三銀行の常務を兼
ねてゐたので、新聞經營と銀行業
と兩立しないのを痛感しての辭任
だと稱される。主筆は矢ヶ崎賢次
君で同君は會つて同紙の編輯長か
ら松本市の「しな野」へ主筆とし
て行つた人である。

信濃日日其他

信濃日日新聞は四萬圓の株式會
社で民政系の機關紙として古い歴
史を有する。此の二三年以來積極
政策の下に活躍してゐる。社長小
林久七君、専務小等原幸彦君、小
等原君は昭和二年初頭「新聞及新
聞記者」誌上に次の如く述べてゐ
る。曰く「本年度に於ける事業と
しては一月中に現在の資本金二萬
二千圓を一躍八萬圓に増資の締切
をなし、長野縣廳前に購入しある
敷地へ鐵筋の社屋を新築移轉して
大に陣容を張る計畫である」云々
次の中心地の松本市は人口六萬

三千四百、世帯數一萬二千九百、
本縣産業經濟の中心地である。新
聞は、しなの新聞(朝刊四頁夕刊
四頁) 信濃民報(朝刊六頁) 信濃日
報(朝刊四頁) 其他がある。

しなの新聞は大正十四年四月二
十五萬圓の株式會社として花々し
くスタートを切り、大に囑望され
たものであるが、其後あまり振は
ないやうである。社長は上條信君
信濃民報は十二萬圓の株式會社
で社長は三澤啓一郎君。多くは出
ないが舊い地盤がある。

信濃日報は民政系で明治五年十
月の創立、全國新聞中ても古い方
である。その創刊當時は木版で印
刷されてゐた社長は降旗元太郎君

各地の諸新聞

上田市は人口三萬二千五百、世
帯數七千四百、此處には北信毎日新
聞(夕刊四頁)、上田新聞(朝刊四
頁)の二紙がある。

北信毎日には三萬圓の株式會社で
社長武市如意君、販賣部數八千と
稱してゐる。昭和二年六月上旬社
屋工場新築なり之れに移轉した。
同時に活字を入ポイントから七牛
に改める事に決定した。

飯田町は下伊那及び上伊那の一
部を勢力範圍とし、政友系の南信
新聞(夕刊四頁)、民政系の信濃時
事新聞(夕刊四頁朝刊二頁)、及び
南信實業新聞(朝刊四頁)がある。
南信實業は販賣部數三千と稱して
ゐる。

此の外、北佐久郡岩村田町に中
信毎日新聞(夕刊四頁)あり、部數
一萬三千八百と稱し、南佐久郡白
田町に東信新報がある。兩社とも
相前後して輪轉機を入れた。

南信日日新聞

最後に上諏訪町の南信日日新聞
(夕刊四頁)を一瞥しより。此の社
は八萬圓の株式會社で社長林七六
君、専務は三澤慶重君。大正十五
年鐵筋コンクリートの社屋を新築
しつゞいて工場の造改築、並に寫
眞版及び凸版製版部を新設したが
多少の利益を擧げてゐるのは此の
階級の新聞として大に注目し得る。
次に大正十五年五月一日より
昭和二年四月三十日に至る同社の
營業成績を示す。

南信日日新聞 貸借對照表

資産の部		建物	一五、五、六〇
		機械器具什器	一四、三九、五〇
		活字及附屬品	八、三、五〇
		保證金	六八、三〇
		權利金	一六、四〇、〇〇〇
		有價證券	〇、〇〇〇
		未經過火災保險料	三〇、〇〇〇
負債の部		預金	一一、二、六〇
		當座預金	一一、二、六〇
		振替貯金	一、七、二〇
		假拂金	三、七、八〇
		在庫品	一四、一、〇〇〇
		新聞賣掛金	六、五九、八〇〇
		廣告料未收入	五、八〇、〇〇〇
		營業貸	二、六一、六〇〇
		現金	一、〇三、七〇〇
		合計	二、九、六、三三〇
負債の部		資本	一〇、〇〇〇、〇〇〇
		未拂金	一、一、八〇〇
		預り金	四〇〇、〇〇〇
		假預り	三、六、〇〇〇
		前期繰越金	八、八、五三三
		當期利益金	三〇、三、三三

合 計 八、四、三、三三〇

損益處分案

- 一金六萬九千五百八十二圓五厘 當期總益金
- 一金六萬七百十三圓四十四錢九厘 當期總損金
- 差引二百二圓三十七錢六厘 當期利益金
- 金八百四十八圓五十二錢三厘 前期繰越金
- 合計金千五百八十九圓九錢九厘
- 右處分案左ノ如シ
- 一金六十圓也 法定積立金
- 一金八百圓也 株主配當金
- 一金百九十圓八十九錢九厘也 後期繰越金

五、東 海

愛知縣

人口 一、三、三、六、〇〇〇
世帯數 四、七、七、〇〇〇

名古屋市中は中部日本の新聞中心
地として、東京、大阪と共に、日
本に於ける大中心地の一つになつ
てゐる。たゞその事情の異なるのは
大阪が東京新聞の脅威を受けず、
東京が大阪新聞の脅威を受けない

のに比して、名古屋は絶へず大阪
新聞の侵入の爲めに苦しめられて
ゐる事である。即ち、名古屋市中
あつては、對内的には新愛知對名
古屋新聞の如き地元新聞同志の競
争あり、對外的には此れ等地元新
聞對大朝、大毎の猛襲争が行はれ
てゐるのである。

猛烈な販賣戰

大朝、大毎對新愛知、名古屋新
聞の、愛知縣を中心として岐阜、
三重、靜岡各縣に亘つての販賣戰
争は既に多年の間題であり、此頃
は漸くその無謀な競争の愚を知つ
て、漸く編輯戰へ向はんとする傾
向が著しくなつて來たと云はれる
ものゝ、尙ほ昭和二年初夏の如
き、大朝、大毎兩紙は互に數名乃
至十數名の擴張團を組織して名古
屋方面に活動し、競争激成の餘波
は、互に双物を閃めかして暴行沙
汰に及ぶが如き不祥事を招き、且
つ其の勸誘は、讀者に對して或る
種の脅威を興へるといふので、警
察當局でもすて置けずとなし、そ
の取締方法を構ずるといふ風な噂
まで傳へられるに至つた。
又一方新愛知(朝刊八頁夕刊四

頁)と名古屋新聞(朝刊八頁夕刊
四頁)は、大阪新聞に對抗する爲
めに、朝夕刊十二頁といふ大紙幅
を一ヶ月八十錢の定價で賣る事を
餘儀なくされてゐる。福日でも北
海タイムスでも、同じ紙幅で九十
五錢乃至一圓である。然るに八十
錢は驚くべき安値である。それで
昭和二年の春、兩社に値上げの協
定を計つたが、終に意見の一致を
見ず不成立に了つた。其の意見の
相違點として傳へられる處によれ
ば新愛知側は此際大朝、大毎同様
一圓に値上げを斷行し、賣捌獎勵
の意味で一部に付五錢宛賣捌に與
ふる事を主張し、名古屋新聞側は
大朝、大毎に對抗の意味で九十五
錢に値上げすべしと主張したので
あると。

廣い勢力範圍

愛知縣は人口全國第五位、兵庫
縣と福岡縣の間にある。而して縣
内には

- 名古屋市 人口 六、六、〇〇〇
- 世帯數 一、四、二、〇〇〇
- 豐橋市 人口 三、三、〇〇〇
- 世帯數 一、〇、五、〇〇〇
- 岡崎市 人口 四、五、〇〇〇

世帯數 一、〇〇、五〇〇
一宮市 人口 四、七、〇〇〇
世帯數 一、三、〇〇〇
等の諸市を含み、教育程度も高く
富力もあるから新聞の行亘つてゐ
るのは當然である。
且つ名古屋二紙の勢力範圍は、
愛知縣の外に

- 岐阜縣 人口 一、三、三、〇〇〇
 - 世帯數 三、六、六、〇〇
 - 三重縣 人口 一、〇、七、〇〇〇
 - 世帯數 三、六、六、〇〇
 - 靜岡縣 人口 一、六、七、〇〇〇
 - 世帯數 五、〇、七、〇〇〇
- 等があり、更に和歌山、滋賀、奈
良、長野、福井、石川、富山等に
までものびてゐる。
だがその範圍内に於て二紙に厚
薄のあるのは勿論、二紙以外の地
元紙、名古屋毎日新聞(夕刊四頁)
愛知新聞(夕刊四頁)、名古屋日日
新聞(朝刊四頁)等になると自づか
ら其の範圍の狭められるは已むを
得ない。地元では上の五新聞を五
大新聞と呼んでゐる。
名古屋市中は右の外に尙ほ名古
屋日報(朝刊四頁)、中京毎日新聞
(夕刊四頁)其他があり、豐橋市、
岡崎市からも種々の新聞が發行さ

れてゐる。

新愛知

新愛知は、地方新聞として一流の大新聞であるが、その設備に於て、紙幅内容に於て、東京大阪の大新聞に較べて少しも遜色がない百萬圓の合資會社で、二臺の高速機と二臺の折疊式機、及び外六臺の輪轉機を有してゐる。大正十五年五月工場の新建築成り、續いて鐵筋コンクリート四階の本館も昭和二年四月に竣工した。

市内版の外に、尾張版及び、三河版等七版を發行し、又別に、岐阜日報、東濃新聞、三重日報、大和旭新聞、紀國新聞、京都附録、滋賀附録、新信濃、新福井日報、北國日報、富山タイムス、上越日報、駿遠新聞等を發行しそれら、縣下の本紙讀者に無代添付してゐる。つまりそれ等諸紙の發行地域がすべて同紙の勢力の及ぶ處と見てよい譯である。

社長大島宇吉君の非凡な手腕に配するに支配人に大島慶治君、營業部長に岡田伊三郎君あり、今日の大をなしたもので、その地盤は牢として抜くべくもない。編輯方面では顧問に法學博士信夫淳平君局長に尾池義雄君あり、紙面は大坂の派出と東京の地味の間を進んでゐるやうな傾きあり、販賣と共に編輯に於ても對大阪紙の苦心が見られる。

名古屋新聞

名古屋新聞は新愛知に對抗する新聞として六十萬圓の株式會社で社長は、前社長小山松壽君が前内閣農林政務次官就任の爲め社長を辭し與良松三郎君が社長代理となつてゐたのを、内閣總辭職の結果再び小山君が社長となり與良君は主幹となつた。同社は目下津田式輪轉機八臺を有し、東洋町に昭和三年春竣工の豫定で新社屋の建築に着手した。

勢力範圍は、新愛知と同じく愛知を中心として岐阜、三重、静岡長野其他に及び、共に中部日本の代表紙であるが、新愛知の政友系に對して名古屋新聞は民政系である事などの關係から、民政黨盛んな發行地元に於ては新愛知よりもやゝ讀者が充實し、その代り他府縣での勢力は新愛知が名古屋を凌駕してゐると云はれる。されば、

其他の各紙

次に他の三新聞を見るに、名古屋毎日十七萬圓の株式會社で、大阪毎日が大株主であり、千葉龍雄君が専務の位置にある。外國製マリノニ式輪轉機及び内國製機一臺を有し、市内版の外に四版を發行し、販賣部數約十萬と自稱してゐる。
愛知新聞は名古屋日日新聞の姉妹紙で織木壽三郎君が社長、大正四年十月一日名古屋に於ける最初の夕刊新聞として朝刊から改變された特異の歴史を持つ。
名古屋日日は瀬川嘉助君が社長政友系を標榜してゐる。
右の外、豊橋市に豊橋日日新聞

山梨縣

山梨縣は人口全國第四十三位、滋賀縣と福井縣の間にあつて、最も小さな縣の一つである。新聞中心地の甲府市は、殆んど縣の中央に位し、人口六萬八千二百、世帯數一萬八千三百を有する。此の地に
山梨日日新聞(朝刊四頁)
山梨毎日新聞(朝刊四頁)
山梨民友新聞(朝刊四頁)
山梨民報(朝刊四頁)
山梨日報(朝刊四頁)
の五新聞がある。

山梨日日其他

中であつて最も有力とせられるものは山梨日日で、十二萬圓の株式會社、社長は野口二郎君である。現に石川式及び折疊式の二臺

(朝刊四頁)、豐橋新報(朝刊四頁)、東海朝日新聞(朝刊四頁)其他があり、岡崎市に岡崎朝報(朝刊四頁)、新三河(朝刊四頁)がある。岡崎朝報は部數六千三百と自稱する。

の輪轉機を使用し販賣部數四萬五千と自稱してゐる。兎に角、縣下の代表的新聞として信用あり、記事は正確との評判。最近企劃部に力を注ぎ各種催物に新生命を開拓すべくつとめてゐる。

山梨日日は社長保坂政治郎君、山梨日日につぐ有力紙で經營も幾分樂になつたと云はれる。
山梨民友は販賣部數八千と稱し社長に上野亮一君、主幹に新進の小泉義親君がある。

各紙の販賣部數は見る人によつて推定を異にするが、最も辛い見方では、地元の五新聞の全販賣部數を合せて四萬足らずとなし、その半分を山梨日日が占め、残りの半分の半分を山梨日日が占めるといふ風に推定してゐる。一種の見方であるが元より正確なものではない。

山梨縣は大體に於て東京新聞の勢力範圍であり、東日、東朝、國民は八段、時事と報知は七段の地方版を持つてゐる。移入紙も右の五紙最も多く、最大一萬五千見當から五六千見當の紙を入れてゐるらしい。元より移入紙の部數の方が地元各紙の販賣部數より多い。

静岡縣

静岡縣は東京、大阪兩新聞勢力の分水嶺となつてゐる。即ちその東部は東京各紙の勢力圏に入り、西部は大阪新聞の領域となり、同時に、名古屋の新聞が可也に侵入してゐる。併し縣は人口全國第八位、新瀉縣と長野縣の間にある大縣で、且つ静岡市、濱松市等の都會を包容するので、地元の新聞にも相當のものがある。

静岡の二紙

その中心地である静岡は、人口八萬四千七百、世帯數一萬六千五百、此處に静岡新報(朝刊四頁夕刊四頁)静岡民友新聞(朝刊四頁夕刊四頁)の二紙が對立し、外に名古屋新聞經營の静岡朝報(朝刊四頁)と新愛知經營の駿河新聞(朝刊四頁)の二つがある。

静岡新報は松浦五兵衛君が社長で五萬圓の株式會社、静岡民友は永田善三郎君が社長で二十萬圓の株式會社である。此の兩社は、創

刊當時から大隈もたゞならぬ仲で猛闘を續けてゐたが、松浦君が政友會に入黨し、民友は前社長の岡崎伊勢藏君の手から昭和二年三月民政黨代議士永田君の手に移るに及んで益々政黨的色彩を加へてその争鬪は愈々熾烈の度を加へた。

民友には永田君に配するに新進の大石光久助君あり、何處となく若々しい感じのあるに對して、新報はとりすました落着きを持つてゐる。例へば民友が軟派や家庭欄に力をそゞげば新報は、文藝部に光を轉るといつた具合である。勢力範圍は縣の東部と西部に於て民友優勢に、西部に於ては新報が民友を壓すると云はれる。部數は兩社合せて四萬前後と推定する向もある。

濱松と沼津

第二中心地の濱松市は、人口九萬二千、世帯數一萬八千九百、此處には
濱松新聞(朝刊四頁夕刊二頁)、
日本民衆新聞(夕刊四頁)の二紙と静岡日報、及び新愛知經營の駿遠日報、名古屋新聞經營の西遠新報

等がある。
濱松市は人口静岡を凌駕し商工業の中心地として股盛であるが、新聞は政治的中心地である静岡の比ではない、濱松新聞は大正十五年度から積極的方針を標榜し、日本民衆は下町の讀者を目標としてゐるが、新愛知をはじめ、移入紙の跳梁を如何ともなし得ない。

東へ來て沼津市は人口三萬八千世帯數六千九百、此處に沼津日日新聞(夕刊四頁)がある。大正十五年四月の創刊で五萬圓の株式會社社長は岩田實君、専務井上彰君、沼津市と三島町及びその附近一帯を本據として、東駿から伊豆半島の全部を其の勢力圏内に包含せんと努めてゐる。其の將來には大に興味を繋ぐ事が出来る。

岐阜縣

岐阜縣は名古屋と大阪の狭撃を受けて全くやう悪い處である。従つて地元新聞は不興を危かれないが、縣の人口全國第二十一位、長崎縣と群馬縣の間にある相當大

な縣なので、新聞の種類は可也にある。

その第一中心地は岐阜市で人口八萬一千九百、世帯數一萬七千六百、此處に六七種の新聞があり、第二中心地の大垣市は人口三萬三千六百、世帯數七千、此處には二つ程新聞がある。又飛騨の高山町其他からも一二の新聞が出てゐる。

地元の各紙

岐阜市發行の新聞中最も有力とせられるのは岐阜日日新聞(朝刊四頁夕刊四頁)で明治十四年の創刊、個人經營で社主高橋嘉津美君社長兼主筆西田銳吉君である。販賣部數二萬七千と稱し、津田式輪轉機一臺と同じく色刷機は一臺を有してゐる。

之れにつぐのは岐阜新聞(朝刊四頁夕刊四頁)で二萬五千圓の合資會社、社長清寛君、副社長西倉孝一君、販賣部數二萬八千と稱してゐる。大岐阜新聞(夕刊四頁)、岐阜毎夕新聞(夕刊四頁)外に中部復興其他がある。

高山町には飛騨毎日新聞(夕刊四頁)あり上木藤四郎君が社長で販賣部數四千二百と稱してゐる。最後に岐阜縣の各紙は、昭和二年春山陰震災の義捐金を募集したが、各社取扱高は次の如くであつた。

岐阜日日	二一、四四〇圓
岐阜新聞	三、五八八圓
新愛知支局	一、六一四圓
飛騨毎日	六九六圓
岐阜毎夕	一五圓

三重縣

三重縣は大體に於て名古屋の新聞の勢力範圍であり、大阪の新聞も可也に入つてゐる。人口は全國第二十三位、群馬縣と愛媛縣の間にあり、新聞の種類は人口の割りに多い。従つて地元紙は概して不振を免かれぬ。

山田市(人口四萬八千八百、世帯數九千六百)がある。伊勢新聞其他 津市の伊勢新聞(朝刊六頁夕刊四頁)は舊くから本縣の代表的有力紙と稱され、個人經營で社長は松本宗重君である。前社長は松本恒之助君と稱し、現社長の實兄だが、大正十五年六月没した。同社は新に週間コードモ新聞を兼營し、目下内國製輪轉機三臺と九臺の平盤印刷機を使用してゐる。津市には、右の外伊勢朝日新聞(夕刊四頁)等二三の新聞がある。四日市には四日市商業新聞(夕刊四頁)及び勢州毎日新聞(朝刊四頁)がある。前者は島壽善衛君が社長、代理部を持つてゐる。後者は森永判四郎君が社長で最近に新式輪轉機を購入した。宇治山田市には伊勢朝報(朝刊四頁)其他があり、松阪町には伊勢日日新聞、南勢新聞其他がある。伊賀の國へ來ると、殆んど大朝大毎の勢力内に入り、名古屋の新聞は勿論、全縣的に勢力を張る伊勢新聞と雖も大阪紙に比すれば五分の一位しか入つて居らぬと稱される。

北陸

石川縣

石川縣は大阪からも名古屋からも相當距離があるから、地方新聞の伸びる上には可也いゝ地位にある。縣は人口全國第三十四位、和歌山縣と富山縣の間にあり、北陸文化の中心たる金澤市(人口十四萬七千四百、世帯數三萬二千四百)を含む。

金澤市から發行される主要新聞は 北國新聞 朝刊六、夕刊四 北陸毎日新聞朝刊四、夕刊四 金澤新聞 朝刊四 夕刊いしかわ夕刊四 北國夕刊新聞夕刊八 等であつて外に北國日日新聞(朝刊四頁)及び新愛知經營の北國日報(朝刊二頁)等がある。

各有力新聞

北國新聞は石川縣を勢力範圍とするのみならず、富山縣に越中新聞、福井縣に福井版を發行してゐる。明治二十六年の創刊で、個人經營、資本金十萬圓、社長は林政武君、理事長飯尾次郎三郎君、主筆は寫田健二君である。政争の盛んな此處にあつて比較的黨臭を帯びる事少ない。

北陸毎日新聞は三十萬圓の株式會社で、社長は櫻井兵五郎君、明治三十三年の創立で、昭和二年十月一萬圓を迎へた。北國新聞につぐ有力紙である。

金澤新聞は個人經營で社長は田中清文君、富山市の北陸タイムズの姉妹紙で、元來朝夕刊八頁紙であつたが、昭和二年一月十五日より夕刊を分離して夕刊いしかわを發行し、朝刊四頁のみとなつた。北國夕刊新聞は大正十年四月の創刊で、石川縣に於ける最初の夕刊新聞である。個人經營で社長は渡邊祥明君。

最後に同縣某官憲方面の推定によつて地元各紙の發行部數は次の如くである。

北國新聞	四九、〇〇〇
北陸毎日新聞	一四、〇〇〇
金澤新聞	一五、〇〇〇
夕刊いしかわ	一一、〇〇〇
北國夕刊新聞	一五、〇〇〇
北國日報	七、〇〇〇
北國日日新聞	三、〇〇〇

福井縣

福井縣は大體に於て大阪新聞の勢力範圍にあり、名古屋の新聞も可也に入つてゐる。従つて地元にも多數の新聞はあるが、頗る不振で大したものはない。それに縣も小さく、人口全國第四十四位、山梨縣と奈良縣の間にあり。

新聞中心地の福井市は人口九萬七千九百、世帯數一萬二千五百、此處に福井新聞(朝刊八頁)、福井日報(朝刊四頁)、福井毎日新聞(夕刊四頁)、及び新愛知經營の新

福井日報朝刊二頁等がある。福井新聞其他 福井新聞は四萬圓の株式會社で社長は今村七平君、福井市發行新聞中唯一の獨立せるもので、縣下に信用を得てゐるが、致賀以西若狭方面には勢力微弱、販賣部數三萬と自稱してゐる。民政系の新聞だが記事は比較的公正だと云はれる。主筆は民政黨議員土生彰君縣下に於ける唯一の輪轉機刷紙である。

福井日報は二十萬圓の組合組織で政友系に屬し、出資者は山本條太郎君の如くに見られてゐる。而して同紙は政友系なるにも拘はらず、民政系の名古屋新聞と併賣してゐる。昭和二年舊城内に社屋を新築した。

福井毎日是小垣文次郎君が社長で部數六千と稱し、新福井日報は部數一萬二千と自稱してゐる。以上各紙の外に、郡部には三國町にみくに新聞(朝刊四頁)あり、小濱町に若狭新聞(夕刊四頁)等がある。若狭新聞は民政系で部數三千七百と稱する。

次に各紙の部數に就いては種々

の推定が行はれてゐるが、或る方面では最大の福井新聞を以つて一萬前後となし、福井日報五千部内外若狭新聞、みくに新聞其他は二三千と見てゐる。元よりこれは一種の參考たるに過ぎない。

移入新聞

移入紙では大阪朝日は十段の福井版を有し、大阪毎日には八段の福井版を有してゐる。大朝は福井市に於てすら優に福井新聞以上に出ると云はれ、縣下を通じて大朝一萬七八千、大毎はそれよりやゝ少なく一萬四千見當と推定する向もある。新愛知も可なり入つてゐるが、漸次大朝大毎におくれ氣味になつて來たと稱される。東京紙は全然振はない。

富山縣

富山縣は東邊道に於ける靜岡縣の如く、北陸方面に於て大阪紙と東京紙との分水嶺になつてゐる。併し靜岡縣に於けるよりは東京新聞の勢力薄く、大阪新聞の勢力が

濃厚である。名古屋の新聞も相當に入つてゐる。人口は全國第三十五位、石川縣と島根縣の間にあり、富山市と高岡市の二新聞中心地がある。

富山の諸紙

富山市は人口六萬七千四百、世帯數一萬四千四百、此處に北陸タイムス(朝刊四頁夕刊四頁)、富山日報(朝刊四頁夕刊四頁)、富山新聞(朝刊六頁)、及び新愛知經營の富山タイムス(朝刊四頁)、名古屋新聞經營の富山毎日新聞(朝刊二頁)の五新聞がある。

北陸タイムスは五十萬圓の株式會社で金澤に金澤新報及び夕刊いしかわを兼營してゐる。富山縣第一の有力紙と云はれ、前貴族院議員の兼封家田中清文君の個人經營である。田中君が財産と命を抛つて新聞事業の爲めに盡しつゝある貢獻は、北陸文化の一偉觀と稱される。田中君の周圍には北陸タイムス編輯長の内藤隆君、金澤新報理事長の土田行丸君あり、其の兩翼として重きをなす此社は昭和二年三月新式輪轉機二臺を加へ、現に三臺を使用してゐる。大正十五

年北陸新聞界に於て初めて記者採用試験を行ひ、出版部を設け、傳書場を置き、活動寫眞部を活用する等、其の活躍振りに異彩を放つてゐる。富山日報は明治十六年の創刊で縣下第一の古い新聞である。五千圓の株式會社で民政系に屬し、大正十五年秋出村惟昌君の没後、金岡又左衛門君が社長となつてゐる。事務長は老巧な野村喜三郎君である。北陸タイムスの派手な經營振りに對して手固い落着いた老舗らしきがある。富山新報は七萬圓の株式會社で政友系に屬し、社長は中村甚松君である。

其他の各紙

高岡市は人口四萬二千六百、世帯數八千三百、此處に高岡新報(朝刊四頁夕刊四頁)、高岡日報及び北國新聞の經營にかゝる越中新聞等がある。高岡新聞は一萬圓の株式會社で社長は木津太郎平君、政友系の新報である。相場及び一般經濟記事に重きを置いてゐる。富山縣唯一の實業機關紙と稱される。

關西

滋賀縣

人口、口…… 一、四、三、三
世帯數…… 一、四、三、三

滋賀縣は人口全國第四十二位、佐賀縣と山口縣の間にあり、大阪新聞の勢力範圍で、外に名古屋新聞が入つてゐる。従つて地元新聞は頗る不振、販賣部數漸く五千程度のもので二三、他は殆んど問題とする程のものでない。

新聞中心地は大津市と彦根町で、大津市は人口三萬三千七百、世帯數七千八百を有する。

近江新報其他

大津市には近江新報(朝刊四頁)江州日日新聞(朝刊四頁)、京津日報(朝刊四頁)、革新民報(朝刊四頁)其他がある。

近江新報は十五萬圓の株式會社で社長は平井光三郎君、民政系で販賣部數二萬五千と稱してゐる。

江州日日は六萬圓の株式會社で社長は井上敬之助君、政友系に屬する。

次に彦根町には、江州中央新聞(夕刊四頁)湖東日日新聞(夕刊四頁)等がある。

江州中央は大正十五年十月四新聞を合併創刊したもので三萬圓の匿名組合、部數五千と稱してゐる。岩本周平、陌間萬介、赤井安正、谷口鐵治郎の四君が理事となつてゐる。

湖東日日は個人經營で社長は小西政治郎君、部數三千五百と稱してゐる。

右の外長濱町に滋賀民報(夕刊四頁)、長濱新報(朝刊四頁)、等あり、滋賀民報は非政友系で部數五千と稱してゐる。

京都府

人口、口…… 一、四、五、五七
世帯數…… 三、五、三、三七

京都府は昔から新聞經營に困難な地とされてゐる。それは大阪に近く、大阪新聞の侵入が烈しいためである。併し、府は人口全國第十五位、茨城縣と千葉縣の間にあ

る大縣で、且つ、京都市は人口六十七萬九千九百、世帯數十四萬八千八百を有する大都會である。たゞめ京都市の出新聞、京都日日新聞等近來頗る發展し、郡部では大阪新聞に對抗困難とは云へ、市内にあつては大阪紙の侵入もさまで怖れない程となつた。

京都の有力紙

京都は流石大都會だけに、發行新聞の種類も多い。中にあつて最も有力とせられるのは

京都日出新聞(朝刊四頁夕刊四頁)、京都日日新聞(夕刊四頁)、の二紙で尙ほ京華日報(夕刊四頁)、京都日報(朝刊四頁)、中外日報(朝刊四頁)、京都毎日新聞(朝刊四頁)等も相當勢力あるものとせられる。

京都日出は明治十二年の創立で二十五萬圓の株式會社、社長は廣告代理業京華社長を兼ねる後川文藏君である。京都に於ける唯一の朝夕刊八頁新聞で、京都市を中心にも勢力が及んでゐる。不偏不黨穩健實業、老舗らしい落着きを持つてゐる。京都日日は神戸新聞の經營で、

四十萬圓の株式會社、社長進藤信義君、主幹山根文雄君、編輯長には昭和二年秋國民新聞から猪股平三郎君が赴任した。夕刊四頁紙ではあるが、近年俄かに擡頭した新聞で、編輯振りに活動振りに若々しさがある。勢力範圍は京都日出と大差ないであらう。

移入諸新聞

最後に移入紙は、何と云つても大朝、大毎の侵入驚くべく、共に六萬前後と推定されてゐる。其他の各紙は、勿論正確な數字は得難いが、大阪時事の千五百、報知新聞、新愛知、名古屋新聞等の千二百見當、つゞいて讀賣、東京時事の五六百、あとは東朝、東日萬朝の順と觀測する向きもある。

奈良縣

人口、口…… 五、三、八、六
世帯數…… 二、六、三、二

奈良縣は大阪新聞の勢力下に屬し、名古屋の新聞も侵入してゐる。従つて地元新聞は殆んど伸びる事が出来ない。大朝、大毎は大軌電車によつて奈良市及び沿線に午前一時の新聞電車で六版が送られる。それ故、議會記事の如きも午後十一時近くまでの記事が收められ、地方の大きな出来事も、大朝大毎の本紙はいつれも午後十時までのことが収録されてゐる、地方版は兩紙とも十段の大和版をもつてゐる。

新愛知は地元の大和旭新聞と合賣し、大朝大毎につき縣下に勢力がある。

地元紙の不振

奈良縣は人口全國第四十五位、福井縣と沖繩縣の間にあり、小縣である。新聞中心地の奈良市は人口四萬八千八百、世帯數一萬三百、此處には民政系の奈良新聞(朝刊四頁)大和毎日新聞(朝刊四頁)、

大和新聞(朝刊四頁)、大和旭新聞等があり、別に高田町から中和新聞(夕刊四頁)が出てゐる。

奈良新聞と大和日報は全縣に生まれ、大和毎日も相當に勢力ある。奈良朝報は十二萬圓の株式會社で色刷輪轉機一臺を有してゐる。大和新聞は神戸新聞の經營に屬し、大和旭は新愛知の經營。兎に角、地元新聞の不振事は全國でも少ない方である。販賣部數は以上の地元紙を合せて二萬前後と推定するものあり、或はそれ以下に見るものもある。大朝大毎ははるかに地元紙より超過してゐる。

兵庫縣

人口、口…… 三、四、四、七
世帯數…… 一、四、一、九

兵庫縣は關東の神奈川縣に似た立場にある。併し此處は東京、大阪につぐ大縣で、人口は神奈川縣より約百萬も多いので、大阪新聞對神戸新聞の對戦は、東京新聞對横濱新聞の對戦よりも稍大がよりであり、一層猛烈である。

神戸市は人口六十四萬四千二百、世帯數十五萬一千五百、つゞいて

姫路市(人口五萬五千七百、世帯數一萬一千五百) 尼崎市(人口四萬四千二百、世帯數九千八百)、明石市(人口三萬七千二百、世帯數八千五百)等の諸市がある。従つて一般に富力も高く教育も普及し購買力も大である。

神戸の二大紙

神戸市には多數の新聞があるが全國地方新聞中でも代表的の大新聞とせられるのは

神戸又新日報(朝六頁夕四頁)、神戸新聞(朝六頁夕四頁)

である。此の兩紙は大毎、大朝の如き關係にあり、兩々相對して猛鬪争を續けてゐる、併して兩紙の經營振りを見るに、神戸又新は歴史が舊いだけに蓄積した處があり神戸新聞は比較的新進なだけに積極的な花やかな處がある。併し、神戸又新も此頃に至つてやゝ舊來の消極的な行方を改めたものゝ如く、その活躍が期待されてゐる。

神戸新聞は四十萬圓の株式會社で、社長は進藤信義君。京都日日新聞其他を兼營して積極主義を行ひ、大正十五年末より神戸又新と共に夕刊四頁を發行した。勢力絶

園は兵庫縣を中心として近縣にまで及び、六版を發行し、六黨の輪轉機を使用してゐる。

神戸又新は三十萬圓の株式會社で社長は大阪新聞販賣界の雄、北尾清君である。同君就任と共に販賣直營制度の確立につとめ、市内外二十餘ヶ所に出張所を新設し、大阪支局の發展を策する等、大に積極的活動を開始した。目下五版を發行し勢力範圍は神戸新聞と大差なく、販賣部數十二萬五千と自稱してゐる。

其他の諸紙

右の外神戸市には神戸日日新聞(夕刊四頁)、兵神日報(朝刊四頁)商業新報等あり、神戸日日は十二萬圓の株式會社で、販賣部數三萬九千と自稱してゐる。尚ほ又英字新聞ジャパン・クロニクル、及び神ヘラルド・エンド、大阪ガゼツトの發行されてゐる事も附記せねばならぬ。

次に神戸以外の中心地としては姫路市に中國日日新聞(夕刊四頁)播磨毎日新聞、姫路日報等あり、中國日日は二十萬圓の株式會社で部數三萬二千と稱し、豐岡町の但

馬日日新聞(朝刊四頁夕刊二頁)を兼營し、外に各種の附録を發行してゐる。但馬日日は部數六千五百と自稱する。

明石市には關西日日新聞(夕刊四頁)がある。民政系で三萬圓の株式會社。

淡路にも二三の新聞がある。淡路新聞(朝四頁)、淡路又新日報(朝刊四頁)、新淡路(夕刊四頁)がそれだ。

和歌山縣

人口…… 七六、三〇〇
世帯數…… 一六、四七〇

和歌山縣は人口全國第三十三位青森縣と石川縣の間にある。縣があまり大きくもないのに、新聞の數は十數種、それに大阪新聞が非常な勢ひで侵入するから、地元紙は困しい事多い。

新報他各紙

香川新報(朝六頁)がある。四國民報は北四國新聞界の覇を以つて任じ、八萬圓の株式會社で政黨關係は政友系、政友會萬能の此の縣下に、其の政黨的背景を以つて全縣的に勢力を張り、更に鐵道の延長に伴ふて愛媛縣の東半部と、南阿讃の國境を超へて徳島縣へも入つてゐる。社長瀬尾君等の下に、事務今井浩三君、主筆和田君、營業部長東山半之助君等あり、いづれも地方新聞界に錚々たる人、一層の活躍を期待してもいいであらう。新聞の外に印刷及び製版業を兼營し、食料品其他の委託代理部も設けてゐる。

香川新報は民政系で社長は小田榮次君、四國民報に比して創刊が古いだけに老舗らしい落着きはあるが、守勢の方針で進んでゐるらしく、憲政會内閣の際にもさしたる刷新も躍進も試みなかつたやうである。

紙面では四國民報が電通種を優待するのに對して香川新報は地方種を主としてゐる。部數は兩社合せて三萬から四萬の間にあり、昭和三年陽春の頃に開かれる高松全國産業博覽會を機として兩社が如

和歌山市には合せて五種の新聞があるが、中にあつて最も有力とせられるのは和歌山新報(朝刊四頁)で明治二十五年の創刊で、堅實なる發達をなし、紀北二郡、紀南三郡にまで販路を擴張し、發行部數一萬二千(大正十五年)と稱してゐる。社長は久下豐忠君、主幹は三井茂君である。

次に和歌山日日新聞(朝刊四頁)は八萬圓の株式會社で、唯一の民政系、社長は山崎傳之助君、印刷業を兼營してゐる。最近同縣に於ける民政系の擡頭と共に本紙は相當部數を増したと稱される。

紀伊毎日新聞(夕刊四頁)は社長毛利清雅君、部數五千六百五十と稱してゐる。

外に部數三千と稱する和歌山日報、及び和歌山實業新聞等がある外に和歌山タイムスがあつたが、昭和二年末廢刊した。

新宮町は大分大阪からは不便なので、町は小さいが三つも新聞があり、相當にやつてゐる。即ち、熊野新聞(夕刊四頁)は渡邊盛三郎君が社長で部數三千五百と稱し、これと似たものに熊野實業新聞(夕刊四頁)、新熊野(朝刊四頁)等

何なる策に出づるか、注目されてゐる。

大阪紙の侵入

香川縣は新聞の發展上可い、條件を備へてゐるが、交通の至便が却つて大阪新聞の侵入に利益し地元新聞の發展を阻止する事となつてゐる。

大阪新聞では大朝の方が大毎よりもやゝ多いと云はれ、大阪時事はずつと少なくなる。又以前は岡山山陽新聞が地元新聞の壘を靡する程に入つてゐたものであるが今は殆んど影をひそめた。それは同社が此の縣から積極的の手を引込めた爲めと云はれる。

愛媛縣

人口…… 一〇六、六六六
世帯數…… 二四、六九六

愛媛縣は人口四國第一で、全國では第二十四位、三重縣と山口縣の間にある。教育は一般的に普及し、富力多く、産業は農業、水産林業、商工業の順である。都會は人口五萬八千二百、世帯數一萬三千二百の松山市をはじめ

四國

徳島縣

人口…… 六九、七五七
世帯數…… 一四、六一一

徳島縣は人口全國第三十九位、宮崎縣と高知縣の間にある、新聞中心地は人口七萬四千五百、世帯數一萬六千九百の徳島市で、此處に徳島日日新聞(朝四頁夕二頁)、徳島毎日新聞(朝刊六頁)の二新聞が發行されてゐる。

徳島日日は明治九年四月の創刊で、松山市の海南新聞、高知市の土陽新聞と共に、四國では最も歴史の古い新聞である。三十萬圓の株式會社で、社長松島圓君、支配人高橋盛二君、地元信用を博し

香川縣

人口…… 七〇〇、三三三
世帯數…… 一四六、六九九

香川縣は人口全國第三十七位、島根縣と宮崎縣の間にある。餘り大きな縣ではないが、人口の密度は全國でも可也高い方であり、高松市(人口七萬一千八百、世帯數一萬五千八百)、丸龜市(人口二萬七千九百、世帯數六千六百)の二市がある。富力高く、交通至便、従つて文化の程度も進んでゐる。

地元の二新聞

新聞中心地は高松市で、此處に全縣下にたゞ二つの新聞である四國民報(朝二頁乃至四頁夕四頁)と

宇和島市（人口三萬八千五百、世帯數八千七百）、今治市（人口三萬七千、世帯數八千）等あり、新聞中心地は松山市を第一とし、宇和島市にも二種程發行されてゐる一體に政争の旺んな處へ大阪新聞の侵入が急だから、地元新聞は甚だ振はない。それに地元新聞の種類も多い。

松山の四新聞

松山市發行の主要新聞は次の四紙である。

- 愛媛新報（朝四頁夕四頁）
- 海南新聞（朝四頁夕四頁）
- 伊豫新報（夕刊四頁）
- 民衆新聞（夕刊四頁）

右の内、愛媛新報は十萬圓の株式會社で、社長は清水隆徳君、憲政黨の機關紙であつたが、其後本黨系にして海南新聞の社長たる香川能太郎君が大株主となつたりした。併しその持株（千株）は愛媛新報の買収する處となり、現在は再び民政系に傾いてゐる。昭和二年、新社屋建設の爲め三萬圓の資金を縣下に募集し、縣廳前に新築移轉した。外國製及び内國製各一臺の輪轉機を有する。

海南新聞は明治九年の創立で最も古い歴史を持つ。十四萬圓の株式會社で社長は香川能太郎君である。マリノニ式及び折疊式輪轉機各一臺を有し、販賣部數四萬五千と自稱するが、經營は可なり困難らしく大分蝕損がある模様である併し何と云つても、本紙と愛媛とは堂々たる八頁新聞であり、部數は共に一萬以上と推定されてゐる

伊豫新報は六萬圓の株式會社で政友會の機關紙、社長大木貞太郎君、部數は前二紙程は出ないが記事材料は相當いと云はれる。民衆新聞は岩橋信二君の個人經營で、政黨にも財閥にも關係なく、無産大衆の味方として生れ、部數は一萬五千と號してゐる。活氣極溢、如何にも華々しい新進振りで將來を囑目される。

三社聯盟其他

宇和島市には南豫時事新聞（朝刊四頁）と宇和島新聞（朝刊四頁）の二新聞がある。南豫時事は政友會の元老山村豊次郎君を社長とし宇和島は民政系で赤松住君が社長である。共に地元勢力を持つてゐる。

松山の新聞界で特記すべきは所謂三社聯盟なるもので、これは愛媛新報、海南新聞、伊豫新報の三社が聯盟を組織し或る種の問題に對して同一歩調に出でんとしたのを之れに参加しなかつた新進民衆新聞が痛烈に攻撃を加へ、月餘に亘つたが、三社側は更に應酬を試みなかつた。併し右の聯盟は先づ伊豫新報の脱退に端を發して終に崩壊する事となつた。

次に昭和二年二月より電通は松山市に支局を開設し、豫約電話によつて東京並に大阪方面のニュースを速報する事となり、愛媛新報海南新聞、伊豫新報、南豫時事の四社が供給を受けるやうになつたと傳へられる。最後に移入紙では大朝、大毎合せて松山市内に一萬、全縣下に入九萬、ついで大阪時事あり、東京紙は殆んど問題とならず。

高知縣

高知縣は人口全國第四十位、徳島縣と佐賀縣の間にある。縣とし

ては餘り大きな方ではないが、四國も此處まで來ると大阪から遠くなり、且つ地元には高知市（人口六萬五千七百世帯數一萬五千）の土陽と高知の二新聞しかないの、兩紙とも經營は割に樂なやうである。だが近來は此の兩紙の間に競争益々猛烈を加へ、且つ大朝大毎は昭和二年一月から從來の四國版を改めて徳島高知版とし、月一圓で賣つてゐるので、土陽、高知の八頁九十錢ではだんくやりに振つて來た。

土陽と高知

土陽新聞（朝五頁夕四頁）は明治十年の創立、大正十五年十一月創立五十周年記念の祝典を行ひ、昭和二年二月資本金十萬圓の株式會社に組織を變更した。同時に樫田早苗君社長に任じ、吉村近次君が常務に就任した。更に同社は同年二月二十日の紙上で工場改築と折疊式輪轉機換付を發表し、工場を三階建とし、一階印刷、二階活版三階寫眞部を整備した。高知新聞（朝四頁夕四頁）は明治三十七年の創立で十五萬圓の株式會社、社長野中楠吉君、主筆に楠

瀧如龍君がある。

同社は六月一日急遽夕刊發行の計畫を發表したが、これは、土陽新聞が工場新築中なのと、折疊式輪轉機を有せざるにつけこみ、その處をつかんとしたものであつた。處が土陽新聞はこれに對抗して一日の夕刊を同時に配達する手筈を整へたので何等の奇効をも奏せず却つて敵をしてその裏をかかすめた形となつた。夕刊發行については先に北海タイムスと小樽新聞が互ひに秘密にしながらも期せずしてか期してか同日に發行した前例など、共に競争上の佳話である。

大朝と大毎

高知、土陽競争の一例として今一つ特記すべきは御大喪の時、高知は突如として大阪木津川の日本航空輸送會社から飛行機を飛ばし成功して二頁の寫眞號外を發行した。活動ヒルムも高知の方が早がつたやうである。

次に大朝、大毎と地元二新聞の關係を見るに、高知は大毎に接近し土陽は大朝に密であると云はれる即ち、前者が大毎を取次販賣しその通信をも同編輯が擔當してゐるのに對して、土陽は株主の中の野村、茂久の二君が大朝の販賣を引受けてゐる。

尙ほ土陽の吉村事務は高知商業會議所書記長たりし事あり、東京商大出の秀才と云はれる。

中國

鳥取縣

鳥取縣は人口全國第四十七位、沖繩縣の次に位し最も小さな縣である。併しその割には新聞の數は多い。即ち、第一中心地の鳥取市（人口三萬五千、世帯數七千五百）に因伯時報（朝四頁）、鳥取新報（朝四頁）の二紙、第二中心地の米子市に山陰日日新聞（朝六頁）、山陰民報（夕刊四頁）の二紙、他に倉吉町に山陰中央新聞あり、從つてあまり大をなすものゝ現れないのは已むを得ぬ。大阪新聞は鳥取市へは朝の三時二十分乃至五時につき、米子市へは五時四十分頃につく。

地元四新聞

因伯時報は十萬圓の株式會社で社長西谷金藏君、政友系に屬す、之れに對して鳥取新報は民政系に屬し、十萬圓の株式會社で、社長は下田勤次郎君である。共に固定した地盤を持つてゐる。次に米子市から出る山陰日日新聞は二十五萬圓の株式會社で、社長は三好榮太郎君、縣下から鳥根縣の一部にも入り、相當地盤を持つてゐる。やゝ民政黨に好意を有するものゝ如く見られてゐる、山陰民報は押村獎君が社長で、政友系に近く見られてゐる。倉吉町の山陰中央新聞はとかく休刊がちで、まだ特記する程に至らない。次に各紙の販賣部數について、同縣某官憲方面の推定（昭和二年八月）を掲げれば次の如くである但し此の數字は正確を缺き、殊にやゝ過大に見られてゐるかの傾きがある。

- 鳥取新報 二三、三七一
- 因伯時報 一〇、九八〇
- 山陰日日新聞 一四、五〇〇
- 山陰民報 三、九八〇

山陰中央新聞 二、〇〇〇
右の順位も元よりそのまゝ信じ難いであらう。

移入紙の部數

次に同じく官憲方面の移入紙の推定部數を次に示す。これも亦元よりそのまゝ信すべきものではない。

- 東京朝日新聞 三二部
- 東京日日新聞 八七部
- 國民新聞 五六部
- 大阪朝日新聞 七、三六四部
- 大阪毎日新聞 六、九六一部
- 大阪時事新報 一、四一四部

鳥根縣

鳥根縣は人口全國第三十六位、富山縣と香川縣の間にある。それに對して地元有力新聞二種、大阪紙は午前七時頃に配達を終る。併し地元で競争紙が少ないわけやうよい譯である。

- 新聞中心地は松江市で人口四萬一千三百、世帯數九千二百、此處に松陽新報（朝四頁夕四頁）、山陰

新聞(朝四頁夕四頁)の二紙があり他に、津和野町から山陰朝日新聞(朝刊四頁)が発行されてゐる。

松陽と山陰

松陽新聞は古くから山陰の覇者と稱され、明治三十四年の創刊である。憲政系で社長は岡崎國臣君、二十萬圓の株式會社で、副社長兼營業局長に勝部本右衛門君、主筆兼編輯局長に松井柏軒君がある。山陰新聞は松陽に對抗する新聞で明治十五年の創刊、舊本黨系で十萬圓の株式會社、社長は緒原武太郎君である。山陰道に於て最も歴史ある新聞と云はれる。

以上二紙は共に全縣的に讀者を有し、更に鳥取縣の一部にも入つてゐる。山陰朝日新聞はさしたる勢力はなく、地元及び山口縣の一部に讀者を有してゐる。

以上各紙及び移入紙の部数について、同縣某巨憲方面は次の如くに推定(昭和二年七月)してゐる。數字は元より正確なものではなく且つ地元紙に對してはやゝ過大に見られてゐるからひがなでもない。たゞ一種の參考たるに止る。

(3)松陽新聞 四五、〇〇〇
山陰新聞 二五、〇〇〇

移入紙
大阪毎日新聞 一〇、〇〇〇
大阪朝日新聞 九、〇〇〇
大阪時事新聞 一、〇〇〇
東京朝日新聞 一四〇
東京日日新聞 一二〇
萬朝報 一五〇
讀賣新聞 一〇〇
國民新聞 一〇〇

岡山縣

岡山縣は人口では全國の第十九位で、本縣と長崎縣の間にある。新聞中心地は申すまでもなく岡山市で、人口十二萬四千五百、世帯數二萬八千、此處に山陽新聞(朝刊六頁夕刊四頁)、中國日報(朝刊六頁夕刊四頁)の二新聞、及び岡山新聞(夕刊四頁)、岡山日日新聞(朝刊四頁)の二新聞がある。山陽新聞は明治十二年の創刊で歴史は縣下第一である。五萬圓の匿名組合で、専務は高見章夫君である。編輯部長は杉山榮君で、斯界の新人として知られる。勢力範圍は縣下から廣島の一部に及び、四版を發行し販賣部數九萬五千四百三十と自稱してゐる。輪轉機はマリノニ式二臺と折疊式一臺がある。中國日報は明治二十五年進歩黨機關紙として坂本金彌君の創立する處、個人經營で資本金五十萬圓現社長は柿原政一郎君である。勢力範圍は岡山山陽新聞と同じく、矢張り四版を發行し、内國製輪轉機三臺を使用してゐる。右兩社の競争は盛んで記事方面に於ては絶對に妥協を排し、營業

方面に於ても決して相譲らない。紙面の特色は山陽が穩健實質、正確を旨とし、やゝ地味なのに對して、中國は紙面を明るく派手に作つてゐる。地元の材料を尊重する處兩社ともよく以てゐる。販賣部數は兩社合せて七八萬乃至十萬と見る向きがある。

岡山と日日

右二紙の外に、夕刊専門たる岡山新聞と朝刊専門たる岡山日日新聞もそれ〴〵地元を勢力を占めてゐる。

岡山新聞は拾萬圓の株式會社で社長赤澤寛一君、岡山日日は大正十二年の創立で最も新しく、三萬圓の株式會社である。社長は西崎佐吉君。二版を發行し部數一萬二千三百と稱してゐる。

移入紙は大毎大朝合せて三萬前後、大時二千前後と推定され、東京紙は極めて少ない。

廣島縣

右二紙の外に、夕刊専門たる岡山新聞と朝刊専門たる岡山日日新聞もそれ〴〵地元を勢力を占めてゐる。

日日は秋田無次郎君の個人經營で、地元に相當勢力を持つてゐる。

移入紙の部數

移入紙では大毎、大朝合せて五萬前後と推測され、兩者にさしたる開きはない。他に山陽新聞と中國日報合せて二千前後、大時約二千と推定される。東京各紙は合せて二千見當であらうか。

山口縣

山口縣は人口全國第二十五位、愛媛縣と栃木縣の間にある。依然として大阪新聞の脅威を受けつゝあると同時に、福岡の新聞も入れば廣島の新聞も入る。それに地元新聞の數がやゝ多過ぎる傾あり、特に大をなすものがない。

新聞中心地は下關市で人口九萬二千三百、世帯數二萬八百、外に山口町と宇部市(人口四萬八千七百、世帯數一萬一千七百)とがある。

地方の有力紙

有力紙で販賣部數一萬と推定する向あり、社長は木原七郎君。廣島日日は吳公論の經營で政友系、廣島新聞は山本智彦君が社長で四版を發行し、部數一萬五千と自稱してゐる。吳日日新聞は中國新聞と並稱される有力紙で個人經營で、社長は奥平稔君。一ヶ月購讀料六十錢、安くて簡單で何でも解るのが特色又婦人欄や小説、講談に力を入れてゐる。販賣部數は三萬七八千と推定されてゐるが、同社が昭和二年十月赤裸々の配布状態として同社の社報に發表した處は次の如くである。

吳市 一六、九九八
其他各市 二、〇〇八
安藝郡 五、八六三
賀茂郡 五、三八六
佐伯郡 二、四八三
双三郡 一、九八二
豐田郡 一、〇八五
外各郡 二、六三七
郵送 一、五〇五
計 三九、九四七
吳公論は廣島に廣島日日を經營し社長滿村良次郎君。尾道の山陽

各紙勢力範圍

先づ此縣に於ける新聞の分布状態と勢力範圍について大觀するに

▽廣島市
中國新聞(朝六頁乃至八頁夕四頁)——廣島縣下一圓、山口縣の一部
廣島日日新聞(朝八頁)——廣島縣下一圓。
廣島毎日新聞(朝六頁)——廣島市
其他
廣島日日新聞(夕四頁)——廣島市

中國と吳日日

中國新聞は廣島縣の代表的新聞たるのみならず中國筋での代表紙と稱してよい。十萬圓の合名會社で社長山本三郎君、主筆に中町國吉君がある。販賣部數は四萬と推定する向あり、且つ四臺の輪轉機を使用してゐる。廣島日日は明治十九年の創刊で民政系に屬し、五十萬圓の株式會社である。廣島市に於ける第二の

下關市には關門日日新聞(朝六頁夕四頁)、馬關毎日新聞(朝四頁夕四頁)、關門報知新聞(朝四頁)の三新聞あり、關門日日は明治十三年の創刊で、昭和二年一萬五千號を迎へた。最も有力といはれ北九州殊に若松戸畑兩市を始めその附近及び筑豊沿線に侵入してゐる。昭和二年四月、活字七・七五を七半に改めて紙面に大刷新を加へた。社長は末光鐵之助君。

馬關毎日には右につく有力紙で五萬圓の株式會社、昭和二年から秋田寅之助君が再び社長に就任し、専心新聞事務に従事する事とせられた。販賣部數二萬五千と自稱してゐる。關門日日と同じく北九州方面まで侵入してゐる。

關門報知は二萬圓の合資會社で民政系に屬し、販賣部數四千二百と稱してゐる。社長は川西定雄君次に山口町には防長新聞(夕刊四頁乃至八頁)、防長實業新聞(夕刊二頁)二新聞がある。防長新聞は三萬圓の合資會社で社長は吉富寅太君。代理部の設けがある。防長實業は部數五千と自稱する。宇部市に宇部日日新聞(夕四頁)あり、社長阿山三郎君。販賣部數

六千三百と稱してゐる。

九州

福岡縣

人口、口……三、三、六、六へ
世帯數……一、一、三、三

名古屋が中部日本の新聞中心地である如くに、福岡市は九州北部の新聞中心地で、新愛知、名古屋新聞に比較すべき福岡日日新聞、九州日報がある、名古屋の新聞が大阪紙と競争を行つてゐる如くに、福岡の新聞も亦大朝、大毎の脅威から脱する事が出来ない。即ち大毎、大朝の門司支局で印刷される西部毎日と九州朝日は、福岡の新聞に對して豫期された程の影響はなかつたと云へ、一大脅威たるには相違ない。そこへ下關の新聞も入つて来る。

地元紙二十種

福岡縣は人口全國第六位、愛知縣と新潟縣の間にある大縣で、人口の密度では東京、大阪、神奈川につぐ。福岡市をはじめ、久留米

小倉、門司、大牟田、八幡、若松等の諸市を包含し、産業盛んに、教育程度高く、交通至便、新聞の發達に多くのよき條件を有してゐる。されば、九日などの大新聞外に各地に多數の新聞あり、その數合せて三十種に達する。數に於ては恐らく全國一であらう。

その第一中心地たる福岡市は、人口十四萬六千、世帯數二萬八千此處に

福岡日日新聞(朝八頁夕四頁)九州日報(朝八頁夕四頁)の二紙、及び博多日日新聞(夕刊四頁)、福岡新聞(夕刊四頁)、九州朝新聞(朝刊四頁)がある。福岡日日は後として、先づ他の三紙に就いて見るに、博多日日は政友系で、社長は古川初雄君、販賣部數八千五百と自稱してゐる九州朝は昭和二年四月の創刊で九州青年黨機關と稱され、社長は才津原積君、創刊間もないが販賣部數四千五百と自稱してゐる。福岡新聞は大正十四年の創立で社長は大九甚吾君。

福日と九日

福岡日日は明治十年の創刊で政

友系を標榜し、百萬圓の合資會社である。大正十三年春福岡東京間に直通専用電話を建設し、十五年三月新社屋を竣工した。近代式の鐵筋コンクリート四層樓で、延坪二千三百三十六坪、現に五版を發行し、輪轉機は獨逸フランケンタール、アルバート會社製福日式超高速度三臺、佛國製マリノニ式三臺、石川式三臺を有してゐる。其他工場設備完全し模範的と云ふてよい。社長庄野金十郎君の下に編輯監事菊竹淳君、編輯長河部鶴太郎君、廣告部長原田徳次郎君等あり、皆な練達家として知られる九州日報は福日に對抗するもので明治二十年の創立民政系に屬する。大正十五年九月、從來の個人經營を三十萬圓の株式會社に組織を變更した。社長大原義剛君の下に編輯局長藤崎昇之助君、營業部長小林庸太君、東京支社長内田好之輔君等あり、多士濟々、佐賀毎日新聞、佐世保新聞を兼營してゐる。尙ほ同社は大正十五年創立第四十年を迎へたのを記念に、國產商品館を新設し、掲載廣告の總ての商品を陳列して、廣告と商品とを比較研究し得るの機會を一般需

要者に興ふる事とした。斯界に於ける新らしい試みとして注目された。

北九州の諸市

次に門司市は人口九萬五千、世帯數二萬一千七百、此處に門司新報(朝八頁)をはじめ、門司新聞(朝四頁)、門司朝日新聞等がある。門司新報は舊政本系で社長は毛里保太郎君、若松市の九州民報と對峙して北九州に相當確かな地盤を持つてゐる。併し此の邊には大阪新聞及び福岡新聞の外に對岸から門司日日等が侵入し、油斷のならぬ状態にある。

次に若松市(人口四萬九千九百世帯數一萬一千四百)、八幡市(人口十一萬八千三百、世帯數一萬三千三百)及び小倉市(人口五萬一千六百、世帯數一萬七百)は三角形を畫いて集つてゐる、此處に十種ばかりの新聞がある。

若松市の九州民報(朝四頁)は北九州に於ける政友系の機關で、大正十五年四月若松朝報、戸畑時事新聞の合併改題したものである。此方面に相當確かな地盤を有し、販賣部數一萬五千と自稱してゐる

社長は平野彦一郎君。又此處に民政系の新聞として若松新報、若松新聞あり。

八幡市には八幡新報(朝四頁)、九州毎日新聞(朝四頁)、國民朝報(朝四頁)、八幡新聞等がある。八幡新報は三萬圓の合資會社で、社長田中麟藏君。九州毎日には政友派で社長三村香堂君、部數三千前後と稱してゐる。國民朝報は民政系で社長百武久衛君。部數五千と自稱してゐる。

小倉市には小倉新報(朝四頁)、東洋民報(朝四頁)、九州報知新聞(朝四頁)の三紙あり、小倉新報は個人經營で社長畑野源一郎君、三つの姉妹紙を持つてゐる。東洋民報は政友系で社長は鮎川盛貞君、小倉市に於て輪轉機を有するものは此社のみ。九州報知も政友系で社長峰松敬太郎君、部數五千六百と稱してゐる。

不振の小中心

次の發行地は久留米市(人口七萬一千二百、世帯數一萬三千三百)と大牟田市(人口六萬八千二百五十、世帯數一萬四千)で、久留米市には久留米毎夕新聞(夕四頁)

をはじめ久留米毎日新聞(肥前日日新聞の經營)、筑後新聞(九州日日新聞の經營)、九州朝日新聞(朝四頁)等がある。

久留米毎夕は十萬圓の合資で社長前田傳茂君。久留米毎日には政友系で部數一千二百餘と稱してゐる九州朝日も政友系で社長大森三郎君、部數三千と稱してゐる。

大牟田市には、大牟田毎日新聞(朝四頁)、西海日日新聞(夕四頁)の二紙あり、前者は政友系で部數三千六百と稱し、平山喜録君の個人經營、後者は社長池末純一君、九州朝日と柳河日日新聞の二姉妹紙を有してゐる。

右の外、直方町に筑豊新聞(朝四頁)、筑豊日日新聞(朝四頁)あり、前者は民政系で社長藤廣久吉君、普通印刷業を兼營してゐる、後者は社長田尻繁男君。

右の外、伊田町に北九州新報(朝四頁)あり、民政系で社長は宮城務人君、販賣部數八千と稱してゐる。又飯塚町には筑陽日日新聞(朝四頁)がある。

之れを要するに福岡縣の新聞界は福岡市を除いて門司と若松と小倉に多少見るべきものがあるのみ

で、其他にあつては極めて不振である。

各紙斤數調べ

最後に東京、大阪、及び地元各紙の勢力を測定する一つの參考資料として、門司鐵道局の調査に基づく同鐵道管内及各驛積卸しの各新聞斤數調べを紹介する。

新聞名	大正十五年十一月廿一日	昭和二年九月廿一日
萬朝報	三、三〇斤	一、八六斤
報知	三、三〇斤	一、八六斤
毎夕	三、三〇斤	一、八六斤
東朝	三、三〇斤	一、八六斤
讀賣	三、三〇斤	一、八六斤
國民	三、三〇斤	一、八六斤
時事	三、三〇斤	一、八六斤
大時	三、三〇斤	一、八六斤
大朝	三、三〇斤	一、八六斤
西部毎日	三、三〇斤	一、八六斤
九州朝日	三、三〇斤	一、八六斤
福日	三、三〇斤	一、八六斤
九日	三、三〇斤	一、八六斤

關門日日 壹 一三〇
 馬關日日 二五 二五
 門司新報 一 壹
 備考(一)門司新報中には汽船積として臺灣、青島、天津行を含むものあり、又(二)門司支局にて印刷する西部毎日、九州朝日は必しも本紙の全部に附せず山口版、北九州版、九州版、朝鮮版として附す従つて山口版、朝鮮版は主として下關着斤量中に含まる(三)門司市内一日約三萬部の新聞配達さる。

下關と門司

更に、昭和二年九月二十一日の斤量を見ると

萬朝	三斤	一六斤
報知	二五	三三
每夕	一	〇
東朝	五	三六
讀賣	二二	六
國民	三	三八
時事	八	五一
大時	九六〇	五七二
大朝	二五	三三
大朝	六五〇	五六一
西部毎日	一九七	—

九州朝日 二七九
 福日 四三 一三三
 九日 一〇 二七

佐賀縣

佐賀縣は人口全國第四十一位、高知縣と滋賀縣の間にあり、縣も小さく、それに大阪紙と福岡紙の侵入が甚しいので地元新聞は經營困難極めて不振である。

肥前日日其他

中であつて最も有力とせられるのは肥前日日で二十三萬圓の株式會社、社長は川口茂輔君である。従つて川原君の政友會入りと共に政友系となり、縣下の本黨系の数も同君と進退を共にした。縣下に於ける唯一の輪轉機を持つ新聞であり、久留米毎日新聞と唐津新聞を兼營し、全縣下から福岡縣、

長崎縣の一部にも多少出てゐる。併し經營は可なり苦しいらしい。佐賀新聞は明治十七年の創刊で歴史は最も古い。野口壽三君の個人經營で、これも随分苦しいらしい。

次に佐賀毎日九州日報の經營で當然民政系。佐賀日日は江口嘉六君の個人經營で菊半載形、販賣部數四千五百と稱してゐる。

第二中心地の唐津町には唐津日日新聞(朝四頁)、唐津時事新聞(朝四頁)唐津新聞の三紙がある。唐津日日は富永鑑之助君の個人經營で部數三千五百と稱し、經營振りは堅實と云はれる。唐津時事新聞は小關世雄君の個人經營で部數二千と稱してゐる。唐津新聞は肥前日日の兼營。

長崎縣

長崎縣は人口岡山縣と岐阜縣の間にあつて全國第二十位。此處へも大阪の新聞が相當に入つて居り福日なども入つて来る。併し長崎市の如き大都市があり且つ移入紙

も佐賀縣程ではないから、多少やりよい譯もあり、又地理的關係から新聞發行地が諸所に分れてゐるので新聞の種類も多い。その第一中心地は長崎市で人口十八萬九千、世帯數四萬五百、此處に六七種の新聞があり、第二中心地の佐世保市は人口九萬五千七百、世帯數一萬八千、此處に五新聞がある。その外島原方面、及び對馬あたりからも發行されてゐる

長崎の新聞

長崎市發行の新聞中最も有力とせられるのは長崎日日新聞(朝四頁夕四頁)で三萬五千圓の株式會社、舊政本系に屬し社長は則元由庸君である。社長の穩健着實なる方針が編輯、經營すべての點に現はれ、堅實なる營業方針を持続しその地盤は牢として抜くべからざるものがあると稱される。津田式及び東京機械製の二台の輪轉機を使用してゐる。

長崎日日に對抗するものは長崎新聞(朝四頁夕四頁)で十萬圓の株式會社、社長は橋本辰二郎君である。此社は大正十年秋から神戸新聞進藤信義君との共同經營となり

中山平兵衛君が經營の任に當つて長崎日日に對抗し極力積極主義を取つたのであつた。そして比較的短年月の間に相當勢力を伸したが長崎日日の地盤は前述の如くである。此の社も同じく二臺の輪轉機を使用してゐる。

右について長崎民友新聞(朝四頁)がある、夕刊紙ワレラの夕刊(夕四頁)を發行し、佐世保民友を兼營してゐる。大正十三年の創立で、社長は齋藤助君、長崎新聞の領域を可なり露食したと稱されるだが此頃は十分苦しらしい。

次に東洋日の出新聞(朝四頁夕二頁)は鈴木天眼君の創刊で、一時長崎朝新聞と改題したが再び舊名に復した。社長は金子克巳君で販賣部數一萬〇五十と稱してゐる。

右の外長崎商報(夕四頁)、長崎時事新聞、及び英字新聞の長崎プレスがある。

其他の各紙

佐世保市には、佐世保日日新聞(朝四頁)、軍港新聞(朝夕六頁)、佐世保新報、佐世保新聞、佐世保民友等がある。

佐世保日日は明治十四年の創刊で舊本黨に屬し、社長は永安忍君、長崎時事新聞を兼營してゐる。此の社は先に福日の姉妹紙であつたが、政友會の分裂後福日と離れて輪轉機を入れ獨立する事となつたのである。

軍港新聞は四萬圓の合資會社で社長は長醫秀夫君。

次に島原方面では島原町に長崎島原毎日新聞(朝四頁)と島原新聞(夕四頁)あり、諫早町に夕刊諫早新聞(夕四頁)がある。

それからずつと離れて對馬國へ來ると嚴原町に對馬日日新聞(朝四頁)がある。八萬圓の合資會社で社長は松尾鏡次君、販賣部數七千五百と稱してゐる。昭和二年九月一日創立二十五周年を迎へた。對馬に於ける唯一の有力新聞である。

尙此他の移入紙について見るに東京新聞は殆んどなく、大毎、大朝各約二百、福日百五十、長崎日日前後と云はれてゐる。

熊本縣

熊本縣は人口埼玉縣と岡山縣の間にあつて全國第十八位、而してその新聞中心地の熊本市は人口十四萬七千、世帯數二萬九千を有する。此處まで來ると大阪新聞は幾らか影が薄くなるので、地元新聞はそれだけやういふ強である。

それに、熊本縣は人口の割に新聞の數も少なく、發行地も熊本市に集中されてゐるので、九州では福岡市につく新聞中心地となり、此處を根據地として福岡縣、鹿児島縣宮崎縣の一部にまで侵入してゐる。但し、その代りそれ等各地の新聞も亦此方へ侵入してゐる。

熊本の二大紙

熊本市の新聞で最も有力とせられるのは九州日日新聞(朝刊十頁)九州新聞(朝刊十頁)の二紙で、外に熊本毎夕新聞(夕刊四頁)、大熊本新聞(夕刊四頁)九州毎日新聞(朝四頁)、九州毎夕

新聞、熊本日日新聞等がある。九州日日は明治十五年の創刊で個人經營、民政系に屬し、社長は山田珠一君である。筑後新聞を兼營し、鹿児島版、宮崎版等八版を發行してゐる。販賣部數十萬と稱し、輪轉機は佛國製マリノニ式一臺、内國製三臺、博文館製一臺、計五臺を有する。

九州新聞は明治三十九年の創刊で三十萬圓の株式會社、社長は高木第四郎君で舊本黨である。九州日日に對抗する新聞で輪轉機は内國製折疊式二臺及び外一臺を有する。

熊本毎夕は一萬圓の株式會社で社長は山崎豐吉君、部數一萬と稱し大熊本は本田真規君が社長で部數四千と稱してゐる。熊本日日は福日の兼營。

宮崎縣

大坂新聞の移入部數は二萬餘りと推定する向がある。

宮崎縣は人口香川縣と徳島縣の間にあつて人口全國第三十八位。

縣も小さく、大した都會もない。それに長らく交通不便だったので新聞の發展遅々、地元新聞不振の地の一つである。人口四萬二千九百、世帯數八千七百の宮崎市と、都城市及び延岡町から合せて八種の新聞が出てゐるが、多くは他縣新聞の發售紙で、純地元新聞は幾らもない。

日州新聞其他

純地元新聞中最も有力とせられるのは宮崎市の日州新聞(朝四頁夕四頁)で、明治三十四年の創立個人經營で社長は野井楨太郎君である。

右の外宮崎市には鹿兒島新聞經營の宮崎新聞(朝八頁)、大分新聞經營の宮崎日報(朝四頁夕四頁)、豊州新聞經營の宮崎日日新聞(朝四頁夕四頁)等があり、部数は前記の日州と宮崎新聞とが最も多いらしい。

尚ほ都城市には純地元新聞として三州日日新聞(朝四頁)あり、外に大分新聞經營の都城新聞(朝四頁夕四頁)がある。都城は部數七千と自稱してゐる。

移入紙では大毎、大朝合せて一萬前後、福日と九州日日合せて三千前後と見る向きがある。

鹿兒島縣

人口……一、四三、二六
世帯數……三三、五五

九州に於ける新聞中心地を第一福岡、第二熊本とすれば、鹿兒島は第三中心地と稱してよい。但し鹿兒島は前二者に比して土地が偏してゐるため、積極的に他縣へ侵入するには不便だが、退いて守るによく、且つ縣そのものが可なり大縣である上に、新聞の數が極めて少ない故、他と異つて經營は極めて樂である。樂ではあるが、競争が烈しくないため、新聞そのものの本質的發展には、必ずしも便利であるとは斷じ難い。鹿兒島市にはまだ夕刊が發行されてゐない。

鹿兒島二紙

鹿兒島縣は人口廣島縣と福岡縣の間であり、全國の第十一位にある。而して新聞中心地の鹿兒島市は人口十二萬四千七百、世帯數二

萬四千五百、此處に鹿兒島新聞と鹿兒島朝日の二紙がある。

鹿兒島新聞(朝刊八頁又は十頁)は明治十四年の創刊で、九州では最も古い歴史を有つ。五十萬圓の匿名組合で、民政系に屬し、社長は奥田榮之進君、主筆津田武君、編輯局長に小原彌馬君がある。六版を發行し、夕刊鹿兒島商報、宮崎新聞を經營してゐる。外に石版及印刷業を兼營し、TKS式輪轉機二臺と十一臺の平盤を有する。大正十五年春來新築中の四層樓新社屋が昭和二年一月竣工、二月移轉を了し、四月二十九日落成式を舉行した。

鹿兒島朝日新聞(朝八頁)は明治三十三年の創刊で、鹿兒島新聞に對抗し、彼の老舗らしい落着きに對して之は新進の發揚さを持つてゐる。積極的な經營方針の下に異常な發展をなし、今や前者と共に南九州に覇を制してゐる。社長は藤安辰次郎君、編輯局長は島坂貞盛君、營業局長青木茂熊君工場設備は内國製色刷折疊式二臺の外に平盤三臺を有する。

大分縣

人口……九二、五、三七
世帯數……一六、四、四〇

大分縣の新聞界は近年急速の發展をした。それは交通機關が整つて來たのがその原因の一つである。更に昭和三年から四年に亘り豊肥久大、二線的全通を見たならば、その進展は一層の壯觀を呈するであらう。今でも熊本や鹿兒島などに比肩すべき立派な一中心地を現出せしめてゐる。勿論此處にも大分新聞が侵入し、福日なども相當に入つてゐる。併し二三の地元新聞はそれに超然として地元を稱してゐるのみでなく、進んで他縣にまで侵入を試みてゐる。

大分と別府市

大分縣は人口全國第三十位で、秋田縣と岩手縣の間にある。教育も普及し、富力も平均し、新聞が發展すべく色々好條件を具へてゐる。たゞ政争が餘りに盛んなために、やゝ禍された形はあつたが、近時はお互ひに覺醒して來た如くである。

新聞中心地は第一に大分市で、別府市も將來ある地と云つてよい。大分市は人口五萬三千三百、世帯數九千三百、此處に

豊州新聞(朝四頁夕四頁) 大分新聞(朝六頁夕四頁) の二有力新聞あり、つゞいて大分日日新聞(朝四頁夕四頁)、大分民友新聞(夕四頁)等がある。

別府市は、人口三萬七千五百、世帯數八千七百でまた新聞中心地と呼ぶ程にはなつてゐないが、全國的に有名な此の都市の、最近に於ける膨脹率から見て、又小新聞の頻りに發行される點から見て、大分市を離る僅か三里の此の地が將來相當重要な地となるであらうことは考へられる。

現在此處から發行されてゐる新聞の中で最も有力とせられるのは温泉タイムス(朝四頁夕四頁)の外に大別府新聞(夕四頁)、別府毎夕新聞(夕四頁)、別府新報(夕四頁)國粹等がある。

豊州と大分

外に中津町、臼杵町等からも兼營紙や小新聞が發行されてゐる。豊州新報は明治十九年の創刊で

政友會の機關紙、大分新聞は明治二十二年創刊、民政黨の機關紙で共に個人經營である。大分縣の新聞界は今の處この兩社の競争が主となつて種々の波紋を畫いてゐる。豊州が宮崎日日や延岡日日を出して縣外にまで勢力を伸してゐるのに對して大分は延岡新聞、宮崎日報都城新聞等を出して對抗し、兩紙の發行部數も可なり接近してゐる如くに見られてゐる。

たゞ豊州は歴史が古い丈に基礎固く、信用もある。そして紙面は地味だが特に經濟記事と地方開發に全力を注ぎ、青年の指導に力を盡してゐる。大分は前者に較べると花やかで、同じく青年を目標にしてゐるか、文藝、スポーツ、趣味記事等では寧ろ前者を凌駕してゐる。併しスポーツでは豊州も庭球大會を設立したり水上選手權大會を開いたり、或はプールを新設したりしてゐる。

兩社の人物を見るに、大分社長大津淳三君は三十年間同社の經營に終始せる老練なる先輩で民政黨支部顧問として重きをなしてゐる。豊州社長の長野潔君は早大出身で新聞研究のため米國に二年留學し

現に政友會支部總務で銀行の重役を兼ね、將來ある政治家と云はれる。

次に大分の副社長大津征夫君は法學士で目下新聞經營に精進し將來大成すべき人、又同編輯局長兼主筆の東清次郎君は潤澤洒落、文章家で活動家で好評ある人、次に豊州の編輯局長兼主筆荒木貞雄君は人格者で地方青年に崇拜され、同じく理事兼營業局長の瀧部啓三郎君は堅實なる經營者で殊に新聞販賣に就ては尤も洩らさぬ手腕家と云はれる。

其他の各紙

右二紙につぐ大分日日は明治十四年の創刊で舊本黨系に屬し、社長は吉村市郎君、中津日日新聞を兼營してゐる。近時經營あまり思はしくないやうに傳へられるが依然として前二紙に次ぐ有力紙である。

大分民友は大正十二年の創立、政友系で社長は御手洗覺圓君、販賣部數八千餘と自稱してゐる。御手洗君は記者出身で辯舌の人、大分市會議員で活動家として知られる。

次に別府市に移つて、温泉タイムスは大正五年の創立、個人經營で社長は伊藤徳兵衛君、不偏不黨を標榜し、大正十五年五月創刊十周年祝賀會を舉行した。勢力範圍は別府市を中心として附近郡に及び、販賣部數八千と自稱してゐる。昭和三年春の中外博を控へて社屋を改築し、朝夕一回配達を二回に擴張した。

各紙の部數

欣に大分縣全體としての移入紙は、その正確なところは明らかでないが、一部では
大朝 八、八〇〇部
大毎 七、八〇〇部
福日 三、一〇〇部
大時 一、〇〇〇部
と推定する向きがあり。更に地元新聞については、大分新聞を四萬

八千として豊州はそれより多いとなし、大分日は一萬に足らず、大分民友、温泉タイムスは更に落ちると推定してゐる。併し此の數字に従ふと、地元及び移入紙の總數は合せて約十三萬となり斯くては十八萬六千の世帯數に對して新聞の部數が餘りに多くなり、併し難いやうになる。或る人は此縣の新聞讀者は三戸半に對して一戸だと云つてゐる。これ等の説を成立せしめる爲めには、地元新聞の部數をより少なく計上せねばなるまい。

沖繩縣

人口…… 五七、六三三
世帯數…… 一〇〇、四三〇
沖繩縣は人口全國第四十六位で奈良縣と鳥取縣の間にあり、人口も少なく富力も低く、地理的にも不便であり、新聞の發達の爲めには總ての條件が、甚だよろしくない。

小新聞が興亡してゐる。
地元の三紙
新聞中心地の那覇市は人口五萬四千六百、世帯數一萬三千三百、此處に
琉球新報(朝刊四頁)
沖繩朝日新聞(朝刊四頁)
沖繩タイムス新聞(朝刊四頁)
琉球新報は最も古く、社長は高原安佐君、古いだけに地盤も固いと云はれてゐる。
沖繩朝日は大正四年の創立で三萬圓の合資會社、社長は富岡剛合君、沖繩タイムス新聞は大正九年の創立で社長は岸本幸厚君。以上各紙の販賣部數は最高四千位から少ないのは一千五百前後と推定する向がある。
移入紙は大朝、大毎合せて二千足らず、東京紙は東朝の二百を筆頭に、國民、讀賣、時事、中外、報知、萬朝等少しづつ、九州新聞では鹿児島新聞と鹿児島朝日、それに次いで福日であると推定されてゐる。

二、北海道

附樺太

人口…… 三、四六、六三三
世帯數…… 四、六、三三三
人口の密度は全國最下位だが數では東京、大阪につき、兵庫縣よりやや多い。此處から他府縣に攻め入る事は困難だが、防備はやり易い譯である。殊に東京から非常に遠隔してゐるので、その侵入をさまで脅威とせず済む。たゞ地域が廣大な爲め濃密な販賣網を引く事は困難だが、完全な一つの領域を形作つてゐるから、北海タイムス、小樽新聞のやうな有力新聞が成長したのは當然である。
新聞中心地は札幌と小樽を第一とし、つぎに函館、つぎに釧路、旭川、室蘭、其他がある。右主要中心地の人口は次の如くである。

旭川 三、四三三
室蘭 二、〇〇〇
釧路 一、三三三
以上各都市、及び其他各地の小都會から發行されてゐる新聞を合せると、其數三十餘種となる。併し眞に有力なものには幾つもなく多くは發行部數も千から二千の極めて地方的のものである。
二大有力紙
北海道の代表的新聞とせられるのは、第一に札幌の北海タイムス(朝八頁夕四頁)と小樽の小樽新聞(朝八頁夕四頁)の二紙であるが、この二紙は獨り北海道の代表紙たるのみならず、新報知、福日、名古屋などと共に全國的にも有數の有力新聞である。
北海タイムスは明治三十四年八月、北海道毎日新聞、北門新報、北海時事を合併、合資組織となし現名を稱したので、東武君が理事に就任し、最近農林次官に任ぜられるまではその社長であつた。従つて政友系と見られてゐる。現社長は理事の阿部良夫君である。資本金五十萬圓で、十二版を發行し部數二十萬と號してゐる。兎に角

その勢力全進に及び、樺太は勿論内地へも相當に入つてゐる。現に内國製輪轉機七臺を使用し更に擴張の用意がある。活動寫眞攝影部があり、航空部があり、飛行場とサルムソン機三臺を設備してゐる編輯と營業の兩局の主宰者は山口喜一君。

小樽新聞は小樽市に發行され、北海タイムスに對抗する唯一の有力新聞である。明治二十六年の創刊で、三十萬圓の株式會社、上田壽久君が社長で、その下に取締役編輯局長平野文安君、同營業局長坂牛直太郎君がある。タイムスと此社は編輯に、營業に、事業に猛競争を續けてゐるが、勢力範圍も略相同しく、部數も大した相異はないやうである。現に六版を發行し、輪轉機は昭和二年夏清荷した獨逸製超高速機一臺と石川式五臺を有する。事業部ではタイムスの航空部に對し、北海道定期航空協會を設立してゐる。

右の外、札幌には札幌毎日新聞(朝四頁)あり、小樽には北門日報(夕四頁)、と小樽商業新報(夕四頁)がある。北門日報は十萬圓の株式會社で専務山内信彌君。政友

四主要中心地

第二中心地の函館では函館毎日新聞(朝四頁夕四頁)、函館新聞(朝四頁夕四頁)の二紙を最も有力とし、これについて、函館日日新聞(夕刊四頁)、ついで函館商報(夕刊四頁)、北海商報、函館北海新聞等がある。
函館毎日(明治十一年の創刊で十萬圓の匿名組合、社長は金澤彦作君で、營業局長に鈴木啓三君がある。函館新聞は明治二十一年の創立で個人經營、社長は長谷川淑夫君である。この兩紙の勢力範圍は、函館は郡部に優勢であり、函館新聞は市内が主であると云はれる。尙函館新聞は十五年輪轉機を増設し昭和二年から新活字を採用し紙面を刷新した。函館日日は純夕刊紙で社長は太刀川善吉君。市内に多數の讀者がある。
第三中心地の旭川には旭川新聞(朝八頁)、北海日日新聞(朝四頁夕二頁)、北都毎日新聞(朝四頁)北海毎日新聞(朝四頁)等がある。旭川新聞は大正四年現社長長田中

秋聲君の獨力創刊せるもので、歴史は新しいが長足の發展をした。北海日日は一層新しい大正六年の創刊で社長大竹郷朗君。北都毎日は大正八年の創刊で社長岩崎石夫君。販賣部數七千と稱してゐる
第三中心地の室蘭は、騰振、日高の兩國(人口二十四萬)を勢力範圍とするが、此處には室蘭毎日新聞(朝六頁)、たゞ一紙あるのみである。明治四十二年の創刊、社長は鈴木要吉君。競争者がないので經營は樂である。此地の各紙販賣部數について某方面の推定する處は次の如くである。この數字は元よりそのまゝ信ずべきではないが、多少の參考とはなるであらう

室蘭市内各紙販賣部數
室蘭毎日 四、五〇〇
タイムス 一、八〇〇
小樽新聞 一、〇〇〇
函館毎日 五〇〇
東京日日 一、六〇〇
報知 一、五〇〇
東京朝日 五〇〇
時事 四〇〇
國民 三〇〇
先づこんな處である。
第四中心地の釧路には釧路新聞(朝刊四頁)、釧路實業新聞(朝刊四頁)及び釧路日日新聞(夕刊四頁)がある。
將來あるの地とされてゐるが、まだ大した發展を示したものはない。釧路新聞は一萬五千圓の合資會社で社長遠藤清一君、部數一萬と自稱してゐる。釧路實業新聞は半田銈治君の個人經營で、部數五千八百と稱す。
以上は主要な中心地であるが、尙外に帯廣町、根室町、留萌町、稚内町、野付牛町等からも、それ／＼一二種の新聞が發行されてゐる。

樺太

人口…… 一〇三、〇四〇
世帯數…… 三九、二六八
樺太は人口の劇に新聞の種類も多く發行地も澤山に分れてゐる。従つて個々の新聞の發行部數は概して多くあり得ない。併し購讀者の比率は割合に高い方で、一戸で地元新聞一種に北海道の新聞を一種とそれに東京新聞も一つ位取つてゐる處はざらにある。従つて地元新聞の販賣部數と移入紙の部數

とは略同數位だと見られてゐる。

大小十新聞

樺太には日刊新聞が十種餘りあるそれを發行地別にしてみると
大泊町(二、五〇〇戸)
樺太民友新聞(夕四頁)、大北新報(夕四頁)、大泊毎日新聞(夕四頁)、新日本(夕四頁)
豊原町(一、八〇〇戸)
樺太日日新聞(朝六頁)、豊原新聞(朝四頁)
眞岡町(一、五〇〇戸)
樺太時事新聞(朝四頁)
知取町(一、六〇〇戸)
車庫日日
泊居町(一、二〇〇戸)
西海新報
本斗町(八〇〇戸)
樺太新聞
野田町(七〇〇戸)
樺太新報

以上は昭和二年八月現在だが、中には基礎の未だ定らないものも含まれてゐる。

その第一中心地の大泊は本島第一の町で經營状態も良好だから四紙がとにかゝ發行されてゐる。豊原町は樺太廳の所在地で知識階級

が多い。

樺日外有力紙

右の中で最も有力とせられるのは樺太日日で明治四十一年の創刊社長は沖島鐵三君、全島的に出て居り、部数は六千前後と推定する向がある。

次に樺太時事は地元で競争紙がないので部数は比較的によく三千前後と推定され西海岸を勢力範囲とする。

次は樺太民友、大北新報で各二千五百見當と推定され亞陸及中部及東海省の一部を勢力範囲としてゐる。

これについては新日本、大泊毎日、豊原新聞で各々一千乃至一千五百と推定され發行地元附近に勢力を占めてゐる。

右の内、輪轉機や寫眞銅版を有するのは樺太日日だけで、東京電報を曲りなりに載せてゐるのは樺太日日、樺太時事、樺太民友、大北新報の四紙、東京廣告を掲載するの樺日、時事、民友だけである。

購讀料は大正十五年まで各紙一圓と協定してゐた處、昭和二年春

に至り大北新報は突如一ヶ月五十

紙に値下げをした。ついで大泊毎日も五十紙にして斯界に大衝動を興へた。値下げを行つた新聞はそれによつて多少讀者は増加したが、廣告収入に多くを期待し得ない爲め結局失敗に終つたらしい。

移入紙の状態

移入新聞は何と云つても北海道の新聞で、樺太版を有する北海タイムスが第一で、約四千位と推定され、小樽新聞これにつぐ。東京新聞では之も樺太版(獨立でなく北海道樺太版と稱してゐる)を有する東日二千餘、東朝千七百といふ處であらうか。

三、臺灣

臺灣の人口の大部分は臺灣人で臺灣人の新聞を購讀するものは極めて少數だから、これは殆んど問題とするに足らず、約二十萬の内人が對象となるのみである。臺灣總督府では一市一紙許可主

義を取つてゐる爲め、全臺灣に發行されてゐる新聞は

- 臺北市の
- 臺灣日日新報(朝六頁夕四頁)
- 臺中市の
- 臺灣新聞(朝四頁夕四頁)
- 臺南市の
- 臺灣新報(朝刊八頁)
- 花蓮港の
- 東臺灣新報(朝刊四頁)

三紙と移入紙

その中最も有力とせられるのは臺灣日日で、六十萬圓の株式會社昭和二年社長井村大吉君が歿したので河村徹君が入つて副社長に就任した。總督府の公布式で、部数二萬と推定され、内國製三臺の輪轉機を有し、編輯、營業とも堂々たるものだが、内地に廣告を扱ふ支局を有せず、廣告事務はすべて代理業者に委任してゐる。又此の社で特記すべきは大規模な代理部で、此の方は可なり成功して居るらしい。

次に臺灣新聞は二萬圓の株式會社で社長は松岡富雄君、販賣部數一萬五千と自稱してゐるが、八千

前後と推定する向もある。

臺灣新報は十萬圓の株式會社で社長は富地近思君益々圓熟して好評ある人。昭和二年一月一日の發行部數二萬六千五百部と稱してゐる。石川式輪轉機一臺の外、色刷機及グラビユアの設備あり、又臺南、高雄、臺北に印刷所を置き普通印刷業を兼營してゐる。尙販賣部數については、一部には一萬前後と推定してゐる向もある。

東臺灣新報は初め臺南新報の東部附録であつたが、近年日刊紙として獨立したもので六萬圓の株式會社。社長は梅野清太君。

次に移入紙は、大朝、大毎最も多く、各一萬八千から一萬五千と推定され、次は東朝、東日五千乃至三千、少し下つて報知、時事、福日千五百前後といふやうな推定を下すものがある。

異色あるもの

臺灣の日刊紙は、總督府の御用紙的色彩濃厚なる點に於てすべて其の軌を一にしてゐる。そして政黨關係又は階級的に勢力の分野を異にする處がない。その意味から異色あるのは週刊、旬刊等の發行

物で、臺灣人の發行する週刊臺灣民報は部數一萬五千と推定され、臺灣人の間に勢力ある。又週刊經世新報は一萬二千部と推定され反御用紙的色彩を持つと云はれる外に旬刊南日本新報は部數三千と推定されてゐる。

三、朝鮮

人、口、一、九、五、九、七、七

世帯數、三、七、〇、七、七

此處も臺灣と同じく内地人は極めて少數で四十萬見當しかない。そして此處も内地の屈出主義に對して許可主義であるが、一市一紙主義でない丈に新聞の數は大分ある。即ち昭和二年二月現在總督府警務局の調べによると、内地人發行の日刊新聞二十三種、朝鮮人發行の日刊紙五種合せて二十八種となる。併し邦字新聞の部數は餘り多くなく、有力なもの指を屈する程しかない。

京城の二新聞

朝鮮の新聞中心地は、北部に京城、南部に釜山あり、其他小中心

地として、北部の平壤、仁川、南部の大邱も加へれば加へられる。京城に於ける代表的の邦字新聞

は

京城日報(朝八頁夕四頁)

朝鮮新聞(朝六頁夕四頁)

の二紙で、京城日報は總督府の機關紙、朝鮮新聞はこれに對抗する民間の有力紙である。此の兩紙は其の勢力範囲も販賣部數も殆んど大差ない。京城日報は明治三十九年の創立で十六萬圓の合資會社、社長は副島道正君であつたが昭和二年内閣の更迭の後、同君は退社して副社長松岡正男君がその後をついだ。總督府の機關だけに、總督の變更など、共に社幹部の動搖はまぬかれぬ。

朝鮮新聞は三十萬圓の株式會社で創立は明治二十一年、社長は牧山耕藏君、部數十二萬六千と自稱してゐる。

京城には外に邦字紙に京城日日新聞(朝八頁)あり、個人經營で社長は有馬純吉君、津田式輪轉機一臺を有する。

各地の有力紙

釜山發行の代表新聞は釜山日報

(朝四頁夕六頁)で二十五萬圓の株式會社、明治三十九年の創刊である。釜山は東亞大陸の門戸を扼し人口十三萬、戸數三萬二千、經濟力も一般に高い方である。社長は芥川正君で理事兼支配人に奈良好三君あり、現に三版を發行し輪轉機はマリノニ式二臺と折疊式一臺を有する。

以上三紙は邦字の最も有力なものであつて、これにつぐものに大邱の朝鮮民報(夕八頁)、平壤の平壤毎日新聞(朝四頁)、仁川の朝鮮毎夕新聞(夕四頁)等がある。

又、釜山の新聞時報(夕四頁)、部數三千と稱する鎮南浦の西鮮日報(夕四頁)、五千と稱する本浦の本浦新報(朝四頁)、群山の群山日報(朝四頁)、部數四千と稱する馬山の南鮮日報(朝四頁)、三千五百と稱する清津府の北鮮日報(朝四頁)八千と稱する新義州の鴨江日報(夕四頁)、五千と稱する元山の元山毎日新聞(朝四頁)等がある。

又別に國文と鮮文の新聞で京城に朝鮮商工新聞(畫二頁夕四頁)あり部數五千六百と稱してゐる。

右の中輪轉機を持つてゐるのは西鮮日報だけである。

鮮文新聞

次に鮮文新聞を見ると、京城に東亞日報(夕六頁)あり、七十萬圓の株式會社で社長は金性洙君、輪轉機三臺を有し鮮字新聞として最大部数を發行すると云はれる。次に朝鮮日報(朝一頁夕四頁)は同じく三臺の輪轉機を有し、社長代理申錫雨君、次は中外日報(朝四頁)で大正十五年一月創刊、社主李相協君、輪轉機一臺を有する。それから毎日申報(朝四頁)は京城日報の兼營。

現勢

二、滿洲

關東州を含む

關東州を含む南滿一帯の在住日本人は凡そ二十萬人、これに對する邦字新聞十數種、他に漢字新聞若干あつてこれは支那人を讀者としてゐる。新聞中心地は第一に大連市で此地の日本人約八萬人、次は奉天、

ついで長春、營口、安東縣等からもそれ／＼新聞が發行されてゐる

滿洲日報

昭和二年の滿洲新聞界には特記すべき重大事件が起つた。それは滿鐵社長の変更と共に、新しい新聞政策が行はれる事となり、従來、滿洲の二大新聞として相對峙してゐた滿鐵を背景とする滿洲日日と、民衆の代表新聞として生長した遼東新報とが統一されて、滿洲日報と題する一新聞に變形した事である。滿日、遼東の兩紙は、十月三十一日限り廢刊して、十一月一日から滿洲日報が發行された而してその手續は、舊滿日が資本金を百萬圓に増資し、遼東を合併の形式に依つて買収したのである。又、此れより先、滿鐵社長の変更の結果、滿洲日日社長小山内大六君は取締役錦織亮、小島清友の二君と共に退社する事となり、代つて山崎猛君が入社し社長に就任した。

従つて滿洲日報社長は山崎猛君で、同社は山崎君の統制の下に新職制が布かれた。其新組織は、社長の下に新聞、會計、印刷の三部

門が設けられ、新聞部は編輯部長米野豐實君、營業部長扇谷亮君、工務部長同じく扇谷君の兼任で、營業部では販賣に山下君、廣告に鶴木君が據はる。又會計部長は鈴木昇君、印刷部長は山崎社長の兼任で支配人は扇谷君である。

其他の各紙

滿日、遼東が合併した結果、大連では大連新聞(朝四頁夕四頁)が唯一の民間の代表新聞となつた。同社は十四萬圓の株式會社で、社長は實性確成君、従來も二大紙の間に伍して巧みに存在を主張しつゝあつたが、今後は一層その存在が引立つて来る譯である。

大連には右の外、部數四千と稱する漢字新聞の關東報(朝四頁夕四頁)、三萬八千と稱する滿洲報(八頁)英字新聞のマンチュリヤ・デーリーニウス(夕四頁)等がある。滿洲報は西片朝三君の個人經營で近來大に發展した。

奉天には奉天毎日新聞(朝夕刊八頁)、奉天新聞夕刊(四頁)奉天日日新聞(夕一頁)の三新聞がある。奉天毎日とは同地唯一の八頁新聞であり、又輪轉機を有する新聞であ

る。昭和二年七月創立記念號を發行し、新活字を入れて紙面を刷新した。奉天新聞は社長佐藤真雄君で部數四千五百と稱してゐる。奉天日日は元遼東新報の經營で常務の吉野直治君が經營に任じ相當成績を擧げてゐる。部數三千五百と自稱する。

又此處には邦人經營の漢字新聞に盛京時報(朝八頁)がある。三十五萬圓の株式會社で、社長は佐原篤介君。滿洲を通じて最大の發行部数を有すると稱される。

長春、營口等

次に長春に北滿日報(朝四頁)、長春實業新聞(夕四頁)あり、後者は一千五百部と稱してゐる。

尚、安東縣に安東新報(朝四頁)撫順に撫順新報、開原に開原新報、鐵嶺に鐵嶺新報、營口に滿洲新報(朝四頁)がある。

營口は戸數一萬人人口七萬の中、日本人六百戸、人口二千六百、滿州西門の要地である。滿洲新報は此地唯一の邦字紙で社長小川義和君、最近には旅順版を發行し、此の方面にまで手を擴げてゐる。

府縣別別社實況

全國新聞廣告料單價

現勢篇の最後に此の一節を添附する、全國新聞の東京、大阪廣告市場に於ける特約物、普通物別廣告料單價の値である、廣告主に取つて實際的に役立つ有力なる參考資料たると同時に、全國新聞界の現勢實況を知る上に於ても看過し難きものである。

序

東京大阪に於ける廣告市場には永年に亘るその取引に依つて、殊に各種の有力廣告を不偏的に取扱ひ來つた代表的専門業者の間に、何時からともなく全國各新聞個々の常識値段とも言ふべき一定の取引單價を形成して居る。茲に擧げたものは即ちそれで、假りにこれを株式取引所の建値を以つて言へば、恰かも「中値」と性質を同じうし、これを上下して、毎日の紙上に契約掲載されたものである。而して、右の數字は、斯の如き傳統に、機會ある毎に新聞が値上げを運動し、多少の向上を示して年々多少の變化を告げて今日に至

つたものであるが、特に昭和二年度末の現狀を採つて適當な修正を行つたものである。故に、これら以つて昭和二年度に於ける全國各紙の廣告契約を普通、特約に二大別しその中値として、大なる誤算なきものと觀て然るべきものとされる。然し乍ら、左記全國各紙共、普通物特約物を通じて、一新聞悉くその契約値のまちまちなる事は固より言ふ迄もないが、斯かる點に今一步深酷なる觀察を下すならば右中値より安値契約の甚だ妙なからざるものある事を適し難い。尙ほ目下値上げ交渉中のものある事を附言して置かねばならぬ。

東京各紙

Table listing newspaper rates in Tokyo, including categories like 二六新報, 日本新聞, 報知新聞, etc., with columns for 普通物, 特約物, and 厘.

關東地方各紙

Table listing newspaper rates in the Kanto region, including categories like 大阪夕刊, 大阪日日, 關西日報, etc., with columns for 厘 and 厘.

大阪各紙

Table listing newspaper rates in Osaka, including categories like 大阪毎日, 大阪朝日, 大阪時事, etc., with columns for 厘 and 厘.

東北地方各紙

福島民報	一五〇	〇六〇
福島民友	一一〇	〇三〇
福島毎日	〇五〇	〇二〇
福島新聞	〇四〇	〇一五
河北新報	二八〇	二四〇
東北報知	一〇〇	〇二〇
東華新聞	〇二〇	〇一〇
仙臺日日	一〇〇	〇二〇
石巻日日	〇三〇	〇一〇
岩手日日	一五〇	〇六〇
岩手毎日	〇五〇	〇三〇
岩手日日	〇二〇	〇一〇
東奥日報	一五〇	〇七〇
青森日報	一〇〇	〇二〇
弘前新聞	〇六〇	〇二五
弘前大正	〇二〇	〇一〇
山形自由	〇七〇	〇四〇
山形山形	〇七〇	〇三〇
山形民報	〇三〇	〇一〇
米澤新聞	〇三〇	〇一〇
米澤新報	〇一五	〇一〇
庄内新聞	〇五〇	〇二〇
鶴岡日報	〇五〇	〇二〇
酒田新聞	〇二〇	〇一〇
秋田魁	一五〇	〇八〇
秋田新聞	〇三〇	〇一〇
秋田時事	〇二〇	〇一〇

信越地方各紙

北羽新報	〇二〇	〇一〇
羽後新報	〇一五	〇一〇
新潟毎日	二五〇	一〇〇
新潟新聞	一七〇	〇四〇
新潟時事	二〇〇	〇三〇
新潟朝日	〇八〇	〇一〇
北越新報	二〇〇	〇七〇
越後新報	〇五〇	〇二五
長岡日報	〇二〇	〇一〇
柏崎日報	〇一五	〇一〇
新發田新聞	〇八〇	〇一五
佐野新聞	〇三〇	〇一〇
佐渡日報	〇二五	〇一〇
新佐渡	〇二五	〇一〇
高田日報	〇八〇	〇二〇
高田新聞	〇七〇	〇一〇
越後新聞	〇一〇	〇一〇
信濃毎日	二五〇	一〇〇
長野新聞	一三〇	〇五〇
信濃日日	〇五〇	〇二〇
しなの	〇五〇	〇三〇
信濃民報	〇三〇	〇一〇
信濃日報	〇五〇	〇二〇
北信毎日	〇三〇	〇一〇
上田新聞	〇五〇	〇二〇
南信毎日	〇二五	〇一〇

東海地方各紙

伊那日報	〇二五	〇一五
南信新聞	〇三〇	〇二〇
信濃時事	〇二五	〇二〇
南信日日	〇五〇	〇三〇
信濃新聞	〇二〇	〇一五
中央電系	〇二〇	〇一五
新愛知	五〇〇	四〇〇
名古屋新聞	四〇〇	三六〇
名古屋毎日	二〇〇	一八〇
愛知新聞	一五〇	〇二〇
名古屋日日	〇五〇	〇二〇
名古屋夕	〇一五	〇一〇
中京毎日	〇二〇	〇一〇
米濱日報	〇五〇	〇一〇
參陽新報	〇二〇	〇一〇
知多新報	一六〇	〇一五
岡崎新報	〇二〇	〇一〇
岐阜日日	一〇〇	〇四〇
岐阜新聞	〇六〇	〇二五
岐阜日報	〇六〇	〇一五
美濃大正	〇六〇	〇一五
飛騨毎日	〇六〇	〇一五
山梨日日	一五〇	〇六〇
山梨民報	〇一〇	〇三〇
山梨毎日	〇六〇	〇二五
山梨民友	〇五〇	〇二〇

北陸地方各紙

長崎新聞	一五〇	〇七〇
長崎日日	二〇〇	〇一〇
長崎民友	〇七〇	〇三〇
長崎毎朝	〇五〇	〇二〇
軍港新聞	〇四〇	〇一〇
佐世保民友	〇五〇	〇二〇
島原毎日	〇一〇	〇一〇
對島日日	〇一〇	〇一〇
九州新聞	二八〇	一四〇
九州毎日	二〇〇	〇六〇
九州夕刊	〇七〇	〇三〇
北國夕刊	〇二〇	〇一〇
いしかわ	〇二〇	〇一〇
福井新聞	一三〇	〇八〇
福井日日	〇四〇	〇二〇
福井民報	〇四〇	〇二〇
福井毎日	〇四〇	〇二〇
敦賀中外	〇六〇	〇一〇

關西地方各紙

近江新報	〇六〇	〇四〇
江州中央	〇八〇	〇一〇
京都日日	二〇〇	一五〇
京都日出	三〇〇	二〇〇
京華日報	二〇〇	〇八〇
丹州時報	〇三〇	〇二〇
奈良新聞	〇三〇	〇二〇
大和日報	一〇〇	〇三〇
奈良朝報	〇二〇	〇一〇
大和新聞	〇二〇	〇一〇
神戸新聞	三〇〇	二五〇
神戸又新	三〇〇	二五〇
神戸日日	〇五〇	〇二〇
中國日日	〇二五	〇一〇
姫路日報	〇二〇	〇一〇
淡路新聞	〇二〇	〇一〇
關西日日	〇四〇	〇二〇
和泉實業	〇四〇	〇二〇
和歌山新報	〇三〇	〇二〇
紀伊毎日	〇二〇	〇一〇
和歌山實業	〇一五	〇一〇
和歌山タイムス	〇一〇	〇一〇

四國地方各紙

和歌山日日	〇一五	〇一〇
虎城日報	〇一〇	〇一〇
能野新報	〇一〇	〇一〇
能野實業	〇一五	〇一〇
牟婁新報	〇一〇	〇一〇
德島日日	〇八〇	〇五〇
四國民報	〇八〇	〇三〇
香川新報	〇五〇	〇二〇
愛媛新報	一七〇	〇四〇
海南新聞	一五〇	〇三〇
伊豫新報	〇四〇	〇二〇
伊豫日日	〇四〇	〇二〇
南進時事	〇五〇	〇二〇
宇和島新聞	〇三〇	〇一〇
土陽新聞	一三〇	〇五〇
高知新聞	二〇〇	〇八〇
因伯時報	〇八〇	〇二〇
鳥取新報	〇一〇	〇一〇
山陰日日	〇八〇	〇二〇
山陰民報	〇四〇	〇一〇
松陽新報	二〇〇	〇一〇
山陰新聞	一〇〇	〇二〇

中國地方各紙

山陽新報	五〇〇	一四〇
中國民報	二五〇	〇八〇
岡山新聞	〇三〇	〇一〇
岡山日日	〇五〇	〇二〇
山陽日日	〇五〇	〇二〇
備後時事	〇一〇	〇一〇
中國新聞	二五〇	一三〇
備前日日	〇一〇	〇一〇
廣島毎日	〇七〇	〇三〇
吳日日	一五〇	〇一〇
吳公論	〇一〇	〇一〇
關門日日	二五〇	一三〇
馬關毎日	一七〇	〇四〇
宇部日日	〇五〇	〇二〇
防長新聞	〇八〇	〇三〇

九州地方各紙

肥前日日	〇四〇	〇二〇
佐賀新聞	〇三〇	〇一〇
唐津日日	〇四〇	〇一〇
福岡日日	五〇〇	四〇〇
九州日報	二八〇	二四〇
九州新聞	二二〇	一八〇
門司新聞	〇三〇	〇二〇
門司新報	〇三〇	〇二〇
小倉新報	〇三〇	〇二〇
西海日日	〇二〇	〇一〇
大牟田毎日	〇二〇	〇一〇
八幡新報	〇一五	〇一〇

北海道地方各紙

〇一〇

北海タイムス	四五〇	三五〇	鴨江日報	〇五〇	〇五〇
小橋新聞	三〇〇	二八〇	滿洲地方各紙	二〇〇	一八〇
北門日報	一〇〇	〇二〇	大連新聞	一〇〇	〇三〇
函館毎日	一五〇	〇六〇	泰東日報	一〇〇	〇五〇
函館新聞	一五〇	〇五〇	安東新聞	〇六〇	〇三〇
函館日日	〇五〇	〇三〇	滿洲新報	〇八〇	〇二〇
北海新聞	〇三〇	〇一〇	奉天毎日	〇五〇	〇四〇
旭川新聞	一五〇	〇三五	盛京時報	一五〇	一五〇
北海日日	一〇〇	〇二〇	奉天日日	〇七〇	〇三〇
釧路新聞	〇三五	〇二五	奉天新聞	〇六〇	〇三〇
根室新聞	〇七〇	〇二〇	長春實業	〇八〇	〇三〇
室蘭毎日	一〇〇	〇二〇	支那地方各紙	〇三〇	〇三〇
十勝毎日	〇二〇	〇二〇	順天時報	二五〇	二五〇
十勝新聞	〇二〇	〇二〇	京津日日	一五〇	一五〇
十勝日日	〇二〇	〇一五	天津日日	一五〇	一五〇
江差日日	〇二〇	〇一五	上海日日	一五〇	一五〇
北見新聞	〇二〇	〇一五	上海毎日	一五〇	一五〇
樺太地方各紙			漢口日報	一五〇	一五〇
樺太日日	一〇〇	〇五〇	青島新報	一五〇	一五〇
樺太民友	一〇〇	〇四〇	山東新聞	一五〇	一五〇
樺太時事	〇五〇	〇四〇	哈爾濱日日	一五〇	一五〇
琉球地方各紙					
沖繩朝日	〇四〇	〇二〇			
琉球新報	〇三〇	〇二〇			
沖繩タイムス	〇三〇	〇二〇			
臺灣地方各紙					
臺灣日日	三〇〇	二四〇			
臺灣新聞	二〇〇	〇六〇			
臺灣新報	二五〇	二〇〇			
朝鮮地方各紙					
京城日報	三五〇	二〇〇			
朝鮮新聞	一五〇	一〇〇			
京城日日	〇六〇	〇三〇			
東亞日報	一五〇	一〇〇			
每日新報	一五〇	〇六〇			
朝鮮日報	二〇〇	一三〇			
朝鮮毎日	一〇〇	〇三〇			
釜山日報	一四〇	一〇〇			
南鮮日報	〇三〇	〇二〇			
朝鮮民報	〇五〇	〇五〇			
湖南日報	〇三〇	〇二〇			
全北日報	〇三〇	〇二〇			
群山日報	〇三〇	〇二〇			
光州新報	〇三〇	〇二〇			
木浦新報	〇三〇	〇二〇			
元山毎日	〇五〇	〇二五			
咸南新報	〇三〇	〇二〇			
北鮮日報	〇五〇	〇三〇			
西鮮日報	〇三〇	〇三〇			
平壤毎日	〇四〇	〇三〇			

熱心と誠實

昭和第三春の新聞廣告は
何卒本社へ仰付け下さい!!



社長 川村源市

東京市橋區南橋本三丁目番地
電話四〇三二番

海外最大の邦字新聞

特長

邦字夕刊紙最大の紙幅(邦文十二頁歐文二頁)
 通信網は世界的(特に碧城無線經由ニユース邦電受信設備を有す)
 太平洋に於て絶対不侵の信用を有す
 號を重ねる事一萬、創刊茲に三十年



事情

人口——約三十五萬中約二十萬餘の邦人活舞臺を支配す
 産業——輸出は輸入の約倍額二億一千一百万圓
 富力——在布邦人の日本送金額(昭和二年度)六千九十五萬二千圓
 廣告——在布同胞は總て日本の製産品に依て生活の大半を満しつゝあり

東京新橋一丁目 日本總支社 電話東京六八三六

文社社長 平山長佐久

最も組織立ちたる電信通信社にして支那各地に支社
 及通信員を置き政治、經濟、社會一般のニュースを相互
 に迅速正確に報導す。英字、露字、漢字、邦字の四種の通信
 を發行す、又た南洋南米及び各邦新聞と無線電信によ
 る連絡を有す

極東新聞
 界の權威
 東方通信社

東京市京橋區日吉町十五番地

電話銀座 九五二〇番 二 三九五七番

支社及
 通信員
 所在地

北京・天津・上海・廣東・奉天・ハルビン
 ウラジオ・吉林・長春・大連・濟南・青島
 漢口・重慶・長沙・成都・雲南・鄭州
 南昌・南京・福州・香港

面目を一新せよ
わが都新聞は

特 徴

政治 経済 商況 家庭 演藝

總ての方面總ての家庭
よ於ける最善の读物
として到る所は白熱的
歓迎を受けおあります

好評噴々たるラヂオ收二頁



朝刊四十頁



新聞界の覇王

朝刊 夕刊

發行所

京橋區三十四堀

やまと新聞社



記事精確——報道迅速——趣味豊富

創業滿四十年

東京通信社

日刊『東京通信』
新聞廣告代理
新聞資料一切

東京丸の内 海上ビルディング
電話丸の内六〇七・六五一・六五二

全 國 新 聞 通 信 社

廣 告 代 理 業

東京市京橋區宗十郎町三番地

廣告主と……派出店員

弊社は常に廣告主の顧問となり、派出店員となつて、より良き廣告機關を、より良く安價に……代理業としての眞のサービスに不斷の努力を捧げます。

御一報次第直ちに參上致します

電話銀座五五壹〇番 五五貳貳番

日 本 最 大 の 輸 入 品 廣 告 取 扱 機 關

業務の範圍

廣告利用に關する諸計畫、内外新聞雜誌の選擇、意匠圖案の作成、和英文案の起草、英文和譯、和文英譯は勿論、和洋印刷物一切の御用から製版、紙型の調達に至る迄、廣告に關する事務は悉くこれを網羅す。

太 平 洋 廣 告 取 扱 社

特 長

- ◇廣告物の内容及其廣告主の目的を正解しサービスの有機的なる事
- ◇日本に於けるマーケットの精査、廣告機關との關係等總て科學的なる事
- ◇就中米國產自動車、機械、食料品、藥品其他日本への輸入廣告の大部分を占む

本 社 支 社

東京市京橋區山下町十八番地
 アウトサイドザルビゲル
 電話銀座一七五二・三三〇
 米 國 紐 育 市 東 第 四 二 街 一 百 一

諸新聞元賣場
 根岸事務所
 根岸良吉

東京市京橋區南鍋町二ノ二
 電話銀座二二二五〇番
 振替東京二一〇一〇番

東京朝日新聞東京市内一手取扱

岩月新聞店

店主 岩月宗一郎

東京市京橋區瀧山町一二番地
 電話銀座 四三七二、五〇五〇、四三六三

麴町區有樂町三ノ一(電話銀座四五七〇番)

東新社

都新聞
 一手專賣

伊勢兵次郎
 川村正夫
 山本信正
 松本豐一
 後藤半次郎

やまと新聞一手專賣

株式會社 新協社

麴町區有樂町三ノ一(電話銀座六二二四番)

常磐生命保險株式會社

東京丸ノ内



日本生命保險株式會社

契約高 六億二千餘萬圓
契約件數 六十萬餘件
總資產 壹億六千萬圓

取締役會長 山口吉郎兵衛

專務取締役 弘世助太郎

本店 大阪 今橋

支店 { 大阪 東京 京都 名古屋 福岡
金澤 仙臺 京城 廣島 札幌

●高貴藥サフランを倍加特製せる

小粒仁丹



金 康榮の潮流に投せば必
百十圓る (カント)

大粒仁丹

●胃腸の強健と精神の快適に卓越せる仁丹をポケット
ト裡に常備し時處に應じて護身藥たらしめられよ

博士の推奨する藥効的齒磨
仁丹のハミガキ
丸嚙入は清涼味強き別製優良品

日・英・米・佛專賣品
仁丹のミラジン
新案のセルロイド、キヤツプを
冠し氣持ちよく清潔を保つ

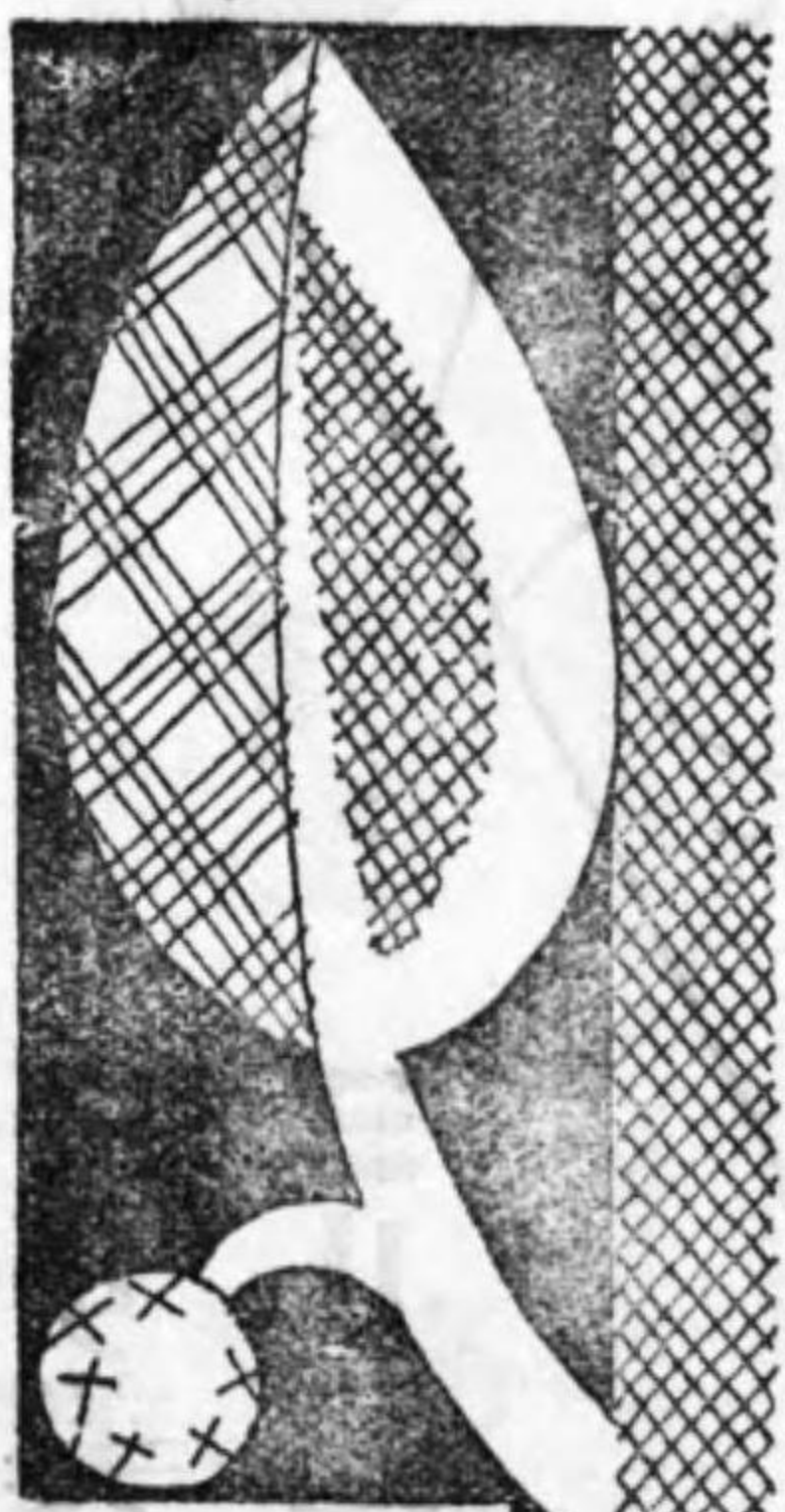
絶対に舶來品を凌ぐ優秀品
仁丹の体温計
感冒の時季 今や來れり
一家に一本を

どちらにも重寶 贈るにも
受けても

高島屋の商品券

商品券 贈り券
銘茶券 菓子券
小口商品券 五十錢より二圓まで四種

共通—三都の高島屋・東京・京都・大阪



高島屋呉服店

東京・京橋



ヨリ美はしく
ヨリ健やかに

その唯一の滋養強壯飲料として選ばれた蜂ブドウ酒！
毎食前一杯の常用こそ健康と美を培ふ無二の捷徑！

美味—芳醇にして萬人の嗜好に適し
滋養—豊富にして氣力と體力を増す



設 近藤利兵衛商店



ハチ
蜂ブドウ酒
シユ



高速度輪轉焼付寫眞

- 弊社の營業は眞に現代的事業です
- 一時間に一萬枚を悠に焼付けます
- 高速度寫眞は經費と時間の節約
- 最近御用命の主なる方面の一例は

▽大毎東日兩社の日本新八景▽海軍省の觀艦式寫眞カード▽日本郵船社船宣傳用寫眞書▽井筒堂カオール宣傳用寫眞カード▽東京市役所全世界の公園寫眞▽文部省社會課御用▽帝大學術用寫眞▽富士屋ホテル自家宣傳用寫眞ハガキ其他數千件

高速度輪轉寫眞工藝所

東京市京橋區加賀町十三

ジーチーサン商會

電話銀座五四六八

營業種目

日刊演藝通信
 日刊映畫通信
 日刊音樂通信
 隔日紙型映畫通信
 旬刊新聞東京演藝通信
 隔日キネマグラフ
 諸新聞廣告取次
 芝居活動の寫眞通信
 興行に關する一般の相談

東京市神田區駿河臺鈴木町

東京演藝通信社

桑野正夫

電話神田(25)二六六八番
 振替東京四九五六〇番

寫眞銅版
 亞鉛凸版
明治製版所

東京市京橋區新肴町一八
 電話京橋(56)四、五、四、三
 振替口座東京二一五五一

明治の偉業を知らずして昭和の聖代を語る勿れ日本の家庭に必ず一冊を備ふべき
 大帝の聖德偉業集初めて成る

宮内省御貸下

明治大帝御寫眞帖

宮内省、各宮家、陸軍省、參謀本部、海軍省、博物館、遊就館
 一條公爵家、外元勳、各華族、御貸下 並拜寫 御許可

我々一般國民が

明治大帝の御聖德追慕の熱誠により初めて明治節制定せらる

發行所

東京市神田區永町二丁目二十九番
 明治大帝偉業奉贊會出版部

電話東京四九六〇番
 振替東京四九六〇番

圖案と印刷

三京社本店

電話青山四一〇番
 振替東京四四九三一番

International Advertising Agency

(SHIMBUN TSUSHIN-SHA)

新聞通信社

世界主要各國の廣告市場に活躍する

新聞通信社

輸出入の廣告に最も親切なる機關は

新聞通信社

料金本位を排しサービス第一主義の

新聞通信社

現在特約店——英、米、獨佛、濠州、南洋、加奈太

東京市麴町區有樂町三ノ一
日比谷五番館

新聞通信社

電話銀座

二三三八五
一八一五

社長 磯部三郎
理事 平井貞一
理事 テイエル、コルトン

- 一、東西廿五社幹部表
- 二、全國新聞社一覽表
- 三、全國通信社一覽表
- 四、廣告代理業一覽表
- 五、東京地方支局一覽
- 六、在阪全國支局一覽
- 七、新聞關係諸機關覽
- 八、海外發行郵字紙表
- 九、十八社職別社員表

第三篇

一覽

全國新聞社一覽表

一、本表は日本全國及び滿洲に於ける日本人經營の主要日刊新聞を地方別にした一覽表である。表の諸項目は一々各社について問合せたものであるが、中には締切期日までに回答を得なかつた爲め、手許の材料によつた分も多少はある。

一、各社配列の順序は東京は大體創立の年代順により、其他は一定しない。但し地方は成るべく同一發行地のものをまとめて掲載するやうにした。

一、各社の記述は大體次の順序による。(括弧内の文字はそれ〴〵の略稱)

記述の順序

新聞名、發行社名(發行社名の記入なきものは總て其の新聞名と同一名の社から發行せらるゝ場合)、所在地、創立年月日、組織別、資本金額、政黨關係、朝刊頁數(朝)、夕刊頁數(夕)、發行版數(版數)、販賣部數(部數)、社長、社主、副社長、専務、常務、支配人、主幹、主筆、編輯局長又は編輯長(編)、營業局長又は營業部長(營)、政治部長(政治)、社會部(社會)、廣告部長(廣告)、東京支局長又は支社長(東京支局)、大阪支局長又は支社長(大阪支局)、全社員數(社員)、輪轉機臺數(輪)、平盤及びローレル臺數(平)、字母ステロ寫眞版設備の有無、活字種類、一行字數、一段行數、一段段數、一ヶ月購讀料金、普通廣告料單價(廣料)、兼營業又は發行物(兼營)、其他特殊設備或は事項(特設)等。

右以外の特事項も必要に應じて記入す。不明又は不用と認むるものは記入せず。

一、東 京

東京府

東京毎日新聞

京橋區西紺屋町十。明治三年十二月創立。個人。(夕)四頁。(版數)一版(社長)今井健彦。(社主)千葉博巳。(副社長)原惣兵衛。(營)渡邊保。(政治)小島榮一。(社會)久保博道。(廣告)渡邊保。(大阪支局)中川涉。(輪)外國製一臺內國製三臺。(平)一。字母ステロ寫眞版あり。(活字)七半。十五字、百三十八行、十二段。一ヶ月五十錢。(廣料)一圓二十五錢。

東京日日新聞

麹町區有樂町二丁目二。明治五年二月十一日創立。株式。五百萬圓。(朝)八頁。(夕)四頁。(版數)本版七版、地方版廿四版。(部數)昭和二年一月一日定數八一九、〇六〇部。(社長)本山彦一。(副社長)矢野文雄。(常務)高石眞五郎。奥村信太郎。松内則信。吉武鶴次郎。櫻田松太郎。編輯主幹)岡實。(編輯總務)松内則信

(營)吉武鶴次郎。(政治)西村公明。(社會)小野賢一郎。(廣告)島田昇平。(全社員數)三百九十二名。(輪)超高速度輪六臺、マリノニ輪轉機三臺、(ローレル)二臺。字母ステロ寫眞版あり。活字)七半、十五字、百四十七行十二段。一ヶ月一圓。(廣料)一圓五十錢。(兼營)日刊、大阪毎日新聞、日刊、東京日日新聞、日刊、英文「大阪毎日及東京日日」週刊、サンデー毎日。週刊點字「大阪毎日」。毎月二回、財政經濟雜誌「エコノミスト」。月刊「書報」芝居とキネマ。

報知新聞

麹町區有樂町二ノ一。明治五年六月創立。株式。百十萬圓。(朝)八頁。(夕)四頁(版數)廿六版。(取締役代表)太田正孝。(取締役)高田知一郎。箕浦多一、三木七郎。(編)高田知一郎。(營)箕浦多一。(政治)井上勝好。(社會)御手洗辰雄。(廣告)山下敏夫。(大阪支局)關太一郎。(輪)超高速度輪四臺外製マリノニ式三臺內製マリノニ一臺。(平)五。字母ステロ寫眞版あり。(活字)七半。十五字、百四十七行、十二段。一ヶ月一

圓。(廣料)一圓七十錢。(兼營)輕費診療所。報知年鑑。(特設)講堂。

讀實新聞

京橋區西紺屋町十一番地。明治七年十一月創立。個人。(朝)十頁。日曜夕刊四頁。(版數)十二版。(社主)正力松太郎。(編)社長兼任(營)矢野正也。(編次)柴田勝衛。(政治)中尾龍夫。(社會)次長 玉虫孝五郎。(廣告)稻葉輪一。(大阪支局)藤井良之助。

(社員)二百三十名。(輪)讀實式高速機二臺。外製マリノニ式一臺。內製三臺。(平)二臺。字母ステロ寫眞版あり。(活字)七半十五字。百四十五行。十二段。一ヶ月八十錢。(廣料)一圓五十錢。(特設)講堂其他。

中外商業新報

日本橋區北島町一ノ三六。明治九年十二月創立。株式。百五十萬圓。(朝)八頁。(夕)四頁。(版數)十五版。(社長)築田欽次郎。(專務)同。(營業)村上幸平。(主筆)築田欽次郎。(編)佐藤三郎。(營)村上幸平。(政治)石田武太郎。(社會)心得)原田實。(廣告)小島良三。(大阪支局)阪田國三郎。社

時事新報

總町區八重洲町一ノ一。明治十五年三月一日創立。株式。四百五十萬圓。(朝)月、火、木、土、日八頁。水、金十二頁。外日曜週畫四頁。(夕)四頁。(版數)本版六版。地方版十版。(社長)小山完善。(常務)加藤功。(主筆)板倉卓造。(編)明石德一郎。(營業)兼務、加藤功(政治)後藤武男。(社會)青柳安茂。(廣告)三浦修治。(輪)超高速機八臺。マリノニ六臺。(平)三臺。字母ステロ寫眞版あり。(活字)七半。外にモノタイプ十五臺。十五字。百四十七行。十二段。一ヶ月一圓。(廣料)一圓六十錢。(出版)時事年鑑、福澤先生著書。其他書籍ノ出版。(特設)海上ニュース放送、海上版發行。

都新聞

總町區內幸町一ノ五。明治十七年九月廿五日創立。株式。百三十五萬圓。(朝)十四頁

(版數)九版。(社長)福田英助。(編)山本信博。(營)吉川庄一郎(政治)服部雅三。(社會)相原熊太郎。(廣告)吉川庄一郎。大阪支局)那須法道。(社員)二百名(輪)外製マリノニ式十臺。字母ステロ寫眞版あり。(活字)七半十五字。百三十八行。十二段。一ヶ月一圓二十錢。(廣料)一圓三十錢。(兼營)出版部。(特設)相談部。

やまご新聞

やまご新聞社 下台資會社發行。京橋區三十間堀一ノ一。明治十九年十月創立。合資。十萬圓。(朝)四頁。(夕)四頁。(版數)七版。(社長)松下勇三郎。(副社長)田中朝吉。(理事)長 田村全宜。(編)同。(營業)大岡亮義。(政治)田村全宜(社會)吉田要人。(廣告)橋本英(社員)二百三十名。(輪)TKS式五臺。ステロあり。(活字)七。七五。十五字。百三十五行。十二段。一ヶ月八十錢。(廣料)一圓三十五錢。(出版物)日本國勢大鑑。

東京朝日新聞

總町區有樂町三ノ一。明治二十一年七月創立。株式。四百萬圓。(朝)八頁

(夕)四頁。(社長)村山龍平(專務)上野精一、下村宏。(取締役)村山長壽、小西勝一、今村宗太郎、高原操、石井光次郎。(監查役)杉村廣太郎。(常任)辰井梅吉。(編輯局主幹)美土路昌一、牧野輝智。(編輯)緒方竹虎。(營)石井光次郎。(政治)野村秀雄。(社會)鈴木文四郎。(廣告)北村榮二郎。(社員)四〇八。(輪)朝日式超高速機九臺。マリノニ式高速機一臺。(平)二臺。字母ステロ寫眞版あり。(活字)七半十五字。百四十七行。十二段。一ヶ月一圓。(廣料)一圓五十錢(兼營)大阪朝日新聞、東西定期航空會、各種出版、朝日講堂、展覽會場。(特設)活動寫眞、計畫部、航空部、記事審查部、東京大阪間直通電話、傳書局二百羽あり。

國民新聞

京橋區加賀町一、二。明治二十三年二月一日創立。株式。三百萬圓。(朝)八頁。(夕)四頁。(版數)二十一版。(社長)德富猪一郎。(專務)河西豐太郎。(監查役)須田宜。(編)山根眞治郎。(營)布津純一。(政治)細野繁勝。(社會)田原茂作

(廣告)若山武彦。(大阪支局)山崎卓雄。(社員)五百九十二名。(輪)超高速機二臺。マリノニ七臺。字母ステロ寫眞版あり。(活字)七半。十五字。百四十七行。十二段。一ヶ月一圓。(廣料)一圓五十錢。(出版)國民年鑑。

中央新聞

總町區內山下町一ノ一。明治二十三年創立。株式五十萬圓。政友會。(朝)四頁。(夕)六頁。(版數)四版。(副社長)山口恒太郎。(支配人)大久保頼之助。(編輯局長)田村西男(廣告)田上市太郎。(大阪支局)澤山又吉。(社員)八十名。(輪)マリノニ式一臺。內國機五臺。(平)五。字母ステロ寫眞版あり(活字)七。七五。十五字。百三十七行。十二段。一ヶ月八十錢(廣料)一圓五十錢。(兼營)一般印刷。

萬朝報

京橋區弓町二。明治二十五年十一月創立。株式。一百萬圓。(朝)四頁。(夕)四頁(版數)二十二。(專務)花村四郎(總務局長)同。(常務)著本太吉(整理)伊藤理基。(政治)高倉忍(編)著本太吉。(營業)勝田重太郎(社會)石井文作。(廣告)代理)今

村義基。(大阪支社)大竹又次郎(社員)一三五名。(輪)マリノニ式一、石川式六。(平)二。字母ステロ寫眞版あり。(活字)七半十五字。一四七行。十二段。一ヶ月八十錢。(廣料)一圓五十錢(兼營)普通印刷。代理販賣、新日本史。

一六新報

芝區之日二ノ七。明治廿六年十月廿六日創立。個人。(夕)六頁。(版數)二。(社長)矢野晉也。(社主)同。(主筆)倉辻明義。(編)佐藤克己。(營業)新居房太郎。(政治)江口丈爾。(社會)本吉豊次郎。(廣告)橋本祐保。(大阪支局)遠藤信一(輪)二臺。ステロあり。(活字)七。七五。十五字。一四一行。十二段。一ヶ月六十錢。(廣告)一圓。

東京每夕新聞

總町區永樂町三ノ一。明治三十一年三月創立。合資。三十二萬圓。(夕)六頁。(版數)九。(社長)木村政次郎。(社主)同。(副社長)安藤正純。(主幹)木村正文。(主筆)林田龜太郎。(編)大友温。(販賣)柚本元一。(整理)板谷治平。(外交)正富曉。(廣告)齋藤總松。

(大阪支局)久光文治。(輪)外國製二臺。內國製六臺。(平)八臺。字母ステロ寫眞版あり。(活字)七半。十五字。百四十五行。十二段。一ヶ月七十錢。(廣料)一圓五十五錢。(兼營)日刊ラデオ新聞。

帝國新報

日本橋區龜殿町三ノ十二。明治三十九年創立。株式。十萬五千圓。(夕)四頁。(版數)四版。(部數)六萬八千。(社長)山野好恭。(常務)松本退藏(主筆)田川實徳。(編)石田興一(營)松本退藏兼任。(政治)伊東信止郎。(社會)土師清雄。(廣告)大島亦四郎。(大阪支局)宮和俊道。(社員)八十三名。(輪)超高速機二臺。(平)三臺。字母ステロ寫眞版あり。(活字)七。七五。十五字。百三十五行。十二段。一ヶ月六十錢。(廣料)一圓三十錢。

東京大勢新聞

日本橋區蠣殼町一ノ二。大正二年一月創立。組織變更大正十年三月。三十萬圓。(夕)四頁。(社主)神谷六造(主幹)三溝誠一郎。(編)後藤又男。(營)神谷眞。(政治)石母田文雄。(社會)細井貞吉。(廣告)

(大阪支局)松田濟三溝誠一郎。(事務長)牛袋吉次。(輪)TKS式三臺。(平)五臺。字母ステロ寫眞版あり。(活字)七。七五。十五字。一三五五行。十二段。一ヶ月共七十錢。(廣料)一圓五十錢。

東京夕刊新報

京橋區辰灰町一。大正三年二月一日創立。(夕)四頁。(版數)五版。(社長)中島鏡哉(編)米窪胤人。(營)田村然一。(政治)米窪胤人。(社會)同。(廣告)田村然一。(社員)一三二名。(輪)三臺。字母ステロ寫眞版あり。(活字)七半。十五字。百三十七行。十二段。一ヶ月五十錢。(廣料)一圓。(兼營)東京娛樂。

天業民報

下谷區上野櫻木町一。大正九年九月創立。株式六十萬圓。立憲黨正會。(朝)四頁特別號月四回十六頁乃至二十頁(部數)六萬。(社長)田中巴之助(常務)豐田傳次郎。(主筆)山川傳之助(編)武田甲子太郎、河野桐谷、星梅耀。(社員)八十七名(輪)四六版全紙一臺。(平)四臺。ステロあり。(活字)七。七五。十五字。五十行。八段。一ヶ月八十

錢。(廣料)七十錢。(兼營)出版物及代理部。

日本 日本新聞社發行。京橋區日吉町八。三年一月ヨリ數寄屋橋新社屋ニ移ル豫定。大正十四年六月廿五日創立。個人。(朝)

四頁。(版數)二。(部數)五萬。(社主)藤森勇。(編)綾川武治。

(營)藤森勇。(廣告)小林三太郎(社員)四十五名。(新社屋竣成迄委託印刷。十五字、一四一行十二段。一ヶ月五十錢。(廣料)一圓六十錢。(目的)全然營利を離れたる思想善導。

日刊ラヂオ新聞 東京毎夕新聞社發行。麹町區永樂町二ノ一。大正十四年六月二十六日創立。(夕)小型八頁。(社長)木村政次郎(編)原潤一郎。(營)柚木元一。(廣告)加納賢。(大阪支局)久光文治。(輪)一臺。ステロ寫眞版あり。(活字)九ボ。十五字、五十四行、九段。一ヶ月七十錢。(廣料)一圓五十錢。

ジャパン・アドヴァタイザイ(英字新聞)京橋區山下町十八番地。明治二十六年創立株式。(朝)十乃至十八頁。(社長)B・W・フライシヤ。(支配

人)R、ニコルソン。(主筆)Hバイアス。(編)O・D・ラウセル(廣告)P・モトガン。一ヶ月三圓三十錢。(廣料)一時四圓五十仙。

ジャパン、タイムス、エント、メール(英字新聞)ジャパン、タイムス社發行。麹町區内幸町一ノ六。明治卅年三月創立。匿名組合。(夕)八頁。(版數)三回。(社長)伊東米治郎(副社長)不破達磨太。(專務)芝染太郎。(主筆)芝染太郎。(營)山本宗兵衛。(社員)二百四十五名。(輪)超高速度機一臺。(平)三臺。ステロ設備あり、ライノタイプ機使用。(活字)英字、八段。一ヶ月二圓五十錢。(廣料)一時四圓五十錢。(兼營)出版、印刷及廣告取次代理業。

ニ大阪 大阪府

大阪毎日新聞 大阪府北區堂島上二ノ三六。明治九年二月二十日創立。株式。五百萬圓。

爲三郎。勝木鼎一。鷲谷武。(輪)マリノニ三。(平)一。字母ステロ寫眞版あり。(活字)七・七五。十五字、百三十七行、十二段。一ヶ月五十錢。(廣料)一圓二十錢。

大阪朝報 大阪府西區北堀江上通二丁目。明治四十三年十一月二十三日創立。個人。二十五萬圓。(朝)四頁。(版數)四版。(部數)八萬。(主幹)岡島松次郎(和)田喜一郎。(編)岡島松次郎。(營)和田喜一郎。(政治)中島直光。(社會)江上朝霞。(廣告)巽晋次郎。(東京支局)祖上祐三。(社員)九十二名。(輪)二。字母ステロ寫眞版あり。(活字)七半、十四字、百三十七行、十二段。一ヶ月五十錢。(廣料)九十錢。(兼營)出版部ありて各種出版物を發行す。姉妹紙に日刊大阪夕報あり。

日大阪夕報 (大阪朝報の姉妹紙)大阪府西區北堀江上通一丁目。大正十五年十一月二十三日創立。合資。十萬圓。(夕)四頁。(版數)二版。(部數)四萬五千。(代表社員)岡島松次郎。和田喜一郎。(主幹)岡島松次郎。

每朝新報、毎夕新報 大阪府此花區上福島南一ノ二七。大正四年二月創立。個人。五十萬圓。(朝)四頁。(夕)四頁。(版數)二版。(社長)日比新之輔(社主)日比孝治郎。(支配人)日比治三郎。(主幹)吉田巳之助。(主筆)日比孝治郎。(編)角田正(營)安平恒雄。(政治)角田正(社會)工藤淳。(廣告)字仁源三郎。(東京支局)伊藤秀夫。(社員)百十九名。(輪)ドイツ、アルバート會社製高速輪轉機一、外一。(平)五。字母ステロ寫眞版あり。(活字)七・五。十五字、百四十七行、十二段。一ヶ月五十錢。(廣料)一圓三十錢。(出版)毎月一日十五日銀行タイムス、保險タイムス發行。

大阪新日報 大阪府此花區上福島南一ノ三六。大正二年八月一日創立。個人。(夕)四頁

(社主)野田廣二。(編)外山白嶺(營)田中作次郎。(社會)田中芳設園。(廣告)田中善造。(輪)津田式二。ステロ寫眞版あり。(活字)八ボ。十五字、百三十二行十二段。一ヶ月五十錢。(廣料)九十錢。

大正日日新聞 大阪府東區北濱四ノ六。大正八年十一月廿五日創立。個人。一百萬圓。(朝)四頁。(夕)四頁。(版數)一版。(社長)米田誠夫。(社主)三谷先見。(理事)小和田嘉一。三谷先見。(主筆)江上憲時。(編)米田錦城。(營)米田誠夫。(政治)國井豐吉。(社會)三谷先見。(廣告)岸田介郎。(東京支局)久保祐三郎。(社員)四三名。(輪)二(石川式)。(平)一。ステロ寫眞版あり。(活字)七・七五。十五字、百三十六行、十二段。(廣料)一圓。

大阪今日新聞 大阪府東區大川町四七。大正十二年二月十一日創立。個人。十五萬圓。(夕)四頁。(版數)一版。(部數)三萬

(社長)藤浪健二。(社主)同上。(常務)松森鶴吉。(編)中山白峯(營)山本虎一。(政治)同。(社

任)。(主幹)岡野養之助、原田勝一郎。(編)高原操。(營)小西勝一。(整理)原田讓二。(社會)木村豐二郎。(廣告)今村宗太郎。(輪)超高速度朝日式輪轉機十五臺。(平)數臺あり。字母ステロ寫眞版あり。(活字)七・五。十五字、百四十七行、十二段。一ヶ月一圓。(廣料)一圓八十錢。(兼營)週刊朝日、アサヒスポーッ、コドモアサヒ其他半期ニ約四十二種ノ出版物發行。(特設)朝日會館、六階建、延坪一千五百一十二階ハ發送場グラヴニア印刷場、三階展覽會場、四階以上公演場坐席約二千、關西文化の大殿堂である、東西定期飛行。

大阪時事新報 大阪府北區會根崎上四ノ四九。明治卅八年三月十五日創立。株式。一百五十萬圓。(朝)六頁。(夕)四頁。(版數)八版。(專務)堀勲一。(主筆)土屋元作。(編)上杉彌一郎。(廣告)岡田爲三。(東京支局)大口政夫。(社員)二百五十三名。(輪)マリノニ一。式二臺。石川式四臺。(平)一臺。字母ステロ寫眞版あり。(活字)七・五。十五字、百四十四行、十二段。

大阪朝日新聞 大阪府北區中之島三ノ三。明治十二年一月二十五日創立。株式。四百萬圓(朝)十頁。(夕)四頁。(版數)二十九種。(社長)村山龍平。(專務)上野精一、下村宏。(常務)村山長舉、今村宗太郎、小西勝一、高原操、石井光次郎。(監査役)杉村廣太郎、辰井梅吉(常

任)。(主幹)岡野養之助、原田勝一郎。(編)高原操。(營)小西勝一。(整理)原田讓二。(社會)木村豐二郎。(廣告)今村宗太郎。(輪)超高速度朝日式輪轉機十五臺。(平)數臺あり。字母ステロ寫眞版あり。(活字)七・五。十五字、百四十七行、十二段。一ヶ月一圓。(廣料)一圓八十錢。(兼營)週刊朝日、アサヒスポーッ、コドモアサヒ其他半期ニ約四十二種ノ出版物發行。(特設)朝日會館、六階建、延坪一千五百一十二階ハ發送場グラヴニア印刷場、三階展覽會場、四階以上公演場坐席約二千、關西文化の大殿堂である、東西定期飛行。

大阪朝日新聞 大阪府北區中之島三ノ三。明治十二年一月二十五日創立。株式。四百萬圓(朝)十頁。(夕)四頁。(版數)二十九種。(社長)村山龍平。(專務)上野精一、下村宏。(常務)村山長舉、今村宗太郎、小西勝一、高原操、石井光次郎。(監査役)杉村廣太郎、辰井梅吉(常

任)。(主幹)岡野養之助、原田勝一郎。(編)高原操。(營)小西勝一。(整理)原田讓二。(社會)木村豐二郎。(廣告)今村宗太郎。(輪)超高速度朝日式輪轉機十五臺。(平)數臺あり。字母ステロ寫眞版あり。(活字)七・五。十五字、百四十七行、十二段。一ヶ月一圓。(廣料)一圓八十錢。(兼營)週刊朝日、アサヒスポーッ、コドモアサヒ其他半期ニ約四十二種ノ出版物發行。(特設)朝日會館、六階建、延坪一千五百一十二階ハ發送場グラヴニア印刷場、三階展覽會場、四階以上公演場坐席約二千、關西文化の大殿堂である、東西定期飛行。

大阪朝日新聞 大阪府北區中之島三ノ三。明治十二年一月二十五日創立。株式。四百萬圓(朝)十頁。(夕)四頁。(版數)二十九種。(社長)村山龍平。(專務)上野精一、下村宏。(常務)村山長舉、今村宗太郎、小西勝一、高原操、石井光次郎。(監査役)杉村廣太郎、辰井梅吉(常

任)。(主幹)岡野養之助、原田勝一郎。(編)高原操。(營)小西勝一。(整理)原田讓二。(社會)木村豐二郎。(廣告)今村宗太郎。(輪)超高速度朝日式輪轉機十五臺。(平)數臺あり。字母ステロ寫眞版あり。(活字)七・五。十五字、百四十七行、十二段。一ヶ月一圓。(廣料)一圓八十錢。(兼營)週刊朝日、アサヒスポーッ、コドモアサヒ其他半期ニ約四十二種ノ出版物發行。(特設)朝日會館、六階建、延坪一千五百一十二階ハ發送場グラヴニア印刷場、三階展覽會場、四階以上公演場坐席約二千、關西文化の大殿堂である、東西定期飛行。

大阪朝日新聞 大阪府北區中之島三ノ三。明治十二年一月二十五日創立。株式。四百萬圓(朝)十頁。(夕)四頁。(版數)二十九種。(社長)村山龍平。(專務)上野精一、下村宏。(常務)村山長舉、今村宗太郎、小西勝一、高原操、石井光次郎。(監査役)杉村廣太郎、辰井梅吉(常

會)北浦精。(廣告)中西浩洋。
 (東京支局)佐久間新吾。(社員)
 七十三名。(輪)佛國マリノニ
 式二。(平)三。字母ステロ寫眞
 版あり。(活字)七半、十五字、
 百四十五行、十二段。一ヶ月五
 十錢。(廣料)一圓。(兼營)請負
 印刷。

大阪毎夕新聞

大阪市北區
 堂島中一ノ三九。明治四十二年
 一月創立。株式。十萬圓。(夕)
 四頁。(社長)白神邦二。(營業)
 小西福松。(編)渡邊曉一。(政
 治)森田敬太郎。(社會)中井新
 三郎。(廣告)青木米吉。(輪)マ
 リノニ二。ステロあり。(活字)
 七、七五。十五字、百三十七行、
 十二段。一ヶ月五十錢。(廣料)
 一圓二十錢。姉妹會社に堂島印
 刷所あり。

大阪萬朝報

大阪市南區安
 堂寺橋通二ノ三六。大正五年一
 月二十三日創立。個人。(朝)四
 頁。(版數)一版。(部數)四萬五
 千。(社長)上野留三郎。(社主)
 同。(主幹)栗阪猶存。(編)岡本
 松濱。(營)三橋南香。(政治)駕
 見東一。(社會)家門芳太郎。(廣
 告)三橋南香。(東京支局)古川

又次郎。(社員)三十二名。(輪)
 一。(和製)。(平)二。ステロあり
 (活字)七、七五。十五字、百三十
 五行、十二段。一ヶ月五十錢。
 (廣料)八十五錢。

大阪日報

大阪市天王寺區細
 工谷町一九〇。大正六年六月一
 日創立。個人。(夕)三頁型。(版
 數)四版。(社長)高橋舟齋。(主
 筆)野田文六。(編)中井一夫。
 (政治)本田忠成。(社會)森猛夫
 (廣告)浦崎康華(輪)一。(平)二
 (廣料)浦崎康華(輪)一。(平)二

大阪新報

大阪市西區土佐堀
 通四ノ十六。明治十七年十月創
 立。個人。(夕)四頁。(部數)四
 萬。(社長)長島光三。(社主)同
 (主幹)星野正一。(編)鹽見清。
 (營)市川惣吉。(政治)福田健吉
 (社會)德永純二郎。(廣告)宮方
 廣也。(社員)九十七名。(輪)一
 (平)二。一ヶ月五十錢。

大阪經濟新聞

大阪市東區
 北濱一ノ廿一。明治十五年三月
 十五日創立。株式。六萬圓。(拂
 込濟)。(夕)四頁。(代表取締役)
 和泉榮。(編輯)宮本巖。(同願
 問)大野一朗。(營業顧問)秋原
 一雄。(社會)山本憲一。(廣告)
 岸和田勝。(東京支局)秋本忠。

大阪中外商業新報

大阪
 中外商業新報社發行。(東京中
 外商業新報社發行。大阪北濱一
 丁目。(夕)四頁。(版數)三版。
 (部數)五萬。(社長)梁田欽次郎
 (管理)村上幸平。(主幹)阪田國
 三郎。(編)主幹兼務。(營)佐藤
 新衛。(廣告)營業部長兼務。(社
 員)百餘名(輪)折敷二。(平)一
 字母ステロあり。(活字)ポイン
 ト式。十五字、百四十二行、十
 二段。一ヶ月六十錢。(廣料)一
 圓。

大阪商業新報

大阪市東區
 島町二ノ四六。大正八年四月創
 立。個人。十萬圓。(朝)四頁。
 (版數)二。(社長)川勝藏太。(主
 筆)同。(編代理)永島長風。(總
 務)越智南海。(經濟)青木繁。
 (社會)板倉三郎。(廣告代理)平
 瀬清。(社員)四十二名。(輪)津
 田式一。(平)三。(活字)八半、
 十四字、八十行、十二段。一ヶ

月五十錢。(廣料)一圓。
日本織物新聞 大阪市阿波
 座中通一丁目。明治三十九年三
 月二十五日創立。個人。三十五
 萬圓。(朝)四頁。(社長)村井基
 一。(社主)同。(支配人)清水岸
 良。(主筆)中江覺司。(編)同。
 (營)速水勳慶。(政治)中江覺司
 (社會)同。(廣告)齋藤兼吉。(東
 京支局)草野尚輝。(社員)六十
 二人。(輪)大型一。(平)九。字
 母ステロ寫眞版あり。(活字)七
 半。十五字、百四十七行、十二
 段。一ヶ月八十錢。(廣料)七十
 錢。(兼營)日本經濟通信、工手
 の母雜誌。

日刊工業新聞

工業新聞社
 發行。大阪市北區中ノ島五ノ一
 〇六。大正四年十一月三十日創
 立。個人。(夕)四頁。(版數)二
 (部數)一萬八千。(社長)今泉嘉
 一郎。(社主)近藤義太郎。(主
 幹)同。(主筆)小西百一。(營)
 林口博夫。(政治)上甲正人。(社
 會)提議作。(廣告)佐藤實市。
 (東京支局)大西茂彦。(社員)百
 二十二名。(輪)半截二。(平)三
 寫眞版あり。(活字)ポイント。
 十五字、百四十行、十二段。一

ヶ月六十錢。(廣料)一圓二十錢
 (出版)全國工業家人名錄。

三商報

大阪市東區北久太
 郎町三丁目。明治二十六年創立
 個人。(夕)四頁。(社長)野口欣
 一。(營)岸和田勝。字母ステロ
 寫眞版あり。(活字)八半。十四
 字、八十六行、九段。(廣料)二
 十錢。

昭和日日新聞

大阪市北區
 綱島町降棋島。大正十五年創立
 昭和二年二月二十日創刊。匿名
 組合。十五萬圓。(夕)四頁。社
 長)相島勘次郎。(總務)岩男義
 臣。(編)齋藤藤太郎。(廣告)中
 辻淳郎。(輪)マリノニ二。(平)
 二。ステロあり。(活字)七、五
 十五字、百四十三行、十二段。
 一ヶ月五十錢。(廣料)八十錢。

三、關 東

神奈川縣

橫濱貿易新報 橫濱市本町
 六丁目。明治二十三年二月創立
 個人。(朝)六頁。(版數)五回。
 (社長)三宅繁。(社主)同。(編)
 森本宗。(營)岩田四郎。(社會)

橫濱經濟日報

橫濱市本牧
 町六二六。大正十年六月二十一
 日創立。個人。十萬圓。(朝)四
 頁。(版數)二版。(社長)吉田弘
 (社主)吉田喜美。(支配人)池田
 一郎。(主筆)吉田定。(編)吉田

橫濱每朝新報

橫濱市南仲
 通四ノ七三。明治三十一年十二
 月創立。株式。二十萬圓。(朝)
 四頁。(社長)牧内元太郎。(編)
 茂出木源太郎。(政治)加藤兼三
 郎。(社會)宮崎初哉。(廣告)岩
 瀬頼弘。(東京支局)下島保造。
 (大阪支局)深田龜太郎。(輪)二
 (平)七。字母ステロ寫眞版あり
 (活字)七、七五。十五字、百二十
 八行、十二段。一ヶ月五十錢。
 (廣料)九十錢。(兼營)印刷部、
 出版部。

武相新報

橫須賀市大瀬町一
 三。明治三十八年五月創立。個
 人。十萬圓。(朝)四頁。(夕)四
 頁。(版數)二版。(部數)一萬部
 (社長)荒尾慎一郎。(社主)同。
 (營業)荒尾哲。(支配人)栗栖龍
 次郎。(主筆)荒尾葉舟。(編)片
 山久志。(營)荒尾哲。(政治)小
 野義雄。(社會)神田清。(廣告)
 荒尾八十。(東京支局)中田清。
 (社員)八十五名。(平)三。字母
 ステロ寫眞版あり。(活字)九半
 十三字、百十行、十二段。一ヶ
 月五十錢。(廣料)一圓。(兼營)
 代理部、印刷部、寫眞部、鑄造
 部、通信部。(海國民、橫須賀案
 內、出版中)諸國物產委託販賣

軍港よろづ新報

橫須賀
 市。大正十一年十一月創立。個
 人。五萬圓。(夕)四。(版數)二
 (部數)五千部。(社長)飯田三三

相模中央新聞

橫須賀市元
 町一〇。明治三十八年九月創立
 個人。(社長)飯塚高治。(主事)
 齋藤富之助。(編)小森柏水。(營)
 永井義春。(平)二。(活字)八、五
 十四字、百二十行、十二段。一
 ヶ月五十錢。(廣料)一圓。

東海新報

小田原町一ノ六
 四。明治廿八年三月十五日創立
 個人。(夕)四頁。(部數)二千六
 百部。(社長)井田忠明。(主筆)
 同。(編)神保正夫。(政治)宮野
 庄之助。(社會)田中司江。(東京
 支局)中田清。(平)十六面二臺
 (活字)普通五號及七、五。舊五號
 十一字、新十五字、舊五號百行
 十二段。一ヶ月五十錢(廣料)六
 十錢。(大正十二年八月三十一日
 迄神保忠明社長たりしが同
 年九月一日震災全燒更に神保國

夫社主兼主幹繼承の上同年十月一日より再刊の處大正十三年十月一日より舊營業部長井田忠明繼承引續て現在に至る

埼玉縣

新埼玉新聞

(上毛新聞の經營)浦和町一四八。大正十三年十一月創立。個人。(朝)四頁(社長)藤原秀吉。(支配人)藤原頼象。(主筆)正木鐘雄。(營)樋口清太郎。(廣告)長原彌市。(東京支局)高島萬太郎。(大阪支局)與田勇次郎。印刷は上毛新聞に於てす。十五字、百三十五行、十二段。一ヶ月五十五錢。(廣料)七十錢。

埼玉新聞

浦和町三〇一七。明治三十二年五月創立。株式。四萬圓。(朝)四頁。(社長)園田榮幹。(常務)中村由次郎。(編輯)古淵彌太郎。(庶務)山内武。(廣告)堀内友吉。(東京支局)井上龜彦。(輪)金津式一臺。ステロあり。(活字)七・七五。十五字、百三十行、十二段。一ヶ月五十五錢。(廣料)八十錢。

武州新報

(上州新聞の經營)

浦和町八六。大正十三年八月創立。個人。五千圓。(朝)四頁。(社長)中島喜平。(主事)設樂茂一郎。鈴木諒治。(平)一。ステロあり。(活字)八半、十五字、百行、十一段。一ヶ月五十錢。(廣料)五十錢。

千葉縣

千葉毎日新聞

千葉市吾妻町二丁目二二〇。明治三十六年四月創立。個人。三萬五千圓(朝)四頁。(社長)五十嵐重郎。(支配人)五十嵐理亮。(編輯)和田福次郎。(營)豊田乙次郎。(廣告)同。(東京支局)岩立慶三郎(平)十六頁掛三。八頁掛一。ステロあり。(活字)八半。十四字、百二十行、十二段。一ヶ月六十錢。(廣料)六十錢。

茨城縣

いばらき

いばらき新聞株式會社發行。水戸市南町十六番屋敷。明治廿四年七月創立。株式七萬圓。(朝)六頁。(夕)四頁。(版數)地方版共三版。(社長)本

多文雄。(常務)伊東利男。宮田三朗。江戸文。(主筆)社長兼務(編輯)同。(營)常務兼務。(政治)萩谷敬一郎。(社會)大久保廣。(廣告)鶴田直。(東京支局)加藤敏三郎。(大阪支局)峰浪雄。(社員)百五十二名。(輪)二。(平)二。字母ステロ寫眞版あり。(活字)七・七五。十五字、一三五行、十二段。一ヶ月一圓。(廣料)八十錢。

常總新聞

水戸市上市南三ノ丸。明治三十三年十一月十八日創立。個人。(朝)六頁。(社長)渡邊弘(理事)赤松豊三郎。(編輯)福地德。(營)波邊新。(政治)大野慎。(社會)田口喜一。(東京支局)藤川博正。(大阪支局)與田勇次郎。(輪)佛國マリノニ一臺。(平)二。ステロ寫眞版あり(活字)七・七五。十五字、百三十五行、十二段。一ヶ月八十錢。(廣料)八十錢。

茨城日報

水戸市上市並松町。明治六年創立。個人。(朝)四頁(社長)大塚徳郎。(編輯)大塚任天。(營)小野仁藏。(政治)下村勝之輔。(社會)木村廣吉。(廣告)風間亮太。(東京支局)岩田

榮之助。(平)二。字母ステロ寫眞版あり。(活字)七・七五。十五字、百三十行、十二段。一ヶ月六十錢。(廣料)六十錢。

夕刊茨城民報

水戸市上市泉町。大正十三年一月十六日創立。個人。(夕)四頁。(社長)中井川浩。(主筆)羽成知可。(輪)一。(平)一。(活字)七・七五。十二段。一ヶ月六十錢。(廣料)八十錢。

關東タイムス

古河町。明治四十二年一月創立。匿名。一萬圓。(夕)四頁。(社長)小杉徳(主筆)服部源藏。(平)一。(活字)九半。十四字、三十七行、六段。一ヶ月五十錢。(廣料)三十錢。

關東實業新報

古河町。大正十五年一月一日創立。個人。(朝)四頁。(社長)佐藤洋之助。(平)一。(活字)九半。七段。一ヶ月三十錢。(廣料)三十錢。

群馬縣

上毛新聞

前橋市曲輪町。明治十九年創立。個人。(朝)四頁(夕)四頁。(部數)三萬餘。(社

下野日日新聞

宇都宮市壩田町一五一。明治二十四年十月創立。個人。五萬圓。(朝)四頁(社長)金澤源太郎。(理事)大谷常太郎。(編輯)同。(營)山田壽雄(政治)重野一雄。(社會)大谷常太郎。(輪)一。(平)三。ステロあり。(活字)七・七五。十五字、百二十七行、十二段。一ヶ月五十錢。(廣料)七十錢。

夕刊しもつけ

宇都宮市壩田町三九一。大正十三年十一月十五日創立。(元下野社會新報社)個人。(夕)四頁。(版數)一版。(部數)七千五百部。(社長)佐藤程壽。(主筆)同。(主筆)佐々木圓成。(編輯)池澤留吉。(營)同。(政治)徳田勝雄。(社會)社長兼務。(廣告)黒澤伸三郎。(社員)五三名。(平)二臺。字母ステロ寫眞版あり。(活字)八半。十五字、九十行、十二段。一ヶ月二十五錢。(廣料)五十錢。(兼營)公衆食堂。實費宿泊所。無料治療所。人事相談所。一般印刷業。

兩毛毎日新聞

足利市二丁目。大正十年三月一日創立。個

長)藤原秀吉。(社主)同。(主筆)正木鐘雄。(編輯)同。(營)樋口清太郎。(政治)大澤勝平。(社會)森下眞佐一郎。(廣告)長原彌一郎。(東京支局)高島萬太郎(大阪支局)與田勇次郎。(社員)百七十四名。(輪)津田式二。(平)五。字母ステロ寫眞版あり。(活字)七・七半。十五字、百四十行、十二段。一ヶ月八十錢。(廣料)一圓。(兼營)姉妹紙として新埼玉新聞を發行す。

上州新報

前橋市北曲輪町七一。明治二十九年十一月二十九日創立。個人。(朝)四頁。(版數)一版。(部數)一萬部。(社長)高橋東。(社主)同。(主筆)殿江浩。(編輯)左部馨。(營)小野幸太郎。(政治)中島直吉。(社會)同。(廣告)小野幸太郎。(東京支局)松村周吉。(大阪支局)松田濟。(社員)四十五名。(輪)TRK式一。(平)三。字母ステロ寫眞版あり。(活字)七半。十五字、百四十二行、十二段。一ヶ月五十五錢。(廣料)七十錢。

群馬新聞

前橋市堅町七八。明治三十二年十一月二十七日創立。株式。五萬圓。(朝)

四頁。(社長)加藤徳重。(主筆)同。(編輯)松田徳松。(營)關根貞治。(政治)松田徳松。(社會)本間繁雄。(廣告)牛込三郎。(平)一。ステロあり。(活字)九半。十三字、百十五行、十二段。一ヶ月五十五錢。(廣料)一圓。

上毛日日新聞

前橋市堀川町。大正十五年九月創立。個人(朝)四頁。(社長)石橋早一。

上野毎日新聞

前橋市北曲輪。大正四年二月十六日創立。個人。(朝)四頁。(社長)小口徳

上野新聞

高崎市本町六九。明治三十八年創立。個人。一萬圓。(朝)四頁。(社長)中島喜平(社主)同。(營)尾澤二郎。(主筆)中島喜平。(編輯)阿久澤半平(營)阪本秀雄。(政治)阿久澤半平。(社會)根岸唯重。(廣告)中島國子。(東京支局)平瀬直治。(社員)二十五人。(平)二。字母ステロ寫眞版あり。(活字)八半十五字、百三十行、一ヶ月五十錢。(廣料)五十錢。(兼營)武州新報、兩毛民友新報。

新群馬

高崎市本町。大正十五年九月創立。個人。(朝)四頁

上武新聞

館林町。昭和二年一月創立。個人。(朝)二頁。(社長)酒井義一郎。

栃木縣

下野新聞

宇都宮市池上町五十一。明治十五年創立。株式。三十萬圓。(朝)四頁。(夕)四頁(社長)藤平謙一郎。(主筆)川村直成。(編輯)同。(營)穴原陸助。(政治)川村直成。(社會)松村眞一。(廣告)東泉庸。(東京支局)市村守一郎。(大阪支局)橋本滿次郎。(輪)石川式二臺。字母ステロ寫眞版あり。(活字)七半。十五字、百四十行、十二段。一

人。(朝)五頁。(部數)五千部。
 (社長)堀込方一。(主筆)同。
 (編輯)村上關助。(營)橫塚喜好。
 (廣告)築瀨隆章。(社員)二十三
 名。(平)一。字母ステロ寫眞版
 あり。(活字)ホイント。十三字
 百二十行、十二段。一ヶ月六十
 錢。(廣料)五十錢。

兩毛民友新報

(上野新聞
 の經營)足利市。大正十四年七
 月十五日創立。個人。民政黨系
 (朝)四頁。(版數)一版。(部數)
 三千部。(社長)廣田文。(社主)
 同。(主筆)久保民一(營)淺沼茂
 八。(廣告)大森德次。(社員)四
 十一人(支局共)。(平)一。(活
 字)ポイント。十五字、八十行
 十一段。一ヶ月六十錢。(廣料)
 六十錢。

夕刊足利日報 足利日報社發行
 足利市通四丁目。大正十五年三
 月二十六日。個人。一千八百圓
 (夕)二頁。(版數)一。(部數)二
 千。(社長)須永弘。(社主)同。
 (支配人)戸叶丙三。(主筆)須永
 弘。(廣告)戸叶丙花。(社員)八
 人。(平)一。(活字)舊五號。十
 五字、六十行、三段。一ヶ月三
 十錢。(廣料)三十錢。

栃木新聞 栃木町。大正十四
 年創立。個人。(夕)二頁。(社
 長)本吉源作。

四、東 北

福島縣

福島民報 福島市榮町二十一
 明治二十五年八月創立。匿名組
 合。政友系。(朝)四頁。(夕)四
 頁。(社長)堀切善兵衛。(副社
 長)八田宗吉。(理事)會田倫。
 (主筆)中目元治。(主筆)大内一
 郎。(編輯)中目元治。(營)川島豐
 (政治)大内一郎。(社會)菊地八
 郎。(廣告)川島豐。(東京支局)
 三瓶仙輔。(大阪支局)木暮仁輔
 (輪)石川式一。(平)一。字母ス
 テロ寫眞版あり。(活字)七・七
 五。十五字、百三十五行、十二
 段。一ヶ月八十錢。(廣料)同。

福島民友新聞

福島市中町
 六十。明治二十八年五月創立。
 株式。八萬圓。(朝)四頁。(夕)
 四頁。(社長)寺澤元良。(專務)
 田子健吉。(編輯)同。(營)同。(政
 治)高野味三郎。(社會)鈴木一
 郎。(廣告)菊田芳夫。(輪)二。

福島毎日新聞

福島市大町
 七十八。大正十四年十一月十八
 日創立。株式。二十五萬圓。(朝)
 四頁。(夕)四頁。(社長)鈴木周
 三郎。(副社長)釘本衛雄。(專
 務)菅原喜六。(主筆)渡部喜一
 (編輯)齋藤龜一郎。(營)菅原喜六
 (廣告)高野孤鹿。(輪)T O A 式
 二。字母ステロ寫眞版あり。(活
 字)七・七五。十五字、百三十八
 行、十二段。一ヶ月八十錢。(廣
 料)同。

福島新聞

(中外商業新報社
 の經營)福島市大町六四。工場
 郡山市燈出。明治七年四月創立
 株式。(朝)四頁。(社長)築田欽
 次郎。(社主)中外商業新報社。
 (編輯)小田島定吉。(營)近藤昌俊
 (東京支局)安藤與重郎。(輪)マ
 リノニ式一。(平)一。字母ステ
 ロ寫眞版あり。(活字)七半。十
 五字、百三十五行、十二段。一
 ヶ月六十錢。(廣料)八十錢。

東北毎日新聞

白河町馬町
 三三。大正九年五月創立。株式

一萬五千圓。(朝)四頁。(社長)
 大越軍三。(副社長)芳賀榮。(主
 筆)大野武夫。(編輯)内藤謙光。
 (營)酒井清房。(廣告)高橋定治
 (平)一。(活字)八半。十五字、
 八十六行、八段。一ヶ月四十錢
 (廣料)六十錢。

磐城新聞

平町。大正十年四
 月十五日創立。個人。(夕)四頁
 (版數)一。(部數)一萬。(社長)
 蓮沼龍輔。(社主)鈴木辰三郎。
 (常務)蓮沼龍輔。(編輯)坂本茂雄
 (營)蓮沼龍輔。(社會)田村秀也
 (廣告)蓮沼龍輔。(社員)廿五名
 (平)二。字母ステロ寫眞版あり
 十二字、六十五行、十一段。一
 ヶ月五十錢。(廣料)廿錢。

磐城時報

平町柳町九。大正
 四年五月創立。個人。(夕)二頁
 (社長)佐藤作兵衛。(主筆)岡田
 廣成。十四字、四十五行、七段
 一ヶ月三十錢。(廣料)五十錢。

會津日報

若松市甲賀町一三
 一。明治三十八年八月創立。個
 人。三十萬圓。(朝)四頁。(夕)
 四頁。(版數)三。(部數)六千部
 (社長)生龜藤吉。(專務)眞田市
 郎。(常務)佐藤靜吉。(主筆)眞
 田市郎。(編輯)同。(營)吉田寅吉

(廣告)上村謙次。(東京支局)關
 安之助。(社員)二十五人。(輪
 一臺。

宮城縣

河北新報 仙臺市。明治卅年
 一月創立。個人。(朝)六頁。(夕)
 四頁。(版數)五版。(社長)一力
 健治郎。(副社長)一力次郎。(理
 事)一力五郎。(主筆)藤原相之
 助。(編輯)同。(營)社長兼務。(政
 治)針生市郎治。(社會)赤阪敬
 止。(廣告)米野伊勢治。(東京
 支局)一力次郎。(大阪支局)佐
 々木忠策。(社員)四百人餘。(輪
 八。(平)一。字母ステロ寫眞版
 あり。(活字)七・七五。十五字、
 百四十一行、十二段。一ヶ月九
 十錢。(廣料)八十錢。

仙臺日日新聞

仙臺市大町
 五丁目新町。明治四十一年十一
 月創立。個人。(朝)四頁。(社
 長)小原保固。(副社長)小原佑
 (編輯)小原侃。(營)小原佑。(廣
 告)相原知純。(輪)T K S 式一
 (平)二。ステロあり。(活字)七
 七五。十五字、百三十五行、十
 二段。一ヶ月五十錢。(廣料)七

十錢。

東華新聞

仙臺市町末無八。
 大正四年七月創立。個人。(朝)
 四頁。(版數)二版。(部數)五千
 (社長)小野平八郎。(社主)小野
 秋子。(編輯)小野和多理。(營)小
 野平吉郎。(政治)新田文衛。(社
 會)門馬耕村。(廣告)阿部雅夫
 (東京支局)鈴木邦三郎。(社員)
 百五十名。(平)二。字母ステロ
 あり。(活字)七・七五。十五字
 百三十二行、十二段。一ヶ月六
 十錢。(廣料)六十錢。

宮城毎日新聞

仙臺市東三
 番町。大正十五年七月創立。個
 人。(夕)四頁。(社長)杉浦增一
 人。(編輯)同。(社主)杉浦增一
 新聞の改題)仙臺市南町通五五
 大正十五年六月創立。個人。(朝)
 四頁。(社長)福島一郎。(昭和
 二年六月二十四日復活、改題再
 刊)

石巻日日新聞

石巻町仲町
 四。大正元年九月創立。個人。
 十萬圓。(朝)四頁。(社主)松川
 鏡四郎。(副社長)佐藤露江。(主
 筆)同。(政治)菅原俊夫。(社
 會)佐々木初男。(廣告)荻野寅
 吉。(東京支局)赤松彦太郎。(社

員)五十名。(平)二。(活字)七
 半。十五字、百四十行、十二段
 一ヶ月六十錢。(廣告)五十錢。

宮城新聞

石巻町鞍町九八。
 大正十三年十月三十一日創立。
 個人。(朝)四頁。(社長)佐々木
 泰治。

仙南日日新聞

大河原町。
 大正十一年五月廿五日創立。個
 人。五萬圓。(朝)四頁。(部數)
 八〇〇部。(社長)庄司重太。
 (社主)同。(副社長)大岡直人。
 (主筆)庄司一郎。(編輯)庄司猛太
 郎。(營)同。(政治)行方幸治。
 (社會)庄司隆。(廣告)高橋佐吉
 (東京支局)赤松彦太郎。(大阪
 支局)南部力松。(社員)三十五
 名。(平)二。字母ステロ寫眞版
 あり。(活字)七半。十五字、一
 四五行、十二段。一ヶ月六十錢
 (廣料)四十錢。(兼營)あり。

陸羽日報

(昭和二年五月
 改題)鹽釜町。大正十年七月十
 日創立。政友系。(朝)四頁。(社
 長)志野逸郎。(主筆)桑永辰太
 郎。(編輯)志野忠輝。(政治)志野
 忠輝。(社會)伊藤晴雨。(廣告)
 中川甚右衛門。(社員)十二名。
 (工場員)十三名。(平)二。(活

岩手縣

字)六號ポイント。十五字、七
 十行、十二段。一ヶ月八十錢。
 (廣料)六十錢。(兼營)一級印刷

岩手日報

盛岡市内丸。明治
 九年七月二十一日創立。株式。
 二十萬圓。(朝)四頁。(夕)四頁
 (社長)太田孝太郎。(主筆)後藤
 清郎。(編輯)同。(營)岩淵榮男。
 (政治)田鎖義雄。(廣告)田村敬
 造。(東京支局)大西陸之助。大
 阪支局)清島三郎。(輪)石川式
 一。(平)二。字母ステロ寫眞版
 あり。(活字)七・七五。十五字
 百三十五行、十二段。一ヶ月八
 十錢。(廣料)八十錢。

岩手毎日新聞

盛岡市日影
 門外小路。明治三十二年二月二
 十二日創立。(朝)四頁。(夕)二
 頁。(版數)一版。(部數)一三〇
 〇〇。(社長)高橋嘉太郎。(社
 主)中村治兵衛。(主筆)福田祐
 英(編輯)同。(營)佐々木次郎(政
 治)豐田毅。(社會)宮北二郎。
 (廣告)小野崎孝三。(東京支局)
 山本常太郎。(大阪支局)永田裕
 太郎。(輪)石川式一。(平)二。

字母ステロ寫眞版あり。(活字)七・七五。十五字、百十五行、十二段。一ヶ月七十錢。(廣料)七十錢。

岩手日日新聞

盛岡市下小路紙町河岸十。大正三年十一月創立。株式。四萬圓。民政系。(主筆)佐久山惣太郎。(編輯)池野夢遊。(營)佐久山惣太郎。(廣告)吉田徳次郎。(平)二。(活字)八半。十四字。百二十行、十二段。一ヶ月六十錢。(廣料)七十錢。

岩手國民新聞

盛岡市仁王小路一番戸。大正十二年四月創立。個人。三千圓。(朝)二頁。(版數)一版。(部數)三千部。(社長)中川里市。(主幹)織笠義正(主筆)大澤龍次郎。(編輯)武子六輔。(營)山口澤治。(政治)鳩川博。(社會)勝又太郎。(廣告)山本健次郎。(社員)二十五名。(平)二。ステロあり。十二字、百五行。十一段。一ヶ月三十五錢。(廣料)七十錢。

岩手新報

盛岡市仁王町通四〇。大正十三年十一月三日創立。(朝)二頁。(社長)宮永佐吉。

青森縣

東奥日報

青森市大字大野字長島三ノ二。明治二十一年十一月六日創立。株式。六萬圓。(朝)四頁。(夕)四頁。(版數)朝夕共二版。(社長)山田金次郎。(主筆)同。(編輯)工藤規。(營)武田永字。(政治)宮川善五郎。(社會)小林長三郎。(廣告)西澤重藏。(經濟)杉森文雄。(社員)四十二名。準三十二名。其他合計百五十二名。(輪)石川式一。K S式折式一。(平)四。字母ステロ寫眞版あり。(活字)七・七五。十五字、百三十六行、十二段。一ヶ月八十五錢。(廣料)五十錢。(兼營)印刷業。

青森日報

青森市柳町五十一ノ三。明治十三年六月創立。個人。(朝)四頁。(夕)四頁。(社長)太田鐵次。(主幹)平川力。(主筆)福士幸次郎。(編輯)菅原傳之助。(營)鳴海助太郎。(政治)中田三雄。(社會)西塚以佐雄。(廣告)遠藤良太郎。(輪)石川式一。(平)三。字母ステロ寫眞版あり。(活字)七・七五。十五字

百三十五行、十二段。一ヶ月八十錢。(廣料)五十錢。

青森報知新聞

青森市大字酒町三。昭和二年四月一日創立。個人。五千圓。(夕)四六版。(部數)千六百部。(社長)關精一。(主幹)同。(支配人)關徳次郎。(主幹)關精一。(編輯)西恒久。(營)菅野恭平。(政治)關徳次郎。(社會)幸林定一。(廣告)關徳次郎。(社員)十九名。(平)二。十二字、四十三行、八段。一ヶ月三十錢。(廣告)三十錢。(兼營)印刷。

弘前新聞

弘前市一番町七。明治三十年五月十五日創立。個人。(朝)四頁。(社長)工藤十三雄。(支配人)工藤興。(主筆)櫻田清芽。(編輯)同。(營)成田茂樹(政治)松本克巳。(社會)福山源次郎。(廣告)成田茂樹。(東京支局)原田柳二。(活字)八半。十四字、百二十行、十二段。一ヶ月六十錢。(廣料)五十錢。

弘前大正報

正報社發行。弘前市大字元大町四〇。大正三年十一月廿五日創立。個人。七千圓。(朝)四頁。(部數)二千九百。(社長)成田彦太郎。(支

配人)田中末太郎。(主幹)成田祐。(主筆)同。(編輯)成田彦太郎。(社會)工藤重任。(廣告)田中末太郎。(社員)二十名。工藤員共。(平)一。十五字、九十行、九段。一ヶ月六十錢。(廣料)二十錢。

八戸毎日新聞

八戸町古常泉下。大正十年創立。匿名組合三千圓。(朝)四頁。(版數)一版(部數)三千五百。(社長)武藤勝美。(副社長)兼編工藤有厚。(營)山田陸奥雄。(主筆)岩泉龜松。(政治)山田陸奥雄。(社會)川井昌平。(東京支局)平山長佐久。(社員)十五名。(平)三。(活字)七半。十五字、七十五行、十二段。一ヶ月六十錢。(廣料)四十錢。

はちのへ

はちのへ新聞社發行。八戸町長横町二。明治三十四年一月十八日創立。株式。一萬圓。(朝)四頁。(社長)北村益(主筆)奈須川保光。(編輯)同。(營)北村泰輔。(廣告)島守定光。(平)三。(活字)七・七五。十五字、八十五行、十二段。(廣料)二十錢。

山形縣

山形新聞

山形自由新聞社發行。山形市七日町四七一。明治九年創立。株式。十萬圓。(朝)四頁。(夕)四頁。(社長)横尾彌門。(專務)服部敬吉。(主筆)庄司貞夫。(編輯)服部敬吉。(政治)島貫泰次郎。(社會)澁谷晋。(廣告)新岡太右工門。(東京支局)渡部彦四郎。(大阪支局)與田勇次郎。(輪)金津式一、マリノニ式一。(平)一。字母ステロ寫眞版あり。(活字)七・七五。十五字、百四十一行、十二段。一ヶ月八十五錢。(廣料)七十錢。(兼營)サンデー山形。

山形民報

山形市駅前大通り。明治四十一年四月創立。個人。十萬圓。非政友。(夕)四頁。(社長)齋藤庄之助。(主幹)同。(主筆)同。(編輯)齋藤仁。(營)安食巖。(政治)平吉之助。(社會)後末一。(廣告)齋藤稔。(平)二。ステロあり。(活字)八半。十四字、百十七行、十二段。一ヶ月六十錢。(廣料)五十錢。

新山形

山形市榮町。大正十二年六月創立。匿名組合。五萬圓。(夕)四頁。(部數)五千部(社長)菅野野吉。(主幹)同。(主筆)同。(編輯)後藤嘉一。(營)草賀清吉。(社會)大場龜吉。(廣告)草賀清吉。(東京支局)見玉繁。(社員)四十二名。(平)一。字母ステロ寫眞版あり。(活字)八半。十五字、七十五行、十一段。一ヶ月六十錢。

米澤新聞

米澤市門東町下ノ丁二九九七。明治四十五年五月創立。個人。(朝)四頁。(主幹)素月農平。(編輯)石倉惣吉。(營)

夕刊よねさは

米澤市越後番匠町。大正十二年十一月創立。一萬五千圓。民政黨。(夕)四頁(部數)二千五百部。(主幹)加藤富之助。(支配人)阿部周三郎。(主幹)高島兵衛。(主筆)小山田太郎。(社員)二十三人。(平)一(活字)八半。十二字、六十行、十一段。一ヶ月六十錢。(廣料)五十錢。

米澤朝報

米澤市立町四三〇。明治四十五年六月一日創立。個人。(朝)二頁。(社長)高野義雄。(主筆)岡田重輝。(活字)舊十三字、九十五行、十段。一ヶ月三十錢。(廣料)五十錢。

酒田新聞

酒田町上内匠町九五。明治十三年五月創立。匿名。五萬圓。(夕)四頁。(社長)池田藤彌。(主筆)中村弘。(主筆)佐藤良次。(編輯)松澤泰一郎(營)柴田義造。(政治)久松宗六(廣告)小久保又助。(東京支局)村瀨留次郎。(平)二。ステロあり。

酒田日報

酒田町酒町三三。大正十年八月十日創立。株式。(朝)四頁(社長)大石五郎。(主筆)北條祐次郎。(活字)七・七五。十五字、百三十五行、十二段。

鶴岡日報

鶴岡市若葉町一。明治四十年十一月創立。合資。

鶴岡新聞 鶴岡市馬場町。大正十年五月一日創立。個人。三萬五千圓。政友會。(朝)四頁。 (社長)加藤惣七。(社主)佐藤壽郎。(主幹)同。(主筆)同。(編輯)河合田吉。(營)富樫克巳。(社會)松井慶。(東京支局)金内良輔。(社員)三十名。(平)二。字母ステロ寫眞版あり。(活字)七半。十五字、八十三行、十二段、一ヶ月七十錢。(兼營)酒田日報。

莊内新報 鶴岡市馬場町。明治廿二年八月創立。合資。二萬圓。(朝)四頁。(社長)平田吉郎。(社主)佐藤政吉。(主幹)笹原定治郎。(編輯)北橋良輔。(營)牧保雄。(政治)長澤虎次郎。(社會)竹澤繁一郎。(廣告)長岡直充。(東京支局)村瀬留次郎。(平)一。ステロあり。(活字)七五。十五字、百四十二行、十二段。一ヶ月八十錢。(廣料)五十錢。

秋田縣

秋田魁新報

秋田市大町一丁目。明治三十年十一月創立。株式。二十萬圓。(朝)四頁。(夕)四頁。(主幹)安藤和風。(編輯)中村重輝。(主筆)安藤和風。(同)。(營)中村重輝。(政治)石井清幸。(社會)洞城利喜。(廣告)心得川村政綱。(東京出張所)井上勝太郎。(社員)一三九。(輪)二。ステロ寫眞版あり。(活字)七半。十五字、百四十五行、十二段。一ヶ月七十五錢。(廣料)六十錢。

莊内商報

鶴岡市馬場町二。明治三十七年五月五日創立。株式。一萬七千圓。(夕)四頁。版數)一版。(社長)中村作右工門(主幹)高橋三代吉。(營)進藤可(廣告)富樫幸次郎。(平)六十二字、三十五行、五段。一ヶ月四十錢。(廣料)十錢。(兼營)活版石版業本業にして莊内商報は附屬事業なり。

米澤タイムス

長井町小出五六二。大正十二年十月一日創立。個人。(朝)四頁。(社長)小松原春治。(主筆)小松原祐次郎。

秋田新聞

秋田市中長町二〇。明治四十四年九月創立。株式。七萬圓。(朝)四頁。(社長)中村千代松。(主幹)熊井又八郎。(主筆)同。(編輯)吉川友輔。(營)奥山榮三。(政治)大塚定彬。(社會)佐藤末松。(廣告)澤畑末吉(輪)一。ステロあり。(活字)七半。十五字、百三十八行、十二段。一ヶ月五十錢。(廣料)四十錢。

秋田時事新報

(七月五日)日刊新秋田政題。新秋田新聞社發行。秋田市大町二ノ七。大正九年十一月十九日創立。個人。十五萬圓。政友會。(朝)四頁。(社長)池内廣正。(社主)同。(營)櫻田直吉。(主筆)加賀谷東十郎。(編輯)櫻田直治。(營)大淵政治。(政治)小西忠三。(社會)川口兵吉。(廣告)木内利助。(東京支局)林省三。(大阪支局)松田清。(社員)四十五名。(輪)色刷輪轉機一。ステロ寫眞版あり。(活字)七半。十五字、百三十五行、十二段。一ヶ月五十錢。(廣料)三十五錢。

新潟縣

新潟毎日新聞

新潟市東中通一番町。明治四十三年三月創立。匿名組合。二十萬圓。政友系。(朝)六頁。(夕)四頁。(主幹)小柳調平。(主筆)小鍛冶守玄。(編輯)川崎新吉。(東京支局)同。(輪)石川式二。同折疊式二。(平)一。字母ステロ寫眞版あり。(活字)七半。十五字、百四十行、十二段。一ヶ月九十錢。(廣料)七十錢。

新潟新聞

新潟市西堀前通七。明治九年創立。株式。二十五萬圓。民政黨朝。四頁(月、八月)四頁。(版數)三版。(部數)五萬餘。(社長)久須美東馬。(專務)廣井一。(主筆)山田穀城。(編輯)伴純。(營)佐藤新次郎。(政治)高橋友二郎。(社會)加藤春秋。(廣告)坂口敏吉。(東京支局)坂口敏吉。(大阪支局)井上環。(社員)五四名。(輪)折式輪轉機二。(平)六。字母ステロ寫眞版あり。(活字)七半。十五字、百四十行、十二段。一ヶ月九十

五錢。(廣料)七十錢。(兼營)代理部出版部。(特設)公共の用に供する大講堂。

新潟時事新聞

新潟市西堀前通六番町八六九。大正十三年二月創立。株式。十五萬圓。(朝)四頁。(夕)四頁。(社長)田邊巖一。(理事)三浦良二。(總務)清水晴夫。(編輯)星野良平。(營)枝村修一郎。鈴木桔梗。(輪)色刷折式二。(平)二。ステロ寫眞版あり。(活字)七半。十五字、百四十二行、十二段。一ヶ月九十錢。(廣料)七十錢。

新潟民報

新潟市西堀前七。大正十五年創立。株式。六萬圓。(朝)明春より朝刊發刊。(夕)四頁。(版數)三版。(部數)一五、五六〇。(社長)吉川大助。(支配人)長井鴻一。(主幹)吉川大助。(主筆)須藤鮭川。(編輯)井上義伸。(營)長井鴻一。(政治)遠藤榮一。(社會)上村吉太郎。(廣告)妹尾謹爾。(東京支局)堂島松太郎。(大阪支局)江口貞男。(社員)百二十五名。(輪)一。(平)四。字母ステロ寫眞版あり。(活字)七半。十五字、百四十行、十二段。一ヶ月七十錢。(廣料)

七十錢。(兼營)週刊日曜新聞。新潟朝日新聞。新潟市白山浦通二丁目。明治九年八月二十二日創立。(朝)四頁。(社長)源川民造。

新潟實業新聞

新潟市本町通十番町。明治三十七年十月十五日創立。個人。(朝)四頁。(社長)水澤三代吉。

北越新報

長岡市坂ノ上町。明治十四年六月創立。株式。二十萬圓。非政友。(朝)六頁(夕)四頁。(版數)三版。(社長)廣井一。(常務)小池誠吉郎。(主筆)關太郎。(編輯)西方鶴吉。(營)常務兼任。(政治)佐藤留吉郎。(社會)林精機。(廣告)今井德太郎(東京支局)小野喜一。(大阪支局)大林茂雄。(社員)三百五十四人。(輪)折式二。普通二。(平)十六。字母ステロ寫眞版あり。(活字)七半。十五字、百四十六行、十二段。一ヶ月九十五錢。(廣料)七十錢。(兼營)活版、石版、タイプ、和洋製本。(特設)新聞發送用として自動車五臺。宣傳部用活動寫眞機四臺。

越佐新報

長岡市荒屋敷町。明治三十三年五月一日創立。株

式。十五萬圓。(朝)四頁。(夕)四頁。(版數)二版。(部數)二萬一千。(社長)木村清三郎。(專務)今成幸一。(常務)橋爪巴。(支配人)今成幸一。(主筆)藤井浩然。(編輯)橋爪巴。(營)今成幸一。(政治)藤井浩然。(社會)小林登與治。(廣告)小倉健太。(東京支局)加藤頼司。(大阪支局)落合忠兵衛。(社員)四十四名。(輪)津田式一。(平)五。字母寫眞版あり。(活字)七五。十五字、百三十五行、十二段。一ヶ月九十五錢。(廣料)七十錢。(兼營)一般印刷業。

長岡日報

長岡市觀光院町。大正五年十一月創立。株式。五萬圓。政友會。(夕)四頁。(社長)渡邊藤造。(主筆)石井家昌(編輯)同。(營)關川善三郎。(平)四。字母あり。(活字)七五。十五字、百三十行、十二段。一ヶ月五十五錢。(廣料)五十錢。

越後日日新聞

長岡市四郎町。大正十二年八月十八日創立。個人。(夕)四頁。(社長)石黒義文。

高田新聞

高田市吳服町四十一。明治十六年四月創立。個人

(朝)四頁。(夕)四又は二頁。(社長)伊藤泰藏。(主幹)中村武一(編輯)伊藤豐二。(輪)一。(平)一。字母ステロ寫眞版あり。(活字)七五。十五字、百三十五行、十二段。一ヶ月九十五錢。(廣料)六十五錢。

高田日報

高田市上小町五〇。明治四十年七月創立。個人。政友會。(朝)六頁。(社長)丸山豐治郎。(支配人)神山治助。(主幹)武田德三郎。(主筆)石田美佐。(編輯)大井一星。(營)澤田喜惣治。(廣告)石平太郎治。(東京支局)望月二三。(輪)一。(平)一。ステロあり。(活字)八半。十五字、百二十八行、十二段。一ヶ月八十錢。(廣料)六十五錢。

越後新聞

高田市馬出町。明治四十五年五月創立。合資。一萬圓。(夕)四頁。(社長)五十嵐彌吾八。(主幹)坂井義正。(主筆)須藤徳太郎。(編輯)田中光武(營)谷種吉。(廣告)武藤國次郎(輪)一。(平)三。ステロあり。(活字)七五。十五字、百三十二行、十二段。一ヶ月七十五錢。(廣料)六十五錢。

上越日報

(新愛知の經營)。

高田市吳服町五三。大正十二年八月創立。嚴中立。(朝)四頁。(部數)三千五百。(社長)大島宇吉。(主幹)田中惣治郎。(主筆)近江秀。(編)同。(營)主幹兼務(社員)十八名。(平)二。十五字七十行、十二段。一ヶ月五十錢(廣料)五十錢。

柏崎日報

柏崎町本町四丁目。明治三十三年五月十日創立。個人。(朝)四頁。(社主)桑山クニ(支配人)久我政治。(主筆)西澤新次。(編)足立清。(廣告)徳間賢二郎。(平)二。字母ステロあり。(活字)七半。十五字、百三十一行、十二段。一ヶ月七十五錢(廣料)六十錢。

新發田新聞

新發田町。明治四十一年一月創立。個人。(朝)四頁。(社長)土田亦次郎。(主筆)川瀬貢。(編)長谷川賢造。(營)野尻信夫。(輪)一。(平)三。ステロあり。(活字)七。七五。十五字、百三十五行、十二段。一ヶ月六十錢。(廣料)六十錢。

中越毎夕新聞

三條町八幡小路。大正八年二月一日創立。個人。(夕)小型四頁。(社長)小林竹次郎。(編)酒井慶太郎。(活

字七。七五。十二字、四十行、八段。一ヶ月四十五錢。(廣料)四十錢。

佐渡新聞

佐渡郡相川町。明治三十年九月創立。五萬圓。(朝)四頁。(部數)一萬部。(社長)森二郎。(社主)同。(專務)池田熊藏。(營務)猪股弘。(支配人)森トメ。(主幹)森三郎。(主筆)大澤完説。(編)松榮猶吉。(營)池田熊藏。(廣告)同。(東京支局)赤松彦太郎。(社員)五十三名。(平)二。字母ステロ寫眞版あり(活字)九半。十三字、七十六行十二段。一ヶ月九十錢。(廣料)七十錢。(兼營)印刷業、出版物多數あり。

佐渡日報

相川町八日屋町。大正三年八月創立。個人。(朝)四頁。(社長)淺香寛。(編)本間丘二。(活字)九半。十二字、百〇二行、十二段。一ヶ月八十錢(廣料)七十錢。

新佐渡

佐渡河原田町。大正四年九月五日創立。個人。(朝)四頁。(社長)森守藏。

佐渡タイムス

佐渡兩津町。大正十四年十一月十六日創立。個人。(朝)四頁。(社長)

長野縣

小杉忠一。

信濃毎日新聞

長野市南縣町六五七。明治六年七月五日創立。株式。十萬圓。(朝)六頁。(夕)四頁。(版數)五版。(社長)小坂順造。(常務)小坂武雄。(監警)新井寛三。(主筆)風見章。(編)三澤精英。(東京支局)西澤圭。(社員)二百五十餘名。(輪)三。字母ステロ寫眞版あり。(活字)七半。十五字、百四十行、十二段。一ヶ月九十五錢。(廣料)四十五錢。(兼營)臨時部を置き一般印刷の依頼に應ず。信母年鑑その他臨時出版。(特設)臨時部所屬の印刷機數等設備。

長野新聞

長野市旭町乙一。明治廿二年一月二十五日創立。株式。四萬圓。(朝)四頁。(夕)四頁。(社長)山本慎平。(支配人)長澤政美。(主筆)矢ヶ崎賢次。(編)藤本政吉。(營)神戶龜吉。(政治)藤本政吉。(社)傳田誠司。(廣告)神戶龜吉。(東京支局)山田豊。(大阪支局)松林喜八郎。(社員)百二十六名。

信濃日日新聞

長野市縣町。明治十八年創立。株式。四萬圓。(朝)四頁。(社長)小林久七。(專務)小笠原幸彦。(主筆)同。(編)同。(營)太田行之進。(政治)羽生田源三。(社)宮下政之介。(廣告)岩井享。(東京支局)井出利雄。(輪)一。字母ステロ寫眞版あり。(活字)七。十五字、百四十八行、十二段。一ヶ月六十錢(廣料)四十五錢。(兼營)活版印刷、寫眞製版。

しなの新聞

松本市元町四五ノ二。大正十四年四月一日創立。株式。二十五萬圓。(朝)四頁。(夕)四頁。(社長)上條信。(專務)熊谷村司。(編)野村信次郎。(政治)同。(社)池田文二。(廣告)平出戒次郎。(輪)TOA一。(平)二。字母ステロ寫眞版あり。(活字)七半。十五字、百四十行、十二段。一ヶ月八十錢(廣料)四十五錢。

信濃民報

松本市神明町。明

信濃日報

松本市大名町七十四。明治五年十月創立。個人。民政系。(朝)四頁。(社長)降旗元太郎。(代表者)副社長百瀬源。副社長)瀧澤青六。(支配人)藤巻藤九郎。(編)山田彦作。(營)藤巻九郎。(政治)中島剛一。(社)會)小松悦雄。(輪)一。(平)三。字母ステロ寫眞版あり。(活字)八半。十五字、百三十行、十二段。一ヶ月七十錢。(廣料)四十錢。

新信濃

(新愛知の經營)松本市新伊勢町。大正五年九月十一日創立。(朝)二頁。(社長)大島宇吉。(編)伊藤繁彦。

松本新聞

松本市北深志地蔵清水。大正九年一月二十二日。

信濃新報

松本市北深志桐四七二。明治三十九年十二月創立。(朝)四頁。(社長)大島卓爾。(主筆)廣澤健之助。(編)同。(營)樋口榮。

夕刊商工新聞

商工通信社發行。松本市大名町。大正三年創立。個人。(夕)四頁。(部數)三五〇〇。(社長)平野茂雄。(社主)同。(主筆)同。(編)稻津華江。(營)上條今朝一。(廣告)小峰義春。(社員)二十三人。(平)二。(活字)舊。十二字、五十三行七段。一ヶ月四十五錢。(廣料)四十錢。(兼營)各社通信。

松本毎日新聞

松本市二の丸町。大正十年一月創立。個人(夕)四頁。(社長)大池米作。(支配人)早川平松。(編)大池大我(廣告)濱雅彦。(平)二。(活字)八半。十四字、一ヶ月五十錢。(廣料)五十錢。

北信毎日新聞

上田市新參町。明治三十六年三月六日創立。株式。三萬圓。(夕)四頁。(版數)一版。(部數)八千部。(社長)武市如意。(專務)柴崎泰彦(主筆)長谷部賢。(編)同。(營)

社長兼務。(社員)六十五人。(平)三。(活字)七半。十五字、百三十五行、十二段。一ヶ月六十錢(廣料)四十五錢。社屋工場新築落成六月下旬移轉目下活字改良中(七年)の爲め工場整理中。

上田新聞

上田市。明治三十七年一月創立。株式。六萬圓。(朝)四頁。(社長)山本莊一郎。(專務)大塚唯七郎。(營)柳澤由二郎。

南信新聞

飯田町七二三。明治三十四年十二月創立。株式。五萬圓。政友系。(夕)四頁。(社長)平野桑四郎。(專務)林雅次(支配)前島賢一。(主筆)池田愛泥。(編)山田錦岳。(政治)山田不二夫。(社)會)小林孤燈。廣告)熊田末雄。(東京支局)山田豊。(大阪支局)佐々木金一。(社員)六十六名。(輪)一。(平)一。寫眞版あり。(活字)七半。十五字、百四十行、十二段。一ヶ月六十錢。(廣料)六十錢。

信濃時事新聞

飯田町。大正四年八月創立。株式。五萬圓。民政系。(朝)四頁。(夕)四頁。(社長)濱島諒。(專務)片山均。(副社長)木下重太郎。諒藤方景

南信實業新聞

飯田町。大正七年三月四日創立。個人。二萬圓。(朝)四頁。(版數)一版。(部數)三千部。(主幹)加藤篤一(營)山崎勇男。(廣告)近藤右近(東京支局)加藤善二。(社員)七人。(活字)舊。十二字、四十二行、七段。一ヶ月三十五錢(廣料)十錢。

南信毎日新聞

伊那町。大正四年九月創立。株式四萬圓。(朝)四頁。(社長)山田謙太郎。(專務)野澤準治。(營)原華男。

伊那日報

伊那町四七〇。明治四十五年四月創立。株式(夕)四頁。(社長)鹽原述。(主筆)宮崎巖雄。(編)鹽原秋水。(營)鹽原述。(平)五。(活字)八半。十四字、十一段。一ヶ月六十錢。(廣料)六十錢。

中信毎日新聞

岩村田町。明治四十一年九月創立。個人。十萬圓。(夕)四頁。(版數)二版

(部數)一萬三千八百部。(社長)中澤彌太郎。(社主)中澤今朝雄(專務)神津今朝太郎。(主筆)酒井靜夫。(編輯)中澤榮助。(社員)三十八名。(輪)マリノニ式一。(平)九。字母ステロ寫眞版あり。活字九ボ。十三字百二十行、十二段。一ヶ月六十錢。(廣料)五十錢。

南信日日新聞

信州上諏訪町三二七五。明治卅四年十二月五日創立。株式。八萬圓。(夕)四頁。(社長)林七六。(專務)三澤慶重。(支配人)野澤光雄。(主筆)中山林圃。(編)近藤太八郎(營)支配人兼務。(政治)宮下今朝惠。(社會)御子榮高志。(廣告)有賀敬一。(東京支局)名取周平。(大阪支局)二伊田暉。(社員)七十三名。(輪)東京機械製作所四六二面掛一。字母ステロ寫眞版あり。(活字)八半。十四字、百廿二行、十二段。一ヶ月七十錢。(廣料)五十錢。

中央蠶糸新聞

諏訪郡平野村岡谷。明治四十二年四月十三日創立。個人。(夕)四頁。(社長)堀江起志郎(編)山田義衛。

五、東 海

愛知縣

新愛知 新愛知新聞社。

名古屋西區本町二丁目。明治二十一年七月一日創立。合資。一十萬圓。(朝)八頁。(夕)四頁。(版數)七版。(部數)五十萬。(社長)大島宇吉。(社主)同。(支配人)大島慶次郎。(主幹)田中齊(主筆)編輯長兼務。(編)尾池義雄。(營)岡田伊三郎。(政治)宮川常吉。(社會)佐藤至善。(廣告)營業部長兼務。(東京支社)勝田重太郎。(大阪支局)山崎兼次郎。(社員)四百五十名。(輪)高速度一。折式二。外六。字母ステロ寫眞版あり。(活字)七。七半。十五字、百四十一行、十二段。一ヶ月八十錢。(廣料)一圓二十錢。(特設)モノタイプ數臺。カステンクの設備あり。

名古屋新聞

名古屋市中區針屋町三丁目。明治二十九年創立。株式合資。六十萬圓。(朝)八頁。(夕)四頁。(版數)七版。(社長)小山松壽。(主幹)與良松

名古屋毎日新聞

名古屋市中區新榮町二丁目。八。明治九年八月創立。株式。十七萬圓(夕)四頁。(版數)五版。(部數)十萬。(專務)千葉龜雄。(常務)鈴木清節。野村浩司。(支配人)中野美樹。(主筆)武市雄圖。(編)次長)小塚備三。(社會)竹内正(廣)坂野謙次郎。(東京支局)赤澤正助。(大阪支局)倉光喜代藏(社員)百八十五名。(輪)佛マリノニ製一。內製一。(平)一。字母ステロ寫眞版あり。(活字)七。七五。十五字、百四十行、十二段。一ヶ月四十錢。(廣料)一圓の姉妹紙)名古屋市中區小林町十八。明治卅二年三月創立。個人。(夕)四頁。(社長)鐵木壽三郎。(社主)同。(支配人)横田淳治郎。(主筆)門田勝衛。(編)横田淳治郎。(營)小森秀次郎。(政治)山田政一。(社會)中野五郎

愛知新聞

名古屋市中區日新聞の姉妹紙)名古屋市中區小林町十八。明治卅二年三月創立。個人。(夕)四頁。(社長)鐵木壽三郎。(社主)同。(支配人)横田淳治郎。(主筆)門田勝衛。(編)横田淳治郎。(營)小森秀次郎。(政治)山田政一。(社會)中野五郎

名古屋日日新聞

愛知新聞の姉妹紙)名古屋市中區門前町五ノ四四。大正四年六月創立。個人。政友系。(朝)四頁。(社長)瀧川嘉助。(主筆)横田莫人(編)同。(營)日比野清一。(政治)山田政郎。(社會)岡田俊彦(廣告)日比野清一。(輪)マリノニ式一、今津式一。字母ステロ寫眞版あり。(活字)七。七五。十五字、百三十五行、十二段。一ヶ月四十五錢。(廣料)七十錢

名古屋日報

名古屋市中區西瓦町四ノ切六三。大正二年九月二日創立。個人。三萬圓。(朝)四頁。(部數)一、二〇〇〇。(社長)田中實壽。(支配人)稻垣一朗。(主幹)岡本秀雄。(主筆)社長兼務。(營)稻垣一朗。(政治)栗田治一。(社會)西邊正義。(廣告)稻垣德治郎。(東京支局)古川文治郎。(社員)四十七人(平

二。字母ステロ寫眞あり。(活字)七。七五。十五字、百三十二行、十二段。一ヶ月五十錢。(廣料)八十錢。

中京毎夕新聞

名古屋市中區伊勢町二丁目六。大正四年十二月創立。合資。一萬圓。(夕)四頁。(代表者)川村金雄。(理事)渡邊榮三郎。(總務)同。(編)山田善衛。(營)川村金雄。(平)六。ステロあり。(活字)八ボ。十五字、八十五行、八段。一ヶ月四十錢。(廣料)六十錢。

中央商業新聞

名古屋市中區合資會社發行。名古屋西區米屋町。明治十五年創立。合資。(正午)四頁。(夕)二頁。(社長)原真一郎。(主幹)遠藤雅清(營)加藤光次郎。(平)三。(活字)九ボ。十四字、七十四行、八段。

新中京新聞

名古屋市中區榮町。昭和二年三月十五日創立。(創立者)桐生悠々、日比如水、早川汀。

名古屋夕刊新聞

名古屋市中區大場町。大正十五年九月創立。個人。(夕)四頁。(社長)春日井豐。(編)小山田武男。

參陽新報

豊橋市西八町三八

明治三十二年二月十一日創立。株式。六萬圓。(朝)四頁。(版數)一版。(部數)一萬部。(社長)大場恒次郎。(社主)同。(專務)同(主幹)白井千。(主筆)同。(編)内田惣次郎。(營)白井十。(政治)内田惣次郎。(社會)鈴木助作。(廣告)山本新三郎。(東京支局)柳澤秋香。(社員)四十五名。(平)二。(活字)七。七五。十五字、百二十行、十二段。一ヶ月五十錢。(廣料)七十錢。

豊橋日日新聞

豊橋市松葉町一九八。大正六年一月創立。個人。五萬圓。(朝)四頁。(社主)中村幸四郎。(主筆)山本國作。(編)倉光康次郎。(營)石積保雄。(社會)西山班一。(廣告)丹羽重雄。(平)二。(活字)九ボ。十四字、七十行、八段。一ヶ月三十錢。(廣料)七十錢。

豊橋新報

豊橋市中八町一〇八。大正十年十一月十五日創立。株式。五萬圓。(朝)四頁。(部數)二千九百餘。(社長)小山信(社主)近藤健吉。(專務)安藤角次郎。(常務)黒柳清次。(支配人)白井貞次郎。(主幹)齋藤彌八。(主筆)近藤康堂。(編)出中

廣平。(營)加藤孝太郎。(政治)關口孤帆。(社會)神谷恭。(廣告)近藤令二。(東京支局)金子幸次郎。(社員)三十七人。(平)一。十二字、一〇〇行、一ヶ月五十錢。(廣料)六十五錢。

東海朝日新聞

豊橋市西八町七四。大正十一年十一月三日創立。個人。八萬圓。(朝)四頁(社長)岡田實。(平)三。ステロ寫眞版あり。(活字)八ボ。十四字、百三十行、十二段。一ヶ月五十五錢。(廣料)五十錢。

新朝報

豊橋市上傳馬町七一。明治三十三年十一月創立。個人。(朝)四頁。(社長)遠藤長三郎。(社主)遠藤定一。(主筆)山口光園。(編)同。(政治)田中種次。(社會)河合陸郎。(廣告)井澤欣三郎。(平)三。ステロあり。(活字)九。十五字、九十行九段。一ヶ月五十錢。(廣料)五十錢。

岡崎朝報

岡崎市康生町六九。九。明治三十四年六月十一日創立。個人。(朝)四頁。(部數)六三〇〇。(社長)竹内京治(社主)同。(主幹)井上儀三郎。(主筆)松山春治。(編)柳原金之

助。(營)清水雷音。(政治)菊池正一。(社會)村井庄右衛門。(廣告)生田義一。(東京支局)柳澤繁治。(大阪支局)津川喜園。(社員)三十五人。(平)二。字母ステロあり。(活字)七。七五。十五字、百三十三行、十二段。一ヶ月五十五錢。(廣料)五十錢。(兼營)碧海日日新聞、三河新聞三洲毎日新聞。

新二河

岡崎市龍田町五一。明治二十八年六月創立。個人。(朝)四頁。(社主)小田庄三郎。(社長)手島格太郎。(主筆)社長兼任。(編)鈴木金一。(營)藤田靜哉。(平)二。ステロあり。(活字)七。七五。十五字、百三十行十二段。一ヶ月五十五錢。(廣料)一圓。

知多新聞

知多郡半田町。明治三十一年十一月十日。四萬圓(夕)四頁。(社長)日比格。(社主)合資會社都文會。(主筆)稻田裕。(營)中川三郎。(廣)澤野多男。一ヶ月二十五錢。(廣料)三十錢。(兼營)各種印刷、雜誌發行。

春秋新報

知多郡半田町。大正十一年十月三十一日創立。匿

名。勞働農民黨。(朝)四頁(夕)二頁。(社長)加藤今一郎。(副社長)近藤市九郎。(支配人)加藤真吾。(平)三。(活字)九ホ。
三河新聞 (尚崎朝報の經營) 新川町相生一。大正四年六月一日創立。(朝)四頁。(社長)奥谷一郎。(編)大見唯一。(平)一。(活字)七・七五。十五字、百三十五行、十二段。一ヶ月五十錢(廣料)五十五錢。

山梨縣

山梨日日新聞 山梨新聞株式會社。甲府市百石町二八八。明治五年三月創立。株式。十二萬圓。(朝)四頁。(部數)四萬五千部。(社長)野口二郎。(社主)同。(事務)同。(主筆)同。(編)中田敏雄。(營)清水富士平。(政治)中田敏雄。(社會)澁谷俊治。(廣告)深澤直次郎。(東京支局)長谷川元治郎。(社員)三十八人(輪)石川式一。折式一。(平)三字母ステロ寫眞版あり。(活字)七・七五。十五字、百三十八行、十二段。一ヶ月五十錢。(廣料)一圓。(兼營)印刷業。

山梨毎日新聞 甲府市紅梅町二。明治四十一年四月創立。個人。(朝)四頁。(社長)保坂政治郎。(編)佐野謙。(營)矢澤清治。(廣告)藤原宗平。(東京支局)原武夫。大阪支局)松田清。(輪)一。字母ステロ 眞版あり。(活字)七・七五。十五字、百三十二行、十二段。一ヶ月五十錢。(廣料)七十錢。

山梨民友新聞

甲府市櫻町二。大正八年二月十一日。個人(朝)四頁。(社長)原澤太郎。(主幹)若尾哲太郎。(主筆)鮎川克己。(編)矢崎長次。(社會)柳苑一。(東京支局)三枝嶺三郎。(輪)TKS式色刷一。石川式一。ステロあり。(活字)八ホ。十五字、百三十三行、十二段。一ヶ月五十錢。(廣料)一圓。

名。(輪)一。(平)一。字母ステロ寫眞版あり。(活字)八ホ。十五字、一三五五行、十二段。一ヶ月五十錢。(廣料)八十錢。
峽中日報 甲府市錦町十八。明治二十一年六月創立。個人。(朝)四頁。(社長)深川角藏。(主幹)清水常吉。(主筆)同。(營)同。(社會)土屋武由。(理事)内藤治幸。(東京支局)西澤龍。(輪)石川式一。ステロあり。(活字)七・七五。十五字、百三十五行、十二段。一ヶ月五十錢。(廣料)七十錢。

静岡縣

静岡新報 静岡市吳服町三丁目。明治二十六年一月創立。合資。五萬圓。政友會。(朝)四頁。(夕)四頁。(社長)松浦五兵衛。(主筆)寺崎乙治郎。(總務理事)江河勝太郎。(常務理事)橋本喜作。(政治)山口晴盈。(社主)八木市松。(廣告)黒柳芳藏(輪)外製マリノニ式一臺。内國折式一臺。字母ステロ寫眞版あり。(活字)七・七五。十五字、百三十六行、十二段。一ヶ月八十五錢。(廣料)八十錢。

十五錢。(廣料)八十錢。
静岡民友新聞 静岡市七間町二ノ二三。株式。二十萬圓。民政黨。(朝)四頁。(夕)四頁。(版數)二版。(社長)水出善三郎(副社長)大石光之助。(主筆)小杉潔。(編)同。(營)市川正俊。(政治)大石秀夫。(社會)三浦宅治郎。(廣告)須永藤吉。(東京支局)深水龍。(大阪支局)中谷清一。(輪)金津製二。(平)一。字母ステロ寫眞版あり。(活字)七・七五。十五字、百四十行、十二段。一ヶ月八十五錢。(廣料)八十錢。(兼營)代理部。

静岡朝報 静岡市紺屋町九二。明治八年一月創立。個人。(朝)四頁。(版數)一版。(部數)六千五百。(社長)中西覺次郎。(社主)庄司良朗。(主筆)白井吉一(編)同。(營)杉山佐一。(政治)社長兼。(社會)栗田市郎。(廣告)豐島末吉。(東京支局)澤井正。(社員)二十九人。(輪)半切一。(平)一。ステロあり。(活字)七・七五。十五字、百三十八行、十二段。一ヶ月六十錢。(廣料)七十錢。(兼營)諸印刷。
駿河新聞 (新愛知の經營) 靜

岡市。大正十二年創立。(朝)四頁。(社長)大島吉吉。(主筆)野田兼一。

濱松新聞

濱松印刷株式會社發行。濱松市田町二七二。明治三十二年一月創立。株式。二萬圓。(朝)四頁。(夕)二頁。(社長)佐藤竣次。(常務)中村啓太郎。(支配人)松浦錠太郎。(主筆)法月敬客。(編)小島長市。(廣告)住田双葉。(輪)一臺。(平)二。ステロあり。(活字)九ホ。十四字、百十八行、十二段。一ヶ月七十五錢。(廣料)六十錢。

日本民聲新聞

濱松市東鴨江三八。大正五年四月十五日創立。個人。(夕)四頁。(社長)吉田鶴三郎。(營)守山哲男。(平)四。寫眞版あり。(活字)七・七五。十五字、百三十五行、十二段。(廣料)八十錢。

静岡日報

濱松市紺屋町。大正四年九月三日創立。匿名合資(夕)二頁。(社長)松浦錠太郎。(編)杉山善之助。(平)一。ステロ寫眞版あり。(活字)八ホ。十四字、百十八行、十二段。

駿遠日報

(新愛知の經營) 濱松市後道一〇四ノ一。明治四十

五年創立。(朝)二頁。(社長)大島吉吉。(營)小池傳策。(平)二。ステロあり。(活字)九ホ。十四字、百行、十一段。(廣料)六十錢。

西遠新報

(名古屋新聞の經營) 濱松市松城町一三〇。大正四年十一月三日創立。(朝)二頁(社長)佃完三。

沼津日日新聞

沼津市城内字條内町四八八ノ一。大正十五年三月十五日創立。株式。五萬圓。(夕)四頁。(社長)岩田實。(事務)井上彰。(主筆)同。(編)下島清一郎。(營)竹内太郎。(政治)牧野行雄。(社會)伊藤勝三(廣告)井上彰。(東京支局)徳富三喜男。(平)四。ステロあり。(活字)七・七五。十五字、百三十二行、十二段。(廣料)八十錢。

東海毎日新聞

田方郡熱海町。明治四十五年十二月創立。株式。三萬圓。(夕)四頁。(版數)一。(部數)五千。(社長)神保彌三郎。(社主)同。(事務)二見昇平。(常務)同。(支配人)同(主筆)船頭紫風。(編)同。(營)漆原大之進。(政治)主筆兼。(社會)漆原大之進。(廣告)石井勇

之助。(東京支局)山田忠。(社員)二十名。(平)三臺。字母ステロ寫眞版あり。(活字)九ホ。十四字、六十行、十段。一ヶ月四十錢。(廣料)十錢。

岐阜縣

岐阜日日新聞 岐阜市今小町二二。明治十四年五月創立。個人。(朝)四頁。(夕)四頁。(版數)二。(部數)二萬七千。(社長)正田銳吉。(社主)高橋嘉津美。(主筆)社長兼。(編)小木會修二。(營)青木九十六。(政治)宮脇朝民。(社會)高田範幸。(廣告)青木九十六。(東京支局)佐藤駒太郎。(大阪支局)淺田弘。(社員)六十人。(輪)洋田式單色一。色刷機付一。(平)二。字母ステロ寫眞版あり。(活字)七・七五。十五字、百四十一行、十二段。一ヶ月七十錢。(廣料)一圓。

岐阜新聞

岐阜市朝日町三。明治廿一年十月創立。合資。二萬五千圓。(朝)四頁。(夕)四頁(版數)二版。(部數)二萬八千餘(社長)徳寛。(副社長)西尾孝一(主筆)天野敬太郎。(編)鈴木猛

夫。(營)副社長兼。(政治)外山照。(社會)丹羽諒一。(廣告)武藤啓二郎。(東京支局)太田卯壽治。(大阪支局)山口榮治。(社員)七十三名。(輪)内國製一。(平)二。字母ステロ寫眞版あり(活字)七・七五。十五字、百三十五行、十二段。一ヶ月七十錢(廣料)一圓。

大岐阜新聞

岐阜市北高岩町七。大正十年十月創立。個人(夕)四頁。(社長)山田三郎。(副社長)渡邊晴房。(營)小石田良三。(廣告)安部篤信。(平)一。ステロ寫眞版あり。(活字)七・七五。十五字、百三十五行、十二段。一ヶ月七十錢(廣料)一圓。

中部復興

岐阜市高森町三九二。大正十五年一月創立。個人(夕)四頁。(社長)菅井好治(副社長)磯田二郎。(營)内木敏市(廣告)松村捨二。(平)二。ステロ寫眞版あり。(活字)七・七五。十五字、百二十行、十二段。(廣料)四十錢。

岐阜毎日新聞

岐阜市西園町。大正五年八月十五日創立。個人。(夕)四頁。(社長)原眞澄

岐阜新報

岐阜市木造町四六

大正六年六月一日創立。(朝)四頁。(社長)水野後八。

美濃大正新聞 大垣市竹島町。明治三十五年十一月創立。個人。(朝)四頁。(社長)木村作次郎。(主筆)坂東英一。(主筆)青山松藏。(編)石田繁。(總務部長)上田高次郎。(平)二。ステロあり。(活字)九半。十二字百〇五行。十二段。一ヶ月五十錢。(廣料)八十錢。

中央日報 大垣市番組町四二〇。大正九年四月創立。個人。(朝)二頁。(社長)西川繁之丞。(平)二。ステロあり。(活字)八半。十一行。六十五行。十二段。(廣料)一圓。

飛驒毎日新聞 飛驒日報社發行。高山町大字三町。明治四十二年十二月廿八日創立。株式十二萬圓。(夕)四頁。(版數)二版。(部數)四千二百。(社長)上木甚四郎。(支配人)大島禪逸。(主幹)同。(編)種藏大作。(營)岩田美代造。(政治)江野喜代造(社會)船坂秋堂。(廣告)上丸契(東京支局)長田青化。(大阪支局)三島健三。(社員)二十八人(平)三。字母ステロ寫真版あり

多治見新聞 (東濃實業新聞の改題)大正三年三月十日創立。個人。一萬二千圓。(朝)二頁。(部數)五千四百。(社長)田邊愛笑。(社主)同。(社員)十三名。(ロー)一。字母ステロ寫真版あり。(活字)八半。十四字。十二段。一ヶ月四十錢。(廣料)七十錢。(兼營)會社商店の諸印刷

中央時事新聞 豐岡町一九一四。大正二年八月一日創立。個人。(朝)四頁。(社長)松浪鯨洋。(活字)八半。十四字。百二十行。十一段。(廣料)七十錢。

三重縣

伊勢新聞 津市丸の内本町。明治十一年一月十七日創立。個人。二十萬圓。(朝)六頁。(夕)四頁。(社長)松本宗重。(社主)松本繁之亮。(主筆)社長兼務。(編)若林義夫。(營)關安。(政治)畑石治。(社會)森勇。(廣告)大橋真一郎。(輪)TBS式三。(平)九。字母ステロ寫真版あり

紀南新報 木本町五八八。明治三十五年四月三日創立。個人(夕)四頁。(社長)武上千代之丞(主筆)武上象石。(營)岩本譽(平)二。(活字)舊。十二字。六十八行。十一段。一ヶ月六十錢(廣料)五十錢。

南海新報 尾鷲町中井浦一三九。大正七年二月十一日創立。個人。(夕)四頁。(社長)肥田喜四郎。(編)駒哲男。(營)藤尾信一。(平)二。(活字)舊。十二字百行。十一段。一ヶ月五十錢。(廣料)六十錢。

伊賀日報 伊賀上野町丸ノ内二九。明治三十二年一月十日。個人。(朝)二頁。(社長)山内幸次郎。(主筆)山内京。十段。一ヶ月三十錢。(廣料)二十五錢。

伊賀合同新聞 伊賀上野町丸の内一。明治卅五年六月創立(夕)二頁。(部數)三千。(社長)あり。(活字)七。七五。十五字百三十五行。十二段。一ヶ月八十錢。(廣料)八十錢。(兼營)週刊伊勢コドモ新聞。

伊勢朝日新聞 津市伊豫町大正十二年七月一日創立。個人(夕)四頁。(社長)池村幸太郎(主筆)池村湖月。(營)社長兼(廣告)同。(平)一。字母ステロ寫真版あり。(活字)八半。十五字。百十七行。十二段。一ヶ月五十錢。(廣料)七十錢。(兼營)活版印刷業。

三重日報 (新愛知の經營)津市下郡田字能澤町一四二四。一。大正三年六月一日創立。(朝)二頁。(社長)島宇吉。(主筆)中島雄二郎。

三重毎日新聞 津市西町二二。大正八年十二月二十六日創立。個人。(朝)二頁。(社長)竹中吉之助。(主筆)長谷川勇。

四日市商業新聞 四日市下新町三四。明治三十六年三月創立。個人。十萬圓。(夕)四頁(社長)島海善衛。(主筆)同。(營)田中朝一郎。(政治)古田青(社會)森康吉。(廣告)島海(東京支局)吉田茂。(大阪支局)菅浦龜雄。(平)三。ステロあり。(活字)八半。十四字。百二十行。十二段。一ヶ月七十錢。(廣料)八十錢。(兼營)代理部。

勢州毎日新聞 四日市新町一五一。明治三十二年十一月三日創立。(朝)四頁。(社長)森永判四郎。(編)社長兼。(東京支局)手島三千三。(輪)一。十四字。百二十行。十二段。一ヶ月七十錢。(廣料)七十錢。

伊勢朝報 宇治山田市宮後町四七三。明治三十二年一月創立。個人。三十萬圓。(朝)四頁。(社長)西田一雄。(支配人)中川經三郎。(主筆)中北直樹。(編)鈴木純平。(營)上村政吉。(政治)伊藤光雄。(社會)田中元吉。(廣告)上村政吉。(平)二。字母ステロ寫真版あり。(活字)八半。十五字。百二十五行。十一段。一ヶ月五十錢。(廣料)六十錢。

神都日報 宇治山田市岡山町二二〇。明治四十年五月二十一日創立。個人。(朝)四頁。(社長)土生喜一郎。(主筆)木村雄。(營)大西得造。(平)三。(活字)舊。十二字。六十五行。八

伊勢日日新聞 松阪町大字漢町三三八。大正十二年七月創立。個人。二萬圓。(夕)四頁。(社長)富岡利一。(常務)櫻井新吉。(主筆)大辻信雄。(編)松田啓三郎。(營)井上清。(政治)伊藤安三。(社會)新田昌實。(廣告)中谷康郎。(東京支局)田村啓次郎。(大阪支局)西村藤男。(社員)四十名。(平)一。一。十一字。六十行。十二段。一ヶ月五十錢。(廣料)五十錢。

南勢新聞 松阪町殿町一三四八。明治三十一年十月創立。個人。(夕)四頁。(社長)須田好。(主筆)大久保魯吉。(營)淺沼和三郎。(廣告)久野晴太郎。(平)一。(活字)舊。十一字。六十行。十二段。一ヶ月五十錢。(廣料)六十錢。

松阪新聞 松阪町本町二〇六二。大正九年十一月二十六日創立。個人。(夕)四頁。(社長)池田景彦。(主筆)松井龜治郎。(平)一。(活字)九半。十三字。八段。一ヶ月四十五錢。(廣料)五十錢。

伊勢新報 桑名町。明治四十五年六月創立。個人。政友會。

北泉濟。(社主)同。(支配人)東溝作造。(主筆)社長兼。(編)熱田求一。(社會)奥田幾男。(活字)舊。十二字。八十行。十一段。一ヶ月二十五錢。(廣料)五十錢。

伊山タイムス 伊賀上野町民政系。小型四頁。伊賀實業新聞 伊賀上野町小型四頁。

六、北 陸

石川縣

北國新聞 金澤市南町九三三。明治二十六年八月創立。個人。十萬圓。(朝)六頁。(夕)四頁。(版數)二版。(社長)林政武。(社主)同。(理事長)飯尾次郎三郎(主筆)篤田健二。(編)同。(營)林繁。(事業)窪出俊一郎。(社會)岡谷清四郎。(廣告)櫻嶋保二。(東京支局)飯尾龍三郎。(大阪支局)橋安久。(社員)七十四人。(輪)東京製一、津田式一。外に色刷一臺。(平)一。字母ステロ寫真版あり。(活字)七半。十五字。百四十七行。十二段。

一ヶ月八十錢。(廣料)一圓。(兼營)越中新聞(高岡市發行)北陸毎日新聞 金澤市南町四十一。明治卅三年五月創立。株式。三十萬圓。(朝)四頁。(夕)四頁。(社長)櫻井兵五郎。(專務)高木八良。(理事兼編纂)飲。慶治。(取締兼庶務)得田孝二。(理事兼經濟)大窪伊三三(主筆兼編)武谷基太郎。(取締兼營)淺野平成。(政治)藤野伊一。(社會)大澤由松。(廣告)西村晋吉。(東京支局)宮澤由三郎。(大阪支局)田村晉松。(輪)金津式一臺。(平)一。字母ステロ寫真版あり。(活字)八半。十五字。百三十行。十二段。一ヶ月七十五錢。(廣料)一圓。(特設)モノタイプ三臺。

金澤新報 (北陸タイムスの姉妹紙)金澤市南町六十二。大正八年七月三日創立。個人。(朝)四頁。(社長)田中清文。(理事)長)土田行丸。(理事)綿貫榮。有川晋四郎。(計畫)澁谷謙三。(編)北野庄吉。(營)理事兼務。(廣告)齋藤俊一。(輪)外製一、內製一。字母ステロ寫真版あり(活字)七半。十五字。百三十四

行、十二段。一ヶ月四十錢。廣
夕刊いしかわ (北陸タイ
ムスの姉妹紙) 金澤市南町六十
二。昭和二年一月十五日創立。
(金澤新報より分離獨立) 個人
(夕)四頁。(社長)田中清文(以
下幹部金澤新報と同じ)(編)額
見貞輔。(營)理事兼務。(廣告)
村田稔。(工場設備金澤新報と同
じ)一ヶ月四十錢。(廣)一圓

北國夕刊新聞 金澤市尾張
町。大正十年四月二十六日創立
個人。五萬圓。(夕)八頁。(社
長)渡邊祥明。(副社長)大澤晴
豐。(主筆)加藤長洲。(編)同。
(營)大澤晴豐。(政治)吉野花明
(社會)松浦愛人。(廣告)堂前精
雄。(平)六。字母ステロあり。
(活字)舊。十一字、百三十行、
八段。一ヶ月四十五錢。(廣)料
八十錢。(新社屋建築中)

北國日日新聞 金澤市安江
町七九。大正九年八月三十一日
創立。個人。民政系。(朝)四頁
(社長)能村南枝。(編)北川重吉
(廣告)關芳夫。(平)二。ステロ
あり。(活字)七・七五。一ヶ月
七十錢。(廣)料八十錢。

福井縣

北國日報 (新愛知の經營)金
澤市博勢町。大正三年十二月一
日創立。合資。(朝)二頁。(社
長)大島宇吉。(支配人)大島慶
次郎。(主筆)笹本義一。(營)村
中基治郎。(社員)十一名。(平)
一。字母寫眞版あり。(活字)八
半。十四字、七十五行、十二段
一ヶ月三十錢。(廣)料一圓。

福井新聞 福井市九十九町二
ノ十。明治三十二年八月創立。
株式四萬圓。朝八頁。(版)數二
版。(部)數三萬部餘。(社長)今
村七平。(主筆)土生彰。(編)總
山國三郎。(營)小島鐘次郎。(政
治)沉藤與三吉。(社會)山本政
次。(廣告)南部兼吉。(東京支
局)渡邊利正。(大阪支局)廣瀬
左武郎。(社員)七十人。(輪)津
田式一豪。(平)一。字母ステロ
寫眞版あり。(活字)七・七五。
十五字、百四十行、十二段。一
ヶ月七十錢。(廣)料五十錢。

福井日報 福井市城町山里第
三號一番地。明治四十五年三月
創立。組合。二十萬圓。政友會

福井毎日新聞 福井市錦中
町一六。大正三年三月一日創立
五萬圓。(夕)四頁。(版)數二版
(部)數六千。(社長)小垣文次
郎。(主筆)佐々木政五郎。(專
務)溝口總兵衛。(常務)伊藤義
信。(支配人)松永敏行。(主幹)
谷口繁電。(主筆)菅原兼三。(編)
齋藤信一。(政治)主筆兼務。(社
會)編輯長兼務。(東京支局)渡邊
庄次郎。(大阪支局)藤井良之助
(社員)五十四名。(平)二豪。字
母ステロあり。(活字)七半。十
四字、七十五行、十二段。一ヶ
月五十錢。(廣)料五十錢。(兼
營)普通出版印刷取扱。

福井毎日新聞 福井市濱水
町九二ノ二。大正十三年創立。

新福井日報 (新愛知の經
營)福井市佐佳枝中町八七。大
正十三年三月六日創立。政友會
(朝)二頁。(版)數一版。(部)數
一、二〇〇〇。(社長)大島宇吉
(主筆)保見島花。(編)同。(營)
村中基太郎。(政治)古川清。(社
會)島崎圭一。(廣告)高島米松
(平)二豪。(活字)八半。十四字
百四十行、十二段。一ヶ月四十
錢。(廣)料五十錢。

敦賀新聞 敦賀町大島區一〇
七。明治四十一年九月創立。合
資。(朝)四頁。(社長)中村磯吉
(主筆)同。(營)大野喜藏。(平)
二。(活字)八半。十二字。六十
行八段。一ヶ月四十錢。(廣)料
四十錢。

敦賀中外新聞 敦賀町泉區
十三號五番地。大正七年十月二
十三日創立。個人。(朝)二頁。
(社長)小林千代三郎。(平)一。
(活字)八半。八段。一ヶ月五十
錢。(廣)料五十錢。

若狹新聞 小濱町生玉。大正
十二年一月一日創立。個人。二

萬圓。民政系。(夕)四頁。(版
數)一版。(部)數三千七百部。
(社長)河村仁右衛門。(社)主同
(主幹)山川登。(主筆)日野喜太
郎。(編)同。(營)津田黑雄。
(政治)森脇保。(社會)土井與八
(廣告)笠原兼良。(東京支局)加
藤茂雄。(社員)十四名。(平)三
豪。(活字)九半。十二字、九十
行、十二段。一ヶ月四十錢。廣
料三十錢。(兼營)滋賀縣下に
於て江若新聞發行。

嶺南新聞 小濱町津島。大正
十年九月一日創立。個人。政友
會。(夕)二頁。(版)數三版。(部
數)二千五百内外。(社長)山田
兵一。(主筆)同。(編)山田隆三
(營)小林庄次郎。(政治)小林宗
喬。(社會)吉井眞三。(廣告)井
上能次郎。(東京支局)渡邊彌吉
(社員)十五人。(平)一。(活字)
舊。十三字、六十行、十段。一
ヶ月卅錢。(廣)料十五錢。

丸岡新聞 丸岡町霞。大正十
年八月八日創立。株式。三萬圓
(朝)二頁。(部)數二千七百部。
(社長)相川幸吉。(社)主藤島欽
二。(專務)竹吉榮。(常務)桑橋
茂一。(支配人)藤山幸之助。(主

幹)長岡淺吉。(主筆)森重三。
(編)社長兼務。(營)山崎長吉。(廣
告)濱藤源藏。(社員)十四名。
(平)二豪。十一字、十二段。六
十行。(兼營)臨時印刷物。
敦鶴毎日新聞 高濱町。大
正六年創立。個人。一萬圓。(朝)
二頁。(社)主榎本一剛。(主筆)
榎本淡水。(營)小林ユタ。社員
五名。(活字)九半。十五字、百
十行、九段。一ヶ月四十錢。(廣
料)四十錢。(兼營)印刷物一式
みくに新聞 三國町。明治
三十七年六月創立。株式。(朝)
四頁。(社長)濃畑三郎。(營)池
上佐太郎。(平)二。(活字)舊。
十三字、九十六行、十段。一ヶ
月三十錢。(廣)料四十錢。

富山縣

北陸タイムス 富山市總曲
輪三九九。明治四十一年十一月
五日創立。個人。五十五萬圓。(朝)
四頁。(夕)四頁。(社長)田中清
文。(編)内藤隆。(同)次長村井
信雄。(營)平野初之助。(政治)
松井啓。(社會)藤川義正。(廣
告)前田外喜。(輪)三豪。字母

ステロ寫眞版あり。(活字)七半
十五字、百三十行、十二段。一
ヶ月八十錢。(廣)料六十錢。(兼
營)姉妹紙に金澤新報。夕刊い
しかわあり。

富山日報 富山市總曲輪二五
五。明治十七年一月創立。株式
五千圓。(朝)四頁。(夕)四頁。
(社長)金岡又左衛門。(事務)長
葦村喜三郎。(主筆)横山四郎右
衛門。(編)澁谷英。(營)渡邊藤
次郎。(政治)高松治三郎。(社
會)山原正利。(廣告)五十嵐喜
重。(東京支局)二堀克己。(大阪
支局)浮田金次。(社員)四十八
名。(輪)石川式一。(平)三。字
母ステロ寫眞版あり。(活字)八
半。十五字、百三十行、十二段
一ヶ月八十錢。(廣)料六十錢。
(兼營)富山縣報。富山商業會議
所月報。富山縣農藝雜誌。

富山新報 富山市總曲輪二五
〇。明治二十二年四月創立。株
式。七萬圓。政友會。(朝)六頁
(社長)中村基松。(主筆)同。
(編)同。(廣告)宮崎益太郎。(輪)
獨逸製一。ステロあり。(活字)
七・七五。十五字、百三十行、十
二段。一ヶ月六十錢。(廣)料六

高岡新報 高岡市末廣町九六
四。明治十九年五月創立。株式
一萬圓。(朝)四頁。(夕)四頁。
(社長)木津太郎平。(編)畑中久
萬吉。(營)片山繁次郎。(廣告)
荒井治太郎。(輪)津田式一豪。
ステロ寫眞版あり。(活字)七・
七五。十五字、百三十行、十二

富山毎日新聞 (名古屋新
聞の經營)富山市手傳町。大正
十二年六月二十日創立。(朝)二
頁。(社長)與良松三郎。(編)田
原普吉。

段。一ヶ月八十錢。(廣料)六十錢。

高岡日報 高岡市一番町二五

越中新聞 (北國新聞の經營)

伏木毎夕新聞 伏木町新町

七、關西

滋賀縣

近江新報 文化事業株式會社

(社員)廿一名。(輪)內製一。字

江州日日新聞 大津市上小

日本國粹新聞 大津市白玉

京津日報 大津市神出眞町

江州商業新報 大津市白玉

革新民報 大津市。大正十五

江州中央新聞 彦根町連着

湖東日日新聞 彦根町。大

滋賀民報 長濱町大字南吳服

長濱新報 長濱町北門前。大

近江時報 長濱町。大正十五

江若新聞 (若狭新聞の經營)

京都日出新聞 京都市柳馬

後川文藏。(常務)佐藤嘉門。(營)

京都日日新聞 (神戸新聞

中外日報 京都市妙法院前側

京都毎日新聞 下京區馬町

丹波毎日新聞 (每州時報

奈良新聞 奈良市池の町。明

奈良朝報 奈良市陰陽町二。

福知山日日新聞 福知山

橋立新聞 (丹州時報の姉妹

奈良朝報 奈良市陰陽町二。

京華日報 京都市上京區富小

明治新聞 伏見町三橋向。明

丹波毎日新聞 (每州時報

奈良新聞 奈良市池の町。明

奈良朝報 奈良市陰陽町二。

福知山日日新聞 福知山

明治三十六年九月十八日創立。
株式。十二萬圓。(朝)四頁。(社
長)岡本兼次郎。(編)岡本兼
(營)中川亮太郎。(輪)色刷機一
(平)二。(活字)七・七五。十五
字。百十六行。十二段。一ヶ月
五十錢。(廣料)五十錢。

大和毎日新聞 奈良市小西
町二十四。大正十二年一月二十
一日創立。個人。(朝)四頁。(社
長)岩本正吉。(編)福野宇一郎
(營)南川勝治。(大阪支局)井上
命藏。(平)三。ステロあり。(活
字)七・七五。十五字。百三十六
行。十二段。一ヶ月五十錢。廣
料。七十錢。

大和日報 奈良市角振町。明
治三十四年六月二十五日創立。
株式。五萬圓。(夕)四頁。(社
長)澤井義徳。(編)前田諒策。
(營)奥村綱次郎。(廣告)宇陀兵
一郎。(輪)一。(平)二。ステロ
あり。(活字)七・七五。十五字
百三十二行。十二段。一ヶ月五
十錢。(廣料)七十錢。

岩崎處。(專務)山根文雄。(支
配人)木下又男。(東京支局)酒
井謙光。(大阪支局)三浦義雄。
(社)十七。(輪)マリノニ式一
(平)一。字母ステロ寫眞版あり
(活字)七半。十五字。一四七行
十二段。一ヶ月五十五錢。(廣
料)七十錢。(兼營)日曜附録二
頁。

大和旭新聞 (新愛知の經
營)奈良市三條今井町四四七。
大正十二年十月十日創立。合資
(朝)二頁。(社長)大島宇吉。(主
幹)保見國治。(編)古川晃月。
(營)石井政次郎。(平)一。(活
字)七半。十五字。百四十行。
十二段。一ヶ月五十錢。(廣料)
五十錢。

中和新聞 高田町古川橋畔。
大正十二年九月創立。個人。三
萬圓。(夕)四頁。(部)七千四
百餘部。(社長)堀柄龍。(社主)
同。(支配人)木村弘。(主幹)同
(編)小原浩二。(營)石田善次。
(政治)前田凡人。(社)小原正
一。(廣告)中野靖夫。(社員)二
十七名。(平)三。寫眞版あり。
(活字)七・七半。十四字。六十二
行。九段。一ヶ月三十錢。(廣

兵庫縣

神戸新聞 神戸市榮町六丁目
六十一。明治卅一年三月十一日
創立。株式。四十萬圓。(朝)六
頁。(夕)四頁。(版)六版。(社
長)進藤信義。(常務)和田恒彦
(主幹)濱田佳澄。(編)和田恒彦
(營)向井勳兵衛。(政治)藤
貞五郎。(社會)井勝文治。(廣
告)加藤芳助。(東京支局)酒井
謙吉。(大阪支局)三浦義雄。
(社員)三百二十名。(輪)マリノ
ニ六。字母ステロ寫眞版あり。
(活字)七半。十五字。百四十五
行。十二段。一ヶ月八十五錢。
(廣料)一圓二十錢。(兼營)各
地に新聞經營。

神戸又新日報 神戸市榮町
六丁目一番地。明治十七年二
月十一日。株式。參拾萬圓。(朝)
六頁。(夕)四頁。(版)五版。
(部)數十二萬五千部。(社長)北
尾清。(主幹)佐藤勝三郎。(編)
同。(營)山城了。(政治)藤田一
郎。(社會)阪本清雄。(廣告)神
原章。(東京支局)佐藤駒太郎。

十。大正四年七月二十四日創立
個人。(夕)四頁。(社長)池田安
介。(平)二。(活字)舊。十二字
九十六行。十一段。

但馬日日新聞 (中國日日
新聞の經營)兵庫縣豐岡町。大
正十年八月一日創立。株式。十
萬圓。(朝)四頁。(夕)二頁。(版
數)三版。(部)數六千五百部。
(社長)澤田敬三。(常務)英保五
郎。(支配人)澤田力雄。(主幹)
太田準二。(編)森米造。(營)米
田正雄。(政治)帆前榮之助。(社
會)恩田善一。(廣告)西村俊一
(大阪支局)北村保。(社員)五十
八人。(輪)一。(平)二。字母ス
テロ寫眞版あり。(活字)七半。
十五字。百四十行。十二段。一
ヶ月六十錢。(廣料)一圓。

關西日日新聞 明石市丸
下。明治三十八年八月二十五日
創立。株式。三萬圓。民政系。
(夕)四頁。(社長)福田正俊。(主
筆)屋敷彌一。(編)長田正一。
(營)加古滿壽夫。(平)三。(活
字)舊。一ヶ月五十錢。(廣料)
五十錢。

淡路新聞 洲本町。明治十年
四月十日創立。個人。參萬五千

(大阪支局)石原健藏。(社員)百
十五名。(輪)四。(平)一。字母
ステロ寫眞版あり。(活字)七半
十五字。百四十六行。十二段。
一ヶ月八十錢。(廣料)一圓二十
錢。(出版)兵庫縣名鑑。

神戸日日新聞 神戸市福町
七丁目三番地。一。大正十
一年一月一日創立。株式。拾貳
萬圓(拂込済)。(夕)四頁。(版
數)二版。(部)數三萬九千六百
部。(專務)岡田定信。(支配人)
今井潜。(編)西村義則。(營)井
澤進。(政治)藤村菊太郎。(社
會)梅木憲一郎。(廣告)山下太
三郎。(東京支局)飛鳥江亮智。
(大阪支局)遠藤信一。(社員)四
十六名。(輪)マリノニ式一(平)
拾參。字母ステロ寫眞。(活字)
七半。十五字。百四十七行。十
二段。一ヶ月五十錢。(廣料)一
圓。(兼營)雜誌發行及印刷。

兵神日報 神戸市永澤町一ノ
七五。明治三十二年。個人。五
萬圓。(朝)四頁。(社長)菅沼政
公。(平)五。(活字)舊。十二字
八十行。十段。

商業新報 神戸市大開通。明
治二十五年四月十九日。個人。

(朝)四頁。(社長)森本和市郎。
(活字)舊。

ジャパン、クロニクル
(英字新聞)神戸市浪代町六十五
番。千八百九十一年十月二日創
立。(朝)八頁。日曜十頁。(版
數)一版。(社長)デ、ジ、ヤング
(社主)同。(專務)同。(常務)同
(支配人)同。(主筆)エ、モルガ
ン、ヤング。(營)デ、ジ、ヤング。
(廣告)同。(平)十。(活字)ライ
ノタイプ。七段。日刊一ヶ月參
圓。週刊三ヶ月金四圓。(廣料)
一時三圓五拾錢。(兼營)一般印
刷物。

**神戸ヘラルドエンド大
阪ガゼット** (英字新聞)
神戸市浪花町三三。明治二十四
年四月創立。(社長)ドーグラス
エム、ヤング。(主幹)エス、シ、
ウイロン。(營)三宅倉太郎。
(兼營)歐和文語印刷及製版。

日刊毎夕新聞 西宮市松原
町十五。昭和二年五月一日創立
七千圓。青年黨。(夕)四頁。(部
數)七千五百部。(社長)丹治剛
太郎。(社主)同。(主幹)同。鮎
俣英。(編)丹治剛太郎。(營)花
澤勉。(政治)橋本末治郎。(社

會)八馬壽一。(廣告)橋本松五
郎。(東京支局)太田清一。(大
阪支局)畑中梅太郎。(社員)十
五名。(平)二。十四字。七十二
行。十二段。一ヶ月五十錢。(兼
營)日用品代理部。出版物。

中國日日新聞 姫路市東紺
屋町八番地。明治卅三年一月創
立。株式。貳拾萬圓。(夕)四頁
(部)數三二、九六五部。(社長)
内田義男。(常務)大森廣治。(支
配人)古木森治。(主幹)内田義
男。(編)森米藏。(營)古木森治
(政治)志水秀。(社會)大西政雄
(廣告)田中每司。(東京支局)堤
清太郎。(大阪支局)與田勇次郎
(社員)百八十三名。(輪)佛國マ
リノニ式一。(平)三。字母ス
テロ寫眞版あり。(活字)七半。
十五字。百四十行。十貳段。一
ヶ月五十五錢。(廣料)一圓。(兼
營)西揚附録、東揚附録、赤穂
附録、但馬日日新聞、製版。

播磨毎日新聞 姫路市光源
寺前町三三。明治三十九年十一
月創立。個人。(夕)四頁。(社
長)尾高守。(平)三。(活字)八
半。十四字。七十行。七段。

姫路日報 姫路市古二階町二

淡路又新日報 淡路洲本町
大正七年創立。四萬圓。(朝)四
頁。(部)數五千。(社長)堀口騰
(社主)同。(常務)山中性阿。(支
配人)鎌田衛。(主幹)岡本善藏
(主筆)堀口騰。(編)堀口公。
(營)久次米一郎。(政治)岡本信
一。(廣告)樋口俊平。(社員)十
七名。(平)二。ステロ寫眞版あ
り。(活字)舊。十一字。六十三
行。八段。一ヶ月五十錢。(廣
料)金七十錢。

新淡路 新淡路新聞社洲本
町。大正十一年八月十日創立。
(夕)四頁。(版)數二。(部)數一
〇、〇〇〇。(社長)伊地長次郎
(社主)同。(主幹)中村良輔。(主
筆)同。(社員)四〇名。十二字
六十行。十一段。一ヶ月六十錢
(廣料)五錢。

淡路新聞 洲本町。明治十年
四月十日創立。個人。參萬五千

十。大正四年七月二十四日創立
個人。(夕)四頁。(社長)池田安
介。(平)二。(活字)舊。十二字
九十六行。十一段。

和歌山縣

和歌山新聞

和歌山市本町四丁目十一。明治三十五年八月一日創立。個人。七萬圓。(朝)四頁。(社長)久下豐忠。(主筆)三井茂。(主筆)松本周造。(編)上田實隆。(政治)同。(社會)岡本忠雄。(廣告)奥田義孝。(輪)石川式一。(平)一。ステロあり(活字)七・七五。十五字、百三十五行、十二段。一ヶ月四十五錢(廣料)七十錢。

和歌山日日新聞

和歌山市丸の内四番丁一。明治四十五年七月十三日創立。株式。八萬圓。(朝)四頁。(社長)山崎傳之助。(主筆)河野九民。(編)土井天民。(營)信定有隣。(政治)辻野憲二。(社會)辻雅甫。(廣告)信定有隣。(輪)本田式一。(平)五。字母ステロ寫眞版あり。(活字)七・七五。十五字、百三十五行、十二段。一ヶ月四十錢(廣料)八十錢。(兼營)印刷部。

紀伊毎日新聞

和歌山市八番町。明治二十六年三月。個人。六萬八千圓。(夕)四頁。(部數)五千六百五拾部。(社長)毛利清雅。(社主)同。(主筆)毛利榮庵(編)和田靜也。(營)鹽谷國子。(政治)毛利榮庵。(社會)桑村牛步。(廣告)毛利眞佐一。(社員)參拾八名。(輪)西川式一。(平)三。字母ステロあり。十五字、十二段。一ヶ月四拾五錢。

和歌山日報

和歌山市小人町一番地。大正十三年四月十八日創立。株式。五萬圓。(朝)一頁。(部數)三千。(社長)津田清次。(社主)同。(主筆)小林義雄(編)同。(營)山脇重太郎。(社員)十五名。(平)三。(活字)七半。拾四字、八十行、拾貳段。一ヶ月四拾五錢。(廣料)七拾錢。

和歌山實業新聞

和歌山市三番町。明治二十七年三月創立。個人。(朝)四頁。(社長)小山芳一。(主筆)内田安吉。(編)早川曉村。(營)永井周三。(社會)土橋常市。(廣告)南潤昂。(平)二。十二字、九十六行、十一段。一ヶ月四十五錢。(廣料)七十錢。

和歌山タイムス

和歌山市三番町四。明治四十四年七月二十一日創立。個人。(朝)四頁。千圓。(朝)六頁。(版數)一版。(部數)三萬五千餘。(社長)多田爲太郎。(主筆)井上一。(編)同(營)湊次郎。(政治)炭谷松三。(社會)坂本宗一郎。(廣告)齊藤律三。(東京支局)梅本結吉。(大阪支局)梅本結吉。(社員)百三十名。(輪)一。(平)二。字母ステロ寫眞版あり。(活字)七・七五。十五字、百三十七行、十二段。一ヶ月七十錢。(廣料)七十錢。

香川縣

四國民報

高松市内町二六、二七。明治三十五年十一月創立。株式。八萬圓。政友會系。(朝)二乃至四頁。(夕)四頁。(版數)二版。(社長)瀨尾等。(專務)今井浩三。(主筆)和田黨。(編)同(整理)安徳作太。(營)東山半之助。(社會)和田雄三。(廣告)石川要。(東京支局)松本七五郎(大阪支局)天ヶ谷深吉。(社員)八十八名。(輪)TKS式大型一臺。レーター、ラウス式色刷一臺。(平)四。字母ステロ寫眞版あり。(活字)七・七五。十

愛媛縣

海南新聞

松山市南堀端町一七。明治九年九月創立。株式。十四萬圓。(朝)四頁。(夕)四頁(版數)三版。(部數)四萬五千部(社長)香川熊太郎。(專務)香川和男。(常務)瀧勇。(編)渡邊種義。(營)進藤喜四郎。(政治)野中德重。(社會)田窪正雄。(廣告)大倉田高。(東京支局)宮下

伊豫新報

松山市西堀端町。大正十二年八月創立。株式。六萬圓。政友會。(夕)四頁。(版

德島縣

德島日日新報

德島市富田濱側。明治九年四月創立。株式。三十萬圓。(朝)四頁。(夕)二頁(社長)松島圓。(社主)同。(專務)市原理之。(常務)高橋盛二(支配人)同。(主筆)市原理之。(編)同。(營)高橋盛二。(政治)西内義道。(社會)高田廣一。(廣告)藤原勇。(東京支局)塚脇十三。(大阪支局)福富通夫。(社員)百九十二人。(輪)石川式一(平)四。字母ステロ寫眞版あり(活字)七・七五。十五字、百三十六行、十二段。一ヶ月七十錢(廣料)八十錢。

德島毎日新聞

德島市寺島町九十三番屋敷。明治三十一年六月十五日創立。株式。四萬五

立。個人。(朝)四頁。(社長)小山邦松。(主筆)玉井源次。(活字)九半。

時事日報

粉河町。大正四年六月創立。個人。五萬圓。(夕)四頁。(部數)四千八百部。(社長)山田旭。(專務)小山進。(常務)山田昇。(支配人)辻本正義(主筆)吉村曉村。(編)山田稔。(營)植村一雄。(政治)吉田讓。(社會)安田秋郊。(廣告)池田茂一郎。(東京支局)楠憲吉。(大阪支局)山陰進。(社員)十二名(平)三。(活字)舊。十一字、七十五行、十二段。一ヶ月五十五錢。(廣料)五十錢。(兼營)印刷部。

紀南新聞

御坊町一八八。明治三十五年六月創立。個人。(朝)四頁。(社長)鈴木亮。(主筆)堅田三千穂。(活字)舊。筆)堅田三千穂。(活字)舊。又新日刊 和歌山縣伊都郡高野口町。大正拾貳年五月五日。個人。五萬圓。(夕)四頁。(部數)六千五百餘部。(社長)南方楠一。(社主)同。(主筆)北村常治。(營)洞昭行。(廣告)青柳正

紀州中央新聞

御坊町。大正十三年創立。(朝)四頁。(社長)島崎貞三。

熊野太陽

田邊町。大正十二年九月創立。社員相互。一萬五千圓。(朝)四頁。(社長)室井殿千圓。(朝)四頁。(社長)室井殿千圓。明治四十四年二月十一日創立。五字、百三十五行、十二段。一ヶ月七十五錢。(廣料)七十錢。(兼營)請負印刷及製版業、食品其他の委託代理部。(特設)營業局内に商工情報部ありて各地廣告主の代行行爲をなす。

香川新報

高松市濱ノ丁。明治二十二年四月二十二日創立。個人。(朝)六頁。(社長)小田榮次。(編)玉木正直。(營)江口與一。(政治)山本久。(社會)山地晴廣。(廣告)牧野宇一郎。(輪)一。(平)五。字母ステロ寫眞版あり。(活字)七・七五。十五字、百三十五行、十二段。一ヶ月七十五錢。(廣料)七十錢。(兼營)活版印刷。

愛媛新報

松山市港町四丁目六十。明治二十年十月創立。株式。十萬圓。(朝)四頁。(夕)四頁。(社長)清水隆徳。(副社長)安藤晋三郎。(常務)武智勇記。(支配人)玉井喜久馬。(主筆)岩泉泰。(編)武智勇記。吉田晋五郎。(營)玉井喜久馬。(政治)白石盤馬。(社會)高橋貞義(廣告)渡邊延夫。(輪)外製一、内製一。(平)二。字母ステロ寫眞版あり。(活字)七・七五。十五字、百三十五行、十二段。一ヶ月八十錢。(廣料)六十錢。(近社屋新築の管)

數)二版。(社長)大木貞太郎。(常務)出部義一。(支配人)同。(主幹)石井邦。(主筆)同。(編輯)同。(社)安井隆。(政治)砂川武隆。(社會)浦原勳。(廣告)安井隆。(東京支局)田村母之。(大阪支局)三浦義雄。(社員)百六十三名。(輪)內國製二。(平)一臺。字母ステロ寫眞版あり。(活字)七七五。十五字、百三十五行、十二版。一ヶ月五十錢。(廣料)八十錢。(兼營)今治市に日刊東豫日報發行。(特殊)縣、市公告。登記公告。日本銀行廣告を有す。

民衆新聞

松山市本町二丁目。大正十一年六月一日創立。個人三萬圓。(夕)四頁。(部數)一萬五千。(社長)岩橋信二郎。(社主)同。(支配人)中野清三郎。(主筆)岩橋信二郎。(編輯)辻田貞方。(政治)同。(社會)岡崎草二(東京支局)松本七五郎。(大阪支局)山口正。(平)四。字母ステロ寫眞版あり。(活字)八。百十四字、百二十行、十二版。一ヶ月四十五錢。(廣料)八十錢。(兼營)印刷及出版並代理部。南豫時事新聞 宇和島市丸

之内一。明治三十五年三月五日創立。個人。十萬圓。(朝)四頁(版數)二版。(部數)二萬三千部(社長)山村豐次郎。(社主)同。(支配人)井上雄馬。(主幹)同。(主筆)同。(編輯)西山鏡三郎(營)久留島豐。(政治)小泉源吉。(社會)大塚綱兒。(廣告)黒岩徳。(東京支局)渡邊雅次郎。(大阪支局)三善黨。(社員)五十六名(輪)大阪増田製半截輪轉機(平)各一臺。字母ステロ寫眞版あり(活字)七七五。十五字、百三十六行、十二版。一ヶ月六十錢。(廣告)七十錢。(特設)預約電話は電通より記事十五通話、帝通より相場八通話。

宇和島新聞

宇和島市鶴崎町四三。大正九年七月創立。株式。二萬圓。民政黨。(朝)四頁(社長)赤松桂。(理事)佐々木鏡赤松勲。(營)猪股清三郎。(活字)八。百十四字、百三十行、十二版。

高知縣

土陽新聞 高知市本町三ノ三。明治十年創立。株式。十

萬圓。(朝)四頁。(夕)四頁(社長)橋田早苗。(常務)吉田近次(理事)吉本重輝。上岡清忠。主筆)千頭亨。(編輯)石丸重義(營)吉本重輝。(政治)淺井茂猪。社會)和田知求。(東京支局)樋口寅正。(大阪支局)岡田實壽萬。(輪)石川式一、マリノニ折疊一(平)三。字母ステロ寫眞版あり(活字)七。十五字、百四十行、十二版。一ヶ月九十錢。(廣料)四十錢。

高知新聞

高知市本町。明治三十七年九月一日創立。株式。十五萬圓。(朝)四頁。(夕)四頁(版數)二版。(部數)數萬。(社長)野中楠吉。(主筆)楠瀬如龍(編輯)中島成功。(政治)竹内英會(社會)中島成功。(廣告)高橋直通。(東京支局)栗尾結城。(大阪支局)井上彌。(社員)百二十名。(輪)折式一臺、石川式一臺(平)一。字母ステロ寫眞版あり(活字)七。十五字、百四十二行、十二版。一ヶ月七十五錢。(廣料)四十錢。

九中 國 鳥取縣

鳥取新報

鳥取市飯治町。明治十六年六月創立。株式。十萬圓。民政黨。(朝)四頁。(社長)下田勘次。(支配人)眞島信茂。(主筆)河野實治。(編輯)同。(庶務)杉山溪一。(政治)荻原直正(社會)佐藤忠。(廣告)藤村勝。(輪)津田式一。(平)二。字母ステロ寫眞版あり。(活字)七。十五字、百三十五行、十二版。一ヶ月六十錢。(廣料)六十錢。(兼營)コドモ新報(月二回) (特設)ラヂオ部。

因伯時報

取島市西町。明治廿五年二月六日創立。株式。十萬圓。政友會。(朝)四頁。(社長)西谷金藏。(專務)木村清一。(主筆)西村邦雄。(編輯)池田榮郎。(政治)岡垣益太郎。(廣告)糸尾竹藏。(東京支局)五味秀也。(大阪支局)藤井良之助(社員)三十五人。(輪)本田式一(平)一。寫眞版あり。(活字)七。十五字、百四十行、十二版。

山陰日日新聞

米子市日野町。明治四十年十一月創立。株式。二十五萬圓。(朝)六頁。(部數)一萬六千。(社長)三好榮次郎。(專務)門脇孝一。(支配人)木下幹。(主筆)吉田孝太。(編輯)木下幹。(版)潮幸次郎。(政治)住田正一。(社會)古藤政一(廣告)松浦峯松。(東京支局)高島萬太郎。(大阪支局)谷良男。(社員)百二十人。(輪)內國製二(平)三。字母ステロ寫眞版あり(活字)七。十四字、百二十七行、十二版。一ヶ月七十五錢。(廣料)六十錢。(兼營)活版印刷臨時出版。

山陰民報

米子市西町七五。大正十二年八月十二日創立。個人。十萬圓。政友派。(夕)四頁(版數)三版。(部數)七千。(社長)押村獎。(社主)同。(主幹)後藤武美。(編輯)内田滿二郎。(政治)下崎瀧三。(社會)牧野谷陽。(廣告)笹鹿幸。(東京支局)渡邊庄治郎。(大阪支局)渡邊善夫。(社員)七十六名。(平)三。字母ステロ寫眞版あり。(活字)七。七五。十五字

八十三行、十二版。一ヶ月六十錢。(廣料)八十錢。

山陰中央新聞

倉吉町荒神町三八九。大正十三年七月創立。株式。五萬圓。(社長)伊井竹藏(活字)八。半。

島根縣

松陽新報

松江市殿町。明治卅四年十一月三日創立。個人。二十萬圓。(朝)四頁。(夕)四頁(版數)三版。(社主)岡崎國臣。(副社長)勝部木右衛門。(主筆)松井廣吉。(編輯)井原大之助(營)勝部木右衛門。(政治)井原大之助。(社會)米村敏。(廣告)大久保清一。(東京支局)神原啓一。(大阪支局)石橋文三郎。(社員)一四一名。(輪)一、外に色刷一(平)五。字母ステロ寫眞版あり(活字)七。七五。十五字、百四十四行、十二版。一ヶ月九十錢。(廣料)七十錢。

山陰新聞

松江市白湯本町五八。明治十五年五月創立。株式。十萬圓。(朝)四頁。(夕)四頁。(社長)絲原武太郎。(常務)小川藏次郎。(總務理事)田井新一。

岡山縣

山陽新報

岡山市西中山下二ノ一五四。明治十一年一月三日創立。匿名組合。五萬圓。(朝)六頁。(夕)四頁。(版數)四版。(部數)九五、四三〇部。(專務)高見章夫。(編輯)杉山榮。(營)高原榮藏。(政)貞頼卓男。(社會)谷龍太郎。(廣告)松田卓。(東京支局)赤澤政助。(大阪支局)石橋文三郎。(社員)九十七名。(輪)マリノニ式二、折式一(平)八。字母ステロ寫眞版あり(活字)七。十五字、百四十五行、十二版。一ヶ月九十錢。(廣料)七十五錢。(兼營)活版、石版、切符印刷。

中國民報 岡山市東中山下四

岡山新聞

岡山市柿屋町一ノ十六。大正五年十二月五日創立。株式。十萬圓。(夕)四頁。(社長)赤澤寬一。(常務)服部寛一(編輯)山野邊物集馬。(政治)井口壽福。(社會)丸尾博。(東京支局)戸田長次郎。(大阪支局)深田龜太郎。(輪)一。(平)二。ステロ寫眞版あり。(活字)七。七五。十五字、百三十五行、十二版。一ヶ月五十錢。(廣料)七十錢。

岡山日日新聞

岡山市船着町六二。大正十二年一月十一日創立。株式。三萬圓。(朝)四頁

廣島縣

(版數)二版。(部數)一萬二千三百。(社長)西崎佐吉。(業務)福田弘。(主筆)西崎佐吉。(編輯)信詢吉。(營)羽根岡仁平治。(政治)難波寬。(社會)狩谷重忠。(廣告)大西健。(東京支局)馬場幸次郎。(大阪支局)木谷要吉。(社員)五十三名。(輪)一。ステロ寫眞版あり。(活字)七・七五。十五字、百三十八行、十二段。一ヶ月五十錢。(廣料)七十五錢。

中國新聞

廣島市上流川町二ノ二。明治二十五年五月五日創立。合名會社。十萬圓(朝)六頁又は八頁。(夕)四頁。(社長)山本三朗。(副社長)山本實一。(主筆)中町國吉。(編輯)同。(營)田中秀二。(政治)西尾文造。(廣告)横田彌太郎。(輪)内製折式二、外二。字母ステロ寫眞版あり。(活字)七半。十五字、百三十五行、十二段。一ヶ月八十錢。(廣料)八十五錢。(兼營)吳新聞

廣島日日新聞

廣島市大手町二丁目。明治十九年創立。株式。五十萬圓。民政系。(朝)八頁。(社長)木原七郎。(編輯)同。(營)山崎南岳。(廣告)湯原尚志(東京支局)大山富太。(大阪支局)西村齊。(輪)一。(平)二。字母ステロ寫眞版あり。(活字)七・七五。十五字、百三十五行、十二段。一ヶ月八十錢。(廣料)八十五錢。

廣島每日新聞

廣島市尾道町五一番。開の經營。廣島市尾道町五一番。大正七年十二月創立。個人。(朝)六頁。(版數)二版。(社長)奥平稔。(社主)同。(編輯)西島田定。(營)出本伊之助。(政治)島田定。(社會)小田夕月。(廣告)牧野仁三郎。(東京支局)大野木昇一。(大阪支局)同。(社員)百五十二名。(輪)二。(平)二。字母ステロ寫眞版あり。(活字)七・七五。十五字、百四十行、十二段。一ヶ月六十錢。(廣料)九十錢。

廣島日日新聞

廣島市八丁堀二八。大正六年十二月創立。政友會。(夕)四頁。(社長)滿村良次郎。(主筆)滿村素堂。(編輯)小川洪樹。(營)中村正。(社會)石川麗雲。(輪)石川式一。(平)三。字母ステロ寫眞版あり。(活字)八半。百二十行、一ヶ月六十錢。(廣料)八十五錢。

寫眞版あり。(活字)九半。十三字、百二十行、十二段。一ヶ月六十錢。(廣料)七十錢。(兼營)活版印刷。

備後時事新報

尾道市十四日町一三六。明治三十八年七月五日創立。個人。(朝)四頁。(社長)岩本梅太郎。(營)金光喜一。(平)三。ステロ寫眞版あり。(活字)七半。十五字、百三十九行、十二段。

山口縣

關門日日新聞 下關市東南部町。明治十三年一月七日創立。個人。(朝)六頁。(夕)四頁。版數)四版。(社長)末光鐵之助。(社主)同。(主筆)加藤七五郎。(編輯)同。(營)河村峰太郎。(政治)湯淺壽男。(社會)吉田義憲(廣告)多田直吉。(東京支局)河野島喜佐。(大阪支局)安滿長三郎。(社員)百三十名。(輪)石川

式二。(平)三。ステロ寫眞版あり。(活字)七半。十五字、百四十行、十二段。一ヶ月九十錢。(廣料)八十錢。(兼營)代理部、(雜貨販賣)。

馬關每日新聞

下關市四之端町二八。明治二十三年一月創立。株式。五萬圓。(朝)四頁。(版數)二版。(部數)二五、〇〇。(社長)秋田實之介。(常務)布谷二郎、生駒謙藏。(支配人)小田菊治。(編輯)吉田正美。(營)小田菊治。(政治)山田宗祐(社會)石川清次。(廣告)小田菊治(東京支局)藤本素藏。(大阪支局)北本喜代一。(社員)五八名(輪)津田式一。字母ステロ寫眞版あり。(活字)七・七五。十五字、百三十七行、十二段。一ヶ月九十錢。(廣料)七十錢。(兼營)講演、通信、製版。

關門報知新聞

下關市赤間町一六。大正五年一月十一日創立。合資。二萬圓。民政系。(朝)四頁。(部數)四千二百。(社長)川西定雄。(主筆)同。(編輯)松江八郎。(營)大西貞吉。(政治)松江八郎。(社會)竹谷勝行。(廣告)中國定夫。(東京支局)油谷

晉輔。(大阪支局)勝田孝一。(社員)三十四名。(平)二。(活字)七・七五。十五字、百三十七行、十二段。一ヶ月六十錢。(廣料)七十錢。(兼營)門司朝日新聞、九州今日新聞等。

防長新聞

山口町後河原。明治十七年七月十五日創立。合資三萬圓。(夕)四頁乃至八頁。(社長)吉宮寅太。(社主)同。(支配人)中村勉彌。(副社長)主筆)原田豐次郎。(編輯)高山廉。(營)中村勉彌。(政治)今丸芳太郎。(社會)仁主頭辰二。(廣告)川本幸治。(東京支局)北村智好。(社員)二十二名。(輪)石川式一。(平)三。ステロ寫眞版あり。(活字)七・七五。十五字、百三十六行、十二段。一ヶ月七十錢。(廣料)七十錢。(兼營)代理部。

防長實業新聞

山口町今道。明治卅三年創立。個人。五萬圓。(夕)二頁。(部數)五、〇〇〇。(社長)木村菊三郎。(主筆)野原祐三郎。(編輯)永見貞一。(營)田中信太郎。(廣告)瀧口豐。(東京支局)田村啓次郎。(社員)三十五名。(平)二。字母ステロあり。(活字)七・七五。十五字、七

料)九十錢。(兼營)廣島每日新聞。

吳公論

吳市中通三丁目。明治三十九年六月創立。個人。政友系。(夕)四頁又は六頁。(社長)滿村良次郎。(主筆)滿村素堂。(編輯)山本天賴。(營)滿村嘉市。(政治)高橋三省。(社會)藤田耕雲。(廣告)高木唯一。(輪)石川式一。(平)三。字母ステロ寫眞版あり。(活字)八半。百二十行、十二段。一ヶ月六十錢。(廣料)八十五錢。(兼營)廣島日日新聞。

新藝州新聞

吳市岩方町三ノ四。大正九年十二月二十五日創立。個人。(夕)四頁。(社長)松岡松市。(營)山岡照一。(平)四。(活字)舊。

山陽日日新聞

尾道市久保町。明治三十一年五月二十八日創立。個人。五萬圓。(夕)六頁。(社主)秋田熊次郎。(主筆)青木茂。(編輯)豐田哲二。(營)秋田只夫。(政治)大村謙郎。(社會)山本操。(廣告)石村昌藏。(東京支局)水野爲次郎。(大阪支局)與田勇次郎。(社員)百五十餘名(輪)一臺。(平)三。字母ステロ

九州附、沖繩

福岡縣

福岡日日新聞 福岡市渡邊通六丁目。明治十年十二月創立。合資。一百萬圓。政友會。(朝)八頁。(夕)四頁。(版數)五版。(社長)庄野金十郎。(編輯)阿部鶴太郎。(廣告)原田德次郎。(東京常置員)光永眞三。(大阪常置員)能島進。(社員)三百三十七

名。(輪)獨逸フランケンタール
アルパート會社製福日式超高速
度三臺、佛國製マリノニ式三臺
石川式三臺。(平)一臺。字母ス
テロ寫真版あり。(活字)七半。
十五字、百四十二行、十二段。
一ヶ月九十五錢。(廣料)一圓。
(兼營)熊本日日新聞。

九州日報

福岡市中島町二。
明治二十年八月創立。株式(朝)
八頁。(夕)四頁。(社長)大原義
剛。(主筆)篠崎昇之助。(編)同
(營)小林庸太。(社會)加藤壽太
郎。(廣告)永津常泰。(東京支
社)内田好之輔。(大阪支局)日
比野良三。(輪)二臺。字母ステ
ロ寫真版あり。(活字)七・七五
十五字、百三十五行、十二段。
一ヶ月九十五錢。(廣料)一圓。
(兼營)佐賀日日新聞、佐世世新
報。(特設)國產商品館。

博多日日新聞

福岡市下
町六三。大正三年九月創立。個
人。十萬圓。政友系。(夕)四頁
(版數)二版。(部數)八五〇〇。
(社長)古川初雄。(常務)武井志
敏。(主筆)同。(政治)井上欽二
(社)曾村上知行。(廣告)飯田繁
雄。(東京支局)加藤茂雄。(大

福岡新聞

福岡市下名島町。
大正十四年九月創立。個人。夕
四頁。(社長)犬丸甚吾。(主幹)
江上正士。(編)山田榮造。(營)
齋藤經三。(廣告)加藤光輝。(大
阪支局)三隅忠雄。(輪)一。(平)
一。(活字)七・七五。十五字、百
三十五行、十二段。一ヶ月五十
錢。(廣料)五十錢。(兼營)三池
朝日新聞(大牟田市)。筑後日日
新聞(柳河)。

九州都新聞

福岡市住吉町
二九二。昭和二年四月創立。個
人。五萬圓。九州青年黨。(朝)
四頁。(部數)四千五百部。(社
長)才津原積。(社主)久野惣吉
(主筆)社長兼務。(編)木島言直
(營)七里政忠。(政治)實藤四郎
(社會)田代學。(廣告)宮崎寅之
助。(東京支局)四日市長太郎。
(大阪支局)中谷半之助。(社員)
四十八名。(平)各一臺。字母ス
テロ寫真版あり。(活字)七・七

門司新報

門司市西本町二丁
目一〇五。明治二十五年四月
創立。個人。政友本黨。(朝)八
頁。(社長)毛里保太郎。(主筆)
田原吉郎。(理事)水町理三郎。
(編)定村杏三。日野種吉。(廣
告)同。(東京支局)船戶岩男。
(大阪支局)竹中德一。(輪)石川
式一臺。ステロ寫真版あり。(活
字)七・七五。十五字、百三十五
行、十二段。一ヶ月九十錢。(廣
料)八十錢。

門司新聞

門司市舊門司町二
ノ一〇五。大正三年五月創立。
個人。五萬圓。民政系。(朝)四
頁。(社長)梅月瀨太郎。(主筆)
伊坂寛。(編)大塚惟義。(政治)
小西徹。(社會)山田筆雄。(廣
告)木村勘治。(平)五。(活字)八
ホ。十四字、百二十行、十二段
一ヶ月五十錢。(廣料)八十錢。
(兼營)八幡新聞、若松新聞、北
九州新聞、戸畑新聞(戸畑市)。
鎮西報(小倉市)。

門司朝日新聞

(關門報知
新聞の經營)門司市東本町五丁
目。大正七年六月一日創立。個

久留米毎日新聞

久留米
市莊島町一六七。大正十二年十
二月二十五日創立。合資。十萬
圓。(夕)四頁。(社長)前田傳茂
(營)中園勝秋。(平)二。ステロ
あり。(活字)七・七五。十五字
百三十行、十二段。一ヶ月六十
錢。(廣料)八十錢。

久留米毎日新聞

(肥前日
日新聞の經營)久留米市日吉町
三丁目。大正七年五月十八日創
立。個人。政友系。(夕)四頁。
(部數)千二百二十部。(社長)松
井二郎。(社主)同。(主筆)赤司
義治。(編)後藤芳風。(廣告)山
下筑水。(社員)十一名。(平)各
一臺。字母ステロあり。(活字)
七半。十五字、百三十行、十二
段。一ヶ月六十錢。

筑後新聞

(九州日日新聞の
經營)久留米市莊島町二二三。
明治三十二年八月創立。(朝)十頁
(社長)赤井不羅士。(主筆)同。
(編)同。(營)上野俊藏。(政治)

萩尾敏治。(社會)重松角太郎。
(廣告)菊池博基。(工場設備)九
州日日新聞と同じ。一ヶ月九十
五錢。

九州朝日新聞

久留米市南
郷西町。大正十年創立。二萬圓
政友派。(朝)四頁。(部數)三千
(社長)大森三郎。(社主)同。(主
筆)同。(編)野田一。(營)岩
本義昭。(廣告)同。(東京支局)
古山省吾。(大阪支局)上村弘。
(社員)十五名。(平)二。字母ス
テロ寫真版あり。(活字)八半。
十四字、百二十六行、十二段。
一ヶ月六十錢。(廣料)八十錢。
(姊妹紙)西海日日新聞、柳河日
日新聞。

小倉新報

小倉市西魚町。明
治廿四年七月十六日。個人。五
萬圓。(朝)四頁。(版數)三版。
(社長)畑野源一郎。(社主)同。
(支配人)稻富金次。(主筆)山崎
成人。(編)神林長次郎。(營)秋
武二三。(社會)岩田春雄。(廣
告)福田龜雄。(東京支局)酒井
金藏。(大阪支局)坂口廣次郎。
(平)三臺。外小型一臺。字母ス
テロ寫真版あり。(活字)七・七
二五。十五字、百四十三行、十

東洋民報

小倉市大坂町八丁
目二二六。大正十三年四月創立
個人。政友會。(朝)四頁。(社
長)鮎川盛貞。(主筆)海保格。
(編)同。(營)石田謙藏。(廣告)
長井滿隆。(大阪支局)木谷要吉
(輪)金津式一臺。(平)一。ステ
ロあり。十五字、百三十五行、
十二段。一ヶ月五十錢。(廣料)
八十錢。(特殊)市公布式、登記
公告、製鐵所陸軍省公布掲載。
九州報知新聞 小倉市米町
六二。大正六年五月一日創立。
個人。四萬圓。政友會。(朝)四
頁。(版數)二版。(部數)五千六
百部。(社長)峰松數太郎。(社
主)同。(主筆)川西弘太郎。(編)
峰松數太郎。(營)峠田傳。(社
會)松井千年。(廣告)山田喜次
郎。(大阪支局)額出松男。(社
員)二十五名。(平)一。字母ス
テロ寫真版あり。(活字)七・七
五。十五字、十二段。一ヶ月六
十錢。(廣料)七十錢。(兼營)若
松日日新聞(若松市)。

若松新聞

(門司新聞の經營)
若松市修多羅三三九。大正七年
三月二十日創立。個人。(朝)四
頁。(社長)梅月瀨太郎。

八幡新報

八幡市春日町二丁
目。明治四十一年十一月三日創
立。合資。三萬圓。(朝)四頁。
(版數)三版。(社長)田中隣藏。
(社主)同。(支配人)小森袈裟吉
(主筆)社長兼務。(編)香山寛庵
(營)藤井勝次郎。(政治)吉原勝
雄。(社會)藤崎龜太郎。(廣告)
松井忠雄。(東京支局)三瓶彌太
郎。(大阪支局)遠藤信一。(社
員)三十二人。(平)二。字母ス
テロ寫真版あり。(活字)七・七
五。十四字、百二十行、十二段

九州毎日新聞

八幡市水道
町一ノ一五五四。大正七年八月
二日創立。個人。政友派。(朝)
四頁。(版數)一版。(部數)三千
部を上下す。(社長)三村香堂。
(社主)同。(主筆)同。(編)河西
公道。(營)松山隆。(社會)中野
清一。(廣告)太田新一郎。(社
員)二十五名。(平)一。(活字)
七・七五。十五字、八十行、十二
段。一ヶ月七十錢。(廣料)三十
錢。

國民朝報

八幡市。大正十一
年三月一日創立。個人。民政系
(朝)四頁。(部數)五千部。(社
長)百武久兵衛。(主筆)同。(編)
森成美。(營)百武白石。(社會)
井内正夫。(社員)十二人。(平)
三。十五字、百十行、十二段。
一ヶ月六十錢。(廣料)七十錢。

八幡新聞

(門司新聞の經營)
八幡市通六丁目八〇。大正六年
二月十一日創立。(朝)四頁。(社
長)梅月瀨太郎。

大牟田毎日新聞

大牟田
市不知火町二ノ七九ノ一。明治
四十一年四月十八日創立。個人
六萬圓。政友會。(朝)四頁。(部

數)三千六百部。(社長)平山喜
錄。(社主)同。(主筆)若山峻一
(編)同。(營)小柳國太郎。(社
員)五十一名。(平)三。(活字)
七、七五。十五字、百三十五行、
十二段。一ヶ月六十錢。(廣料)
六十錢。(兼營)印刷業。

支局)石井益雄。字母ステロあ
り。(活字)九半。十三字、百二
十行、十一段。一ヶ月六十錢。
(廣料)七十錢。(兼營)普通印刷
業。

肥前日日新聞 佐賀市松原
町中ノ小路。大正十一年一月創
立。株式。十五萬圓。(朝)八頁
(社長)川原茂輔。(副社長)田口
文次。(編)牧瀬新三。(營)木下
胆藏。(社主)深堀祐夫。(廣告)
原政逸。(輪)石川式一。字母
ステロあり。(活字)七、七五。
十五字、百三十六行、十二段。
一ヶ月八十錢。(廣料)五十錢。
(兼營)久留米毎日新聞、唐津新
聞。

百〇五。大正元年七月創立。個
人。(朝)八頁。(夕)四頁。(社
長)西英太郎。(副社長)菊池德
治郎。(主筆)同。(編)吉村福太
郎。(營)島崎德次。(政治)田中
虎登。(社主)力久佐八。(工場
設備)九州日報と同じ。一ヶ月
九十五錢。(廣料)五十錢。

西海日日新聞 大牟田市元
町一五。大正六年十月三十日創
立。個人。(夕)四頁。(版數)三
版。(社長)池末純一。(社主)同
(副社長)木村俊作。(主筆)同。
(編)吉永源太郎。(政治)橋本夏
平。(社會)猿渡重雄。(廣告)石
川直樹。(東京支局)栗田貞一郎
(大阪支局)苗加正雄。(平)三。
字母ステロ寫眞版あり。十五字
百三十五行、十二段。一ヶ月五
十錢。(姉妹紙)九州朝日新聞、
柳河日日新聞。

北九州新報 伊田町二二三
一。大正四年六月一日創立。個
人。一萬圓。民政黨。(朝)四頁
(版數)六版。(部數)八千。(社
長)宮城務人。(社主)同。(副
社長)射場如水。(主幹)佐々木
溪水。(主筆)土谷繁義。(編)同
(營)山崎合勝。(廣告)瓜生富藏
(社員)三十名。(平)一。(活字)
七、七半。十五字、八十四行、四
頁。一ヶ月六十錢。(廣料)八十
錢。

佐賀新聞 佐賀市唐人町。明
治十七年八月創立。個人。(朝)
四頁。(社長)野口時三。(社主)
同。(副社長)山田佐八。(主筆)
同。同。(編)同。(營)宮副
辰一郎。(政治)藤島繁明。(社
會)岡部治夫。(廣告)松本庄吉
(大阪)三隅忠雄。(社員)二十四
名。(平)二。字母ステロあり。
(活字)九半。十四字、七十二行
十一段。一ヶ月五十錢。(廣料)五
十錢。

佐賀民衆新聞 佐賀市松原
町。大正十三年十一月廿三日
創立。個人。(朝)四頁。(部數)
七千部。(社長)岸川岩次郎。(社
主)同。(主筆)同。(營)栗原秀
一。(社員)六名。(平)二。(活
字)舊。十三字、八十二行、十
二段。一ヶ月四十五錢。(廣料)
五十錢。(兼營)民衆パンフレツ
ト。

筑陽日日新聞 飯塚町。大
正三年十月創立。個人。(朝)四
頁。(社長)田中保藏。(副社長)
長島芳郎。(平)一。(活字)九半
十三字、六十五行、十一段。一
ヶ月六十錢。(廣料)六十錢。

長崎日日新聞 長崎市出島
二。明治四十四年三月創立。三
萬五千圓。政友系。(朝)四頁。
(夕)四頁。(社長)則元由庸。(主
筆)中島榮一郎。(編)渡邊篤三
郎。(營)河野源吉。(政治)大森
萬龜大。(社會)瀬戸崎半吾。(廣
告)桑野實三。(東京支局)里見
謹吾。(大阪支局)浮田金次(輪
津田式一、外一。(平)二。字母
ステロ寫眞版あり。(活字)七、
七五。十五字、百三十五行、十
二段。一ヶ月八十錢。(廣料)一
圓。

長崎新聞 長崎市今魚町十。
明治三十八年一月創立。株式。
十萬圓。(朝)四頁。(夕)四頁。
(版數)七版。(社長)橋本辰二郎
(主筆)岩永久之丞。(編)原住文
朗。(營)青木茂。(政治)原住文
朗。(社會)有江増太郎。(廣告)
梶原啓夫。(東京支局)酒井謙吉
(大阪支局)清島三郎。(社員)百
三十七名。(輪)二。(平)一。字
母ステロ寫眞版あり。(活字)七
半。十五字、百四十七行、十二
段。一ヶ月八十錢。(廣料)一圓
(特設)硬質活字採用。

長崎商報 長崎市西酒町七二
(發行兼印刷)同出来大工町三
一。明治二十二年一月創立。四
千圓。(夕)四頁。(版數)一版。
(部數)二千。(社長)川浪理一。
(社主)同。(主幹)迫文三郎。(主
筆)川浪理一。(編)同。(營)同
(社會)愛敬仁。(廣告)藤原徳一
(東京支局)下村文雄。(大阪支
局)宮前誠堂。(社員)九名(平)
一。(活字)舊。十一字、八段。
一ヶ月五十錢。(廣料)五十錢。
(兼營)年刊東亞大觀、英文商報
(特設)和洋兩活字寫眞。

發行。佐賀市松原町三五。明治
三十四年八月一日創立。合資會社
一萬圓。(夕)小翠四頁。(部數)
五百部。(社主)江頭豐作。(主
幹)久池井良吾。(編)原口利八
(營)濫谷強三。(社員)十名。十
五字、四十行、五段。一ヶ月二
十五錢。(廣料)十錢。

長崎縣 小關世男雄。(社主)同。(專
務)吉岡時彌。(主筆)坂本丈一
(編)同。(營)吉岡時彌。(社會)
鈴木敬美。(社員)十八名。(平)
二。十五字、六十行、八段。一ヶ
月三十錢。(廣料)四十錢。(兼
營)印刷物及書籍。

成庄八郎。(編)黒木治三。(廣
告)太田喜八。(輪)外製一。ス
テロ寫眞版あり。(活字)七、七
五。十五字、百四十一行、十二
段。一ヶ月(朝)五十錢。(夕)四
十錢。(朝夕)八十錢。(兼營)佐
世保民友。

治)主幹兼任。(社會)宇都宮流
水。(廣告)八島米大。(東京支
局)栗田貞一郎。(大阪支局)苗
加政雄。(社員)八十二名。(輪
日本製一。(平)一。字母ステロ
寫眞版あり。(活字)七、七五。
十五字、八十四行、十二段。一
ヶ月五十錢(九月以降六十錢)。
(廣料)一圓。(兼營)妹姉版島原
每朝新聞。佐世保每朝新聞。

唐津日日新聞 唐津町。明
治廿九年六月廿一日創立。株式
一萬二千五百圓。(朝)四頁。(部
數)三千五百部。(社長)富永鏗之
助。(主筆)原田弘。(編)宮川高
光。(營)樋口周次郎。(社會)木
部成巳。(廣告)北村定七。(社
員)二十四名。(平)二。字母ス
テロ寫眞版設備中。(活字)九半
十三字、十一段。一ヶ月六十錢
(廣料)五十錢。(兼營)印刷業。

唐津時事新聞 唐津町四一
五。大正十一年三月三日創立。
個人。一萬圓。(朝)四頁。(版
數)一版。(部數)二千部。(社

長崎日日新聞 長崎市大浦町二二。
大正十三年十一月創立。個人。
(朝)四頁(民友)。(夕)四頁(ワ
レラ)。(社長)秦豊助。(總務)倉

長崎時事新聞 (佐世保新
聞の經營)長崎市古町。昭和二
年五月一日創立。(社長)永安想
長崎プレス (英字新聞)長
崎市大浦二〇。明治三年創立。

唐津日日新聞 唐津町。明
治廿九年六月廿一日創立。株式
一萬二千五百圓。(朝)四頁。(部
數)三千五百部。(社長)富永鏗之
助。(主筆)原田弘。(編)宮川高
光。(營)樋口周次郎。(社會)木
部成巳。(廣告)北村定七。(社
員)二十四名。(平)二。字母ス
テロ寫眞版設備中。(活字)九半
十三字、十一段。一ヶ月六十錢
(廣料)五十錢。(兼營)印刷業。

唐津時事新聞 唐津町四一
五。大正十一年三月三日創立。
個人。一萬圓。(朝)四頁。(版
數)一版。(部數)二千部。(社

長崎日日新聞 長崎市今魚町十。
明治三十八年一月創立。株式。
十萬圓。(朝)四頁。(夕)四頁。
(版數)七版。(社長)橋本辰二郎
(主筆)岩永久之丞。(編)原住文
朗。(營)青木茂。(政治)原住文
朗。(社會)有江増太郎。(廣告)
梶原啓夫。(東京支局)酒井謙吉
(大阪支局)清島三郎。(社員)百
三十七名。(輪)二。(平)一。字
母ステロ寫眞版あり。(活字)七
半。十五字、百四十七行、十二
段。一ヶ月八十錢。(廣料)一圓
(特設)硬質活字採用。

長崎時事新聞 (佐世保新
聞の經營)長崎市古町。昭和二
年五月一日創立。(社長)永安想
長崎プレス (英字新聞)長
崎市大浦二〇。明治三年創立。

匿名組合。(朝)四頁。(支配人)二宮義親。(主筆)同。(編)伊東宗太郎。(營)倉場富三郎。(廣告)鶴田茂夫。一ヶ月二圓半。(廣料)一吋一回二圓。

佐世保日日新聞

佐世保市相生町三。明治十四年五月創立。個人。政友本黨系。(朝)四頁。(社長)永安忠。(主筆)濱村四太郎。(編)甘露寺與一郎。(營)井上爲藏。(輪)一。(平)二。ステロあり。(活字)七・七五。十五字、百三十五行、十二段。一ヶ月六十錢。(廣料)一圓。(兼營)長崎時事新聞。

軍港新聞

佐世保市天満町二。明治三十七年十月創立。合資。四萬圓。(社長)三醫秀夫。(主筆)中田正輔。(營)北島綱一。(平)三。ステロあり。(活字)九ホ。十五字、百〇五行、十段。一ヶ月九十錢。(廣料)八十錢。

佐世保新聞

佐世保市島瀬町八。大正十二年九月六日創立。個人。(朝)八頁。(社長)原口徳太郎。(營)福田春舟。(活字)七・七五。十五字、百三十五行、十二段。一ヶ月八十錢。(廣料)一圓。

佐世保新報

九州日報の經營。佐世保市本島町四。明治三十六年六月創立。個人。(朝)八頁。(夕)四頁。(社長)遠藤十郎。(主筆)高島喜一。(編)江口禮四郎。(社會)田邊國雄。(廣告)永靜雄。(工場設備)九州日報と同じ。(活字)七・七五。十五字、百三十五行、十二段。一ヶ月九十五錢。(廣料)五十錢。(特殊)登記公告掲載。

佐世保民友

長崎民友新聞の經營。佐世保市。大正十四年六月創立。個人。(朝)四頁(夕)六頁。準備中。(社長)秦豊助。(編)石丸匡。(政治)江崎勝。(社會)高平隆二。(廣告)鶴田龍雄。(工場設備)長崎民友と同じ。(活字)七・七五。十五字、百四十一行、十二段。一ヶ月五十錢。(廣料)一圓。(特殊)登記公告掲載。

長崎島原毎日新聞

島原毎日新聞社發行。島原町二四一。明治三十七年六月十三日創立。個人。(朝)四頁。(社長)金森安治郎。(主筆)柴田秀太郎。(營)牧左次馬。(平)三。(活字)九ホ。十二字、百十行、十二段。一ヶ月六十五錢。(廣料)五十錢。

島原新聞

島原町四四一。大正二年八月二十五日創立。個人。三萬圓。(夕)四頁。(部數)三千二百。(社長)清水繁三。(主筆)同。(主筆)清水治代。(編)吉田乙次郎。(社會)吉田乙次郎。(廣告)清水治代。(社員)二十七名(平)二。ステロあり。(活字)七・七五。十五字、百二十行、十二段。一ヶ月六十錢。(廣料)五十錢。(兼營)印刷業。

夕刊諫早新聞

諫早新聞社發行。諫早町甲一九五。大正五年十二月二十八日創立。個人(夕)四頁。(社長)小宮元之助。(主筆)酒井初次郎。(活字)舊。十二字、八十行、九段。

對島日日新聞

對島國數原町。明治四十二年一月創立。合資。八萬圓。(朝)四頁。(社長)松尾鐵次。(活字)舊。十二字、八十行、九段。

熊本縣

九州日日新聞

熊本市上通五丁目。明治十五年三月創立。個人。民政黨。(朝)十頁。(版數)八版。(部數)十萬。(社長)...

宮崎縣

日州新聞

宮崎市旭通一ノ九一。明治三十四年八月創立。個人。(朝)四頁。(夕)四頁。(社長)野井楨太郎。(主筆)同(編)橋本勝。(營)野井楨太郎。(政治)西北勝良。(社會)荒川如矢郎。(廣告)山下市次。(東京支局)江口當太郎。(大阪支局)中島常太郎。(輪)石川式一。字母ステロ寫眞版あり。(活字)七・七五。十五字、百三十二行、十二段。(廣料)七十錢。

宮崎新聞

鹿兒島新聞の經營。宮崎市黒迫町一ノ七七八。大正五年九月創立。個人。(朝)八頁。(社長)奥田榮之進。(主筆)岩切亨藏。(主筆)津田武。(編)野井楨樹。(營)岩切秋穂。(廣告)坂本平三郎。(工場設備)鹿兒島新聞と同じ。一ヶ月九十錢。(廣料)五十錢。

宮崎日報

大分新聞の經營。宮崎市高千穂町通り。大正十三年三月創立。個人。(朝)四頁。

山田珠一。(社主)梅田生一。副社長)宇野政行。(編)同。(營)村本武。(政治)植山矢一。(社會)宮崎大郎。(廣告)草野造(東京支局)神原啓一。(大阪支局)石橋文三郎。(社員)約三百名。(輪)佛國製マリノニ式一、内國製三、博文館製一。字母ステロ寫眞版あり。(活字)七・七五。十五字、八十三行、十二段。一ヶ月一圓。(廣料)八十錢。(兼營)筑後新聞。

九州新聞

熊本市花畑町三一。明治三十九年二月創立。株式。三十萬圓。政友本黨。(朝)十頁(社長)高木第四郎。(副社長)熊太。(東京支局)栗田貞一郎。(大阪支局)清島三郎。(輪)折式二、外一。(平)一。字母ステロ寫眞版あり。(活字)七・七五。十五字、百三十五行、十二段。一ヶ月一圓。(廣料)八十錢。(特設)色刷設備あり。

熊本毎日新聞

熊本市中唐人町一四。明治三十一年五月二十一日創立。株式。一萬圓(夕)四頁。(版數)二版。(部數)一萬一千。(社長)山崎豐吉。(社主)迫維精。(事務)石田忠太郎(營)...

延岡新聞

大分新聞の經營。延岡町高千穂通り。大正十一年十一月創立。(朝)八頁。(社長)大津淳三。(主筆)佐藤和七郎。(工場設備)大分新聞と同じ。(活字)七・七五。十五字、百三十七行、十二段。

三州日日新聞

都城市宮丸。大正十年五月十七日創立。株式(朝)四頁。(社長)川越賢。(活字)舊。

鹿兒島縣

鹿兒島市山下町一七一。明治十四年二月十一日創立。匿名組合。民政黨(朝)八頁(夕)十頁。(版數)六版。(社長)奥田榮之進。(主筆)津田武(編)小原龍馬。(營)河野正志郎(政治)橋口勇。(社會)寺師宗一

同。(社員)五十六名。(輪)一。(平)三。ステロ寫眞版あり。(活字)八ホ。十二字、百十二行、十二段。一ヶ月六十錢。(廣料)六十錢。

九州毎日新聞

熊本市櫻町。大正十一年九月十五日創立(朝)四頁。(社長)澤井元善。(主筆)堂屋敷竹次郎。(平)二。(活字)八ホ。十四字、百二十七行、十二段。一ヶ月七十錢。(廣料)五十錢。

大熊本新聞

熊本市光琳寺町一九。大正七年八月創立。個人。二萬圓。(夕)四頁。(部數)四千。(社長)本田貞規。(事務)本田康喜。(支配人)本田信喜。(主筆)本田狂登。(營)山口重内(政治)濫川春秋。(社會)中山友記。(廣告)高木滿次。(社員)三十五名。(平)二。(活字)八ホ。十五字、八十行、十一段。一ヶ月一圓。(廣料)五十錢。

九州毎夕新聞

熊本市櫻町六。大正十二年七月創立。(夕)四頁。(社長)福田秀藏。(活字)舊。

熊本日日新聞

(福岡日日新聞の經營)熊本市幸島町。大

(廣告) 千々岩徳太郎。(東京支局) 市來政尙。(大阪支局) 石橋文三郎。(社員) 二百六十一名。
 (輪) T K S 式二。(平) 十一。字母ステロ寫眞版あり。(活字) 七半。十五字、百四十四行、十二段。一ヶ月九十錢。(廣科) 七十錢。(兼營) 夕刊鹿兒島商報(四頁)。朝刊宮崎新聞(八頁)。石版及印刷業。

鹿兒島朝日新聞

鹿兒島市易居町二。明治三十三年二月十一日創立。株式。(朝) 八頁。(社長) 藤安辰次郎。(編輯) 藤坂貞盛。(營) 青木茂熊。(政治) 遠矢一陽。(社會) 辰元作徳。(廣告) 平井義彦。(東京支局) 河内時申(大阪支局) 龜岡三郎。(輪) 色刷折式二臺。(平) 三臺。字母ステロ寫眞版あり。(活字) 七・七五。十五字、百三十七行、十二段。一ヶ月九十錢。(廣科) 七十錢。

夕刊鹿兒島商報

(鹿兒島新聞の經營) 鹿兒島市山下町七一。(夕) 二頁。(社長) 奥田榮之進。

大分縣

豐州新報

大分市荷揚町二。明治十九年四月創立。個人。政友會。(朝) 四頁。(夕) 四頁。版數) 四版。(社長) 長野瀧。(社主) 同。(理事) 溝部啓三郎。(主筆) 荒木貞雄。(編輯) 同。(營) 溝部啓三郎。(政治) 高畑一策。(社會) 井川秋。(廣告) 大塚芳夫。(東京支局) 西村藤夫。(輪) 石川式一、折一。(平) 一。字母ステロ寫眞版あり。(活字) 七・七五。十五字、百三十五行、十二段。一ヶ月九十錢。(廣科) 一圓。(兼營) 宮崎日日新聞。

大分新聞

大分市碩出橋通六十。明治二十二年六月一日創立。個人。(朝) 六頁。(夕) 四頁。(版數) 八版。(社長) 大津淳三。(社主) 同。(副社長) 大津征夫。(理事) 御手洗三三郎。(主筆) 東清次郎。(編輯) 同。(營) 御手洗三三郎。(政治) 仲野耳。(社會) 飯倉十郎。(廣告) 本郷晋。(東京支局) 松浦清平。(大阪支局) 宮川久二。(社員) 百八十五名。(輪) 石川式三(色刷)。(平) 二。字母

ステロ寫眞版あり。(活字) 七・七半。十五字、百四十三行、十二段。一ヶ月一圓。(廣科) 一圓。(兼營) 出版部、日用品代理部、大分縣野球協會、大分縣體育聯盟及び中津新聞、延岡新聞、宮崎日報、都城新聞。

大分日日新聞

大分市唐人町二〇七。明治十四年十月創立。株式。政友本黨。(朝) 四頁(夕) 四頁。(社長) 吉村市郎。(副社長) 島山一夫。(主筆) 前田多三郎。(編輯) 田中保。(政治) 神崎俊鴻。(社會) 完寛平。(東京支局) 古川文次郎。(大阪支局) 首藤勇。(輪) 獨逸式一、石川式一(平) 一。ステロあり。(活字) 七・七五。十五字、百三十五行、十二段。一ヶ月九十錢。(廣科) 一圓。(兼營) 中津日日新聞。

大分民友新聞

大分市堀川通り。大正十二年九月一日創立。個人。政友會。(夕) 四頁。(版數) 二版。(部數) 八千餘。(社長) 御手洗賢圓。(社主) 同。(主筆) 原田憲。(主筆) 河野勝(編輯) 吉野安藏。(營) 岩崎芳之助。(政治) 吉野安藏。(社會) 戸高克巳(廣告) 那須保雄。(大阪支局) 木

下政雄。(社員) 五十名。(平) 三(活字) 九半。十三字。(兼營) 白杵民友新聞。

大分國民新聞

大分市。大正十三年創立。個人。(朝) 四頁(社長) 植木榮功。

溫泉タイムス

別府市彌生町。大正五年八月六日創立。個人。十萬圓。(朝) 四頁。(夕) 四頁。(版數) 三版。(社長) 伊藤徳兵衛。(社主) 同。(副社長) 伊藤道雄。(主筆) 岩屋謙。(編輯) 梶原福一。(營) 後藤一。(政治) 古長進。(社會) 甲斐定。(廣告) 増田久治。(東京支局) 平瀬直治。(大阪支局) 森田文輔。(社員) 八十六名。(平) 四。字母ステロ寫眞版あり。(活字) 七・七五。十五字、百四十三行、十二段。一ヶ月八十錢。(廣科) 一圓。(兼營) 佐伯新聞。

大別府新聞

別府市朝日海三丁目。大正八年三月二十一日創立。個人。三萬圓。政友會。(夕) 四。(版數) 二。(部數) 二萬五千。(社長) 原田耕馬。(社主) 鷹田定吉。(事務) 原田安太郎。(常務) 原田忠徳。(支配人) 南榮造。(主幹) 日名十康行。(主筆)

稻富哲郎。(編輯) 松家美政。(營) 原田千猪生。(政治) 永永清。(社會) 福田守。(廣告) 坂井庄三郎(東京支局) 川口松太郎。(大阪支局) 吉田政雄。(社員) 四十三名。(平) 二。字母ステロ寫眞版あり。(活字) 七・七五。十五字、百行、十二段。一ヶ月六十錢。

別府毎夕新聞

別府市秋葉町。大正十三年三月九日創立。個人。(夕) 四頁。(社長) 南波保(主筆) 田村今朝季。(營) 南波善三郎。(活字) 八半。

別府新報

別府市翁町。大正十年十月十七日創立。個人。民政系(夕) 四頁。(社主) 鹽澤政明(營) 原正一。(活字) 九半。

別府日報

別府市。大正十五年創立。(朝) 四頁。(社長) 廣谷壽市。

中津新聞

(大分新聞の經營) 中津町。大正六年十一月一日創立。憲政系。(朝) 六頁。(社長) 大津淳三。(工務設備) 大分新聞と同じ。(活字) 七・七五。

中津日日新聞

(大分日日新聞の經營) 中津町。大正十二年二月創立。(朝) 四頁。(夕) 四

頁。(社長) 竹岡吉太郎。(活字) 七・七五。

東九州新聞

白杵町一四四。明治二十七年六月創立。合名。二萬圓。民政系。(朝) 四頁(夕) 四頁。(社長) 片岡清松。(營) 詫間幸一。(平) 四。(活字) 舊。十二字、百十行、十一段。

白杵民友新聞

(大分民友新聞の經營) 白杵町。大正十三年九月二日創立。(社長) 御手洗賢圓。

佐伯新報

(溫泉タイムスの經營) 佐伯町。大正十一年十二月二十五日創立。個人。(朝) 四頁。(社長) 山内愛藏。

龜川新報

龜川町。大正十一年創立。個人。(朝) 四頁。(社長) 鹽澤政明。

龜川朝日新聞

龜川町。大正十五年。(朝) 四頁。(社長) 南波保。

沖繩縣

琉球新報

那覇市東町四ノ十一。明治二十六年九月十五日創立。個人。三萬圓。(朝) 四頁(社長) 嵩原安佐。(編輯) 眞榮城守

北海道

沖繩タイムス新聞

那覇市松山町一ノ十二。大正九年十一月創立。個人。(朝) 四頁。(社長) 岸本幸厚。(廣告) 吉本吉友(平) 一。(活字) 九半。十一段。一ヶ月六十錢。(廣科) 三十錢。

北海タイムス

札幌市大通西三丁目六。明治三十四年八月創立。合資。五十萬圓。(朝) 八頁。(夕) 四頁。(版數) 十二版。(部數) 二十餘萬。(社長) 阿部良夫。(顧問) 東武。吉植庄一郎。

札幌毎日新聞

札幌市南八條西五丁目。大正十四年三月一日創立。個人。五萬圓。(朝) 四頁。(社長) 吉田重貞。(社主) 同(支配人) 吉田重春。(營) 吉川定三郎。(政治) 幸田金三郎。(社會) 杉山潔。(廣告) 松井定。(社員) 五十名。(平) 三。字母ステロ寫眞版あり。(活字) 八半。十四字、五十行、八段。一ヶ月五十錢。

小樽新聞

小樽市港町十六。明治二十六年五月八日創立。株式。三十萬圓。(朝) 八頁。(夕) 四頁。(版數) 六版。(社長) 上田壽久。(編輯) 平野文安。(營) 坂牛

直太郎。(政治)嘉納虎太郎。(社
會)池島賢造。(廣告)坂牛直太
郎。(東京支局)本田龍。(大阪
支局)盛田穰。(社員三百十名
(輪)超高速度、折疊マリノニ
式計六臺。字母ステロ寫真版あ
り。(活字)七半。十五字、百四
十七行、十二段。一ヶ月一圓。
(廣料)二圓二十錢。(兼營)商況
通信。

北門日報 小樽市稻穂町。大
正六年八月創立。株式。十萬圓
政友會。(夕)四頁。(版數)二版
(專務)山内信彌。(支配人)物部
巖。(編)支配人兼任。(營)同。
(政治)藤田豐治。(社會)星松吉
(廣告)田中幸三郎。(東京支局)
福滿專二。(大阪支局)清島三郎
(社員)六十三人。(輪)東京機械
一。字母ステロ寫真版あり。(活
字)七半。十五字、百五十行、
十二段。一ヶ月六十錢。(廣料)
一圓二十錢。

小樽商業新報 小樽市東雲
町四。大正八年創立。合資會社
(夕)四頁。(版數)二。(社長)小
山健藏。(主筆)阿部金衛。(營)
大西作太郎。(政治)福田直三郎
(社會)宮崎善吉。(廣告)大西作

太郎。(東京支局)山口勝久。(大
阪支局)竹村士之吉。(平)二。
十五字、九十行、十二段。一ヶ
月五十五錢。(廣料)五十錢。(兼
營)通信事業。

函館新聞 函館市地蔵町一
明治廿一年一月十七日創立。個
人。五萬圓。(朝)四頁。(夕)四
頁。(版數)二版。(部數)二萬五
千。(社長)谷川淑夫。(社主)
平出喜三郎。(主筆)長谷川淑夫
(編)工藤儀三郎。(營)藤林良男
(政治)堀川經道。(社會)寺田清
(廣告)妹尾今三郎。(東京支局)
北村温平。(大阪支局)同。(社
員)七十五。(輪)石川式二。字
母ステロ寫真版あり。(活字)七
半。十五字、百五十行、十二段
一ヶ月八十錢。(廣料)一圓。

函館每日新聞 函館市鶴田
町一。明治十一年一日創立。匿
名組合。十萬圓。(朝)四頁(夕)
四頁。(社長)金澤彦作。(總務)
山田誠一。(編)千葉稻城。(編
次長)高桑正吉。(營)鈴木啓三
(政治)姥名慶五郎。(社會)村山
幸太郎。(廣告)大堀善太郎。(東
京支局)古川岩雄。(輪)石川式
二。字母ステロ寫真版あり。(活

字)七半。十五字、百三十五
行、十二段。一ヶ月九十錢。(廣
料)一圓。

次郎。
函館北海新聞 函館市若松
町八丁目。明治四十四年創立。
個人。(朝)四頁。(社長)綿引綱
(主筆)佐野一郎。

旭川新聞 旭川市五條通十丁
目右六號。大正四年十月創立。
個人。十萬圓。(朝)八頁。(版
數)二版。(社長)田中秋聲。(編
者)岩淵良雲。(社會)小林幸太郎。
(廣告)野宮熊之進。(東京支局)
小松吉太郎。(大阪支局)與田勇
次郎。(社員)八十六名(工場員
共。(輪)JKS式一。字母ステ
ロ寫真版あり。(活字)七半。十
五字、百四十五行、十二段。一
ヶ月七十五錢。(廣料)八十錢。
(兼營)印刷業。(特殊)旭川市上
川支廳七師團公文及旭川區裁判
登記所廣告掲載。

函館商報 函館市大町十九。
明治廿五年五月創立。個人(夕)
四頁。(社長)中井多吉。(社主)
同。(編)中村松治郎。(營)佐々
木文次郎。(廣告)大久保謙。(社
員)八名。(平)一。(活字)五號
十三字、七十五行、十段。一ヶ
月五十錢。(廣料)三十五錢。(兼
營)印刷業。

北海商報 函館市豐川町一。
明治三十一年三月三十一日創立
個人。(夕)四頁。(社長)高田安

料)一圓。

北都每日新聞

旭川市七條
通八丁目。大正八年創立。個人
一萬五千圓。(朝)四頁。(版數)
二版。(部數)七千部。(社長)岩
崎石夫。(社主)同。(主幹)岩崎
石夫。(主筆)相神豐吉。(編)新
保滋二。(營)堀田鐵郎。(政治)
相神豐吉。(社會)石上秀楠。(廣
告)手塚靜間。(社員)二十三名
(平)一。字母ステロ寫真版あり
(活字)八半。十四字、百二十行
十二段。一ヶ月五十錢。(廣料)
六十錢。

北海每日新聞

旭川市九條
通十丁目。大正十四年五月十五
日創立。個人。(朝)四頁。(社
長)永江楚風。(編)橋本繁。(營)
新出吉之助。(平)一。(活字)八
半。十二段。一ヶ月五十錢。(廣
料)一圓。

釧路新聞

釧路市八舟町三。
明治三十五年七月創立。合資。
一萬五千圓。(朝)四頁、日曜八
頁。(版數)一版。(部數)一萬部
(社長)遠藤清一。(調査局長)齋
藤秀三。(編)村井英治。(營)彌
地三之助。(政治)高野源藏。(社
會)渡多野英一郎。(廣告)近藤

虎造。(東京支局)原田柳三。(大
阪支局)額田松男。(社員)四六
名。(輪)マリノニ式一。(活字)
七半。十五字、一三六行、十
二段。一ヶ月七十錢。(廣料)八
十錢。

釧路實業新聞

釧路市浦見
町三ノ三。大正十四年二月七日
創立。三萬圓。(朝)四頁。(版
數)一。(部數)五千八百。(社
長)半田銚治。(社主)同。(主
筆)同。(編)米山芳郎。(營)畑
江貞一郎。(政治)高橋錦太郎。
(社會)本間邦雄。(廣告)正城廣
(社員)四十一名。(平)二。字母
ステロ寫真版あり。(活字)九半
十三字、七十五行、十二段。一
ヶ月七十錢。(廣料)八十錢。

室蘭每日新聞

室蘭市泉町
四十。明治四十二年四月創立。
二萬五千圓。(朝)六頁。(版數)
二。(社長)鈴木要吉。(主筆)谷
村金次郎。(營)飯尾鶴吉。(政
治)佐藤守文。(社會)増田直記
(廣告)赤松彦太郎。(東京支局)

同。(社員)三十八名。(輪)一。
(活字)八半。十四字、百二十行
十二段。一ヶ月七十錢。(廣料)
五十錢。

十勝每日新聞

帶廣町。大
正八年十月創立。個人。七萬圓
民政黨系。(夕)四頁。(部數)六
千部。(社長)林茂。(社主)同。
(主筆)井浦徹人。(編)同。(營)
谷井仁詮。(政治)鍛冶英夫。(社
會)田斐重政。(廣告)遠藤伸雄
(東京支局)堂島松太郎。(大阪
支局)同。(社員)六十名。(平)
一。(活字)八半。十四字、十二
段。一ヶ月七十錢。(廣料)五十
錢。

十勝新聞

帶廣町。明治四十
三年八月創立。個人。(夕)四頁
(版數)二版。(部數)四千五百部
(社長)日景安太郎。(社主)同。
(支配人)羽賀實吉。(主筆)日景
大太郎。(編)同。(營)日景外二
郎。(政治)西山俊夫。(社會)角
田東耕。(廣告)日景外二郎。(東
京支局)本間正巳。(ロール)一
ステロ寫真版あり。(活字)九半
十三字、百十六行、十二段。一
ヶ月七十錢。

十勝日日新聞

帶廣町西三

條。大正八年十一月十五日創立
個人。(夕)四頁。(社長)坂本光
(平)一。(活字)舊。

根室新聞

根室町大字有磯町
三ノ三。明治二十二年創立。合
資。九千六百圓。(夕)四頁。(版
數)一版。(社長)兼古萬吉。(主
筆)花輪。同。(編)同。(營)山
繁。(政治)安藤武雄。(社會)安
住逸夫。(廣告)竹中。(東京支
局)赤松彦太郎。(社員)三十名
(平)二。(活字)八半。十四字詰
七十行、十二段。一ヶ月七十錢
(廣料)四十錢。

根室日報

根室町彌生町三丁
目。大正十四年十二月十六日創
立。個人。三萬圓。民政系(朝)
四頁。(社長)三上忠雄。(平)一
ステロあり。(活字)九半。十四
字。七十七行、十二段。一ヶ月
六十錢。(廣料)四十錢。

根室公論

根室町彌生町三丁
番外一。大正十一年四月十七日
創立。個人。(夕)六頁。(社長)
石黒林太郎。(營)久保田(平)
一。(活字)舊。六段。一ヶ月五
十錢。(廣料)三十錢。

江差日日新聞

江差町切石
町十九。明治三十一年十一月二

十月創立。個人。(朝)四頁。(社長)北林七郎。(主筆)竹谷武雄(平)一。(活字)舊。八段。一ヶ月四十錢。(廣料)三十錢。

宗谷新報

稚内町。明治三十一年七月十五日創立。個人。五萬圓。(朝)四頁。(部數)四千八百。(社長)岡田義胤。(社主)同(專務)同。(常務)中里秀一。(主筆)貴志忠憲。(編)社長兼務。(營)小林東策。(政治)藤本高吼(計會)小西新三。(廣告)渡邊常八。(東京支局)赤松彦太郎。(大阪支局)黒川勝。(社員)廿一名(平)十六頁掛二。十字。六十八行。十二段。一ヶ月六十錢。(廣料)十錢乃至三十錢。(兼營)地方關係版。

北見新聞

野付牛町。明治四十五年三月創立。個人。民政系(夕)四頁。(社長)千葉兵藏。(支配人)三浦慶吾。(編)永井勝次郎。(營)影家長藏。(廣告)石橋鐵一。(平)二。(活字)九。一ヶ月六十錢。(廣料)六十錢。

留萌實業新聞

天鹽國留萌郡留萌町。大正十二年八月三十一日創立。個人。二萬五千圓。政友。(朝)四頁。(部數)約三千

(每日)。(社長)鈴木兵亮。(社主)同。(主筆)岩谷健次郎。(主筆)岩下美之助。(編)同。(營)鳴海孫八。(政治)松本次郎。(社主)澤田由太郎。(廣告)阿部貞之助。(社員)十五名。(平)二(活字)九。十四字。四十七行八段。一ヶ月四十錢。(廣料)一圓。(兼營)活版業。製本業。(特設)讀者慰女の爲め本社樓上に六球式ラヂオ。

留萌日日新聞

留萌町開運町六。大正十三年八月三十一日創立。個人。(朝)二頁。(社長)城川徹郎。(平)一。(活字)舊一圓。

日高民報

日高國浦河町。大正五年九月創立。個人。(朝)四頁。(版數)一版(部數)二千。(社長)小松哲太郎。(社主)同。(主筆)小林圭造。(編)高橋春樹。(社員)十二名。(平)一。十三字

なよろ新聞

名寄町西二條南八丁目。大正九年八月十四日創立。個人。(朝)四頁。(社長)岡田新一。(平)一。(活字)舊。十二段。一ヶ月七十錢。(廣料)八十錢。

五十五行。七段。一ヶ月三十五錢。(廣料)三十錢。

中央旭新聞

上川郡氷山村中島新通。大正十一年六月創立。個人。(夕)四頁。(社長)立藤増永。(平)一。(活字)八。一ヶ月三十錢。(廣料)一圓。

天鹽中央新聞

羽幌町南二條二ノ二六。大正十一年五月二十五日創立。個人。(朝)二頁。(社長)市川止。(平)三。一ヶ月五十錢。(廣料)一圓。

樺太

樺太日日新聞

樺太豊原町。明治四十一年創立。個人。八萬圓。(朝)六頁。(版數)一版。(社長)沖島鐵三。(社主)同。(支配人)太田鎮雄。(主筆)藤井尙治(編)福家勇。(營)加藤源吉。(政治)小林金藏。(社會)加藤壽三郎。(廣告)吉永克郎。(東京支局)鈴木繁次郎。(社員)四十八名。(輪)半載一。(平)二。字母ステロ寫真版あり。(活字)八。一ヶ月一圓。(廣料)九十錢。

豊原新聞

豊原町。大正十年

創立。個人。(朝)四頁。(社長)濱口幸太郎。

樺太民友新聞

大泊町字本町西一條南六ノ二十八。大正三年八月十三日創立。合資。五萬圓。(夕)四頁。(社長)潮海助二郎。(社主)同。(副社長)樋口正志。(編)同。(營)池田幸太郎。(政治)高橋健四郎。(會社)淺井信明。(廣告)池田幸太郎。(東京支局)福浦專二。(大阪支局)同。(社員)四十五名。(平)二。ステロ寫真版あり。(活字)八。一ヶ月一圓。(廣料)八十錢。

日刊新日本

新日本社發行。大泊町築町。大正十年十月創立。個人。二萬圓。(夕)四頁。(社長)酒井榮作。(社主)同。(主筆)仲里剛敏。(編)同。(廣告)海老根守造。(東京支局)新井哲雄。(平)一。ステロ寫真版あり(活字)八。一ヶ月一圓。

大泊每日新聞

大泊町本町西二條。大正十二年九月十日創立。個人。(夕)四頁。(社長)鈴木誠松。(理事)井田良三。(主筆)佐藤至孝。(編)高橋信一郎

(營)同。(平)二。ステロあり。十二字。七十行。十一段。一ヶ月一圓。(廣料)六十錢。

大北新報

大泊町。大正十三年創立。個人。(夕)四頁。(社長)中村正二郎。(主筆)齋藤二郎。

樺太時事新聞

真岡町字山手町二丁目。明治四十一年創立。個人。三萬圓。(朝)四頁。(版數)一。(部數)五千。(社長)栗岡巳八。(支配人)長井準太郎。(編)島田徳松。(營)木次谷佐平(政治)神尾謙行。(社會)田島貞之助。(廣告)勝木弘三。(東京支局)古川文次郎。(社員)三十五名。(輪)目下準備中。(平)一(活字)七。十五字。百四十行十二段。一ヶ月一圓。(廣料)十錢。

三、臺灣

臺灣

臺灣日日新報

臺北市榮町四丁目三十二番地。明治三十一年五月一創立。株式。六十萬圓(朝)六頁。(夕)四頁。(常務副

社長)河村徹。(支配人)石原幹作。(主筆)谷河梅人。(編)同。(營)石原幸作。(政治)大澤貞吉。(社會)吉田季四郎。(廣告)長谷理教。(東京支局)秋元政司(大阪支局)入貝良郎。(社員)五百二十人。(輪)三。(平)十三。字母ステロ寫真版あり。(活字)七。七五。十五字。一三五。行。十二段。一ヶ月一圓五十錢。(廣料)八十錢。(兼營)活版、石版印刷。製本業。紙卸賣。書籍取次。運物品賣捌。毎日曜日附録として本紙二頁大の子供新聞を發行す。

臺南新報

臺南市本町三丁目二三四番地。明治三十六年一月一日創立。株式。十萬圓。(朝)八頁。日曜十二頁。(部數)二萬六千五百部(二年一月一日調)。(社長)富地近思。(專務)宮本一學。(主筆)西崎順太郎。(編)中村事。(營)專務兼任。(政治)中村事。(社會)中村俊一郎。(廣告)奥田捐吉。(東京支局)大西隆之助。(大阪支局)辻覺次郎。

東臺灣新聞

花蓮港街高砂通二。大正五年十月十四日創立。株式。六萬圓。(朝)四頁。(社長)梅野清太。(主筆)福井公(營)吉村佐原。(平)四。十二段。一ヶ月一圓。(廣料)八十錢。

朝鮮

京城日報

京城府公平通一ノ三。明治三十九年九月一日創立。合資。十六萬圓。(朝)八頁(夕)四頁。(社長)副島道正。副社長)松岡正男。(支配人)鯉島宗也。(主筆)丸山幹治。(編)笠神志都延。(政治)久松副平。社會)寺田壽夫。(廣告)北井清次郎。(輪)マリノニ式二臺。TKS式一臺。同折式一臺。字母ステロ寫真版あり。(活字)七。十五字。百四十行。十二段。一ヶ月一圓。(兼營)每日申報。

朝鮮新聞

京城府公平通二ノ一。大正二十一年創立。株式。三十萬圓。(朝)六頁。(夕)四頁。(版數)市內、地方。(部數)十二萬六千。(社長)牧山耕藏。(支配人)貴田昌衛。(主筆)權藤四郎介。(編)和田重藏。(政治)缺員。(社會)崎真三。(廣告)石田正。(東京支局)河野碩平。(大阪支局)竹田津吾一。(社員)二百二十五名。(輪)內國製

二。(平)二。字母ステロ寫眞版あり。(活字)七半。十五字、百四十行、十二段。一ヶ月一圓。

京城日日新聞 京城府永樂町二ノ七五。大正九年七月創立。個人。二十五萬圓。(朝)八頁。(社長)有馬純吉。(主筆)石原憲一。(編)森二郎。(營)永井久吉(政治)栗津信爾。(社會)森二郎(廣告)杉本信太郎。(東京支局)平山長佐久。(大阪支局)天谷深吉。(輪)津田式一臺。(平)一。字母ステロ寫眞版あり。(活字)七・七五。十五字、百三十五行、十二段。一ヶ月一圓。(廣料)一圓三十錢。

東亞日報 (鮮文、英文)京城府光化通一三九。大正九年六月創立。株式。七十萬圓。(夕)六頁。(社長)金性深。(副社長)張德秀。(主筆)宋鎮禹。(編)李光洙。(營)梁源模。(政治)韓偉健。(社會)韓義植。(廣告)李泰魯。(輪)TKS式二。同折式一。字母ステロ寫眞版あり。(活字)八半。十四字、百二十八行、十二段。一ヶ月一圓。(廣料)一圓

朝鮮日日新聞 (鮮文、國文)京城府政志洞一。大正九年一月

六日創立。組合。(朝)二頁(夕)四頁。(社長代理)申錫兩。(常務)白寬洙。(主筆)安在鴻(編)韓基岳。(營)崔善益。(社會)玄鎮健。(廣告)朴敦緒。(輪)外製一、內製一。(平)二。字母ステロ寫眞版あり。(活字)七・七五。十五字、百三十五行、十二段。一ヶ月一圓。(廣料)一圓。

朝鮮商工新聞 (國文、鮮文)京城府黃金町二ノ一九九。大正九年十一月十九日創立。個人。十萬圓。(畫)二頁。(夕)四頁。(版數)二回。(部數)五千六百。(社長)齋藤五吉。(相談役)推浩、佐々木佑介。(主筆)齋藤五吉。(編)渡邊四朗。(營)降旗清三。(社會)廣房一。(廣告)藤本通。(東京支局)富本正義。(大阪支局)松本三郎。(社員)八十六名。(平)三。字母ステロ寫眞版あり。(活字)七半。十五字、百四十行、十二段。一ヶ月七十錢。(廣料)一圓三十錢。(兼營)株式日報。

中外日報 (鮮文)京城府花洞一三八。大正十五年十一月十五日創立。(朝)四頁。(版數)二版(社長)李相協。(主筆)同。(編)同。

閔奉瑛。(營)李相協。(政治)李允鐘。(社會)閔奉瑛。(廣告)河照源。(社員)百九十一人。(輪)一。(平)一。字母ステロ寫眞版あり。(活字)七・七五。十五字、百三十五行、十二段。一ヶ月七十錢。(廣料)一圓。

每日申報 (鮮文)京城日報の經營)京城泰平通一ノ三二ノ二。明治三十九年六月一日創立(朝)四頁。(社長)副島道正(編)箕神志和延。(經理)上野淺吉。(廣告)柳萬應。(輪)津田式一。(平)一。字母ステロ寫眞版あり(活字)八半。十四字、百三十五行、十二段。一ヶ月七十錢。(廣料)四十錢。

七ウル・プレス (Theodora Press) (英文)京城府長谷川町百十一。明治九年十二月創立(朝)四頁。(社長)宮館貞一。(支配人)岡與一。(主筆)宮永品吉(編)小宮山陸三郎。一ヶ月一圓

(編)間城益次。(營)水延清四郎(政治)泉小次郎。(社會)堺新太郎。(廣告)奈良好三。(東京支局)堀克巳。(大阪支局)浮田金次。(社員)百三十一人。(輪)マリノニ式二、折式一。(平)五。字母ステロ寫眞版あり。(活字)七・七五。十五字、百四十六行、十二段。一ヶ月一圓。(廣料)一圓三十錢。

朝鮮時報 釜山府西町四ノ六。明治二十五年十二月五日創立。合資。社。五萬圓。(夕)四頁。(社長)今川廣吉。(主筆)羅崎滿彦。(編)清水雲治。(營)同。(政治)岩切信武。(社會)藤藤一郎(廣告)崔德煥。(東京支局)富本正義。(大阪支局)本三郎(平)二。字母ステロ寫眞版あり(活字)七・七半。十五字、百三十五行、十二段。一ヶ月七十錢。(廣料)一圓。

平壤日日新聞 平壤府本町一ノ一。大正九年三月創立。匿名組合。三萬五千圓。(朝)四。(社長)矢橋良胤。(專務)同。支配人)加藤平太。(主筆)古莊仁太郎。(編)有村正浩。(營)森幸次郎。(政治)光永廣。(社)池

田和夫。(廣告)園元格郎。(東京支局)缺。(大阪支局)松本三郎。(社員)六十八名。(平)二。字母ステロあり。(活字)七・七五。十五字、八十行、四頁。一ヶ月七十錢。(廣料)一圓。

朝鮮毎日新聞 仁川府西町十二。大正十年五月十三日創立。個人。二十萬圓。(夕)四頁。(社長)後藤連平。(支配人)木郷豐藏。(主筆)後藤連平。(編)小川次郎。(輪)一。(平)一。字母ステロ寫眞版あり。(活字)七・七五。十五字、百三十五行、一ヶ月七十錢。(廣料)一圓三十錢。

朝鮮民報 大邱府東雲町。明治三十八年三月創立。個人(夕)八頁。(社長)河井朝雄。(同代理)野坂茂一。(支配人)齋藤勇(輪)金津式一。色刷一。(平)一。字母ステロ寫眞版あり。(活字)七・七五。十五字、百三十五行、十二段。一ヶ月七十錢。(廣料)一圓。

南鮮經濟日報 (國文、鮮文)大邱府元町二ノ六。大正十三年十一月十九日創立。(社長)韓翼東。

浦府三和町六一。大正十二年十月廿一日創立。個人。三萬圓。(夕)四頁。(版數)一。(部數)三千。(社長)長谷川義雄。(社員)同。(主筆)畑本實平。(編)高月哲夫。(營)木村直郎。(政治)畑本實平。(社會)太田善與。(廣告)牟田口梧。(東京支局)德富美喜男。(大阪支局)浮田金次。(社員)十三名。(輪)一。字母ステロ寫眞版あり。(活字)八半。十四字、百二十行、十二段。一ヶ月七十錢。(廣料)七錢。

木浦新報 全南印刷會社發行。木浦府仲町一ノ四。明治卅三年六月十二日創立。株式。五萬圓(朝)四頁。(部數)五千部。(社長)山野瀧三。(主筆)長野虎太郎。(編)山本精一。(營)荻野柳太郎。(政治)秋山滿。(社會)一瀬新太郎。(廣告)橋本淺一。(社員)二十人。(平)二。字母ステロ寫眞版あり。(活字)八半。十四字、百行、十二段。一ヶ月九十錢。(廣料)一圓。

群山日報 (國文、鮮文)群山府明治町九十二。明治四十一年四月十五日創立。個人。(朝)四頁。(社長)松岡琢磨。(主筆)同。

全北日報 (國文)東光新聞 (國文)全羅北道全州大正町一ノ十一。(全北)明治三十八年二月。(東光)大正九年十一月創立。個人。(朝)四頁。(社長)松波千海。(全北理事)荒木源二(東光理事)林昌燮。(平)二。ステロあり。(活字)九半。十二字、百七行、十二段。一ヶ月一圓。(廣料)一圓。

咸南新報 咸鏡南道咸興軍樂通。明治四十一年十二月四日創立。個人。(夕)四頁。(社長)畑本逸平。(副社長)定野秀一(編)光峰滋。(營)廣湖今朝吉。(政治)櫻本義隆。(社會)大久保壽雄。(廣告)山本角十。(平)二。ステロ寫眞版あり。(活字)舊。十二字、百行、十一段。一ヶ月九十錢。(廣料)八十錢。

南鮮日報 馬山府本町五丁目。明治卅七年創立。個人。(朝)四頁。(部數)四千五百。(社長)河谷靜夫。(常務)橫瀬新三郎。

(主筆)同。(編)千葉包次郎(營)同。(東京支局)德富猪三夫。(社員)三十六人。(平)二臺。字母ステロ寫眞版あり。十五字、百三十行、十二段。一ヶ月七十錢。(廣料)一圓。

湖南日報 忠南大田郡春日町一ノ五五。明治四十二年八月九日創立。個人。(朝)四頁。(社長)川島勝。(主筆)田邊理市。(編)阪本良。(營)太間敏夫。政治)尾崎龜繁。(社會)廣田菊次郎。(廣告)早川祐吉。(平)二。ステロあり。(活字)九半。十二字、百八行、十二段。一ヶ月八十錢。(廣料)一圓。

北鮮日報 清津府敷島町。明治四十年八月一日創立。二萬圓(朝)四頁。(部數)三千五百。(社長)岡本常次郎。(支配人)金田平次郎。(主筆)小守重保。(營)支配人兼任。(政治)山下正夫。(廣告)佐分利重治。(社員)四十二名。(平)二臺。字母ステロ寫眞版あり。十二字、百六行、十二段。(廣料)八十錢。(兼營)印刷業。

北鮮日日新聞 (國文、鮮文)咸北鏡城郡羅南面生駒町七七。

大正八年十二月十三日創立(夕)四頁。(社長)洪鐘華。(主筆)阿部喜造。

鴨江日報 新義州府常盤町五ノノ。明治四十一年四月創立。株式。五萬圓。(夕)四頁。(版數)二。(部數)八千。(社長)加藤鏡治郎。(支配人)渡邊真一郎。(主筆)小川延吉。(編)渡邊真一郎。(營)岡太茂。(廣告)同(東京支局)小野塚一郎。(社員)五十二名。寫真版あり。(活字)七・七五。十五字、百三十行、十二段。一ヶ月八十錢。(廣料)六十錢。

元山毎日新聞

元山府幸町二六。明治四十二年一月一日創立。個人。十五萬圓。(朝)四頁(版數)一版。(部數)五千。(社長)西田常三郎。(社主)同。(支配人)土屋幹夫。(編)長谷享。(營)支配人兼務。(政治)川西爲美。(社會)渡邊清房。(廣告)鈴木安。(東京支局)山本政吉。(社員)八十五名。(平)一臺。(活字)七・七五。十五字、百三十五行、十二段。一ヶ月九十錢。(廣料)一圓三十錢。(兼營)代理部

滿洲

關東州を包含

滿洲日報 (滿洲日日新聞の改題) 大連市東公園町二一。明治四十一年十一月創立。株式。五十萬圓。(朝)四頁。(夕)八頁(社長)山崎猛。(編)米野豐實。(營)中松國彦。(社會)芥川光藏(廣告)中松國彦。(輪)三臺(平)十八臺。字母ステロ寫真版あり(活字)七・七五。十五字、百四十行、十二段。一ヶ月一圓三十錢(廣料)一圓三十錢。(兼營)印刷業、紙類販賣。(昭和二年十一月一日遼東新報を合併して改題す)

大連新聞 大連市飛彈町六七。大正九年五月五日創立。株式。十四萬圓。(朝)四頁。(夕)四頁(社長)實性確成。(副社長)栗木榮太郎。(支配人)前川良三。(主筆)社長兼任。(編)山口可明。

滿洲商業新報

大連市吉野町三二。大正七年創立。匿名組合。五萬圓。(夕)四頁。(社長)山口忠三。

關東報 (漢文) 大連市泰公街二八。大正八年九月一日創立。個人。十萬圓。(朝)四頁。(夕)四頁。(部數)四千。(社長)永田善三郎。(社主)同。(副社長)市川年房。(主筆)王子衡。(編)沈止良。(營)劉召卿。(東京支局)南勝。(社員)五十名。(平)三臺。字母ステロあり。(活字)十ポ。十三字、六十三行、十段。一ヶ月銀一圓。(廣料)一圓。

滿洲報 (漢文) 大連市山縣通一四二。大正十一年七月二十四日創立。個人。十萬圓。八頁。(版數)二。(部數)三萬八千。(社長)西片朝三。(社主)同。(支配人)橋秀一。(主筆)久留宗一。(主筆)金念曾。(編)同。(政治)楊華亭。(社會)金慕章。(廣告)鈴木新一郎。(東京支局)里見又

泰東日報

大連市。明治四十一年十月創立。(社長)阿部真吉(主筆)平山武晴。

マンチユリヤ・デイリニウス (英文滿報) (英文) 大連市漢路町七。明治四十一年十月十八日創立。個人。(夕)四頁。每週火金六頁。(社長)濱村善吉。(社主)同。(主筆)同(編)柳澤剛太郎。(營)千葉良一郎。(廣告)柏原清造。(社員)二十五名。(平)三臺。ライノタイプ機二臺。(活字)十ポ。十三半エム百十八行、六欄。一ヶ月一圓。(廣料)一圓一インチ一圓五十錢(兼營)印刷業。毎月一日マンチユリヤデイリニウス月刊附録發行(十六頁)

奉天毎日新聞 奉天十間房第四區一〇一。明治四十年七月一日創立。個人。(朝、夕)八頁(主筆)橋本道。(營)尾本拾次郎。(政治)工藤信浩。(社會)藏

奉天新聞

奉天信濃町二三。大正六年九月一日創立。個人。四萬五千圓。(夕)四頁。(版數)一版。(部數)四千五百。(社長)佐藤善雄。(主筆)佐々木孝三郎(主筆)佐藤善雄。(編)小松理平(營)德善清臣。(政治)小松理平(社會)富田廣四。(廣告)笠井信一。(東京支局)松本七五郎。大阪支局)福井薫。(社員)十名。(平)二臺。字母あり。(活字)七半。十五字、百卅五行。十二段。一ヶ月一圓。(廣料)六十錢。

奉天日日新聞 (大陸日日新聞社ノ改題) (遼東新報經營) 奉天速浪通。明治四十一年十二月創立。五萬圓。(夕)四頁。(版數)一版。(部數)三千五百。(常務)吉野直治(遼東兼務)。(編)田原豊。(營)橋本田吉。(政治)經濟)田原豊。(廣告)中原一郎(東京支局)佐野親弘。(大阪支局)龜谷伴吉。(社員)四十名。(平)二臺。字母ステロ寫真版あり。

盛京時報

(漢字新聞) 奉天隅田町九。明治三十九年十月一日創立。株式。三十五萬圓。(朝)八頁。(社長)佐原篤介。(專務)染谷保藏。(主筆)須池貞二(編)大石智郎。(大阪支局)瀬戸保太郎(社員)一〇五人。(輪)マリノニ式一臺。東京機械製一。(平)三臺。字母ステロ寫真版あり。(活字)九ポ。十五字、一一三行十段。一ヶ月九十錢。(廣料)一圓。

北滿日報

長春中央通十九。明治四十二年一月一日創立。個人。五萬圓。(朝)四頁。(版數)一。(社長)箱田琢磨。(社主)同(主筆)泉廉治。(編)高橋勝藏。(營)針谷彌一郎。(廣告)本城久永。(社員)十人。(平)一臺。字母ステロ寫真版あり。(活字)九ポ。十三字、八十行、十二段。一ヶ月八十錢。(廣料)五十錢。

長春實業新聞 長春永樂町四ノ一。大正九年十二月十五日創立。合資。五萬圓。(夕)四頁(部數)千五百。(社長)柏原孝久

安東新報

安東縣五番通。明治三十九年十月十七日創立。個人。五萬圓。(朝)四頁。(社長)川俣篤。(社主)同。(編)西江靖(社員)三十名。(平)一臺。(活字)七・七五。十五字、百三十五行、十二段。一ヶ月九十錢。(廣料)七十錢。

開原新報 開原孫家臺。大正八年二月一日創立。個人(朝)四頁。(社長)山田民五郎。(編)城了。(平)一。十二字、五十行

撫順新報

撫順春日町二ノ三。大正十年四月三日創立。(夕)四頁。(社長)窪田利平。(平)二。十三字、四十行、七段。一ヶ月六十錢。(廣料)五十錢。

滿洲新報 營口市街南本街。明治四十一年二月十一日創立。個人。一萬二千圓。(朝)四頁。(部數)六千部。(社長)小川義和(主筆)同。(編)同。(營)同(平)ロール二臺。字母ステロあり。(活字)九半。十二字、百五行、十三段。一ヶ月八十錢。(廣料)七十錢。(兼營)一週一回旅順版發行。

鐵嶺時報

鐵嶺元町二丁目。明治四十四年八月一日創立。個人。一萬五千圓。(夕)四頁。(社長)西尾信。(平)二。(活字)七半。一ヶ月七十五錢。(廣料)三十錢

全國通信社一覽表

一、本表は東京、大阪、京都、神戸、名古屋及び横濱所在主要日刊通信の一覽表である。表の諸項目は一々各社ついて問合せたものであるが、中には締切期日までに回答を得なかつた爲め、手許の材料に

よつた分も多少ある。
 一、各社配列の順序は東京及び地方の二種に分ち、東京はイロハ順により、地方は不同である。
 一、各社の記述は大體次の順序による。(括弧内の文字はそれらの略稱)

記述の順序

通信名、發行社名(社名の記入なきものはすべて通信名と同一名の社から發行される場合)所在地、創立年月日、組織別、資本金額、政黨關係、通信種類(種類)、發行回数(發行)、社長、社主、事務、支配人、主幹、編輯長(編)、營業部長(營)、全社員數(社員)、支局數(支局)、契約新聞社數(契約)、特別設備(特設)、兼營業(兼營)、最近一年間の其社の記録的事件、事業其他。
 右以外の特殊事項も必要に應じて記入す。不用と認むるもの及び不明のものは記入せず。

一、東京

日本電報通信 麹町區八重洲町一。明治三十四年七月創立。株式。百萬元。(種類)政治、經濟、社會、其他一般。發行數同。(社長)光永星郎。(通信)上田碩三。(營)光永眞三。(支局)三十五。(特設)東京神岡間專用電話。(兼營)廣告取次業

日本通信 京橋區元數寄屋町一丁目二番地。明治二十三年創立。個人。五十萬元。(種類)內外政治、經濟、宗教、教育、文學其他。日刊。(社長)漆間眞學(社主)同。(事務)永野源一郎。(主幹)此經春也。(編)同。(營)水野源一郎。(社員)五十一名。(支局)二。(特設)一、兩者無言通信。二、秘密調査。(兼營)人物推薦紹介。

日本聯合通信 麹町區有樂町二丁目一番地。大正九年八月創立。個人。五萬元。日刊。(社長)樋口鐵六。(社主)同。(支配人)枚尾武雄。(編)久保田清松(營)平山茂。(社員)廿四名。(支局)二。(契約)貳百六十社。兼

營)代理部、印刷部、製版部。

日本演藝通信 牛込區水道町參拾貳。大正十二年十月創立。(種類)演劇、演藝、映畫、音樂其他。(發行)一回乃至二回。(部數)二〇〇。(社長)丸山耕。社主)同。(支配人)野村元基(編)同。(社員)十五名。(支局)三。(契約)市内有力新聞全部。(特設)演藝興信。(兼營)著述、出版。

日本婦女通信 牛込區市ヶ谷田町三。明治三十七年十一月創立。(發行)一回以上。(部數)七十八。(社長)佐藤順臣。(社長)同。(編)石井彰。(營)池田實。(社員)五八。(契約)國民外東朝、東日、時事、報知十三新聞社。(兼營)出版、(記録的事件)富山縣自發婦救濟(林伯時夫人)問題。高等女子教育促進問題。英國此族令嬢日本菜道研究。大日本聯合女子青年團の設立。勸業獎勵婦人委員會と愛國預金。東京女高師紛擾問題等を通信す。

日本實業興信所報 京橋區北紺屋町二。明治三十九年五月創立。合名。拾萬元。(種類)

諸官衙事務及經濟事務報道並土木建築事業通信。日刊。(社長)清水留吉。(社主)同。(事務)清水留吉。(支配人)關國男。(主幹)清水留吉。(編)主幹兼(營)土谷直吉。(社員)四十五人。(支局)十四。(契約)四。(特設)地方行政遊說部、社會事業計畫部、出版部。(兼營)週刊經濟週報、日刊建築工材雜誌。

日刊中央通信 京橋區宗十郎町十七番地。明治四十五年三月創立。匿名。(種類)政治經濟其他一般。(發行)三回。(社長)布屋徹吉。(社主)福澤義男(主幹)井上明夫。(編)同。(營)安田彦三郎。(社員)十五名。(支局)七。(契約)三十五社。(特設)教育資料活動寫真器及出張攝影設備。(兼營)圖書出版、其他社會事業、新聞廣告代理(記録的事件)講演會開催、新年特別原稿通信。

日刊英文通信 京橋區山下町一番地。明治三十九年九月創立。個人。(發行)一回乃至三回(社主)望月清矣。(社長)同。(主幹)村上猶太郎。(營)堀水茂。(社員)十八名。(種類)英文外交

政治經濟、其他一般。(編)石橋元一。(兼營)活版印刷業、出版業。月刊雜誌。英文ゼジヤパンヲキナンシヤル、エンド、エコノミツク、モンスリー發行。

日刊寫眞通信 寫眞通信社發行。京橋區出雲町二六。明治三十八年創立。合名。(通信)政治經濟一般及寫眞通信。(社長)福澤七五郎。

東方通信 京橋區日吉町二五。大正四年創立。(種類)政治、外交、經濟其他一般ニユース(發行)數回。(社主)座間勝平。(主幹)同。(通)鈴木長治郎。(整理)川浪道三。(理事)大竹博吉(社員)三十七名。(支社)六。契約)百十五。

東洋公益通信 京橋區西紺屋町五。大正七年六月創立。壹萬圓。(種類)政治、經濟。(發行)隔日。五六百部内外。(社長)古谷慶作。(事務)江野澤恒(支配人)古谷國太郎。(主幹)渡邊長敏。(編)城谷獸。(營)江野澤恒。(社員)貳十五名。(支局)一。(契約)四百餘。(特設)外國通信部。(兼營)信用調査、秘密探偵、外債仲立及各新聞社廣告

仲介。

東京通信 麹町區丸ノ内永樂町一。明治廿一年三月創立。合資。九萬元。(種類)政治、經濟、社會。(社長)山口恒太郎。(事務)佐藤藤一。(編)日隈曠。(事業)北川吉次。(紙型通信部長)逸見義亮。(社員)二十八人(兼營)廣告代理業。

東京演藝通信 神田區駿河臺鈴木町。大正四年創立。個人壹萬圓。(種類)演藝、映畫、音樂、紙型、寫眞。(發行)一日一回以上。(社長)桑野桃華。(編)井口政治。(營)宮坂次郎。(社員)十七人。(支局)一。(契約)東京市内全部、地方三十五社。(兼營)旬刊新聞發行、廣告代理業。昭和六年四月から旬刊新聞「東京演藝通信」を映畫、音樂、演藝方面の機關として發行す、目下の部數一萬、主幹加藤長江

東京米穀商品取引所公報 東京米穀商品取引所發行。日本橋區豐洲町一ノ二。大正十一年十二月六日創立。(社長)指田義雄。

東京米報 深川區佐賀町一ノ五五。明治十九年十月創立。組

合。六千圓。(種類)米穀。日刊(部數)四千部。(社長)梅原保。(主幹)同。(編)市野富藏。(社員)二。(契約)市内各社。(兼營)印刷。

豐國通信 京橋區南佐木町六。明治二十二年二月。個人。十五萬圓。(發行)一回。(社長)谷口新造。(社主)同。(編)中村耕造(營)神林博藏。(社員)三十五名(兼營)廣告代理業。

千代田通信 麹町區永田町一丁目三十番地。大正二年四月創立。個人。六萬圓。(種類)宮内省、樞密院、陸海軍、其他。每日五六回。(社長)井原頼明。(顧問)辰巳豐吉。(編)井原頼明(營)坂本久吉。(社員)三十五名(支局)京都、大阪、神戸、札幌(契約)百八十五社。(特設)緊急記事電話部、(兼營)全國新聞雜誌廣告取扱。(特殊記事)聖上親ら御田植、聖上震災記念の未曾有の御計劃、聖上親しく稻の御刈入れ。其他宮廷特殊記事。

晝夜通信 京橋區館屋町一番地。大正六年九月。十萬圓。(種類)社會部、政治、經濟。(發行)四回。(部數)百廿部。(專

務)植村嘉三郎。(主幹)同(編)村田靜。(營)植村嘉三郎。(社員)四十三。(支局)六。(契約)東京市内日刊新聞全部及び地方十五社。(兼營)新聞雜誌、廣告取次及出版業。

朝野通信 麹町區內幸町一ノ五。明治卅九年二月創立。(種類)政治財政。(發行)三回。(社主)土居貞彌。(編)古川仲太郎(社員)八名。

よろづ通信 京橋區西紺屋町三。大正九年四月一日創立。個人。(種類)社會部。(社長)高橋徳之助。(社員)十五名。(兼營)廣告代理業。

大日本通信 芝區今入町一〇。大正六年十一月創立。十萬圓。(種類)政治、經濟、教育萬般。(發行)四回。(社長)多田滿長。(社主)同。(主幹)八田泰輔(編)豊田直道。(營)多田實。(社員)二十一。(兼營)廣告取次印刷部。本年七月五日より青年訓練新聞を發行す。

聯合通信 日本新聞聯合社發行。麹町區內幸町一ノ五。大正十五年五月創立。新聞組合。(種類)内外政治經濟商業社會運動

其他の事項。(發行) 日刊。(專務理事) 岩永裕吉。(顧問) 伊達源一郎。(東部總支配人) 古野伊之助。(西部總支配人) 東川嘉一。(庶) 石井清太。(會) 石部幸次。(營) 折橋慶治。(社員) 三〇〇。(支局) 二五。(契約) 五〇社。特設) 特殊の市内専用電話。昭和二年五月一日より全國地方新聞に直接通信供給開始。聯合社獨特の裝置より成る市内専用直通電話十數本の架設を見、中央ユースの蒐集積布四一新紀元を劃せり。

内外通信 博報堂發行。神戸區錦町三ノ九。創立後三十二年。株式。五十萬圓。(種類) 政治經濟其他。(社長) 瀧木博尚。(專務) 四條昭信。(支配人) 同。兼營) 廣告代理業。

内外調査通信 總町區錦町八丁目十二番地。明治三十七年六月。匿名組合。一萬圓。日刊。(社長) 關安之助。

國際映畫通信 京橋區銀座二ノ四。大正十三年十月十一日創立。匿名。二萬五千圓。映畫及演藝。(發行) 日刊。(社主) 市川彰。(專務理事) 同。

國民通信 東京市外巢鴨町上駒込。大正十五年十二月創立。個人。(社長) 新井親一郎。(主幹) 土生太郎。(營) 岡本博。支局) 百三十五。(兼營) 小説講談供給、製版、印刷、圖書出版。

帝國通信 京橋區南鍋町一ノ一。明治廿四年創立。株式。五十萬圓。民政黨。(種類) 内外各種通信及新聞通信。(發行) 十二回。(社長) 富田幸次郎。(專務) 松井鐵夫。(通) 宮木昌常。(廣) 廣井卓。(社員) 五百名。(支局) 三十五。(契約) 三百二十社。(兼營) 廣告取次業。(記録的事件) 帝國海外通信網の確立、產業立國史の編纂(中)。

帝國興信日報 帝國興信所發行。京橋區南八丁堀一丁目九及十番地。明治三十三年三月創立。株式。五十萬圓。(種類) 商業に關する一斑及法廷事項。(發行) 日刊。(部數) 七萬部。(社長) 後藤武夫。(社主) 同。(編輯) 神村常太郎。(營) 藤田守一。(社員) 九百二十五名。(支局) 五十五。

亞細亞通信 京橋區南鍋町二ノ三。明治四十四年創立。個人。

人。(種類) 記事通信、寫真通信(發行) 一回。(社長) 辻村與三郎(支配人) 湊啓五郎。(編輯) 浦田關太郎。(社員) 六十人。(特設) 寫真、製版、印刷。(兼營) 寫真製版印刷。

帝國通信 總町區内幸町一丁目五番地。大正二年十月創立。個人。一萬圓。(種類) 内閣、宮内省其他官廳事項並人事一般。(發行) 四回又五回。(部數) 約一百部。(社長) 吉田文外。(社主) 同。(編輯) 中井晴。(營) 社長兼任(社員) 十名。(契約) 二十一社。

旭通信 芝罘平町二。大正十三年四月創立。個人。(種類) 政治、經濟、社會部。(發行) 二便(部數) 百五十餘。(社長) 福田實甫。(社員) 十八名。(支局) 三。(契約) 二十三社。

共同通信 芝罘日陰町二ノ一。大正十五年十月創立。個人。種類) 政治、經濟、社會、美術其他全般。(發行) 二便外電話急報(社長) 中村實首。(編輯) 同。(社員) 十五名。(支局) 三。(特設) 美術部寫真通信吾國最初の臨時特派記者の供給機關。(兼營) 廣告代理業、集會運動會演說會等

の設備。

明治通信 麻布區霞町四。明治三十三年創立。個人。(種類) 軍事、外交其他一般。(社長) 綾部勉。

自由通信 京橋區新着町一。明治三十六年二月創立。政友會機關。(種類) 主として政治經濟(社長) 小高長三郎。(相談役) 小久保喜七、金子貞治。(主幹) 岡田巽。(編輯) 石崎徒司。(營) 大森國爲。(社員) 六十二名。(支局) 二。(契約) 東京地方百十餘。(特設) 印刷。(兼營) 印刷、新聞廣告、出版。

新聞通信 總町區有樂町三ノ一。日比谷五番館。昭和二年創立(社長) 磯部三郎。

新聞研究所報 新聞研究所發行。京橋區南鍋町二ノ五。大正九年九月創立。個人。(種類) 新聞關係事項を中心として其他一般。(發行) 日刊。(所長) 永代靜雄。(社主) 同。(主幹) 用藤穗(理事) 村松吉太郎。(編輯) 中村勝治。(調査部長) 氏家司治。(社員) 十八。(支局) 一。(契約) 全國主要新聞通信廣告代理業者及廣告主其他。(兼營) 宣傳顧問局

隔週刊「新聞及新聞記者」供給部、廣告代理事務其他。(記録的事業) 昭和二年四月我國最初の新聞學校「日本新聞學院」を創立し管理す。

政治經濟通信 芝罘琴平町二。大正十三年二月創立。個人。民政黨系。(種類) 政治、經濟其他。(發行) 市内數回地方一回。(社長) 社主・主幹 里見謹吾。副(通) 岩切登。(廣) 前橋秋生。社員) 三十一名。(支局) 五十八。(契約) 百六十五社。(兼營) 月刊雜誌「政治經濟」新聞雜誌の廣告取次。

十二年二月創立。個人。一萬圓(種類) 政治、經濟。日刊。(部數) 三百八十五。(社長) 伊藤浩逸。(社主) 同。(編輯) 久保田清。(社員) 七。(支局) 二。(契約) 五三。(兼營) 英文事業。

大阪帝國通信 帝國通信社の分身。大阪市北堂島濱通一ノ二八。昭和二年六月二十五日創立。株式。五十萬圓。(全額拂込) 民政黨。(種類) 政治經濟社會、文學、商況其他新聞紙法によるもの。(發行) 八回。(社長) 富田幸四郎。(專務) 松井鐵夫。(通信部) 西川政義。(營) 堀口武仁。(社員) 百名。(支局) 十八。(契約) 百二十位。(兼營) 廣告取次業。

信(發行) 三回。(部數) 五十四。(社長) 八木敏一。(社主) 同。主幹) 鳴海喜一郎。(編輯) 主幹兼務(社員) 二十四名。(支局) 二ヶ所(契約) 三十九社。

京都通信 京都市三條通東洞院中入。明治二十五年二月二十五日創立。(社長) 後川文藏。

神戸新聞通信 神戸市榮町六丁目二一。大正五年四月創立。個人。十萬圓。(種類) 社會政治、經濟。一日四回。(部數) 一〇百部。(社長) 本郷直彦。(社主) 同。(主幹) 大塚銀次郎。(社員) 十六名。(契約) 二十三社。

人。政友系。(種類) 政治、經濟、宗教、教育、社會、學藝其他。日刊。(社長) 小田莊二。(編輯) 青木龍之助。(營) 阿諏訪新吉。(社員) 三十八名。(支局) 十七。(兼營) 廣告代理業。

名古屋通信 名古屋市中區榮町。(種類) 政治、經濟、社會部、各務原飛行通信。(編輯) 都筑啓文。

共同通信 名古屋市中區矢張町四切。(社長) 松原繁吉。(兼營) 廣告代理業。

商通時報 (商業通信社) 名古屋支局發行。名古屋市中區米屋町二。大正八年八月創立。株式。十萬圓。(種類) 政治、經濟其他一般。(社長) 林松次郎。(專務) 安田美信。(支配人) 水谷友吉。(主幹) 北岡三郎。(編輯) 大野昇。(營) 大野二。

大阪電報通信 (日本電報通信社の分身) 大阪市北區中ノ島三丁目二番地。明治三十九年四月創立。株式。百萬圓(社長) 能島進。(通信) 堀利勝。(營) 杉森與平治。(特設) 寫真、凸版製版。(兼營) 廣告代理業。

大阪共同通信 大阪市東區區平林町千二百廿五番地。大正

帝國興信日報 (帝國興信所經營) 大阪市西區江戶堀一丁目。明治三十三年三月創立。株式。(種類) 商工に關する一般及法廷事項。(發行) 日刊。(社長) 後藤武雄。(編輯) 岡田篤尚。(營) 占部卯太郎。

京 都

中外通信 京都市島九二條南大正十二年二月五日創立。個人(種類) 電話、電報通信及印刷通

日本電報 (日本電報通信社名古屋支局) 名古屋市中區朝日町四丁目四番地。明治三十九年四月創立。株式。百萬圓(種類) 政治、經濟、社會一般。(社長) 光永星郎。(編輯) 古川清一郎。(社員) 二十名。(契約) 中部日本、樞要地に於ける各新聞。(特設) 東京福岡直通専用電話經由。東京福岡間直通専用電話經由。

愛知通信 名古屋市中區石町三丁目。大正十年三月創立。個

横濱通信 横濱市太田町五丁目八十九。明治三十年十月創立。合資。三萬圓。(種類) 一般通信(社長) 日比野清。(編輯) 沖野小志馬。(營) 福井鬼重。

横濱内外通信 横濱市常盤町三丁目三十四。大正五年十一

月十一日創立。
京濱通信 横浜市榎木町六ノ
三四。大正十三年四月創立。個
人。(種類)各種。日刊。(社長)

廣告代理業一覽表

一、本表は東京、大阪、京都及び他の地方に於ける主要廣告代理業
者の一覽表である。表の諸項目は一々各社について問合せたもので
あるが、中には締切期日までに回答を得なかつた爲め、手許の材料
によつた分も多少はある。
一、各社配列の順序は東京及び地方の二種に分ち、東京はイロハ順、
地方は不同である。
一、各社の記述は大體次の順による。(括弧内の文字は夫々の略稱)

記述の順序

代理業者名、所在地、創立年月日、組織、資本金額、社長、社主
事務、支配人、主幹、營業部長(營)、廣告部長(廣)、全社員數(社
員)、支局數、主要取扱廣告種目(廣告種目)、主要得意名と得意數
(得意)、一年取扱總行數(總行數)、主要取引新聞名(取引新聞)、特
別設備(特設)、兼營業業(兼營)、最近一年間の記録的事件、事業
其他。

右以外の特殊事項も必要に應じて記入す。不明と認むるもの及び不
明のものは記入せず。

一、東京

五十嵐商店 日本橋區龜島
町一ノ八〇。大正元年十月創立

個人。(社長)五十嵐岩夫。(幹
部)井上政吉、坂本清隆。(兼
營)宣傳用品の提供。
博報堂 神田區錦町三ノ九。
明治二十八年十月創立。株式。

日本電報通信社 龜町區
八重洲町一ノ一。明治三十四年
七月創立。株式。百萬元。(社
長)光永星郎。(營)光永眞三。
(支局)三十五。(特設)印刷部、
寫真部、廣告行數統計部。(兼
營)日刊通信。

日本弘業通信社 京橋區
新町一。社主與田利作。
日進通信社 京橋區桶町十
個人。(社主)丸山進三郎。(廣
告種目)寶藥。(得意)福井商會
玉置合名會社、津村啓天堂、津
村順天堂、大木合名會社、竹内
商店、矢谷商店、師岡天然堂、
松浦商店、巴商會等。(取引新
聞)全報。

豐國通信社 京橋區南佐柄木
町六。明治廿二年二月創立。個
人。十五萬元。(社長)谷口新造
(社主)同。(營業)神林増治。(社
員)卅五名。(廣告種目)新聞廣
告、諸雜誌。(得意)得意數百五
十。(取引新聞)東京、大阪並地
方全報。

東洋公益通信社 京橋西
紺屋町五。大正六年六月創立。
個人。二萬元。(社長)古谷慶作
(事務)古谷國太郎。(主幹)江野

五拾萬元。(社長)瀨木博尚。(專
務)四條照信。(社員)五十四名
(廣告種目)圖書。(總行數)一千
五百萬行。(兼營)日刊通信。
博進社 龜町區內幸町一ノ六
第三東鳴クラブ内。(社長)加藤
健次郎。(廣告種目)通信販賣、
其他。

博生堂 京橋區南紺屋町十一
明治三十年創立。個人。五萬元
(社主)佐藤春通。(支配人)青木
政吉。(廣告種目)機械、雜。
八報社 京橋區西紺屋町六。
(社主)廣川八郎。(廣告種目)案
内廣告。

萬歲社 本郷區元町一ノ八。
大正四年十一月創立。(社主)佐
藤四一郎。(廣告種目)書籍其他
日本通信社 東橋區元數寄
屋町一ノ二。明治二十二年創立
個人。五十萬元。(社長)漆間眞
學。(主幹)此經春也。(營)水野
源一郎。(廣告)同。(社員)五十
三名。(支局)二。(廣告種目)各
銀行、會社、商店等各官廳。得
意)二百七十餘。(取引新聞)內
外主要新聞。(特設)一、兩者無
言通信。二、秘密調査。(兼營)
人物推薦紹介。日刊通信。

大同通信社 京橋區南佐柄
木町三。大正十四年一月創立。
(社主)川村源市。(取引新聞)東
西全新聞社。

上田三交社 龜町區有樂町
二ノ二。(社長)上田龜吉。(廣
告種目)書籍骨董。

國交通信社 京橋北極町一
大正九年五月創立。(社主)馬淵
豐吉。(廣告種目)演藝、其他。
(特設)寫眞廣告に關する設備。

萬年社東京支店 京橋區
銀座二丁目。(支店長)中川秀吉

京華社東京支店 丸之内
三號廿一號。明治三十三年一
月廿四日創立。(社長)後川文藏
(事務兼支店長)佐藤民治。(常
務兼營業)藤本出時。

弘報堂 京橋區元數寄屋町。
明治十九年創立。二十萬元。(社
長)江藤基三郎。(營)堀田善太
郎。(社員)四十名。(廣告種目)
銀行會社。(得意)鐘紡、博文館
勸業銀行其他多數。(總行數)不
詳。(取引新聞)全國、朝鮮、樺

太、滿洲、臺灣其他。
廣告堂 京橋區元數寄屋町一
九。(社長)佐藤好信。(廣告種
目)案内、其他。

廣告社 京橋區南鍋町一丁目
。明治二十一年四月十五日創
立。個人。(社長)湯澤精司。(專
務)湯澤清。(支配人)渡邊久二
郎。(主幹)齊藤德秋。(營)湯澤
清。(社員)四十餘名。(廣告種
目)銀行、會社、其他。(得意)
三井、橫濱正金、第一、安田各
銀行。東電、東京瓦斯、日本郵
船、日本運送、日本製氷各會社
三共、三越、甲斐齋各商店、其
他四百有餘。(兼營)日刊日本經
濟通信發行。

廣報通信社 京橋區南紺屋町
十九。明治四十年創立。個人。
(社長)長瀬伸三郎。(社員)五。
(廣告種目)商店物と醫院。(取引
新聞)全國。(兼營)圖書出版。

告天社 龜町區內幸町二ノ三
ダイヤモンド社内。(社長)宮永
良太郎。(廣告種目)株、食料品
等。(得意)カルピス、國分等。

國民通信社 京橋區五郎兵
衛町一。昭和二年創立。(社長)
平田徳右衛門。

瀧恒。(營)福富幸三郎。(廣告)
同。(社員)三十名。(支局)一ヶ
所。(廣告種目)各種。(得意)二
百餘軒。(總行數)二十萬行餘。
(取引新聞)東京及ビ全國新聞。
(特設)通信部と同じ。(兼營)出
版業及び各劇場プログラム廣告
日刊通信。

東亞通信社 京橋區南鍋町
二ノ四。(社長)瀧訓良。(廣告
種目)一般。

東京通信社 龜町區有樂町
一ノ一。明治二十年三月創立。
合資會社。九萬元。(社長)山口
恒太郎。(事務)佐藤藤一。(廣
告)笠原春夫。(社員)二十八。
(廣告種目)會社銀行、官署。(得
意)日本銀行、日本興業銀行、
三井銀行外二百五十所。(總行
數)四百六十萬行。(取引新聞)
日本全土、支那、北米合衆國計
約六百社。(特設)廣告相談部。

東京演藝通信社 神田區
駿河臺鈴木町七。大正十年七月
二十三日創立。個人。(社長)桑
野正夫。(社主)同(社員)十七名
(支局)一。(廣告種目)演藝方面
の物。(兼營)日刊通信。興業に

關する一般の相談。
大河組 京橋區弓町十。(社
主)大和田普造。(廣告種目)活
動寫眞。

折込廣告社 龜町區有樂町
一ノ四。大正七年七月三十日創
立。(社主)東庄吉。(主幹)宇野
三郎。(營)早津辰雄。

確報堂 芝區南佐久間町二ノ
一八。(社主)上山銳彦。(廣告
種目)寶藥及聯合廣告。

よろづ通信社 京橋區西紺
屋町三。大正九年四月一日創立
個人。(社長)高橋鐵之助。(廣
告種目)遊覽、案内廣告其他。(廣
告)花やしき其他。(特設)廣
告文案並に意匠係。(兼營)日刊
通信。

大日本通信社 芝區今入町
十。大正六年十二月創立。個人
十五萬元。(社長)多田滿長。(社
主)同。(主幹)八田泰輔。(營)
緒方廣告。(廣告)多出賣。(廣告
種目)一般。(兼營)印刷事業。
日刊通信。

太平洋廣告取扱社 京橋
區山下町十八。(社長)比、夕

帝國通信社 京橋區南鍋町一〇。明治廿四年創立。株式。五十萬圓。(社長)富田幸次郎。(專務)松井鐵夫。(廣告)廣井卓。(社員)五百名。(支局)三十五。(廣告種目)内外廣告各種(取引新聞)全國中央地方新聞及雜誌。(兼營)日刊通信。

愛國通信社 龜町區内幸町一ノ五。大正二年十月三十一日創立。(社長)吉田文外。(廣告種目)宮内省關係、華族關係。(兼營)日刊通信。

三芳社 神田區堅大工町三。(社長)柏谷芳之助。(廣告種目)案内其他。

二誠社 神田區小川町内。(社長)松村卓爾。(廣告種目)書籍(取引新聞)主として地方紙。

金蘭社 神田區錦町二ノ三。(社長)笠間平右衛門。(廣告種目)書籍、學校等。

明通社 芝區新櫻田町。明治四十四年九月創立。個人。(社長)福浦專二。(社主)同。(支配人)田中常人。(社員)四。(支局)二。(廣告種目)機械、材木、醫事、飲料、家具、學校其他雜件。(取引新聞)時事、朝日、日

日、中外、讀賣、毎夕、都其他新聞約六十社。(兼營)北門日報支局、樺太民友新聞支局。

明信社 芝區芝口二ノ一八。大正八年四月一日創立。合資。三萬圓。(代表社員)井上信吉。(社員)十數名。(廣告種目)活動寫眞、雜。

自由通信社 明治三十二年二月。個人。(社長)小高長三郎(主幹)岡田巽。(廣告)金子録郎(社員)六十二名。(得意)日本銀行、興業銀行、勸業銀行、外百五十餘。(取引新聞)東京地方、百十餘種。(兼營)立憲政友會史出版事業、印刷。日刊通信。

正路喜社 京橋區宗十郎町十七。明治廿年創立。株式。五十萬圓。(社長)布屋徹吉。(年番幹事)安田彦三郎、黒崎雅雄。(廣告種目)飲料品、雜品其他一般。(取引新聞)主として東京、大阪、地方紙あり。

新聞研究所 京橋區南鍋町二ノ五。大正九年九月創立。個人。(所長)永代輝雄。(社主)同(主幹)光用。理事)村松吉太郎。(社員)十八名。(支局)一。(廣告種目)雜。

二 地方

(得意)新廣告主の開拓。(取引新聞)各紙。

(特設)文案圖案製作。調査部。(兼營)日刊通信、隔週雜誌、出版宣傳顧問局。

世民社 小石川八代町三十三。明治四十三年十月創立。個人。(社長)吉川守邦。(社員)四名。(廣告種目)案内廣告。(得意)電話貸金、古本、土地家屋、産婆看護婦等、得意數約三百。(取引新聞)主として東京市内發行日刊新聞。(兼營)雜誌勞働新聞。

全國新聞通信社 京橋區宗十郎町三。昭和二年創立。(社長)平野義信。

大阪

萬年社 大阪市東區高麗橋五丁目。明治二十三年六月一日。株式。一百萬圓。(社長)高木貞衛。(營)中川謙三。(社員)百八十五名。(支店)二。(廣告種目)新聞廣告。(特設)寫眞凸版、紙型、鉛版、印刷等。(兼營)火災保險代理業。

旭日廣告株式會社 大阪

市瓦町三丁目。大正十三年四月個人經營旭廣告社の組織を變更株式。五十萬圓。(社長)奥野幾次郎。(專務)西池末彦。(營)專務兼務。(社員)四十名。(廣告種目)全般。(得意)三百二十餘(取引新聞)全國新聞。

傲蟻社 大阪市西區京町堀三丁目十二。(社主)金子曾次郎。(社員)十五名。

金水堂 大阪市東區平野町二丁目。明治二十八年五月五日創立。個人。(社主)桐井建造。(支配人)土川末次郎。

大阪電報通信社 (日本電報通信社の分身)大阪市北區中ノ島三丁目二。明治三十九年四月創立。株式。百萬圓。(社長)能島進。(營)杉森與平治。(特設)寫眞、凸版製版。(兼營)日刊通信。

大阪帝國通信社 (帝國通信社の分身)大阪市北區堂島濱通一ノ二八。昭和二年六月二十五日。株式。五十萬圓(全額拂込)。(社長)富田幸次郎。(專務)松井鐵夫。(營)堀口武仁。(社員)百名。(支局)十八。(兼營)日刊通信。

京華社大阪支店 大阪市東區北濱四丁目心齋橋筋。明治三十四年一月二十七日創立。(支店長)竹内篤志。

日本弘業通信社大阪支店 大阪市北區曾根上四丁目二〇七。(支店長)横藤三三。

第一廣告社 大阪市東區今樞二丁目。大正十三年秋創立。(社長)岡田辰次郎。(廣告種目)主として聯合。(取引新聞)報知及大阪地方五十餘紙。

新興社 大阪市北區堂島中一丁目十八。(社長)倉光。

東洋社 大阪市西區マツザ上通三丁目。(社長)平山米藏。

日本電報通信社大阪支店 大阪電報通信社内。

京都

京華社 京都市三條通烏丸東入。昭和二年十二月一日創立。株式。五十萬圓。(社長)後川文藏。(專務)佐藤民治、竹内篤志藤本田時、後川晴之助。(監査役)大澤徳太郎、脇田末次郎。(支店)東京、大阪、名古屋、神戸。(得意)三千餘。(取引新聞)内外新聞雜誌六百餘種。(特設)意匠部。(事業)大正十五年三月

より十二月迄、營業取締役竹内篤志、同後川晴之助を新聞及廣告界事情觀察のため歐米各國へ派遣せり。京華社、パンフレット出版。

萬年社京都支店 京都市堺町通三條。(支店長)中川謙三

神戶

文信社 神戶市元町六丁目。大正五年創立。個人。(社主)文谷利恭。(營)土木功。(社員)四人。(總行數)約三十六萬行。

勉強社 神戶市榮町五丁目。明治二十七年創立。(社長)向井長兵衛。(社主)同。(支配人)白紙源四郎。

東洋廣告取次會社 神戶市元居留地前六B。(社長)デ・エム・ヤング。三宅倉太郎。

太陽廣告社 神戶市相生町二丁目五。大正十一年五月創立。合資。三萬圓。(社長)竹中清。

京華社神戸支店 神戸市榮町五丁目。明治三十六年九月十一日創立。(支店長)西村留雄

名古屋

愛知通信社 名古屋市中區石町三丁目。大正十年三月一日個人。(社長)小田莊二。(營)阿

諏訪新吉。(廣告)水野正兼。(社員)三十八名。(支局)十七。(廣告種目)銀行、會社、官廳其他

名古屋通信社 名古屋市中區區榮町。明治二十年一月創立。個人。(社長)長谷川百太郎。(社主)後藤忠弘。(營)田端才二。(廣告)川本善雄。(社員)三十一名。(支局)一(兼營)信用調査業。

日本電報通信社名古屋支局 名古屋市中區朝日町四丁目四番地。明治三十九年四月創立。株式。壹百萬圓。(社長)光永星郎。(支局長)山口普英。(外勤主任)佐藤外一。(内勤主任)廣江秀次郎。(社員)二十名。廣告種目)全國新聞雜誌官報。(特設)東京、福岡間直通專用電話經由。(兼營)通信供給。(記錄的事業)大正十五年十一月支局創設廿周年記念として、名古屋市會社商店員廿年勤績表彰會

二、記念大講演會(德富蘇峯氏外數名講演)三、月刊「日本電報通信」記念特別號刊行の三大事業を遂行す。

京華社名古屋支店 名古屋市中區屋市廣小路住友ビルディング内。明治三十一年五月十八日創立。(支店長)井上忠次。

中京通信社 名古屋市中區新榮町。(社長)水野日出夫。

共同通信社 名古屋市中區矢揚町。大正七年十月十五日創立。(社長)松原繁吉。(兼營)日刊通信。

毎日通信社 名古屋市中區松元町二丁目。(社長)伊藤茂太郎。

福岡

入江廣告社 福岡市博多行町。(社長)入江八十八。

川丈廣告部 福岡市博多東中洲町。(社長)長尾寅吉。

在東京地方新聞社支局一覽

次は昭和二年十一月現在全國地方新聞社の東京支局一覽表である。配列の順は地方別にもイロハ順にもよらず不同。

福井新聞	芝	五二四	渡邊 利正
福井毎日新聞	京橋區元數寄屋町二ノ二	銀 二五四五	渡邊庄次郎
京都日々新聞	京橋區銀座一ノ二	銀 五三三〇	酒井 鎌吉
神戸新聞	小石川區菅羽町八ノ三	牛 二一六六	梅本 締吉
德島日々新聞	小石川區大塚窪町二四	小 七八一三	塚脇 十三
東亞日報			
四國民報			
青島新聞	芝區二本榎西町	高 五九五八	松本七五郎
大連新聞	(出張所京橋區丸屋町五)	銀 四五二〇	
盛京時報			
奉天新聞	府下瀧ノ川中里一三〇		林 省三
香川新聞	京橋區築地一ノ七	京 五二四九	飛鳥江亮智
沖繩タイムス	神田區今川小路一ノ四	九段一五五六	田村 毎之
海南新聞	龜町區平河町四ノ一三		酒井 謙吉
伊豫新聞	下谷區中根岸四〇		井手 照人
長崎新聞	京橋區宗十郎町榎本ビル		渡邊庄太郎
伊豫日々新聞	京橋區元數寄屋町一ノ二	銀 五五二	樋口 寅正
南豫時事新聞	府下千駄ヶ谷町九〇二	四谷二五三一	栗尾 結城
土陽新聞	丸ノ内仲通九號館	牛込 七〇七	五味 秀也
高知新聞	獨逸貿易商會内		松村 卓爾
因伯時報	四谷區左門町五五		神原 啓一
鳥取新聞	赤坂區青山町五ノ九二	青 二八二〇	市來 政直
松陽新聞	(出張所京橋區丸屋町五)	銀 四五二〇	藤田 治一
九州日々新聞	走坂區丹後町三		藤田 治一
鹿兒島新聞	神田區西紅梅町二二	神 三四四〇	戸田長次郎
中國民報			
岡山新聞	四谷區荒木町九	四谷 六五九	
函館日々新聞			

山陽日々新聞	龜町區元園區一ノ一九	京 五六	水野爲次郎
中國新聞	京茶區築地一ノ六	青 二八四二	飛鳥江亮智
備前日々新聞	芝區南佐久町二ノ一七	高 四四一〇	大山 菊雄
吳日々新聞	芝區白金三光町九六	銀 四五一〇	櫻井 鏡藏
廣島日々新聞	(出張所京橋區丸屋町五)	高 四二二〇	河野馬喜佐
關門日々新聞	芝區白金三光町一ノ三五	青 六〇五七	篠木 桑藏
馬關日々新聞	麻布區谷町五七		山田壽惠吉
宇部日々新聞	市外上目黒五九四		
軍港よろづ			
福岡日々新聞	丸ノ内仲通十號館	牛 三〇三三	光永 眞三
九州日報	京橋區宗十郎町一〇	銀 二〇三三	内出好之輔
門司新聞	京橋區弓一	京 四二六二	船戸 岩男
函館時事新聞			
長崎日々新聞	芝區琴平町	芝 二二七〇	里見 謙吾
九州新聞	下谷區櫻木町三九	下 五一〇七	栗田貞一郎
日州新聞	龜町區内幸町一ノ二	銀 四五八七	江口堂太郎
宮崎日々新聞	京橋區元數寄屋町一ノ二	銀 二〇九八	西村 藤夫
豐州新聞			
宮崎日報	芝區新櫻田町一九		松浦 清平
大分新聞			
鹿兒島朝日	京橋區銀座三ノ一八	京 五三六四	河内 時申
大分日々新聞	龜町區飯田町六ノ二四	四谷七四一七	姫野 徳一
北海タイムス	京橋區宗十郎町二二	銀 三五八	中堀 末吉
小樽新聞	芝區櫻川町一七	青 六八四四	本田 龍
北門日報	芝區新櫻田町一九	銀 三八三五	福浦 專二
樺太民友新聞	京橋區木挽町四ノ七	銀 三五五五	古川 岩雄
函館日々新聞	赤坂區青山町南町六ノ七		北村 温平
函館新聞	四谷區傳馬町一ノ三〇	四谷四八一七	小松百太郎
旭川新聞			

在阪全國新聞支局聯盟支局全覽表

北海新聞	芝區新櫻田町一九	銀 三七七〇	堂島松太郎
十勝日々新聞			
釧路新聞			
根室日報			
青森每日	府下田端町一〇六		原田 柳三
十勝日々新聞			
弘前新聞			
樺太日々新聞	京橋區丸屋町五	青 五七三二	鈴木繁次郎
樺太時事新聞	青山高樹町二〇	四谷四三五〇	古川文次郎
臺灣日々新聞	京橋區京橋區銀座一ノ九	京 一四九	秋元 政司
臺灣新聞	四谷區元町五九	四谷二七七〇	徳富 迪
京城日報	丸ノ内仲通三號館	大 一二〇六	佐藤 巖
每日新聞	赤坂區傳馬町三ノ一八	青 一三〇六	河野 碩平
朝鮮新聞	龜町有樂町日比谷五番館	銀 二九六一	高貞 貞雄
朝鮮日々新聞	府下中澁谷五七二		木村松之助
釜山日報	四谷區舟町二八	四谷二七三〇	堀 克己
朝鮮民報	牛込區神樂町一ノ一	牛 一〇八〇	今井 淺南
元山每日新聞	神田區五軒町一四		山本 政吉
滿洲日報	京橋區宗十郎町一	銀 三四七〇	關谷 直彌
泰東日報	下目黒六七八		齋藤 松三
奉天每日新聞	丸ノ内仲通十號館	牛 二九八三	日本電報通信社
順天時報			
南洋日々新聞	龜町區飯田町六ノ二四	京 九三三二	湖西 誠一
布哇報知			

高知新聞	西區京町堀通丁目一ノ一	土 三三五八	井上 環
信濃日々新聞	西區京町堀通丁目一ノ二	土 五八八〇	井上 敏行
新潟新聞	西區京町堀通丁目一ノ三	土 七四二	入貝 良郎
臺灣日々新聞	西區京町堀通丁目一ノ四	土 四九〇四	石橋文三郎
九州日々新聞			
山陽新聞	此花區上福島南丁目七	土 四九〇四	石橋文三郎
鹿兒島新聞			
松陽新聞			
神戸又新日報	北區永樂町一九	北 五五八〇	石原 健藏
南信日々新聞	北區堂島中一丁目一九	北 二〇二三	伊田 暉
臺灣新聞	北區堂島通一丁目三	北 一四四〇	荻原 一雄
朝鮮日報	北區曾根崎上四丁目	北 二七〇六	橋本滿次郎
下野新聞	北區曾根崎上四丁目	北 一八〇	板東 靜平
東京夕刊新聞	港區市岡元町三ノ二五	西 一八〇	齊
愛媛新聞	東區森之宮東之町	東 一一〇八	西村 齊
香川新聞			
土陽新聞	此花區上福島南丁目三	土 六七八六	岡田賢壽滿
中國民報	北區曾根崎上四丁目	北 二六一〇	岡林 光華
越佐新聞	東區川區十三南之町		落合忠兵衛

在阪全國新聞支局聯盟支局一覽

次は昭和二年六月現在の在阪全國新聞支局聯盟支局の一覽表である。
 配列の順序はイロハ順。(△印は幹事)
 事務所 大阪市東區瓦町二丁目 本局三七〇 在阪全國新聞支局聯盟

北越新聞	東澁川區十三東之町三	大林 茂雄
吳日々新聞	南區八幡町御堂筋角	二二八〇大野木友次郎
萬朝新聞	北區堂島中一丁目二五	五七〇〇大竹又次郎
遠東新聞	東區瓦町二丁目四九	三七〇〇龜谷 伴吉
奉天日々新聞	此花區上福島北四丁目四九	七四二二△加藤 安雄
京都日出新聞	北區堂島濱通十ノ二三	六一一〇 金井勝三郎
青島新聞	北區澤上江町五ノ三九	五八八五 藤山 又吉
天津日新報	東區東雲町二丁目二〇	三九三 片岡 房太
東亞日新報	西宮市松原町五八	與田勇次郎
上海新聞	西區京町堀彌生ビル	土 二九五五△田村 晉松
上毛新聞	三階三號室	北 一四四〇 谷 良男
中國日々新聞	北區堂島濱通一丁目三	北 三九三△竹田津吾一
旭川新聞	北區會根崎中二丁目四	北 五六六〇 竹中 徳一
北陸每日新聞	北區堂島中一丁目五	北 五八〇八 橋 安久
近江新聞	北區中ノ島二丁目二	北 五八〇二 辻 覺次郎
山陰日々新聞	西區江戸堀南通二丁目九	土 六〇〇二 坪井寅之助
朝鮮新聞	此花區上福島北四丁目三	土 五五二二 中島常太郎
門司新聞	北區萬歳町四二	北 五四一〇 氷嶺 信恒
北國新聞	東澁川區十三西之町	北 七七〇 那須 法道
臺南新聞	北區梅ヶ枝町	北 六二〇〇 中川 渉
伊豫日々新聞	北區會根崎上四丁目五	北 七〇九 木暮 仁輔
鳥取新聞	北區堂山町九	北 二七一六 兒島 吉治
長崎日々新聞	住吉區天王寺町二三三	北 三九三 天谷 深吉
日州新聞	北區澤上江町四丁目九	東 四九六二 淺岡 弘
泰東日新報	北區今橋四丁目六	本 一四一四 崎野 平三
都新新聞	北區中ノ島七丁目五〇	土 四六〇〇 佐々木忠策
東京每日新聞	東區總井町二丁目十	東 五一一八 佐々木金一
伊勢新聞	此花區上福島北四丁目	土 五五二二 坂口廣次郎
	北區道木町六二	北 三九三 木谷 要吉

日本新聞	此花區上福島北三丁目三	土 六二〇〇 中山 茂憲
徳島毎日新聞	北區堂島上通二丁目七	北 七一〇〇 梅本 締吉
名古屋新聞	東區今橋四丁目六	本 七四九 梅田 茂
釜山日報	北區萬歳町四二	北 五四一〇 浮田 幾三
富山日報	西區西長堀北通一丁目新	四一五八 上村 弘
九州朝日新聞	北區堂島船大工町五〇	北 六六〇七 栗田 元榮
新三河新聞	北區堂島上通三丁目	北 四三九 安藤長三郎
關門日々新聞	北區堂島中一丁目三一	北 九一二 山崎兼次郎
新愛知	北區堂島中一丁目一八	北 六七八〇 山崎 卓雄
國民新聞	東區島町二丁目二七	東 六五二 山口 菊治
岐阜新聞	西區土佐堀船町一六	土 三二〇八 山口 正長
鹿兒島朝日新聞	北區萬歳町四三	北 五五三〇 松林喜八郎
靜岡新聞	北區澤上江町四丁目四	東 三九六〇 松田 濟
野新新聞	北區會根崎上四丁目	北 九五 富和 俊道
東京大勢新聞	西區土佐堀船町一七	土 一四八 藤井良之助
山梨毎日新聞	北區會根崎上五丁目	北 七六〇〇 深田龜太郎
上州新聞	北區西寺町二ノ六	北 八一三三 福富 通夫
新秋田	北區老松町二丁目二〇	北 五五六六 福井 巖
朝鮮時事新聞	東澁川區十三西ノ町五八	松本 三郎
平壤毎日新聞	北區會根崎上四丁目	北 九五 富和 俊道
東京時事新聞	西區土佐堀船町一七	土 一四八 藤井良之助
讀賣新聞	北區會根崎上五丁目	北 七六〇〇 深田龜太郎
岡山新聞	北區西寺町二ノ六	北 八一三三 福富 通夫
廣瀨朝新聞	北區老松町二丁目二〇	北 五五六六 福井 巖
徳島日々新聞	東澁川區十三木川町三一九	峯 浪雄
大連新聞	北區東梅田町	北 三四一〇 三宅 哲夫
奉天新聞	北區梅ヶ枝町二一	北 五五五〇 宮川 久二

やまと新聞	北區堂島中一丁目	北 二〇六 福田 常藏
因伯時報	此花區上福島北三丁目	土 四〇八八 藤井 四郎
福島民報	北區會根崎上四丁目五	北 七〇九 木暮 仁輔
京城日報	北區堂山町九	北 二七一六 兒島 吉治
每日申報	住吉區天王寺町二三三	北 三九三 天谷 深吉
京城日々新聞	北區澤上江町四丁目九	東 四九六二 淺岡 弘
四國民報	北區今橋四丁目六	本 一四一四 崎野 平三
岐阜日々新聞	北區中ノ島七丁目五〇	土 四六〇〇 佐々木忠策
北陸タイムス	東區總井町二丁目十	東 五一一八 佐々木金一
北海タイムス	此花區上福島北四丁目	土 五五二二 坂口廣次郎
河北新聞	北區道木町六二	北 三九三 木谷 要吉
高田日報	天王寺區石ヶ辻町八三	南 八〇〇九 清島 三郎
南信新聞	北區堂島船大工町三六	北 五九〇八 木下 政雄
長崎民友新聞	北區堂島中一丁目三一	北 一三七 木下 明太
九州民報	北區堂山町六一	北 七五五〇 北本喜代一
東洋民報	北區牛丸町六四	九 二六〇 三隅 忠雄
九州新聞	北區梅田新道	北 一四九 三浦 義雄
巖手日報	太平ビル四階	北 一四九 三浦 義雄
富山日報		
北門日報		
長崎新聞		
大分民友新聞		
高岡新聞		
靜岡民友新聞		
馬關毎日新聞		
佐賀新聞		
福岡新聞		
神戶新聞		
京都日々新聞		

新聞關係諸機關一覽

一、本表は東京、大阪に於ける新聞關係諸機關の一覽表である。表の諸項目は一々其の機關について問合せたものであるが、中には締切期日までに回答を得なかつた爲め、手許の材料により記入した分も多少はある。

一、配列の順序は東京、大阪の二種に分ち、大體に於て編輯關係を先に營業關係を後にしてある、記述順序次の如し。

一、組織、目的。

二、事務所所在地。

三、役員名。

朝鮮毎日新聞	北區東梅田町	北 三四一〇 三宅 哲夫
大分新聞	北區梅ヶ枝町二一	北 五五五〇 宮川 久二
朝鮮民報	東澁川區十三木川町三一九	峯 浪雄
いばらき新聞	北區會根崎上三丁目三	北 六一八四 苗加 政雄
名古屋毎日新聞	住吉區天王寺町九六八	北 二六〇 遠藤 信一
しなの新聞	北區牛丸町六四	本 六〇九〇 日比野良三
満州日々新聞	東區北濱五丁目	北 五〇八八 久光 文治
東洋日新報	北區高垣町	廣瀬左武郎
九州日報	東澁川區十三東之町九六	盛田 穰
東京毎夕新聞	西區京町堀彌生ビル	土 四七七四 關 太一郎
福井新聞	西區高麗橋五丁目一	本 一四三〇 關 太一郎
小樽新聞	北區會根崎上五丁目	北 六一一〇 瀬戸保太郎
報知新聞	北區會根崎上五丁目	北 六一一〇 瀬戸保太郎
盛京時報	北區會根崎上五丁目	北 六一一〇 瀬戸保太郎

四、會員名。
 五、一年史(自昭和元年十二月至二年十二月)
 右以外の特事項も必要に應じて記入し、不用又は不明のものは記入せず。

一、東京

■日本新聞協會

親睦を旨とし、斯業の發達を圖るを目的とする新聞社、通信社、廣告代理業者團。

(事務所) 京橋區錦屋町
 (役員) 會長 子爵清浦奎吾
 名譽會員、犬養毅、床次竹二郎、總編輯、大岡育造、尾崎行雄、森田壽一、村山龍平、箕浦勝人、三宅雄二郎、三木善八、本山彦一、相談役、東武(北海ムス)平野文安(小樽)江戸 周(いはらき)小坂順造(信毎)篠原 叶(上毛)下村宏(東朝)阿部充家(前國民)太田正孝(報知)松内則信(東日)大西理平(時事)瀧本博尚(博報堂)大島宇吉(新愛知)上野精一(大朝)庄野金十郎(福日)山田珠一(九日)大原義剛(九日)高木第四郎(九州)奥田榮之進(鹿兒島)赤石貞藏(臺日)藤安辰次郎(鹿兒朝)副島道正(京城)

山崎猛(滿日)高木利太(大毎)高木貞衛(萬年)
 理事長——光永星郎(電通)
 理事——山口喜一(北海ムス)石井光次郎(東朝)市村和平(下野)築田欽次郎(中外)西澤 圭(信毎)江藤基三郎(弘報)佐藤 碧(大毎)秋元政司(臺日)原田徳次郎(福日)河原慎平(朝鮮)
 監事——一力健彦郎(河北新報)越野宗太郎(帝通)與田利作(弘通)評議員——金澤彦作(函報毎日)山内信彌(北門)鈴木要吉(室蘭毎日)長谷川淑夫(函報)岡田義胤(宗谷)禿氏岳山(岩手)高橋嘉太郎(岩毎)安藤和風(秋魁)久須美東馬(新潟)大石五郎(山形)八田宗吉(福島)寺澤元良(福民)横尾彌門(山形自)渡邊 弘(常總)久須美秀三郎(北越)林 政武(北國)小柳調平(新每)丸山豊次郎(高田)荻村喜三松(富山)丸山盛雄(長野)梅川新多郎(北陸)野口二郎(山梨)井上忠雄(高岡)高木八郎(北海每)今村七郎(福井)佐

藤三郎(中外)山口恒太郎(中央)松尾 要(萬朝)正力松太郎(讀賣)松本宗重(伊勢)松下勇三郎(やまと)三宅 磐(横賀)布屋徹吉(正路喜)堀 勘一(大時)牧内元太郎(横每)四田鏡吉(岐日)岡崎伊勢藏(靜民)村山長舉(大朝)與良松三郎(名古屋)屋 能島 進(大電)進藤信義(神戸)後川文藏(京日出)山根文雄(京日)久下豐忠(和歌山)渡邊 尚(又新)柿原政一郎(中民)有森新吉(山陽)山本三朗(中國)末光鐘之助(關門)秋田寅之助(馬關)吉富寅太(防長)三好榮次郎(山陰日)奥平稔(吳日)糸原武太郎(山陰)岡崎國臣(松陽)多田爲太郎(德每)木村精一(因伯)野中楠吉(高知)橋田早苗(土陽)毛理保太郎(門司)今井浩三(四國)内田好之輔(九日)川原茂輔(肥日)橋本辰次郎(長崎)飯田 巽(鹿兒島)堀 勘一(京都日)清水隆徳(愛媛新)則元由庸(長崎日)大津淳三(大分)青木才熊(鹿兒島)岩切亭藏(宮崎)島山一夫(大分日)長野 潔(豐州)野井權太郎(日州)松岡富雄(臺灣)富地近思(臺南)芥川 正(釜山)宮部敬治(京城)牧山耕藏(朝鮮)有馬純吉(京城日)奥村信太郎(大毎)

通常會員——いはらき、博報堂、岩手日報、岩手毎日、伊勢新聞、因伯時報、函館日日、濱松新聞、函館毎日、函館新聞、函館商報、馬關毎日、哈爾濱日日、日州新聞、新潟朝日、日本電報通、新潟新聞、日刊山形、日本弘業通、報知新聞、日通通信、北海ムス、北羽新報、北陸毎日、北陸ムス、北國新聞、北越新報、防長新聞、奉天毎日、北門日報、豐州新報、東京朝日、東京毎日、東京日日、鳥取新報、土陽新聞、富山日報、東京通信、德島日日、德島毎日、東奥日報、東北日報、十勝新聞、東亞日報、富山新報、中外商業、中央新聞、千葉毎日、中國民報、中國新聞、朝鮮時報、長春實業、朝鮮新聞、朝鮮民報、中國日日、中央商業、遼東新聞、大阪朝日、大阪毎日、大阪時事、大阪新日報、大分日日、大分新聞、大阪電報通、小樽毎日、小樽新聞、小樽商業、近江新報、岡田新聞、大牟田毎日、河北新報、海南新聞、和歌山日日、下越新報、樺太時事、和歌山新報、唐津日日、讀賣新聞、鹿兒島朝日、米澤新聞、橫濱貿易、鹿兒島新聞、橫濱每朝、高田新聞、臺灣日日、臺南新報、

高岡新報、大連新聞、大陸日日、大勢新聞、大陸通信、泰東日報、臺灣新聞、高田日報、宗谷新報、根室新聞、長野新聞、長岡日報、長崎日日、名古屋通信、長崎新聞、南信日日、名古屋毎日、南信時事、南信新聞、名古屋新聞、南信毎日、室蘭毎日、牟婁新報、濃飛日報、劍道新聞、吳公論、關門日日、熊野實業、吳日日新聞、群馬新聞、山形自由、關 東 報、山梨日日、山梨毎日、やまと新聞、山梨民報、八幡新報、萬 朝 報、山形民報、大正日日、宮崎新聞、滿洲日日、京城日報、萬 年 社、藝 叻 日日、元山毎日、京城日日、福岡日日、福島民報、福島民友、福島新聞、釜山日報、福井毎日、福井新聞、國民新聞、弘報堂、高知新聞、神戸又新、神戸新聞、越後新報、越後新聞、愛媛新報、江差新聞、帝國通信、旭廣告社、秋田新聞、愛知新聞、秋田魁新報、旭川新聞、佐渡新聞、相模中央、山陽新報、山陰日日、山陰新聞、埼玉新聞、酒田新聞、紀伊毎日、九州新聞、九州日報、九州日日、岐阜日日、京都日報、京都日出、時事新報、松陽新報、金水堂、信濃毎日、

信濃民報、正路喜社、下野日日、下野新聞、下野新報、信濃日報、靜岡民友、靜岡新報、信濃日日、上州新報、新愛知、上毛新聞、常總新聞、自由通信、順天時報、四國民報、門司新報、木浦新報、仙臺日日、勢州毎日、青島新報、盛京時報、依 蟻 社、マンチユリアデリーニユース、
 (二年史) 昭和二年六月在京會員の主催で田中首相以下各閣僚を東京會館に招待し一夕の晩餐會を催した。(昭和二年十一月現在)

■春秋會

新聞雜誌及通信記者の社交俱樂部。
 (事務所) 常任幹事方
 (役員) 名譽會長——添田壽一、幹事——太田正孝、美土路昌一、明石徳一郎、山根眞治郎、伊達源一郎、上田碩三、越野宗太郎、會計監査——築田欽次郎、増田義一。
 評議員——岩永 裕吉(聯合)、伊達正徳(時事)馬場 恒吾(新關庄藏(中外)土肥 常温(聯合)緒方竹虎(東朝)岡本 鶴松(大朝)岡 實(大毎)笠井 環治

神田正雄 四方田義茂(東日) 早坂二郎 武信由太郎 高橋一知 伊達源一郎(聯合) 鶴見祐輔 坪谷善四郎(博文) 根岸 信 中村 唯一(報知) 檜崎觀一(東日)中野 正剛 永井萬助(東朝)成澤金兵衛(東朝) 永代靜雄(新研)村上 幸平(中外) 上田碩三(電通)山縣五十雄 山下善助 町田 梓樓 松原傳吾 藤平權一郎 米田 實(東朝)不破凌磨太(ムス) 福田吉藏 河野 恒吾 小松 綠 小村俊三郎(東日) 秋元俊吉 佐藤 綱松 佐藤三郎(中外)坂口 二郎 佐藤義衛 御手洗辰雄(報知) 清澤 例(東朝)美土路昌一(東朝) 鹽津誠作 芝 榮太郎(ムス) 斯波貞吉 信夫淳平(新愛知) 下村 宏(東朝)清田龍之助 城谷 默 鈴木文四郎(東朝) 麥田靜治 杉村廣太郎(東朝) 副島道正(京城)

春秋原在文(東日)本山彦一(東日) 檜崎 觀一(同前)高木利太(同前) 西村公明(同前)山崎光次郎(同前) 杉村廣太郎(東朝)牧野輝智(東朝) 原田 讓二(同前)下村 宏(同前) 美土路昌一(同前)緒方竹虎(同前) 伊達源一郎(東方)座間勝平(東方) 中島氣輝(國民)山根眞治郎(同前) 細野 繁勝(同前)福田英助(都) 松下勇三郎(やまと)原 戊吉(都) 田村全宜(やまと)服部三三(都) 大谷 誠夫(都)山本博信(同前) 明石徳一郎(時事)小川 節(時事) 伊藤 正徳(同前)大西理平(同前) 漆間 眞學(日通)光永星郎(電通) 上田 碩三(電通)竹村良貞(帝通) 越野宗太郎(帝通)徳光衣城(聯合) 秋田 清(社外)木下立安(鐵道時) 淺田彦一(博文)坪谷善四郎(博文) 安藤正純(毎夕)永代靜雄(新聞研) 神田正雄(社外)高木益太郎(法律) 藤田榮吉(社外)長谷川福平(富山) 佐藤桐松(社外)増田義一(實業日) 宮部敬治(社外)頭本元貞(ヘラル) 石川六郎(東朝)半澤玉城(外交時) 馬場恒吾(社外)高木信威(外交時) 野澤藤吉(社外)吉武源五郎(拓殖) 關口一郎(社外)井原頼明(千代通) 吉川正毅(社外)辰巳豐吉(千代通)

簡井喜平(社外)三浦勝太郎(社外) 斯波貞吉(同前)松山忠二郎(同前) 矢野惣次郎(同前)最上政三(同前) 吉植庄一郎(同前)吉原正隆(同前) 小野頼不二人(讀賣)青木精一(社外) 中尾龍夫(讀賣)矢野晋也(二六) 倉辻明義(同)柴田久雄(新聞の日本) 小高長三郎(自通)相原照太郎(都) 森山達俊(國民)山口恒太郎(中央)。(昭和二年十一月現在)

二十一日會

日刊新聞通信社の編輯部部在る有志が新聞編輯に關する共通問題の懇談を目的とする會。

(幹事)三名任期六ヶ月 (會員)——伊藤 正徳(時事) 白石徳一郎(同)板倉卓造(同)高田知一郎(報知)太田正孝(同)井上勝好(同)著本大吉(萬朝)緒方竹虎(東朝)下 村宏(同)美土路昌一(同)牧野 輝智(同)伊達源一郎(聯合)岩永裕吉(同)田村 全宜(やまと) 築田欽次郎(中外)佐藤三郎(同)大友 温(毎月)上田碩三(雷通)中根榮(同)中尾龍夫(讀賣) 矢野晋也(二六)倉辻白蛇(同)山根眞次郎(國民)細野繁勝(同)阿部賢一(同)不破瑛磨太(タイムス)越野

宗太郎(帝通)宮本昌常(同)相原勝治(東日)杉山 幹(同)島崎新太郎(同) (二年史) 新聞電報科値下運動に努力して成功す。俱樂部の宴會其の冗費の節約を實行せしむ。ゼネバの國際新聞専門會議に同會代表として伊達源一郎、上野精一、上田碩三の三氏を派す。(昭和二年十一月現在)

新聞研究會

新聞事業に關係あり、若くは關係ありたる人々の新聞研究を目的とする團體。

(事務所) 東京市京橋區南鍋町二ノ五、新聞研究所内。 (幹事) 築田欽次郎、結城禮一郎、永代靜雄。 (會員) 岩永裕吉(聯合)服部普白(前放翁局)西村公明(東日)千葉龜雄(大毎)小野秀雄(新聞研究社)大西理平(時事)神吉英三(時事)田村朝吉(やまと)高田知一郎(報知)伊達源一郎(東方)永代靜雄(新野)野村長一(報知)熊崎健一郎(前時事)築田欽次郎(中外)矢野正世(讀賣)山根眞治郎(國民)山本信博(都)松山忠二郎(前讀賣)不破瑛

磨太(タイムス)佐伯好郎(前高等工業)坂口二郎(福日)城戸元亮(東日)結城禮一郎(前中央)光用樓(新研)斯波貞吉(前萬朝)芝築太郎(タイムス) 杉村廣太郎(東朝)石井光次郎(東朝)稻原勝治(東日)矢部謙次郎(放翁局)石川六郎(東朝)上田碩三(電通)緒方竹虎(東朝)

國際記者協會

内外の新聞事業に關係あり、若くは關係ありたる者の、親睦を謀り國際的知識の交換に資するを目的とする團體。

(事務所) 麹町區内幸町日本新聞聯合社内。 (役員) 會長、頭本元貞、幹事、伊藤正徳、岩永祐吉、上田碩三、杉村廣太郎、評議員、小松藤村上幸平、不破瑛磨太、伊達源一郎、馬場恒吾、斯波貞吉、小村俊三郎、御手洗辰雄、早坂二郎、坂口二郎、稻原勝治。 (會員) 石井光次郎(東朝)石村誠一(大毎)板倉卓造(時事)石川安次郎。

編輯關係

全國日刊新聞通信社にして貴業兩院と連絡の連絡を圓滑ならしむるを以て目的としたる團體。 (事務所) 衆議院内。 (總代) 服部龍三郎(東朝)上野福松(東日)長瀬吉次(國民)田島誠一(自通)小野田正(電通)菊地規

社學新聞記者協會

新聞通信記者にして二ヶ年以上其の職に在りたる者にして、尙引續き其の職に在る者及び一時其の職を失ひたるも更に就かんとする者の相互の親睦を圖り、品性を陶冶し其の社會的地位の向上を期する團體。 (事務所) 衆議院内。 (役員) 専務理事、田島誠一(自通) 理事、小野田正(電通) 野澤藤吉(新聞通信) 大久保八朔(時事)辰巳慶吉(子代田)岡田 巽(自通)篠田 徳(二六)伊藤繁太郎(萬朝) 會計理事、宮本洵(やまと) 中尾龍夫(讀賣)藤透(滿日) (昭和二年十一月現在)

同盟新聞記者俱樂部

全國日刊新聞通信社にして貴業兩院と連絡の連絡を圓滑ならしむるを以て目的としたる團體。 (事務所) 衆議院内。 (總代) 服部龍三郎(東朝)上野福松(東日)長瀬吉次(國民)田島誠一(自通)小野田正(電通)菊地規

短一(報知)柴田喜平(帝通) (新聞社) 二六新報社、日本新聞社、報知新聞社、東京日日新聞社、東京毎日新聞社、東京毎夕新聞社、東京朝日新聞社、東京夕刊新報社、中央新聞社、中外商業新報社、讀賣新聞社、大勢新聞社、やまと新聞社、萬朝報社、國民新聞社、帝國新報社、都新聞社、時事新報社、運輸日報社、ゼヤパンタイムス社(通信社) 日本通信社、日本電報通信社、日本經濟通信社、日本聯合通信社、東洋通信社、東方通信社、東京通信社、東京時事通信社、東京電報通信社、中央通信社、中外通信社、千代田通信社、朝野通信社、大陸通信社、太陽通信社、大東通信社、大日本通信社、内外通信社、國際通信社、英文通信社、帝國通信社、愛國通信社、明治通信社、新聞同盟通信社、自甲通信社、晝夜通信社。

地方の部

廣瀨貿易通信社、北海タイムス社、伊勢新聞社、福岡日日新聞社、岩手日報社、下野新聞社、近江新報社、新總房社、千葉毎日新聞社、名古屋報知社、鹿兒島新聞社、高

岡日報社、順天時報社、徳島新報社、小樽新聞社、名古屋新聞社、北越新聞社、滿洲日日新聞社、長崎日日新聞社、米國聯合通信社、新潟毎日新聞社、京城日報社、淡路新聞社、高田日報社、松陽新報社、因伯時報社、静岡日報社、河北日報社、防長新報社、長野新聞社、岐阜日報社、静岡國民新聞社、信濃毎日新聞社、臺灣日日新聞社、新潟新聞社、福島民報社、函館毎日新聞社、山形新聞社、常陸新聞社、岩手毎日新聞社、静岡新報社、群馬新聞社、山梨民報社、十陽新聞社、下野日日新聞社、神戸又新聞社、東奥日報社、北門日報社、九州日日新聞社、九州新聞社、香川新報社、金澤新報社、朝鮮新聞社、いばらき新聞社、遠東新報社、小樽毎日新聞社、信濃民報社、愛媛新報社、秋田魁新報社、大分新聞社、岩手日日新聞社、神戸新聞社、静岡民友新聞社、南信日日新聞社、九州日報社、佐賀新聞社、新愛知新聞社、伊豫日日新聞社、京都日出新聞社、佐久日日新聞社、中國民報社、中國日日新聞社、富山新報社、山陽新報社。(昭和二年十一月現在)

各社會

東京市内日刊各新聞社々會部部長の團體にして社會各般に亘る出來事、各社共通の事件に對する研究ならびに懇親を深むるを以て目的とする。 (幹事) 輪番二名常任本吉豐次郎(二六) (會員) 御手洗辰雄(報知)小野賢一郎(東日)田原茂作(國民)鈴木文四郎(東朝)青柳安茂(時事)石井文作(萬朝)玉虫孝五郎(讀賣)渡邊英夫(都)田村全宜(やまと)正富曉(毎月)田村西男(中央)久保博道(東每) (二年史) 本年一月より二月に亘り御大罷儀の催寫問題に關し各社の圓滿な協定に努め或は宮内當局に對し數次折衝して成功す、二月から三月に亘つては不完全なる出版物法案の危く議會を通過せんとするや屢々會議を開きて二十一日會を勵かし、遂に同案の通過を食い止む。 (昭和二年十一月現在)

永田俱樂部

拓殖局擔任の新聞通信記者團。(事務所) 拓殖局内。 (幹事) 三名三ヶ月交代。

拓殖研究會

拓殖局擔任の新聞通信記者團。(事務所) 拓殖局内。 (幹事) 三名三ヶ月交代。

(會員) 永田俱樂部と同断。

■内閣記者會

東京、大阪、七新聞社の内閣権密院、法政局、擔任記者團。(事務所) 首相官邸内。(幹事) 二名三ヶ月交代。(會員) 杉山孝次(東日) 森田親一(同) 田村壽(同) 高杉孝次郎(大母) 保利茂(同) 小野敏夫(時事) 田口文男(同) 金子八郎(同) 仙波健(大時) 湯淺一郎(同) 窪田傳一(中外) 北川長二郎(同) 青木正(同上) 月進(東朝) 田端政次(同) 大塚喜介(同) 高橋圓三郎(大朝) 濱田常一郎(同)。(昭和二年十一月現在)

■外政會

東日、時事、外交時報、三社の外務省擔任記者團。(事務所) 外務省内。(幹事) 別に設けず。(會員) 大能武雄(東日) 岩淵辰雄(同) 三島泰雄(時事) 横山秀三郎(同) 半澤玉城(外事)。(昭和二年十一月現在)

■霞俱樂部

外交の研究を目的とする日刊新聞、通信社の外務省擔任記者團。(事務所) 外務省内。(幹事) 二名毎月改選。(會員) 山岸孝一郎(ムス) 松井寛(同) 重信嵩雄(報知) 廣岡光治(聯合) 峰村新一郎(同) 入江寅次(大通) 角猪之助(都) 三井掛平(中央) 小室誠(報知) 浮田秀正(聯合) 井原頼明(千代田) 小野田正(電通) 早川專一(大電) 高井信義(東方) 板倉進(國民) 眞海喜三(同) 大石隆基(日本) 壁谷裕元(東朝) 井上明夫(中通) 岩澤眞一(東朝) 尾崎剛(大朝) 倉田十郎(拓殖) 眞島康夫(經通) 荒木昇(帝通) 此經春也(日通) 土岐直彦(日通) 松田源重(橫濱) 中柳勝治(台日) 小林晋一(夕刊) 大平進一(中外) 大浪安二(時通) 藤田稷(二六) 川崎達夫(毎夕) 金子四郎(自通)。(昭和二年十一月現在)

■櫻田俱樂部

民政黨本部擔任都下新聞通信記者團。(事務所) 民政黨本部内。(幹事) 四名三ヶ月交代。(會員) 諸富一郎(電通) 下園

■十日會

都下日刊新聞、通信社の政友會本部擔任記者團。(事務所) 政友會本部内。(幹事) 三名二ヶ月交代。(會員) 今石貞治郎(電通) 河崎義男(同) 神野佐兵衛(日本) 滝尾勝彌(二六) 三澤克己(報知) 保利茂(東日) 金近靖(同) 高橋圓三郎(東朝) 田畑政治(同) 田村寛一(毎夕) 高井信義(東方) 木倉幾三郎(特通) 下園佐吉(中外) 大島三朝(朝通) 小玉猶次郎(黨朝) 俵尾好秋(讀賣) 藤原智(やまと) 柿本通彦(國民) 森幹生(都) 大關敏三(時事) 小野敏夫(同) 田島誠一(自通) 榮谷米二(同)。(昭和二年十一月現在)

■坂下俱樂部

宮内省擔任の新聞通信記者團。(事務所) 宮内省内。(幹事) 二名春秋改選。(會員) 島田吉太郎(二六) 尾高三郎(電通) 水野源一郎(日通) 出口章太(報知) 古館三郎(東日) 金子憲太郎(毎夕) 高橋橋郎(東朝) 細井吉造(夕刊) 和田穆(東方) 小寺信重(海通) 堀江増次郎。(千代田) 齋藤健二(中外) 飯田嘉(中央) 青柳隆治(大母) 山本地榮(大朝) 藤原繁太郎(大電) 岡田彦七郎(讀賣) 岡延右衛門(黨朝) 鷹野虎雄(名古屋) 藤原準

(二)英文毎日)白土偉一(やまと) 楓井金之助(國民) 藤井信告(帝通) 田中徳(愛通) 大谷忠四郎(朝グラフ) 精園俊介(都) 山田寛司(時事) 小松光男(日本) 筒井敏夫(聯通) 和田日出吉(大時)。(昭和二年十一月現在)

■黒潮會

各新聞、通信社の海軍省並に海軍々司令部擔任記者團。(事務所) 海軍省内。(幹事) 二名毎月番。(會員) 梅津忠良(聯合) 天師林茂次(中外) 重信實雄(報知) 吉田信(大母) 細越政夫(大時) 尾崎剛(東朝) 高杉孝三郎(東日) 高橋邦夫(國民) 松田善致(時事) 小堀保三郎(帝通) 内田榮(讀賣) 早川專一(大電) 横田實(電通) 間宮直菊(夕刊) 徳永從市(洋通) 角猪之助(都) 小室誠(名古屋報知) 此經春也(日通) 鷹野虎雄(名古屋) 中柳勝次(臺日) 石田龍造(獨通) 高井信義(東方) 松田源重(橫濱) 井原頼明(千代田) 田村寛一(毎夕) 大石隆基(日本) 山岸孝一郎(タイムス) 山下重之(新報知) 細川隆元(九朝) 藤田稷(二六) 壁谷祐之(大朝)。(昭和二年十一月現在)

■辛酉俱樂部

都下各新聞通信社の軍政擔任記者團。(事務所) 陸軍省内。(幹事) 三名、月番。(會員) 三浦悦郎(國民) 大石隆基(日本) 及川六三四(電通) 田山停雲(報知) 細越政夫(時事) 角屋謹一(黨朝) 藤原智(帝通) 天神林義次(中外) 上野賞輔(大朝) 高井信義(東方) 小原一三(都) 岡田末太郎(中通) 林田貞一(二六) 田中重雄(東日) 高橋圓三郎(東朝) 美和庸三(夕刊) 此經春也(日通) 大關敏三(時事) 内田榮(讀賣) 五十嵐美彦雄(大母) 松田滿重(橫濱) 中柳勝治(臺日) 鷹野虎雄(名古屋) 群馬繁太郎(洋通) 井上明夫(中通) 井原頼明(千代田)。(昭和二年十一月現在)

■内務記者會

在京日刊新聞、通信社の内務省擔任社會部記者團。(事務所) 内務省内。(幹事) 三名三ヶ月改選。(會員) 藤田稷(二六) 水野源

■内政研究會

内務省擔任の新聞記者團。(事務所) 内務省内。(幹事) 二名三ヶ月交代。(會員) 中西眞、重信嵩雄、捫田常吉(以上報知) 高木徳、林正義、山本彦三郎、齋藤武(以上東日) 高宮大平、本多助太郎、林達磨(以上東朝) 岡島草治(中外) 柏本守人(同) 河野實樾(大母) 村田昇司(大時) 續木繁一(國民) 高橋邦夫(同) 木下信行(時事)。(昭和二年十一月現在)

■内華俱樂部

都下日刊新聞通信社の内務省擔任社會部記者團。

■大手記者會

都下二新聞三通信社の内務省擔任記者團。(事務所) 内務省内。(幹事) 別に設けず。(會員) 馬場義雄(電通) 池田邦夫(帝通) 三木和臣(同) 古澤磯次郎(聯合) 磯田薫(讀賣) 田代金宣(都)。(昭和二年十一月現在)

■復興記者會

都下日刊新聞社の復興局擔任社會部記者團。(事務所) 復興局内。(幹事) 二名春秋改選。(會員) 飯東太(報知) 島田吉太郎(二六) 中西仙司(東日) 安吉英夫(毎夕) 淺野豊(中央) 東兵衛(時事) 岡延右衛門(黨朝) 萩博(讀賣)

野口義明(都)續木繁一(國民)
(昭和二年十一月現在)

文部記者會

都下日刊新聞通信社の文部省及び教育關係諸機關當社記者會記者團。

(事務所) 文部省内。
(幹事) 小島靜三郎(國民)木村正(讀賣)岡延右工門(萬朝)金子茂男(東日)松浦建三(中外)米山義兄(中央)田口章太(報知)小松光男(日本)東兵衛(時事)正田敏男(夕刊)岡田松枝(都)橋本良一(每夕)
(昭和二年十一月現在)

一橋會

文部行政に關する報道及研究を目的とする記者團。

(事務所) 文部省内。
(幹事) 二名三ヶ月交代。
(會員) 山下芳允(報知)本多助太郎(東朝)飯島保(同)服部敬雄(同)來間恭(東日)小林邦人(同)吉野橋三(同)山崎富策(中外)安藤覺堂(讀賣)栗林貞一(大朝)河野實雄(大每)岸井壽郎(東日)
(昭和二年十一月現在)

竹橋俱樂部

(事務所) 文部省内。
(幹事) 三名三ヶ月交代。
(會員) 佐藤多吉(二六)石渡安躬(電通)佐藤幸一郎(同)久保田清松(聯合)小林五郎(やまこ)小野敏夫(大時)相澤照(國民)長瀨武(同)三木和臣(帝通)池田邦夫(同)常松三郎(時事)石崎健司(自通)田代全宣(都)高麗芳野(内通)辰巳吉次(新愛知)
(昭和二年十一月現在)

財政會

都下日刊新聞通信社の財政經濟擔當記者相互の親睦機關。

(事務所) 大藏省内。
(幹事) 二名三ヶ月交代。
(會員) 田中晋次郎(東日)藤井泰一(同)新城朝功(同)高野喜與作(時事)久保平三郎(同)阪正逸(同)小林鶴松(日本)小松利一(帝通)上村金六(同)下條雄三(電通)本多信次(同)鈴木一平(やまこ)板津直光(讀賣)鈴木公平(同)柴田義久(每夕)佐久間豐三(都)吉良貞(同)夏秋嘉正(萬朝)春日善吾(東海)
(昭和二年十一月現在)

財政俱樂部

日刊新聞、通信社の大藏省擔任記者團。

(事務所) 大藏省内。
(幹事) 三名三ヶ月交代。
(會員) 眞島康富(經通)淺尾勝彌(二六)萩野伊八(聯合)青山融(弘通)水野源一郎(日通)菊地吉次郎(北海ムス)逸見義亮(東日)淺井三郎(東方)鈴木正雄(夕刊)本間郷平(時通)石原秀穂(洋通)中野佐助(獨通)齊藤優哉(朝通)深澤甲子男(大朝)中柳勝治(臺日)鷹野虎雄(名古屋)手島猛雄(内通)喜多一重(國民)河村俊藏(自通)鹽谷鬼十郎(新愛)島村祐雄(豐國)
(昭和二年十一月現在)

大手俱樂部

報知、中外、國民、東朝、都五社聯盟の大藏省擔當記者團。

(事務所) 大藏省内。
(會員) 鈴木宇市(報知)鹿喰清一(同)伊元富爾(中外)野田久太(同)中津海知方(國民)田部井俊夫(同)野田豐(東朝)長谷部忠(同)渡邊迪(同)中村猛夫(都)

金融同志會

都下各新聞、通信、與信所の日銀擔任記者團。

(事務所) 日本銀行内。
(幹事) 野田兵一(報知)田川重盛(東日)奥野平(時事)
(會員) 小汀利得(中外)三俣淺治郎(東日)須永彰三(同)山崎靖純(時事)後藤登喜男(東朝)渡邊追(同)本多信治(讀賣)鈴木一平(やまこ)松藤秀雄(國民)喜多一重(同)里兵衛門(帝通)大辻全孝(與信)前田伴(聯合)小野勝三郎(同)鈴木公平(讀賣)夏秋嘉正(萬朝)丸山信夫(都)筒井理(帝通)西野喜代作(時事)
(昭和二年十一月現在)

經濟記者俱樂部

都下新聞通信社の東京商業會議所擔任記者團。

(事務所) 東京商業會議所内。
(幹事) 二名三ヶ月交代。
(會員) 木下明(電通)田原九十九(二六)藤原三郎(報知)河野一郎(東朝)日高利市(東日)黒田余

治(時事)堀川勝造(中央)河村俊藏(自通)小笠原伸(讀賣)岡田益吉(やまこ)阿美謙平(萬朝)四野宮仲吉(都)喜多一重(國民)有馬毅(中外)
(昭和二年十一月現在)

瑞穂俱樂部

日刊新聞、通信社の農林省擔任社會部記者團。

(事務所) 農林省内。
(幹事) 淺野 豊(中央)
(部員) 大石正治(弘通)長一深(報知)天草麟太郎(東日)安藤富十夫(每夕)伊藤司馬(小樽)柴田義勝(名古屋)藤崎清(都)佐々木貞次郎(時事)鈴木正雄(夕刊)
(昭和二年十一月現在)

産業研究會

日刊新聞、通信社の農林省記者の産業研究並に親睦機關。

(事務所) 農林省内。
(幹事) 二名三ヶ月交代。
(會員) 増田長(電通)津ノ江鎌次郎(萬朝)智識弘志(聯合)元木肇(獨通)鹽谷鬼四郎。(新愛知)水野源一郎(日通)松田源重(橫濱)林田貞一(二六)古原美雄(自通)高

産林俱樂部

日刊新聞、通信社の農林省擔任記者團。

(事務所) 農林省内。
(幹事) 二名三ヶ月交代。
(部員) 白石源吉(報知)岡田倫(東日)八木長人(大朝)笹澤三善(大每)柴田嘉(帝通)青柳義孝(やま)安田庄司(國民)廣瀬芳廣(都)若松福藏(中外)仙波健(時事)北脇隆(大時)丹波秀伯(東朝)中村耕造(豐通)山越秀一(東興)

鐵道記者俱樂部

都下日刊新聞、通信社の鐵道省擔任社會部記者團。

(事務所) 鐵道省内。
(幹事) 三名月番。
(會員) 水野源一郎(日通)柳迫國比古(二六)松本彰夫(帝通)渡邊直衛(時事)堀江増次郎(千代田)青山融(弘通)小松光男(日本)松浦健三(中外)河野實雄(大每)青木槐三(東日)五十嵐美瑛(同)細井吉造(夕刊)小寺信重(海通)金子憲太

中央鐵道記者會

都下新聞、通信社の鐵道省擔任社會部記者團。

(事務所) 鐵道省内。
(幹事) 三名三ヶ月交代。
(會員) 豐田謙平(電通)長一深(報知)茂木耕三(大勢)大久保明文(東朝)淺野 豊(中央)大瀨憲治(晝夜)栗原貞一(大朝)吉村文男(萬朝)石橋球三郎(讀賣)白土偉一(やまこ)岩田得三(國民)藤崎 清(都)

日本鐵道記者會

東京に通信部を有する有力なる新聞通信社の鐵道行政に關する研究を目的とする鐵道省擔任記者團

(一年史) 本年五月鐵道記者俱樂部より分離し同十月當記者會を新設す。
(昭和二年十一月現在)

鐵道研究會

鐵道に關する一般の研究を目的とする都下新聞通信社の鐵道擔任記者團。

(事務所) 鐵道省内。
(幹事) 志賀岩夫(運輸)
(會員) 春口善周(東母)近江哲藏(東海)淺尾勝彌(二六)吉植庄亮(同盟)平田健(鐵公)横山仁三(時通)

昭和二年十一月現在

鐵道專攻會
報知、東日、中外、時事新聞聯合五社聯盟の鐵道擔任記者團。

木曜會
鐵道研究會から分離した鐵道省擔任記者團。

司法記者會
都下日刊新聞、通信、輿信所、法律新聞、雜誌社の裁判所擔任記者團。

大審院構内。
(幹事) 一名月番。
(會員) 鐵宮幸夫(二六)相川喜太郎(報知)秋山忠治(同)安島譽(東日)赤地汎(同)阿部丁雄(同)福井賢(每夕)矢島八洲夫(東朝)北條憲政(同)瀧谷實(聯合)鳴尾景次郎(中外)横山精(同)林泉(讀賣)關澤幹夫(やまと)廣野友吉(萬朝)藥師寺庄之助(國民)澤田進之函(同)青山與平(都)岩本磐門(時事)中島龜次郎(同)石渡安躬(電通)沖邑品吉(帝通)石井敏三郎(法律新聞)寺島存(法律評論)黒澤松次郎(法律新論)枚村良次(東興)園部兆玄(帝通)渡邊榮太郎(日興)中村本一(二興)島谷保治(商興)西島六一(夕刊)

法政研究會

都下新聞通信社の司法省擔任記者團。
(事務所) 司法省內。

村田昇司(時事)
(會員) 田口文男(時事)大谷忠四郎(東朝)濱田常二郎(同)窪田傳一(中外)池田有(萬朝)石渡安躬(電通)荒木昇(帝通)永長與藤二(讀賣)金近靖(東日)來問恭(同)庵崎貞俊(報知)三澤克巳(同)森幹生(都)

日比谷記者會

都下新聞、通信社の警視廳擔任社會部記者團。

(幹事) 三名宛一ヶ月交代。
(會員) 佐藤多吉(二六)小原間茂(電通)江連四郎(同)吉田威(同)東明行彦(報知)關野茂(同)渡星重義(同)森口榮次郎(同)北條清一、楠本義郎、村田忠一、須藤純男、阿部丁雄、池田菊太郎(以上東日)有吉康夫(東每)速水信(每夕)吉井哲三(同)生江澤速雄、松上倫美、大澤曉一、篠田弘作(以上東朝)美和康三(夕刊)山口孫右工門(中外)高島直定(同)内山小夜吉(同)飯田素之助(中央)兒島正勝(晝夜)山田靜尉(同)高橋鐵(讀賣)柳澤士半四郎(同)松崎達郎(同)木村正一(やまと)中西運造(同)廣木新平(萬朝)瀨川玄太郎(同)瀨戶敦(同)高藤菊次郎、楠瀬正澄、森勝治、岩田得三(以上國民)茂木太市(帝通)安藤杜志雄(同)米山誠一(都)秋山白作(同)山崎榮岳(同)益崎綱幸(時事)石田周藏(同)和田豐彦(同)重松政敏(聯合)若槻雄次郎(共同)石川龍尾(日本)

茜俱樂部

憲兵隊出入の都下新聞記者團。

(事務所) 憲兵司令部內。
(幹事) 生江田連雄(東朝)
(會員) 重松政敏(聯合)堤松太郎(報知)佐久間文吉(東日)小松光(日本)秋山白作(都)白土偉一(やまと)石田周藏(時事)國民(缺)

遞通記者俱樂部

人格の向上、和衷協同、各自の職責を全うすべく組織されたる遞信省擔任新聞記者團。

(事務所) 遞信省內。
(幹事) 三名三ヶ月交代。
(會員) 林田貞一(二六)田村源治(電通)沼澤隆次(聯合)内田國造(報知)中村耕道(萬國)長谷川吉(洋途)笹澤三善(東日)村崎勝和(東朝)元木肇(獨通)大島參郎(朝通)若松福藏(中外)松源軍(横賢)二神憲三(讀賣)増田長(大電)

東京勞働記者會

都下日刊新聞社の勞働問題擔任記者團。

(事務所) 芝協同會館。
(幹事) 福馬謙造(東朝)野口義明(都)
(會員) 佐々木茂夫(東日)來問恭(同)金近靖(同)重信高雄(報知)本多助太郎(東朝)柏本守人(中外)内田榮(讀賣)廣木新平(萬朝)東兵衛(時事)常松三郎(同)井口一郎(國民)

東京飛行記者俱樂部

都下各新聞、通信社の航空記事擔任記者團。

(幹事) 豊田練平(電通)
(會員) 山本幸重(報知)天草麟太郎(東日)安吉英夫(每夕)妹尾太郎(東朝)瀨川玄太郎(中央)内山小夜吉(中外)鶴澤幸治(讀賣)三宅正夫(やまと)榎井金之助(國民)松

都政記者會

都下日刊新聞社の東京府市政擔任記者團。

(事務所) 東京府市廳內。
(幹事) 三名宛二ヶ月交代。
(會員) 古谷市郎(時事)田中

商工研究會

日刊新聞、通信社の商工省擔任記者團。

(事務所) 商工省內。
(幹事) 二名二ヶ月改選。
(會員) 森守信(電通)山崎義人(每夕)津ノ江謙次郎(萬朝)林田貞一(二六)増田(大電)古原美雅(自通)水野源一郎(日通)中野佐助(獨通)石原秀徳(洋通)池田秀(聯合)鹽谷鬼四郎(新愛知)松田源重(讀賣)高橋大介(時通)大島參郎(朝通)

自治研究會

府市行政の研究並に會員相互の親睦を目的とする都下新聞社の政治部記者團。

(事務所) 東京府市廳內。
(幹事) 二ヶ月交代。
(會員) 篠田穂(二六)宮本洵(やまと)篠原由太郎(都)川合清一(時事)武藤俊次(國民)茂木耕三(大勢)岡田彦七郎(讀賣)安吉英夫(每夕)土田恭治(日本)鶴田規矩夫(夕刊)

同氣俱樂部

市内日刊新聞、通信社の府市政擔任記者團。

(事務所) 東京府市廳內。
(幹事) 輪番制度。
(會員) 田村源治(電通)芦田義雄(報知)大平捐助(同)廣瀬太郎(東日)長谷部忠(東朝)上野實輔

三 角 會

遞信省擔任日刊新聞、通信社の社會部記者團。

(事務所) 遞信省內。
(幹事) 藤崎清(都)
(會員) 大石正治(弘通)長一深(報知)菊池吉次郎(北海タイムス)大草麟太郎(東日)安東富士夫(每夕)淺野豊(中央)原田實(中外)伊藤司馬(小樽)高田元次郎(讀賣)白土偉一(やまと)柴田義勝(名古屋)佐々木貞次郎(時事)

采女俱樂部

會員相互の親睦を圖り産業行政の全般に亘る研究、意見の交換を目的とする都下新聞通信記者團。

(事務所) 商工省內。
(幹事) 二名一ヶ月交代。
(會員) 浦澤一男(報知)海口守三(東日)丹波秀伯(東朝)山越秀

本影夫(帝通)楠茂市(都)山下重之(新愛知)佐藤喜二郎(時事)堀口瑞典(シヤパン)

(昭和二年十一月現在)

東京運動記

者俱樂部

都下日刊新聞、通信、雜誌社の運動記事擔任記者團。

- (幹事) 森島直造(時事)
(會員) 植村陸郎、久保田高彌、岡本隆、飛田忠順(以上東朝)
瀬戸敦(萬朝)高島直定(中外)齊藤健二(同)鏑宮幸夫(二六)廣瀬謙三(時事)河西三省(同)飯田惠(中央)
内田榮(讀賣)松本英武(同)弓館芳夫、近藤彌一、上野徳太郎、橋戸信(以上東日)楠茂市(都)小島六郎
(同)豊田練平(電通)吉田威志(同)石渡安躬(同)小島敏三郎(報知)長一潔(同)結束武雄(聊合)村岡清次(同)白井正福(國民)山本照(同)横井春野(野球界)横井多海(同)太田茂(運動界)
(昭和二年十一月現在)

東京競馬記者俱樂部

日刊新聞、通信社の競馬記事擔任記者團。

- 任記者團。帝國競馬協會内。
(事務所) 楠茂市(都)
(幹事) 岡本隆(東朝)近藤彌市(東日)岩田得三(國民)内田榮(讀賣)淺野 豊(中央)伊藤繁太郎(萬朝)長尾一雄(やまと)長一潔(報知)安東富士夫(毎夕)和田日出吉(夕刊)及川六三四(電通)松本影夫(帝通)根岸榮隆(ラヂオ)小高吉三郎(大朝)角谷録三(大毎)松浦建三(中外)
(昭和二年十一月現在)

東京角力記者俱樂部

都下日刊新聞、通信社の角力記事擔任記者團。

- (幹事) 木村正一(やまと)伊藤繁太郎(萬朝)
(會員) 江口丈爾(二六)石渡安躬(電通)加藤進(報知)弓館芳夫(東日)速水信(毎夕)丸田一郎(東朝)植村陸郎(同)大久保春來(夕刊)鈴木金助(中外)足立忠(同)飯田素之助(中央)石谷勝(國民)小島靜三郎(同)武田哲朗(帝通)楠茂市(都)東兵衛(時事)吉田要人(やまと)三宅正雄(同)的場郁翁(東日)

日本漫畫會

都下各新聞其他の漫畫記者社交團。

- (幹事) 宮尾しげる(毎夕)
(會員) 池部釣(國民)和田永治、服部亮英、細木原野起(中外)岡本一平(東朝)河盛久夫(時事)長崎拔天(同)田中比左良、牛島一水前川千帆、小林克巳(やまと)幸内純一、坂本牙城、京屋金會、北澤樂天(時事)水島備保布、清水對岳坊、代田收一(都)森山三郎、森島直造(時事)森大山、和田邦坊(東日)藤本斥夫、中島六郎、山本全兵衛(神戸新聞)
(昭和二年十一月現在)

東京美術記者聯盟

都下日刊新聞社の美術擔任記者團。

- (幹事) 田澤良夫(毎夕)
(會員) 小松光男(日本)島田吉太郎(二六)鎌田重雄(報知)橋原豊一(時事)鈴木重雄(中央)金井恭三(都)外村顯章(中外)小島靜三郎(國民)近藤宅治(同客員)野口隆信

東京ラヂオ記者俱樂部

都下日刊新聞、通信のラヂオ面擔任記者團。

- (事務所) 愛宕山放浪局内。
(幹事) 妹尾太郎(東朝)川村治平(都)
(會員) 鈴木義雄(二六)松野信太郎(日演)伊藤静枝(ラヂオ)今治達二(同)根岸榮隆(同)田中三郎(同)窪田文雄(報知)清家教住(同)今西吉次郎(東日)金子義男(同)角谷録三(同)田中星水(東河)尾崎秀實(東朝)板谷治平(毎夕)人見直香(同)米山義兄(中央)吉本明光(讀賣)堀越正光(同)甲田正夫(同)阿利實之(同)細井雀郎(大勢)小林五郎(やまと)玉井浩(萬朝)北村柏三(國民)河口豪(帝通)小座間茂(電通)奥野保夫(都)奥澤順一郎(同)日色惠(同)美川徳之助(時事)
(昭和二年十一月現在)

營業關係

笑話會

都下日刊各新聞社(東朝東日を除く)の販賣部長社交團體。

- (幹事) 二名毎月交代。
(會員) 齊藤(報知)峰島(都)下村(讀賣)鈴木(中央)松島(大勢)鈴木(時事)大崎(やまと)戎田(二六)坂部(國民)若山(中外)新井(東每)井岡(萬朝)

廣告談話會

都下有力廣告主の團體たる十日會所屬の會員より成る電通中心の廣告研究團體。

- (事務所) 電通社内。
(幹事) 電通廣告部員

十日會

東京及大阪に於ける有力化粧品廣告主側の廣告部長或は、廣告事務擔當者團、新聞廣告業者より、廣告取引上有力團體として認めらる。

- (事務所) 月番幹事。
(會員) 波多(丸見星)篠本(胡蝶園)長瀬(花玉石嶽)神谷(ラ

親交會

都下各新聞社の廣告部長團。

- (幹事) 前任者の指名により三名宛三月月交代。
(會員) 夜久(二六)樋山(日本)山下(報知)齋藤(毎夕)田村(夕刊)小島(中外)海邊(東每)市川(大勢)廣井(中央)今村(萬朝)三浦(やまと)吉川(都)若山(國民)三浦(時事)稻葉(讀賣)

協同會

東京に於ける廣告代理業代表者團にして、相互の利益擁護、及び親睦を計るを目的とするもの。

- (幹事) 江藤(弘報堂)
(會員) 四條(博報堂)光永(電通)中川(萬年支店)佐藤(京華支店)江藤(弘報堂)湯澤(廣告社)富田(帝通)布屋(正路喜社)
(一年史) 光永常任幹事レキス問題で離任す。

一水會

協同會(萬年、京華、廣告社、

東京廣告協會

東京に於ける、協同會に屬せざる廣告代理業に依つて成る、會員相互の利益擁護を目的とする社交團體。

- (事務所) 東京京橋區佐柄木町六、豊國通信社内。
(役員) 常任幹事、谷口(豊國)外に月番幹事を置く。
(會員) 佐藤(博生堂)佐藤(萬歲社)丸山(日進通信)谷口(豊國)佐藤(東京通信)上山(確報社)上田(三交社)大和田(大河組)馬淵(馬淵商會)富永(告天社)松村(三誠堂)二戸(金蘭社)福浦(明通社)井上(明信社)小高(自由通信)

一致會

東京に於ける案内廣告取次業の

- 組合、相互の利益擁護、親交を目的とするもの。
(事務所) 東京小石川掃除町三吉川世民社内。
(幹事) 二名。
(會員) 佐藤(廣告堂)粕谷(三芳)小川(報告)板橋(日弘)吉川(世民)横川(八報)結城(盛報)等々(力魁)

若菜會

東京及東京地方各新聞に於ける出版廣告擔任外交團。一社より一名乃至三四名の會員あり總數約四十五人。(東朝東日を除く)。

- (事務所) 月番幹事。
尚ほ同會は出版廣告代理業博報堂出入りの外交に依つて成る。春秋二回大會を開く。

浪花會

大阪各新聞東京支局長親交機關。

- (事務所) 月番幹事。
(會員) 天野(大朝)清澤(大毎)祖上(大阪朝報)大口(大阪時事)武田(大阪日日)田中(大阪中外)光永(電通)平野(帝通)四條(博報堂)加田(弘報堂)湯澤(廣告社)

十日會

大阪各新聞東京支局長、即ち浪花會員に主なる廣告代理業を加へ東京に於ける廣告取引の圓滿を圖るを目的とする社交機關。

(事務所) 月番幹事。

(會 員) 天野(大朝) 島田(大毎) 祖上(大阪朝報) 大口(大阪時事) 武田(大阪日日) 田中(大阪中外) 堀田(弘報堂) 平野(常通) 松本(京華) 瀧川(萬年) 湯澤(廣告) 淺田(正路喜社)

地方新聞支局會

地方新聞東京支局長の親睦機關。

(事務所) 京橋區宗十郎町新瀧每日支局内。

(幹 事) 新愛知、土陽、福島民報、新潟毎日、小樽、秋田魁。

藤夫(豐州) 宮澤由三郎(北陸每) 堂島松太郎(北海道) 中堀末吉(北海)

ムス) 飯尾龍三郎(北國) 小野喜一(北越) 北村智好(防長) 樋口寅正(土陽) 梅本裕吉(徳島每) 關 謙平(中民) 飛鳥江亮智(中新) 木村松之助(朝鮮每) 今井淺南(朝鮮民) 河野碩平(朝鮮新) 本田龍(小樽) 松浦清平(大分) 古川文次郎(大分日) 一力次郎(河北) 林省三(香川) 渡邊庄次郎(金澤) 河内時中(鹿兒島朝) 松田源重(横濱) 牧内元太郎(横朝每) 秋本政司(豊日) 徳富迪(豊新) 大西隆之助(豊南) 翌月一三(高田) 大宮伍三郎(名古屋) 市川龍治(名古屋每)

大阪

附 其他

大阪市政記者俱樂部

大阪市政に關係ある新聞や通信記者を以て組織せるもの。

(事務所) 大阪府廳内。

府政記者俱樂部

大阪各新聞通信社の府政擔任記者團。

(事務所) 大阪府廳内。

億兆記者俱樂部

大阪各新聞通信社の大阪警察部擔任記者團。

(事務所) 大阪府廳内。

三品俱樂部

大阪市内各新聞通信社の三品市揚發信記者團。

(事務所) 大阪三品。

東京新聞通信同盟

在阪東京新聞通信支局長の社交並に研究機關。

(事務所) 大阪府北區中ノ島三丁目電通内。

(幹 事) 輪番。

(會 員) 能島進(電通) 中山茂憲(日本) 渡藤信一(二六) 關太一郎(報知) 中川涉(東每) 久光文治(每夕) 松田濟(大勢) 板東靜平(夕刊) 陰山又吉(中央) 佐藤新衛(中外) 藤井良之助(讀賣) 畑尾健爾(やまと) 大竹又次郎(萬朝) 山崎卓雄(國民) 西川政義(帝通) 那須法道(都) 富和俊道(時事)

東京新聞記者團

東京新聞通信社大阪支局員の社交並に通信上の研究機關。

(事務所) 大阪府北區堂島船大工町。

水曜會外の廣告取次業

△第一廣告社。大阪府東區今橋二丁目二五、岡田辰次郎。

△邁進社。大阪府北區老松町鉾流橋筋、渡邊恒吉。

△東洋社。大阪府西區阿波座上通り三丁目、平山米藏。

△新興社。大阪府北區堂島中一丁目、倉光喜代藏。

△一成社。大阪府東區仁右衛門町五二三、南部力松。

京都

銀影會

京都映畫記者及び在都映畫會社關係者の映畫研究會。

(事務所) 京都府小路三條上る京華日報社内。

名古屋

中京記者協會

在名古屋新聞通信記者首腦者をつて組織せる。

縣政記者俱樂部

大阪に於ける三紙廣告部長團。

(會 員) 大朝、ナ毎、大時。創立當時は會台類繁なりしも最近は殆ど有名無實。

大阪鐵道俱樂部

大阪市内新聞通信社の鐵道擔任記者團。

(事務所) 大阪府長室内。

大阪ラヂオ記者俱樂部

大阪市内新聞通信社のラヂオ記者團。

(事務所) 大阪放送局内。

大阪商業會議所記者俱樂部

大阪市内新聞通信社の商業會議所擔任記者團。

(事務所) 大阪商業會議所内。

東交會

東京新聞通信同業會加入支局中の廣告外勤員を以て組織する親睦機關。

(事務所) 東京新聞通信同業會加入支局中の廣告外勤員を以て組織する親睦機關。

大阪廣告俱樂部

大阪に於ける廣告主又は之に關係を有する者の新聞廣告に關する

共同の問題を協議する團體。

(事務所) 大阪府北區堂島北町(幹 事) 和山晋四郎(常任)

(會 員) 飯守勘一(太陽堂) 岩井尊光(大阪商船) 池澤原治郎(南海電報) 井出増藏(宇都宮) 石原清(乾卯) 伊藤鐵五郎(藤田組) 井上久次郎(若林) 波多野修作(安民藥房) 鳥江鐵也(松竹) 戸原四郎(日本藥器) 豐田兼助(太陽堂) 千葉吉造(松竹) 小倉武雄(松竹キネマ) 岡清藏(白木屋) 太田國吉(桃谷) 岡本重夫(大丸) 川勝堅一(高島屋) 谷口作次郎(順和藥房) 谷本弘(森下) 高崎信太郎(松坂屋) 高松忍(十倉) 田附與一郎(日本カタン系) 武田義三(武田帶心) 高橋忠治(大日本ビール) 長岡伊之介(大崎組) 永田左門(黒田藥品) 中岡白珪(白木屋) 中村晋(美津濃) 室行久光(丹平) 上岡活道(上岡タンス) 歌村仁三郎(服部) 楠本政太郎(桃谷) 黒田羊人(東亞キネマ) 柳澤保太郎(武田商店) 山室宗親(平尾) 山崎精一(小林) 松井靜雄(伊藤商會) 藤田善一(丸金) 古谷伴(野村商店) 江口七郎(高島屋) 有松禮郎(八千代興業) 安藤滿藏(井筒堂) 齋藤憲治(北海道煉乳) 佐伯愿一(日本生命) 佐藤禮次郎(佐

水曜會

主として大阪に於ける廣告業者(代理業)の共同利益擁護を目的とする社交機關。

(會 員) 大阪電通、大阪帝通、金水堂、旭廣告、萬年社、京華社、弘業社支店、傲嶽社。

同會は大阪に於ける新聞廣告界に非常な勢力を有し大阪の有力新聞に對し同會に屬せざる廣告代理業と直接取引を爲さしめざるものである。従つて同會は絶大な勢力を有し東京に於ける協同會と同性質なるもの之れに比し相當進歩せるものなり。

三社會

大阪に於ける三紙廣告部長團。

(會 員) 大朝、ナ毎、大時。創立當時は會台類繁なりしも最近は殆ど有名無實。

愛知縣廳に出入する各社の政治記者團。

中央社會部記者團

愛知縣警察部出入の各新聞通信及び支局の記者團。

名古屋廣告協會

名古屋市内の新聞、通信、商店會社及び廣告研究者を以つて組織せるもの。

金澤

香椎俱樂部

石川縣藤原縣政記者の親和機關にして縣政の向上を目的とす。

(幹事) 常任幹事四名 (會員) 永島峯男(北國新聞) 山本忠恕(同上) 毛藤一雄(北陸毎日) 西野信一(同上) 千石喜久(金澤新報) 吉野光俊(北國夕刊) 笹木淡一(北國日報) 北川重吉(北國日日) 長谷川政吉(大朝支局) 高井星宇(大毎支局) (昭和二年十月現在)

廣告研究會

東京に於ける有力廣告主の新聞

海外發行主要邦字新聞

滿洲を除く

一、本表配列の順序は地方別により、掲載項目は、新聞名、所在地、創立年月日、朝夕刊頁數、社長名、の順。

支那

新支那 北京大甜水井十號。大正元年三月一日創刊。(朝)四頁 (社長)安藤萬吉。 北京新聞 北京東城船板胡同。大正十二年八月三十一日創刊。(朝)四頁。(社長)森川昭太。 天津日報 天津日本租界壽街。明治四十三年一月一日創刊。(朝)四頁。(夕)四頁。(社長)西村博。 京津日日新聞 天津日本租界旭街大正六年十月創刊。(朝)四頁(夕)四頁。(社長)森川昭太。 青島新報 青島山東路。大正四年一月創刊。(朝)六頁。(社長)小谷節夫。 上海每日新聞 上海湯恩路。

香港

(社長)小川雄三。 膠濟時事新報 濟南高埠。大正五年十月創刊。(朝)四頁。(社長)岡伊太郎。 香港日報 香港慶禧信山路五十六。明治四十二年九月一日創刊(朝)六頁。(社長)井手元一。

新嘉坡

南洋日日新聞 新嘉坡ウイクトリア街五〇二。大正三年創刊。(夕)四頁。(社長)古藤秀三。

瓜哇

瓜哇日報 バタビア、ウエルトフレデン、ガンバツサルバル一二十二。大正九年創刊。(夕)四頁。(社長)齋藤正雄。

布哇

日布時事 ホノルル市マウナケア街。大正元年創刊。(夕)十頁(社長)相賀安太郎。 布哇新報 ホノルル市、明治二十七年創刊。(朝)八頁。(社長)服部毅。 布哇報知 ホノルル市マウナケ

ア街。大正元年創刊。(夕)八頁 (社長)牧野金三郎。 布哇毎日 布哇島ヒロ市。明治四十二年創刊。(夕)四頁。(社長)徳城信二。 布哇ヒロ新聞 布哇ヒロ市、明治三十一年創刊。(夕)四頁。(社長)根本岩壽。

米國

新世界 桑港ジリー街一〇六〇。一八九四年創刊。日刊。(社長)山本宗兵衛。 日米 桑港エリス街六五〇。一八九九年創刊。日刊。(社長)安孫十久太郎。 四千里外 桑港ホスト街一七六一。日刊。(社長)山形春吉。 櫻府日報 櫻府モ一街六〇。一九〇七年創刊。日刊。(社長)沖健次。 ユタ日報 ユタ州ソルト・レーキ市ウエスト街一六一。一九一四年創刊。(社長)寺澤時夫。 格州時報 コロラド州デンデーカーチス街一九三六。一九一八年創刊。日刊。(社長)中川角太郎。 羅府新報 加洲ローサンゼルス

エヌ、ローサンゼルス街一〇四一九〇四年創刊。日刊。(社長)井上昌。 羅府日米 加洲ローサンゼルスジャクソン街三二七。一九二二年創刊。日刊。(社長)安孫十久太郎。 東西時報 加洲ローサンゼルススタンフォード、アヴェニュー四三二。一九二二年創刊。日刊(社長)上山草人。 大北日報 ワシントン州シャトル、メインドアベニュー四一三一九〇九年創刊。日刊。(社長)竹内幸治郎。 北米時報 ワシントン州シアトル、第五アヴェニュー二二五。日刊。(社長)有馬純清。 央州日報 オレゴン州ボットランド、ダヴィス街三三〇。一九〇四年創刊。日刊。(社長)阿部豊治。

ブラジル

ブラジル時報 サンパウロ市郵函エツチ。大正六年創刊。週刊八頁。(社長)黒石清作。部數四千。 日伯新聞 サンパウロ市郵函三

七五。週刊六頁。(社長)三浦肇(部數)千六百。 聖州新報 サンパウロ州パウロ一市郵函五八。週刊六頁。(社長)香山五郎。

秘書課長 石渡 泰三郎 中西 仙司 (兼)佐藤 碧 (同)増田正徳 (同)相馬 基 地方巡察員 岸 醇一 (兼)笹澤三善 事業部長 木下不二太郎 同 助役 錦古里 忠久 同 久保 勘三郎 正木 健吉 山林 廉平 藤村松之助	編輯局 主 幹 岡 實 總 務 松内 則信 副主幹 岡崎 鴻吉 (嘱託) 石丸 藤太 書記 佐藤 碧 相馬 基 (留學中) 丹地 與四郎 論說委員 永戸 政治 (兼)福田吉藏 (同)新屋茂樹 整理部長 山崎 光次郎 同 稻原 勝治 同 副部長 四方田 義茂 同 門田 武雄 同 伊藤 貫一 佐藤 勇生 松本 鎭吉 中村 琢郎 大脇秋四郎 長野 良雄 藤原 勘治	立山 忠明 渡貫 良治 岩下 清爾 (見習) 一色直文 (兼)永戸政治 寫真撮影係主任 下長根 澄 關本 虎藏 橋本 芳衛 三浦 寅吉 (兼)唐澤貴一 (見習)山中宏 政治部長 西村 公明 同 副部長 森田 親一 同 上野 福松 田中 重雄 笹澤 三善 田中 重義 藤井 泰一 稻垣 重義 高木 徳 勝田友三郎 徳川 酒敏 杉山 孝次 來間 恭 高杉孝二郎 阿部 勇 金近 靖 山本彦三郎 田村 壽 廣瀬英太郎 吉野 楠三 廣瀬英太郎 (見習)林正義 保利 茂 (見習)林正義 (同)吉田信 (同)久保平三郎 (兼)青木槐三 内閣通信部長 吉村 廣 同 副部長 大森 富 同 角井龍之助 地方版検閲係主任 新屋 茂樹 荒江啓次郎 佐藤 義雄 高田島潤治 五十嵐美彦雄	佐久間文吉 遠藤 次郎 小林 邦人 近藤 誠一 岩佐 直善 小池 静 (見習)植竹圓次 (同)森川宗 與 (兼)岸醇一 社務部長 小野 賢一郎 同 副部長 新妻 莞 的場 郁翁 小坂 新夫 古館 三郎 安島 馨 須田虎太郎 北條 清一 青木 槐三 梅谷松太郎 藤澤 準二 馬場 秀夫 金子 義男 水野 可寛 松田 定 吉田 巖 伊佐 宗太 天草麟太郎 村田 忠一 (見習)今吉順一 (同)江口榮治 (同)安養寺友 一 (嘱)楠本義郎 經濟部長 杉山 幹 同 副部長 田附 音次郎 三俣淺次郎 鈴木茂三郎 新城 朝功 佐藤 彦平 日高 利市 佐藤 茂五郎 高橋勝五郎 高島 演 海口 守三 須永 彰三 茅野 榮 (見習)田川東盛 (兼)笹澤三善 (同)藤井泰一 東部聯絡部長 川邊 直藏 同 副部長 山田 彌彦	同 笹井 八郎 落合 廉一 服部庄太郎 岡見 護郎 小倉 承章 坂牧 英二 黒澤巳之作 松島 登 田中藤次郎 森川 幾代 木島 順二 竹村 三郎 町山 實雄 荒井源次郎 三宮 一耕 (見習)中澤太郎 (同)岡 幹夫 古川 貞一 別所 重雄 渡邊 彌助 校正部長 大友 喜作 同 副部長 西牧 季藏 藤甲 峰光 加藤 孝次 渡會慶之丞 藤澤孫十郎 横山龍三郎 遠藤茂三郎 加納 男 増井 照義 谷口 榮業 梶 豪雄 藤森 良信 櫻庭 猛彦 齊藤 豊人 堀田 操 富田 龍丸 奥平 祥一 伊藤 博 橋口 虎正 森田政次郎 (見習)中島道雄 (同)本田龍雄 (同)山田 要 (同)諸岡新平 外國課長 福田 吉藏 中野 繁夫 加藤 正男 神田 五雄 石川 順 (嘱)和泉良之助	運動課長 弓館 芳夫 近藤 彌一 上野徳太郎 (嘱)福田雅之助 學藝課長 井澤 弘 技元 長夫 尾崎 昇 角谷 緑三 今西吉次郎 高橋喜代松 井上操次郎 大塚 虎雄 (嘱)三宅周太郎 (同)沖本常 吉 調査課長 羽野 秀介 松原 至大 山本 薫 片平喜一郎 益守 武雄 (嘱)櫻井馨 (同)鈴木秀三郎 (兼)中野繁夫 ▼地方機關 横濱支局長 小林夢之助 同 次長 仲吉 良光 一戸 正侯 守屋 美雄 石川 尙克 (兼)河合洪曹 札幌支局長 清水都代三 静岡支局長 河野田鶴雄 仙臺支局長 岩淵 辰雄 長野支局長 青柳 隆治 浦知支局長 大島 清水 千葉支局長 水谷 温 水戸通信部主任 同 四倉 孝宣 福島通信部主任 遠藤 一
--	---	--	--	---	---

新井半三郎 齋藤恒三郎 星野 精二 赤尾 勇吉 佐々木清文 櫻井巳之吉 小森徳太郎 齋藤 勝爾 窪田庄太郎 西山 猷 吉田 朝吉 清水鬼太郎 蒲生 俊助 一ノ関忠吉 草間 貢 松井竹右衛門 菅原長五郎 木村吉太郎 山崎 眞藏 木村富太郎 堀内 國一 栗谷 謙三 若松 安則 成澤 芳治 宇佐美卓爾 大森駒三郎 村上常三郎 武子 六輔 鈴木 林平 柴田 拙堂 曾根喜四郎 高橋 猛 鈴木仲次郎 上田彌三郎 小島 廣太 長谷川徳司 馬場伊三郎 平塚千之助 中尾藤三郎 淺見千代三郎 諏訪作二郎 太田 章 武藤 仙桂 岡田 誠一 酒井 末吉 野口巳之吉 島田九左衛門 青柳銀次郎 神原 房治 溝口 平七 大内 章治 石黒 清藏 警野 留吉 原田 陸平 大室彌三郎 小林 半次 星野久太郎	鈴木貞次郎 庄司 專三 高田 大作 淺利松五郎 和久田三郎 手塚治三郎 鈴木 長吉 巨 晋松 庄司要三郎 渡邊源三郎 平井 静 辻 孝男 寺門彌三郎 野口山義成 中川幸太郎 井上清太郎 田邊 芳造 小室 勝爾 石坂喜太郎 八畝 辛男 田島平九郎 山本勝三郎 小串 俊勝 山本與四郎 木村愛之助 山木與四郎 廣告部長 山下 敏雄 南 強一 富永 益三 齊藤 三郎 阿部 正巳 溝口 正 土橋徳太郎 野村 要 桑原 龜吉 宮地 宗平 神山 康司 中山 龍平 青木 高 鈴木 嘉邦 大角 練平 鈴木 新太郎 川上善四郎 仙谷新太郎 永田 齊 森 吉兵衛 西垣 武一 成井 貞雄 後藤 數馬 下山俊一郎	活版部長 加藤 爲久 同 次長 帆持 彌太郎 同 小林 政利 秋葉 清三 今西鐵五郎 秋葉 清三 小柳徳次郎 茂手木茂繁 阿部 清作 松澤孝一郎 増岡 幸平 天野民三郎 奥 操 西山 覺治 大倉 熊吉 吉光寺久蔵 和田 三郎 中村 芳造 沖 彌七郎 村山 治助 齊藤 弘一 清水 新吉 小田部末吉 稻見 清助 奥平 榮 秋元 周作 粉川 清松 石橋美太郎 栗林青太郎 黒部新太郎 永原 清 櫻井 善平 岩田 幹一 平林清太郎 田中 清治 加納 嘉彦 望月 義治 佐野龍太郎 矢崎 照吉 三木竹二郎 曾我 義雄 齊藤吉之助 増井 はる 伊能 しま 戸塚友次郎 石川 長作 管沼米次郎 川島兼三郎 山口初二郎 豊田 才吉 長田 毅 金子高二郎 藤野秀太郎 小林勝太郎 金子 圭造 杉山 定治	岡崎廉一郎 岡村 耕平 細井竹三郎 服部房次郎 樋口 右一 水見 政治 ステロ部長 渡邊 幸松 北野 政吉 日向 岩吉 野池萬次郎 遠山鈴之助 下村庄次郎 早川 愛治 松本藤太郎 酒井彦一郎 石沼 義雄 猪瀬勘一郎 大島 孝吉 阿刀 卓一 印刷部 保坂 要之助 松本治三郎 鈴木嘉兵衛 黒川 福藏 太川長次郎 森 勇作 南部 義三	都築 鶴藏 島 葆 中野 茂十 山本 友 佐藤 太郎 富田伊太郎 高野 耕作 富間久次郎 福地藤三郎 富井 峯吉 伊藤 鬼一 島崎 徳藏 徳守 泰治 金谷彌惣次 櫛橋 力藏 渡邊 兵作 一森 正吉 大野 勇吉 庶務部長 佐 野 周 坂上喜一郎 中村 清治 磯部 保鶴 大石 修三 磯部 鐵治 原 千代海	重役 取締役社長 本山 彦一 同 副社長 矢野 文雄 同 常務取締役 高石眞五郎 同 奥河信太郎 同 松内 則信 同 吉武鶴次郎 同 櫻田松太郎 同 重役直屬 竹越與三郎	東京日日新聞社 昭和二年十一月一日現在
--	--	--	--	---	---	------------------------

<p>編輯局</p> <p>編輯長 後藤 又男 社會部長 細井 貞吉 政治部長 石母田 文雄 商況部長 吉田 常太郎 茂木 耕三 清水 憲亮 高橋 重尾 寺内 留吉 藤井 祿郎 藤井芳太郎 塚本 保也 蓮沼三郎 大谷 豐司 富永直次郎</p>		<p>事務局</p> <p>理事兼事務長 牛袋 吉次 工場部長兼販賣部長 松島 基一 廣告部長(兼)三溝誠一郎 同部 次長 高畑 定吉 印刷部主任 荻野爲三郎 村上 松壽 松下 重次 神谷 進 池田 信子 小川 廣 小林 庄松 加藤 正男 奥田新三郎 川村 義雄 辻村 主良 山内 庸三 丸山作次郎 秋山 信 中郎義一郎 天野 莊作 稻東 惠司 田上 友行 三澤 幸一 神谷 哲 三上 九郎</p>					
<p>東京毎日新聞社</p> <p>昭和二年十一月一日現在</p>		<p>編輯局</p> <p>編輯局長 大友 温 整理部長 板谷 治平 小野田素夢 原木 郁郎 木場 一三 松井直一郎 外交部長 正富 曉 同 理事 川崎 達夫 政治部主任 鈴木 幸三 山崎 義人 福井 賢 安吉 英夫 田村 寬一 村松竹太郎 吉井 哲三 柴田 義久 安東富士夫</p>		<p>印刷局</p> <p>印刷局長 原 貞雄 同 助役 佐藤 豊吉 同 助役 中田 美作 同 助役 佐田 吾吉 同 助役 油布 勝雄 同 助役 矢田山保太郎 同 助役 大友 金治 同 助役 本澤保次郎 同 助役 中村 武雄 同 助役 久世民三郎</p>			
<p>營業局</p> <p>營業局長兼販賣部長 柳本 元一 會計課長 前澤 盛太 鈴木 近藏 井上 義一 林 保 高橋四十一郎 高瀬 幹 高取濱吉郎 大郎幸太郎 池田 正男 三浦 一男 鈴木 盛榮 吉田 貞治 御簾 納健 石橋德太郎 住谷 儀助 三橋 三郎 駒井 善六 高橋 守義 駒井 善六 販賣部 和泉 幸泰 井上 廣聖 百瀬 要 石川 好一 千葉 茂 桑原芳次郎 關 金之輔 關 留吉 早川 榮 桑原啓次郎 小泉 榮吉</p>		<p>東京大勢新聞社</p> <p>昭和二年十一月一日現在</p>		<p>印刷局</p> <p>印刷局長 松内 則信 同 助役 岸井 壽郎 同 助役 秋好 實 同 助役 增田 喜造 同 助役 栗山長次郎 同 助役 小原 直治 同 助役 香川 光麿 同 助役 大石 新七 同 助役 田代 辰三 同 助役 鈴木 連治</p>			
<p>編輯局</p> <p>編輯局長 大友 温 整理部長 板谷 治平 小野田素夢 原木 郁郎 木場 一三 松井直一郎 外交部長 正富 曉 同 理事 川崎 達夫 政治部主任 鈴木 幸三 山崎 義人 福井 賢 安吉 英夫 田村 寬一 村松竹太郎 吉井 哲三 柴田 義久 安東富士夫</p>		<p>營業局</p> <p>營業局長兼販賣部長 柳本 元一 會計課長 前澤 盛太 鈴木 近藏 井上 義一 林 保 高橋四十一郎 高瀬 幹 高取濱吉郎 大郎幸太郎 池田 正男 三浦 一男 鈴木 盛榮 吉田 貞治 御簾 納健 石橋德太郎 住谷 儀助 三橋 三郎 駒井 善六 高橋 守義 駒井 善六 販賣部 和泉 幸泰 井上 廣聖 百瀬 要 石川 好一 千葉 茂 桑原芳次郎 關 金之輔 關 留吉 早川 榮 桑原啓次郎 小泉 榮吉</p>		<p>東京大勢新聞社</p> <p>昭和二年十一月一日現在</p>		<p>印刷局</p> <p>印刷局長 松内 則信 同 助役 岸井 壽郎 同 助役 秋好 實 同 助役 增田 喜造 同 助役 栗山長次郎 同 助役 小原 直治 同 助役 香川 光麿 同 助役 大石 新七 同 助役 田代 辰三 同 助役 鈴木 連治</p>	

<p>山形通信部主任 豐田正直 宇都宮通信部主任 水澤清三郎 前橋通信部主任 酒井宗吉 甲府通信部主任 平野雷次郎 八王子通信部主任 (準)青木 潔 青森通信部主任 齊藤 武 新潟通信部主任 鳥海眞助</p>		<p>營業局</p> <p>局長 吉武 鶴次郎 同主事(兼)武田 榮 販賣部長 七海 又三郎 同 助役 小池 又一郎 同 同 平山 新太郎 同 同 松尾 勝 友添 保 松浦 俊 前坂治三郎 關 芳磨 小林龜千代 中原 政則 一宮 毅 田中 文太 横山慶太郎 坂庭 吉雄 永井 龜一 宮比 重次 大場 幸雄 (準)清瀬芳夫 (同)鹽尻藤太郎(同)鈴木郁三(見習)鈴木勝雄(囑)小林吉次郎(同)井上良之助(大母係) 柴田 三郎</p>		<p>東京毎日新聞社</p> <p>昭和二年十一月一日現在</p>		<p>印刷局</p> <p>印刷局長 松内 則信 同 助役 岸井 壽郎 同 助役 秋好 實 同 助役 增田 喜造 同 助役 栗山長次郎 同 助役 小原 直治 同 助役 香川 光麿 同 助役 大石 新七 同 助役 田代 辰三 同 助役 鈴木 連治</p>	
<p>東京毎日新聞社</p> <p>昭和二年十一月一日現在</p>		<p>東京大勢新聞社</p> <p>昭和二年十一月一日現在</p>		<p>東京大勢新聞社</p> <p>昭和二年十一月一日現在</p>		<p>東京大勢新聞社</p> <p>昭和二年十一月一日現在</p>	

田中 三郎 根岸 榮盛 片岡 保 村上清太郎
 今治 達二 牧野清太郎 菊地 義夫
 江藤 治雄 伊藤シズ枝 廣告部長 加納 督
 中村シゲ子 市村 實 小玉金吉郎 倉田 佐一
 直下 明 小島 龍夫 武笠 孝悌

東京朝日新聞社

昭和二年十月二十日現在

重役

取締役社長 村山 龍平
 専務取締役 上野 精一
 同 下村 宏
 同 村山 長舉
 同 小西 勝一
 同 高原 操
 同 今村宗太郎
 同 石井光次郎
 同 石井光次郎
 同 木下耶摩次
 同 辰井 梅吉
 同 岡野養之助
 同 神崎 嘉藏
 同 原田棟一郎
 同 花井 卓藏
 同 出版編輯部 翁 久允
 同 城山登美子

編輯局

局長 緒方 竹虎
 主幹 牧野 輝智
 同 美土路 昌一
 同 杉村 廣太郎
 同 米田 實
 同 柳田 國男
 同 論說委員 緒方 竹虎
 同 杉村 廣太郎
 同 關口 泰
 同 編輯局勤務 坂崎 坦
 同 町田 梓樓
 同 關口 泰
 同 有竹 修二
 同 尾崎 秀實
 同 原田 稔
 同 北條 憲政
 同 庶務課長 廣瀬 爲次郎
 同 川島 兵助
 同 早川富太郎
 同 整理部長(兼)美土路昌一
 同 丸田 一郎
 同 千葉 勇次郎
 同 秋山安三郎
 同 伊藤 盛一
 同 石塚 一雄
 同 小野 肇
 同 木下 宗一
 同 加藤 祇文

尾坂 與市 大澤 曉一
 岡見 齊 加藤 敬三
 河合 政 篠田 弘作
 陶山三保之介 瀧川 源吉
 田中 稻三 大東長次郎
 高橋 橋郎 富岡 重雄
 生江澤連雄 福馬 謙造
 矢島矢洲夫 山本 地榮
 鈴木 十郎 橋本登美三郎
 渡邊紳一郎(兼)時岡輝三郎
 (囑託)樺島勝一
 寫真課長 谷口 德三郎
 淺井 仁 上野 悟郎
 北川 謙二 窪田 照三
 佐野 正和 島田 謙介
 佐々木信暉 丸山 四郎
 (兼)田中稻三
 通信部長 伊東 圭一郎
 同 次長 木村 東
 伊藤 鑑 稻庭 謙次
 織田 民夫 上村 英雄
 佐々木斧次郎 田村 正美
 橋本虎之助 萩原 康吉
 橋本虎之助 服部 敬雄
 林 達磨 細川三左雄
 山崎 晴治
 機務 信局長二島菊次郎
 中村 萬吉 永田 金次
 向 守政 榎尾 松治

波方 邦治
 ▼各地通信局部主任
 岩田豊秋(宇都宮)上野銀太郎
 岩田小樽(飯原)水戸)大内修伍(新潟)吉田松太郎
 (仙臺)加藤安世(札幌)加藤芳朗(青森)金澤亮介(桐生)河西隆吉(八王子)佐々木秀雄(福島)所弘(山形)田尻淺之助(甲府)高島菊三郎(秋田)羽山平治(前橋)藤田長太郎(群馬)吉田四郎(浦和)村上孔堂(盛岡)齋藤憲一郎(千懸)松本範平(長野)義嘉倉(川崎)

外務部長 永井 萬助
 神古 百市 北野 吉内
 小村 捷治 芹澤 眞一
 柳澤慎之助(兼)町田梓樓
 支那部長 大西 齊
 太田宇之助 大井 二郎
 加藤 眞治 千原 楠藏
 グラフ部長 星野 辰男
 同 次長 中里 富次郎
 同 羽田 三吉
 渥美右一郎 大久保好六
 熊田 年平 栗林 茂枝
 小 秀二郎 佐藤 信郎
 齋藤 準一 杉山胤太郎

頼母木眞六 錦織 嘉一
 林 次忠 榊村 博
 宮武 繁(兼)谷口徳次郎
 調査部長 土岐 善廣
 菅田 浩 石田 賢也
 内山 舜 重松 孝
 菅野 泰雄 高田 謙二
 高橋清三郎 仲田勝之助
 原田榮一郎 深澤甲子男
 藤島 逸人(兼)坂崎 坦
 (兼)谷口徳次郎 杉山 明
 學務部長 石川 六郎
 妹尾 太郎 竹中 繁子
 時岡輝三郎 中川陽太郎
 (兼)林 次忠(囑託)牛山充
 運動部長 小高 吉三郎
 植村 陸郎 岡本 隆
 河合 勇 久保田高行
 (兼)櫻木俊晃(兼)丸田一郎
 (囑託)飛田忠順(同)山田午郎

海外特派員
 伊藤七司(倫敦)北野吉内
 (紐育)重徳采助(巴里)岡上
 字道(囑託)伯林)太田宇之助
 (北京)園田次郎(同)岡山源
 六(奉天)國松文雄(同)武内
 文彬(大連)中山貞雄(ハル
 ビン)中村桃太郎(上海)千
 前田 貢

原編(漢口)
 局長(取締役)石井光次郎
 文書係 豊原 瑞穂
 (兼)野原真太郎
 相談役 神崎 嘉藏
 監査役付(大朝社員)
 志毛井隆太郎
 販賣部長 刀彌館 正雄
 同 次長 高田 廣海
 同 小林 順三郎
 同 霜山 經助
 同 杉浦 寛
 渡邊善次郎
 郵送係 中山 參吉
 片岡幸次郎
 發送課長 堀川 光彌
 中島 純一 中村 勝二
 梅木 金藏 大濱要太郎
 奥田 太郎 黒崎 勝治
 瀧 義孝 谷川庄太郎
 山地仙太郎
 調査係 田寺 正敬
 永井 大三
 計算係 關根良太郎
 出版係 田畑 忠治
 飯田益太郎
 前田 貢

外交係
 大角 盛美 海野 實門
 河野 保一 田中 寛次
 田中又四郎 堀井 正三
 堀見 健三
 企畫係(兼) 霜山 經助
 鈴木喜一郎 龜畑 三郎
 工藤 勇
 管理係 田中 一郎
 西村 龍市 田原 博介
 機務販賣局 菊次 藤藏
 長谷川留吉 山下 桂三
 北海道販賣局 山出 太
 福田勇一郎
 青森販賣局 磯山 盛夫
 山形販賣局 今村 四郎
 廣告部長 北村 榮二郎
 同 次長 新田 守一郎
 整理係 木下 清夫
 小官山昌紀 小橋 憲一
 松山 蛙次
 計 算 係 森田 忠作
 太田 又吉 白井惣七郎
 信 秀雄 山口 善助
 外 交 係 杉井初太郎
 岡田 計 岡田 三治
 川勝 秀夫 川津 虎雄
 芝 孝清 清水 政視
 内藤 直茂 西本 祐鏡

<p>編輯局</p> <p>編輯局長 佐藤 三郎 編輯 大谷 浩 赤尾 廉</p>		<p>重役</p> <p>社長 岩田 欽次郎 常務取締役 村上 幸平 取締役 佐藤 三郎 同 永田 成美 理事 明渡 泰次郎</p>		<p>印刷局</p> <p>局長(兼) 石井 光次郎 印刷部長 久野 八十吉 印刷庶務係(兼) 久野 八十吉 根本 繁活 宮崎 爲藏</p>	
<p>編輯局</p> <p>編輯局長 佐藤 三郎 編輯 大谷 浩 赤尾 廉</p>		<p>業務局</p> <p>業務局長 村上 幸平 業務部長 益城 良造 販賣部長 杉野庄之助 川崎喜太郎 鈴木章一郎 清水 寛治 本持 武 角田 勝三 八反田角一郎 古川 俊二 小泉喜三郎 鈴木 千代 川部 梅子 春日井幾代 堀金美穂 藤沼 義雄 岡太郎</p>		<p>印刷局</p> <p>局長(兼) 石井 光次郎 印刷部長 久野 八十吉 印刷庶務係(兼) 久野 八十吉 根本 繁活 宮崎 爲藏</p>	
<p>編輯局</p> <p>編輯局長 佐藤 三郎 編輯 大谷 浩 赤尾 廉</p>		<p>業務局</p> <p>業務局長 村上 幸平 業務部長 益城 良造 販賣部長 杉野庄之助 川崎喜太郎 鈴木章一郎 清水 寛治 本持 武 角田 勝三 八反田角一郎 古川 俊二 小泉喜三郎 鈴木 千代 川部 梅子 春日井幾代 堀金美穂 藤沼 義雄 岡太郎</p>		<p>印刷局</p> <p>局長(兼) 石井 光次郎 印刷部長 久野 八十吉 印刷庶務係(兼) 久野 八十吉 根本 繁活 宮崎 爲藏</p>	

中外商業新報社

昭和二年十月十五日現在

<p>編輯局</p> <p>編輯局長 佐藤 三郎 編輯 大谷 浩 赤尾 廉</p>		<p>重役</p> <p>社長 岩田 欽次郎 常務取締役 村上 幸平 取締役 佐藤 三郎 同 永田 成美 理事 明渡 泰次郎</p>		<p>印刷局</p> <p>局長(兼) 石井 光次郎 印刷部長 久野 八十吉 印刷庶務係(兼) 久野 八十吉 根本 繁活 宮崎 爲藏</p>	
<p>編輯局</p> <p>編輯局長 佐藤 三郎 編輯 大谷 浩 赤尾 廉</p>		<p>業務局</p> <p>業務局長 村上 幸平 業務部長 益城 良造 販賣部長 杉野庄之助 川崎喜太郎 鈴木章一郎 清水 寛治 本持 武 角田 勝三 八反田角一郎 古川 俊二 小泉喜三郎 鈴木 千代 川部 梅子 春日井幾代 堀金美穂 藤沼 義雄 岡太郎</p>		<p>印刷局</p> <p>局長(兼) 石井 光次郎 印刷部長 久野 八十吉 印刷庶務係(兼) 久野 八十吉 根本 繁活 宮崎 爲藏</p>	
<p>編輯局</p> <p>編輯局長 佐藤 三郎 編輯 大谷 浩 赤尾 廉</p>		<p>業務局</p> <p>業務局長 村上 幸平 業務部長 益城 良造 販賣部長 杉野庄之助 川崎喜太郎 鈴木章一郎 清水 寛治 本持 武 角田 勝三 八反田角一郎 古川 俊二 小泉喜三郎 鈴木 千代 川部 梅子 春日井幾代 堀金美穂 藤沼 義雄 岡太郎</p>		<p>印刷局</p> <p>局長(兼) 石井 光次郎 印刷部長 久野 八十吉 印刷庶務係(兼) 久野 八十吉 根本 繁活 宮崎 爲藏</p>	

中央新聞社

昭和二年十月二十五日現在

<p>編輯局</p> <p>編輯局長 山口 恒太郎 編輯局長兼社會部長 田村喜三郎 兼政治部長 月性 登吉 理事 望月 見吉 經濟部長 小松 徹三 甲山 顯 倉繁 義信 川瀨 義成 堀川 勝造 根本 十郎 戸田 文治 佐々木道徳 岡村 良爾 加藤貞次郎 橋崎 浩之 赤井 治一 角園善五郎 兒島 宋吉 坂本 新藏 緒方 季平 川崎藤三郎 深谷 進 山本 彦一</p>		<p>營業局</p> <p>總務部長 大久保頼之助 理事 志村 作太郎 經理部長兼代理部長 友岡 泰 木村 延次 奥田 慎子 販賣部長 鈴木 熊吉 大久保 昇 菱刈 智憲 鈴木 忠實 大岡 次郎 渡邊 敬吉 青野八州治 林 治平 田上 市太郎</p>		<p>印刷局</p> <p>局長(兼) 石井 光次郎 印刷部長 久野 八十吉 印刷庶務係(兼) 久野 八十吉 根本 繁活 宮崎 爲藏</p>	
<p>編輯局</p> <p>編輯局長 山口 恒太郎 編輯局長兼社會部長 田村喜三郎 兼政治部長 月性 登吉 理事 望月 見吉 經濟部長 小松 徹三 甲山 顯 倉繁 義信 川瀨 義成 堀川 勝造 根本 十郎 戸田 文治 佐々木道徳 岡村 良爾 加藤貞次郎 橋崎 浩之 赤井 治一 角園善五郎 兒島 宋吉 坂本 新藏 緒方 季平 川崎藤三郎 深谷 進 山本 彦一</p>		<p>營業局</p> <p>總務部長 大久保頼之助 理事 志村 作太郎 經理部長兼代理部長 友岡 泰 木村 延次 奥田 慎子 販賣部長 鈴木 熊吉 大久保 昇 菱刈 智憲 鈴木 忠實 大岡 次郎 渡邊 敬吉 青野八州治 林 治平 田上 市太郎</p>		<p>印刷局</p> <p>局長(兼) 石井 光次郎 印刷部長 久野 八十吉 印刷庶務係(兼) 久野 八十吉 根本 繁活 宮崎 爲藏</p>	
<p>編輯局</p> <p>編輯局長 山口 恒太郎 編輯局長兼社會部長 田村喜三郎 兼政治部長 月性 登吉 理事 望月 見吉 經濟部長 小松 徹三 甲山 顯 倉繁 義信 川瀨 義成 堀川 勝造 根本 十郎 戸田 文治 佐々木道徳 岡村 良爾 加藤貞次郎 橋崎 浩之 赤井 治一 角園善五郎 兒島 宋吉 坂本 新藏 緒方 季平 川崎藤三郎 深谷 進 山本 彦一</p>		<p>營業局</p> <p>總務部長 大久保頼之助 理事 志村 作太郎 經理部長兼代理部長 友岡 泰 木村 延次 奥田 慎子 販賣部長 鈴木 熊吉 大久保 昇 菱刈 智憲 鈴木 忠實 大岡 次郎 渡邊 敬吉 青野八州治 林 治平 田上 市太郎</p>		<p>印刷局</p> <p>局長(兼) 石井 光次郎 印刷部長 久野 八十吉 印刷庶務係(兼) 久野 八十吉 根本 繁活 宮崎 爲藏</p>	

<p>編輯局</p> <p>編輯局長 佐藤 三郎 編輯 大谷 浩 赤尾 廉</p>		<p>重役</p> <p>社長 岩田 欽次郎 常務取締役 村上 幸平 取締役 佐藤 三郎 同 永田 成美 理事 明渡 泰次郎</p>		<p>印刷局</p> <p>局長(兼) 石井 光次郎 印刷部長 久野 八十吉 印刷庶務係(兼) 久野 八十吉 根本 繁活 宮崎 爲藏</p>	
<p>編輯局</p> <p>編輯局長 佐藤 三郎 編輯 大谷 浩 赤尾 廉</p>		<p>業務局</p> <p>業務局長 村上 幸平 業務部長 益城 良造 販賣部長 杉野庄之助 川崎喜太郎 鈴木章一郎 清水 寛治 本持 武 角田 勝三 八反田角一郎 古川 俊二 小泉喜三郎 鈴木 千代 川部 梅子 春日井幾代 堀金美穂 藤沼 義雄 岡太郎</p>		<p>印刷局</p> <p>局長(兼) 石井 光次郎 印刷部長 久野 八十吉 印刷庶務係(兼) 久野 八十吉 根本 繁活 宮崎 爲藏</p>	
<p>編輯局</p> <p>編輯局長 佐藤 三郎 編輯 大谷 浩 赤尾 廉</p>		<p>業務局</p> <p>業務局長 村上 幸平 業務部長 益城 良造 販賣部長 杉野庄之助 川崎喜太郎 鈴木章一郎 清水 寛治 本持 武 角田 勝三 八反田角一郎 古川 俊二 小泉喜三郎 鈴木 千代 川部 梅子 春日井幾代 堀金美穂 藤沼 義雄 岡太郎</p>		<p>印刷局</p> <p>局長(兼) 石井 光次郎 印刷部長 久野 八十吉 印刷庶務係(兼) 久野 八十吉 根本 繁活 宮崎 爲藏</p>	

澁木 權八 後藤 七郎 三輪 琢 山根 秋治 坂野國之助 鈴木太郎兵衛 米田 正弘 山田 正道 永島富士雄 前野 次郎 林 覺藏 寫真製版部長(兼) 明渡 泰次郎 (兼)中村勝郎 松澤 磯雄 橋山 貞輝 岡本 喜一 辻村 英二 東海林常三郎 淺見 巖 臨時印刷部長(兼) 中村 菊之助 (兼)高橋恒司 入原 甲三 並木惣太郎 佐藤 泰吉 (兼)細井實彦	荒木 徳助 樫原 五朗 鈴木 市夫 塚本 榮 中村柏太郎 岡本 彌吉 大崎右三郎 平井 秀郎 岩堂 幾二 中野 一路 月田 良次 明渡 泰次郎 磯雄 岡本 喜一 東海林常三郎 中村 菊之助 入原 甲三 佐藤 泰吉 細井實彦	經濟年鑑臨時編纂所 監督(兼) 明渡 泰次郎 東海林孝太郎 深井 信之 下海 廣海(囑)相川 茂輝 產業資料大系臨時編纂所 監所監督(兼) 明渡泰次郎 橋本徳太郎 三好三之助 木村 勇吉 遠藤 辰雄	支局 濱濱支局長心得星野輝三 味野 金平 菊川 涉 毛利 文男 細井 金造 名古屋支局長關戸圓次郎 沼田 賢一 神戸支局長 田中 英松 河野伊之助 柴田 康彦 大阪出張所 女鹿田觀虎 水野 信三 堀 幸之進	社會部長 石井 文作 前田 渡 瀨戸 敦 廣木 新平 岡延右衛門 大久保北秀 吉村 文夫 崎尾 好平 廣野 友吉 瀨川玄太郎 中村三五郎 地方部長 赤堀 政基 松本 辰三 玉井 浩 庶務部長 伊藤繁太郎 校 正 部 村口 凌 松本善壽郎 橋本徳四郎 丸山 義二 桐畑 英雄 道祖土次郎 速 記 部 小池 公平 笠原 清志 電 信 部 田崎 道生 寫 真 部 渡邊 逸郎 淺野 克昭 宮本 基留 橋本卯太郎 小澤 守部	總務局長 花村 四郎 副總務局長理事 長澤 貞介 經理部長 長澤 貞介 角村 覺 最上 政三 北村 道夫 花房準一郎 會計係主任 津江 進 山本貞治郎 寺井 鑄郎	營業局長 矢野 正世 廣告部長 稻葉 輪一 大谷 武雄 田中 克八 竹内 共之 中村 宗義 山下 榮一 藤井 丈吉 小島 人 關口太三郎 鈴木 長一 鈴木 賢司 鈴木喜一郎 福田鏡次郎 松島 翠 山崎新喜智 販賣部長 下 村 保 家田 廣光 原田 三作 芳賀 弘毅 木間 乙藏 大原 寅吉 齋藤 利八 瀨口 五郎 鈴木 要一 室迫 輝男 郡司 宗秋 石橋信之助 佐瀬千代松 事業部長 庄 田 良 橋本 淳 林 健太郎 富岡 豐子 大林美知子 米山八重子 高島 壽行 調查部長 武藤 哲彌 塙 丑次郎 武藤 貝三	副營業局長理事 田村 權雄 廣告部長理事 渡藤 賢松 鈴木 小市 谷 敏行 京增幸之助 松田津根雄 並木 繁 藤尾 正作 今村 義基 吉村市郎次 鷗岡 淺吉 木村 仙吾 杉本 文雄 藤田進一郎 前田 亮 販賣部長 井岡 亮輔 伊藤 正 箸本庄太郎 麻生 武治 團野 精造 加藤 富作 服部 達治 發送部 井岡 亮輔 松下嘉次郎 奥村 忠雄 足野徳太郎 桑原 翠 丸山 トメ 工務部 染谷 仙藏
--	---	--	--	--	---	--	---

萬朝報社

昭和二年十月二十五日現在

重役

事務取締役 花村 四郎 取 締 役 箸本 太吉 同 勝田重太郎 同 黒岩日出雄 監 査 役 草深今朝重	岡村 二一 長谷 耕作 三宅 從親 寺田 武雄 相澤 和夫 池田 有二 津江謙治郎 池田 廣尚 小玉猶次郎 門山 廣吉 長谷川文人 金子 彌吉 官野 正雄 經濟部長 山口 竹松 夏秋 嘉正 阿美 謙平 富岡林太郎 庄山 茂二 藤田 宣敏 森川 重海 外報部長 富士 辰馬
---	---

編輯局

主 幹 新關 庄蔵 高橋 雄雄 中島 守一 佐藤 正 伊藤 好道 木村龍太郎 本間 昌平

佐伯 尚雄 企畫部 鷺田 成男 新日本史編纂局 鷺尾 義直 武井 文夫 生駒 鏡男	藤本秀三助 池田 縦横 野澤 嘉哉	編輯局長 正力 松太郎 同 次長 柴田 勝衛 同 主事 安藤 祐四郎 第一部(整理)次長 徳永 國太郎 原 一六 小中村清象 宇野 盛 木村 與作 藤澤茂三郎 三浦 薫雄 齊山元二郎 馬場 射地 宮崎 光男 小野 虎雄 田村 泰三 清水彌太郎 文 齋部 井上 宅治 平林 襄二 管 谷 要 稻葉 熊野 圖書係	社長 正力 松太郎 編輯局長 正力 松太郎 同 次長 柴田 勝衛 同 主事 安藤 祐四郎 第一部(整理)次長 徳永 國太郎 第二部(政治)長 中尾 龍夫 第三部(經濟)次長 平野 善之助 木村 武雄 寫 眞 部 池上 義雄 徳永定次郎 吉川善三郎 藤澤 善吉 佐藤 仁壽 木村梅次郎 鈴木伊佐太 田中 政喬 麻原徳次郎 本田 勝三 在田 稠 梶谷 文平	橋本 康男 小笠原 伸 柏 通明 永田富士雄 茂木 繁 鈴木 公平 鹽出 眞澄 喜多見久雄 第四部(社會)長 石橋球三郎 林 泉 岡田彦七郎 萩 博 小野金次郎 市橋 鶴 田邊 則雄 山崎金次郎 不破 薫草 木村 正 芦川 三三 相馬 劍爾 鴫澤 幸治 柳澤幸三郎 松本 義武 夏秋 園子 第五部(婦人)長 倉若 梅二郎 永井友次郎 岩田八重子 平井ます子 石崎 喜夫 吉田 哲龍 校 正 部 三苦 亥吉 石田 喜内 永江倫太郎 栗田 柳一 齊藤喜一郎 櫻井 永治 廣住 徳一 鈴木直太郎 地方部 三大寺本紹 中川 幸吉 山内 修謙 電信速記部 横山 兼吉 杉本 豊吉 福島龜太郎 野田 義雄	宗教部 仁木 照 ラヂオ部主任阿利 費之 吉本 明光 鈴木 榮助 營業局長 矢野 正世 廣告部長 稻葉 輪一 大谷 武雄 田中 克八 竹内 共之 中村 宗義 山下 榮一 藤井 丈吉 小島 人 關口太三郎 鈴木 長一 鈴木 賢司 鈴木喜一郎 福田鏡次郎 松島 翠 山崎新喜智 販賣部長 下 村 保 家田 廣光 原田 三作 芳賀 弘毅 木間 乙藏 大原 寅吉 齋藤 利八 瀨口 五郎 鈴木 要一 室迫 輝男 郡司 宗秋 石橋信之助 佐瀬千代松 事業部長 庄 田 良 橋本 淳 林 健太郎 富岡 豐子 大林美知子 米山八重子 高島 壽行 調查部長 武藤 哲彌 塙 丑次郎 武藤 貝三	伏黒 安平 三好 彦太 經理會計部長安達祐四郎 長谷川米太郎 大江原 燭 板垣 幸吉 大久保吉三郎 大塚芳之助 加藤 次郎 栗山 福子 小山 はな 小久保よね 小俣 はる 阿部 虎雄 篠原 久吉 庶務係 山中 光拾郎 ▼各地支局 大阪支局長 新田 直藏 小須賀芳衛 森 燭 九州支局長 山田喜兵衛 齋藤 乙八 重本 茂雄 藤 吉郎 吉川 剛 藤井 義雄 永井 郁二 甲斐 傳平 甲斐 文雄 渡邊 清之 古賀 正生 濱洲支局長 長田松之輔 小倉 民壽 松尾 一次 遠藤 孝司 静岡支局長 水書 茂 丸山 宗秀 千葉支局長 山田 藤時 神田 孝一 浦和支局長 三元 誠 内藤 晃雄
---	----------------------	---	--	---	--	--

讀賣新聞社

昭和二年十月二十日現在

同 次長 岡田 復三郎	阪井 德三郎	管野 吉留	本間 德太郎	八王子支局長 館田 慶次郎	植木 仁太郎	局 長 布津 純一
同 千原 文英	婦人課長(兼) 島田 賢平	編輯局勤務	阿部 允家	(立川)海老名 光明	嶺南支局長 三澤 義助	會計部長 上原 勝
同 寶田 通元	梅山 一郎	守武 幾太郎	平福 百穂	埼玉支局長 三澤 義助	新井 忠一	津田 久治
同 鈴木 龍二	調査部長 伊藤 龜雄	相澤 照	並木 仙太郎	(熊谷)叶三男(川越)高山 武次郎	群馬支局長 根岸 十平	津島 弘
石島 梯次郎	佐々木 金之助	川村 由太郎	鴻巣 長之助	(高崎)大井 善司(桐生)石田 留松	茨木支局長 増田 辰次郎	渡邊 忠治
高藤 菊次郎	遠藤 重美	藤本 健爾	雨澤 三郎	守藤 武	(土浦)樋口 彌輔	高知 德太郎
前川 靜夫	中澤 忠一	高崎 武雄	北友 雄	吉澤 虎雄	栃木支局長 飯島 武	渡邊 武雄
澤田 進之丞	岩田 得三	通信課長(兼) 田中 正之	宮本 康	大阪支局長 山崎 卓雄	(足利)小幡 重三郎	渡邊 武雄
小林 廣介	楠瀬 正登	川田 二郎	松浦 眞二	廣瀬 源吉	福島支局長 橋本 正一	高橋 武雄
北村 好三	大谷 秀正	陰山 曉榮	荒木 操一	齋藤 源吉	山形支局長 川上 好雄	青柳 欣一
森 勝治	石橋 恒喜	長澤 義雄	磯野 他四郎	清水 三郎	津山 直	金栗 二男
運動課長 白井 正福	長崎 義雄	赤江 時二	谷口 作次郎	菅野 博夫	大塚 攻光	越後 平太郎
外報部長 森山 達枝	前川 喜一	磯野 定近	原宿(川崎)西村 勇毅(鎌倉) 柳谷 静一	静岡支局長 橋本 博	福島 清雄	須藤 榮
(兼)直海善三 板倉 進	校正課長	長崎 義雄	管野 吉留	八王子支局長 館田 慶次郎	植木 仁太郎	局 長 坂部 藤二
近江谷 駒	管野 吉留	柳谷 静一	静岡支局長 橋本 博	(平)半谷 政喜(郡山)緑川 敬	止若松 芥川 謙吾	販賣部長(兼)坂部 藤二
海外特派員	管野 吉留	柳谷 静一	静岡支局長 橋本 博	山形支局長 川上 好雄	渡邊 近一	太期 榮藏
染谷 爲介(百里)四至本 八郎	管野 吉留	柳谷 静一	静岡支局長 橋本 博	(米澤)高木 健夫	尾崎 太郎(長野)杉村 令浩	青柳 欣一
(桑港)浅海庄一(ホノルル)	管野 吉留	柳谷 静一	静岡支局長 橋本 博	尾崎 太郎(長野)杉村 令浩	(仙臺)數又 勉(新潟)古瀬 長	牧野 優
瀬沼 三郎(北京)橋本 松道	管野 吉留	柳谷 静一	静岡支局長 橋本 博	尾崎 太郎(長野)杉村 令浩	(仙臺)數又 勉(新潟)古瀬 長	池田 利雄
(奉天)	管野 吉留	柳谷 静一	静岡支局長 橋本 博	尾崎 太郎(長野)杉村 令浩	(仙臺)數又 勉(新潟)古瀬 長	杉本 泰太郎
地方部長 田中 正之	管野 吉留	柳谷 静一	静岡支局長 橋本 博	尾崎 太郎(長野)杉村 令浩	(仙臺)數又 勉(新潟)古瀬 長	境田 四郎
内野 啓造	管野 吉留	柳谷 静一	静岡支局長 橋本 博	尾崎 太郎(長野)杉村 令浩	(仙臺)數又 勉(新潟)古瀬 長	
萬年 好二	管野 吉留	柳谷 静一	静岡支局長 橋本 博	尾崎 太郎(長野)杉村 令浩	(仙臺)數又 勉(新潟)古瀬 長	
山本 保	管野 吉留	柳谷 静一	静岡支局長 橋本 博	尾崎 太郎(長野)杉村 令浩	(仙臺)數又 勉(新潟)古瀬 長	
小川 一人	管野 吉留	柳谷 静一	静岡支局長 橋本 博	尾崎 太郎(長野)杉村 令浩	(仙臺)數又 勉(新潟)古瀬 長	
學務部長 島田 賢平	管野 吉留	柳谷 静一	静岡支局長 橋本 博	尾崎 太郎(長野)杉村 令浩	(仙臺)數又 勉(新潟)古瀬 長	
同 次長 小島 靜三郎	管野 吉留	柳谷 静一	静岡支局長 橋本 博	尾崎 太郎(長野)杉村 令浩	(仙臺)數又 勉(新潟)古瀬 長	

やまと新聞社

昭和二年十一月一日現在

社長 松下 勇三郎	中山 芳武	青山 綠朗
副社長 田中 朝吉	佐藤 重信	小山 義一
編輯局長 田村 全宜	速記部 佐藤 德次郎	
政治部長 田村 全宜	房間 辯治	
社會部長 吉野 要人	營業局	
學務部長 宇賀 三十三	理事 營業局長 兼 販賣部長 工場監督	
地方部長 山本 淳一	大岡 亮義	
校下部長 樋口 精一	廣告部長 橋本 英	
言論部長 矢部 周	理事 武藤 藤平	
外交部 宮本 洵	計算部主任 藤野 和夫	
宮野 晋	會計主任 八杉 正夫	
青柳 義孝	副業部主任 渡邊 政治郎	
伊藤 豊一	長谷川 泰三	
三宅 正夫	大谷 民三	
白土 偉一	村井 長祥	
關澤 幹夫	藤原 一野	
岸 林平	和田 辰治郎	
岡部 甚一	樋口 兼一	
小林 善四郎	加賀谷 伊助	
神保 幹雄	後藤 二郎	
整理部 林 三郎	齋藤 曉之助	
福田 壽郎	金子 五郎	

國民新聞社

昭和二年十一月五日現在

金子 喜三	木口 吉次	鉛版部主任 橋本 菊之助	熊切 芳太郎	松井 滿雄
繁田 登	岸田 太重郎	文撰部主任 大尾 勝太郎	平塚 篤	一ノ瀬 信義
柳澤 平八	中里 耕三	活版部次長 増田 幸之助	竹中 廷壽	秋葉 忠雄
石井 七三	種市 中一	文撰部次長 加藤 重吉	(新島) 池邊 鈞	池邊 鈞
坂爪 太平	大館 徹郎	鉛版部次長 笠原 正吉	石田 富造	齋藤 種臣
伊藤 勝太郎	工場長 岩切 猪之助	印刷部次長 藤原 鏡之助	政治部長 細野 繁勝	
工場次長 兼 活版部主任 中村 太六	印刷部主任 高瀬 幾太郎	大阪支局長 伊田 暉	同 次長 大場 英十郎	
		福瀨支局長 角田 富次郎	同 長 武藤 俊次	
			三浦 悦郎	武藤 俊次
			小澤 長三郎	楠本 通彦
			小澤 繁一	直海 善三
			山内 一郎	高橋 邦夫
			東 舜英	白石 重
			阿子 島俊次	清水 暖次郎
			經濟部長 長谷川 光太郎	
			同 次長 喜多 一重	
			林 瑛	中村 龜吉
			田部 开俊夫	松藤 秀雄
			山崎 源太郎	小出 成五
			駒村 雄三郎	石川 梯次郎
			鈴木 萬造	宮内 喜官
			手島 雄二	林 四郎
			松本 一	
			銀行會社課長(兼) 長谷川 光太郎	
			仁保 俊雄	(兼) 林 瑛
			廣島 實	
			社會部長 田原 茂作	

重役

取締役社長 德富 猪一郎	同 副社長 河西 豐太郎	同 取締役 山川 瑞三	同 取締役 石川 武美	同 取締役 堀田 良平	同 取締役 堀田 泰甫	同 取締役 布津 純一	同 取締役 須田 宣	同 監査役 東 虎次郎	同 監査役 廣瀬 重太郎
--------------	--------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	------------	-------------	--------------

編輯局

局長 山根 眞治郎	論說部長(經濟學博士) 阿部 賢一	論說委員 伊藤 龜雄	森山 達枝	田中 正之	長谷川 光太郎	中津海知方	相澤 照	土岐 孝太郎	本間 久雄	長野 朗	整理部長 待遇草野 茂松	編輯主事 井上 圓三
-----------	-------------------	------------	-------	-------	---------	-------	------	--------	-------	------	--------------	------------

總務局

局長 布津 純一	會計部長 上原 勝	津田 久治	國武 忍	竹島 弘	新津 千之	渡邊 忠治	鈴木 良太郎	高知 德太郎	益子 七郎	渡邊 武雄	秋山 懋	庶務課長 山中 鹽	本間 隆	小野 實	河西 兵助	三枝 保治	事業部長(兼) 布津 純一	秋元 法規	竹内 松治	越 甲一
----------	-----------	-------	------	------	-------	-------	--------	--------	-------	-------	------	-----------	------	------	-------	-------	---------------	-------	-------	------

營業局

局長 坂部 藤二	販賣部長(兼) 坂部 藤二	太期 榮藏	伊藤 筆五郎	青柳 欣一	高橋 耕三郎	金栗 二男	沼 鐵之助	越後 平太郎	眞海 亨治	須藤 榮	藤田 文明	都筑 三郎	保坂 克忠	牧野 優	富田 作藏	池田 利雄	青木 勇治	杉本 泰太郎	近藤 惣五郎	境田 四郎
----------	---------------	-------	--------	-------	--------	-------	-------	--------	-------	------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	--------	--------	-------

口利男(兼中)芝恵一(高尾) 海外特派通信員 松本武雄(上海)桑原一郎 (哈爾濱)波田野乾一(北京) 榎米吉(青島)森川照太(天津) 平川潔(安東縣)橋崎一 良(奉天)稻垣兵治(長春)中 山晴夫(大連)東登一郎(營 口)奥田規二(京城)松尾久 雄(釜山)久納重吉(大邱)藤 野隆雄(平壤)竹村宗一(清 津)遠藤照治(秦港)飯塚茂 (新嘉坡)沼野英一(コロン ボ)南部慶三(ポルトサイ ド)	宮坂 勸吾 松尾 竹藏 西丸 重雄 吉澤泰次郎 新田 繁義 佐川 良造 佐藤 次郎 關根 秀武 市川 一男 同地方專賣係主任(兼) 鈴木 悦二郎 同外交主任山村 彌一 石原 徹雄 山口 徳房 同郵送係 王木 兼治 同發送係主任宮野 博 和田小三郎 龜田 清 西崎 寛一 廣告部長 三浦 修治 同助役 木村 哲三 同内勤係 植田 直 遠藤 亥織 吉野 辰雄 山岡 重孝 原澤喜三郎 三品 秀 川本 力 同外交係 中村 康次郎 粕谷 忠雄 垣本彌三郎 多田鐘之助 木村幸太郎 富知 俊道 西村 三郎 原田 公道 淺井龜之助 村田 辨藏 稻垣 實 若林 昌男 柳澤 一雄 松島 直義 廣告校正係 木村 金吾 岩田兼太郎 丸井 榮雄	本間 滿 小畑 巖 同萬案内係 四宮 かね 須田 岩二 山崎 幸作 會計部長 小川 克巳 同主事 橋本 義恕 同主事補 神原 福壽 久留間 桓 遠藤 高義 同出納係 井村 由雄 白崎 欣平 同集金係主任石橋愛之助 津村 久雄 調度部長 曾我 精一 同主事補 荒井 涼 井澤 廣吉 森 正幸 阿部 一二 永井信二郎 渡邊 武雄 津久井文雄 岡野徳次郎 松田 爲吉 山邊 玄曠 工務部長 尾崎 正文 同助役 大塚 廣次 服部 四郎 長谷川義温 水島 岩吉 同活版係 安藤 信太郎 村山 末松 遠藤 芳吉 井上 敬一 三浦恒四郎 小林 定平 同印刷係 小高 宗助 石田 豊吉 徳野壬午郎 中川甲子三	同製版係 佐藤 宥宗 田口 審 人事課長(兼)小川 克巳 神原福壽(兼)伊藤榮作(兼) 竹村岩太郎(兼)棚澤徳太郎 杉山 榮 調査係長(兼)小川 克巳 ▼社營專賣店主任 菊地豊次郎 阿久津椿三 宮本 虎幸 板橋 晰 石松 文一 富田 松吉 赤羽 紫朗 櫻井 操 宮下 信 山本 清壽 須藤 興吉 岡崎傳次郎 千葉善四郎 山田 金作 岩崎 勝治 鹽野 虎一 安藤 五六 富田由太郎 長谷川健一 星野 定吉 石川 憲治 北川 參次 小池 昂 高倉理發智 石川卯四郎 板倉 實 相澤三之助 熊代 行雄 櫻庭 弘 石井 通光 辻 信一 上田 純三 堀田 實 船田 茂夫 阿部 長助 小林 敬治 富澤 亮松 島山 次郎 吉田仙太郎 綱谷彌次郎 尾形 忠吾	江口 素一 小出富次郎 澤 悦郎 八木定太郎 庄田 庄造 井上 柱治 齋藤 孝七 篠原 景秀 ▼社營地方專賣所主任 吉田 秀光 赤坂榮十郎 一ノ瀬幾三 宮下 七二 金井幸次郎 五十嵐文次郎 長野 宅馬 星野 福壽 大屋 尚顯 小池 昂 櫻井 久雄 檜山 利夫 豐田信之允 田矢 數一 關口 久作 小島 豊平 紫田 甚吾 中村初太郎
--	--	--	--	--

營業局
 營業局長 加藤 功
 同理事 神吉 英三
 販賣部長 鈴木 悦一郎
 同助役 熊谷 寛一
 同市内係主任 氏家 治國
 石川 連城 根本 徳重
 佐野 常吉 伊勢 三郎
 白濱 恩 小堀 史朗
 中島 祐吉
 同地方係主任堀口 憲
 山森 文雄 岩本 直次

牧ノ瀬祐保 佐藤 一郎 武田長之助 柱山 敬勝 後藤彦太郎 多根 隆一 安田 周 有門 榮 太田 利雄 安財充三郎 矢口 洋三 編輯庶務 田口 恒 價田 謙藏 新津 享 長谷川千吉郎 社營事業部長曾我 精一 粕谷 源藏 石田 藤藏 松田 爲吉 小林壽一郎 大島 一郎 佐野重之助 徳峯 康徳 支局特設員 千葉支局長 龍田 憲治 今野 圭助 越川 多喜 佐藤 英郎 宍倉 誠 平野 富造 森近 峰熊 静岡支局長 紋谷 專吉 中西 春雄 山口 宏 中田 吉堯 古川 俊雄 望月小次郎 大杉孝太郎 永井 芙蓉 土屋 庄作 横濱支局 大島 昇 安藤 忠良 古田 豊巳 宮下 幸作 相澤 喜一 西谷 實 三宅 梯吉 金子喜之助 笹原 力	八王子支局長淺見 正作 小林 眞七 佐藤勇次郎 石川 佐郎 浦和支局長 仲西初五郎 栗原佐次郎 松本 義則 齋藤 正人 今田 猛象 小野崎 榮 前橋支局長 森田 春吉 中島征次郎 中島 龍吉 加藤四郎八 岡部 市郎 葛西 清能 青水 修二 水戸支局長 峰 四七三 大野 幸吉 小神野不二男 飯島幸之丞 堀江 磯七 宇都宮支局長高橋達次郎 山口 清高 中島 保雄 森戸徳太郎 黒田 榮吉 森近 峰熊 甲府支局長 天川泰太郎 窪田 一男 齋藤 享一 福島支局長 橋源太郎 谷口 湛 谷津 登磨 山田貞 郎 田島伊豆毛 樋田 久 菊地 勝美 水木 唯祐 仙臺支局長 一條宗代次 中里 北夫 遠藤東一郎 庄司猛太郎 千葉 忠也 三好子之吉	長野支局長 森 敏雄 淺井 數喜 太田 輝造 勝山 爲如 長谷部 賢 山田不二夫 盛岡支局長 窪田 鏡男 渥美 誠吾 藏田 久 山形支局長 伊藤 博 澁谷 信一 三田 恒雄 村瀬 循示 平野喜三郎 高山莊三郎 渡邊 能力 古川 俊一 渡邊 源六 秋田支局長 船木英次郎 熊澤 龜元 澤田松太郎 新潟支局長 吉本 正也 吉田 正 下平 廣惠 林 三郎 山本 猛二 瀧澤 正直 青森支局長 佐藤 信親 野澤 武藏 松本 克巳 下野末太郎 ▼内國通信(東部) 名古屋支局長矢澤 茂一 名古屋支局長高橋日出男 札幌支局長 高橋日出男 山口政民(札幌)鶴巻民次郎 (函館)青地行一(小樽)鹽谷 忠(旭川)鈴木要吉(室蘭)吉 島力(釧路)中神精(根室) 長谷川政越(稚内)佐々木友	三部(帶廣)鈴木兵亮(留萌) 淡路勝馬(網走)福家勇(豊 原)吉田正(新潟)浦野左右 大新瀧(小野強)長岡(中村 武一)高田(清水清吉)直江 津(淺山香寛)佐渡(西澤新 次)柏崎(山田勢五郎)新津 武藤琢磨(新發田) ▼内國通信(西部) 京都支局主任吉田 程二 馬場恒太郎 竹内勝太郎 高橋 信三 北野龜次郎(大津)川村秀明 (長瀝)谷口鐵次郎(彦根)野 口秀夫(虎姫)野村卯不祐 (八瀨) 神戸支局主任中田 檢松 森岡 亮二 高田信砂(明石)河本豊太郎 (加古川)澤田敬三(豊岡)森 一夫(八鹿)岡野鶴吉(篠山) 田原恒美(柏原)中島辰三 (小野)片山嘉一郎(洲本)松 尾虎吉(奈良)山本清太郎 (丹波市)阿部久一(八木)大 元輝二(和歌山)大原孝澄 (高野山)松岡由太郎(妙寺) 河里彦次郎(粉河)多田幸生 (田邊)佐野寛孝(新宮)奥田	清三(岡山)見島清(倉敷)大 山圭一(笠岡)長岡常男(津 山)月原稔(尾)青木茂(尾 道)木曾田賢一(廣)大村象 之助(福山)高橋喜一(山口) 高木義太(宇部)傾島信茂 (島友)川岡由三郎(米子)坪 倉隆一(松江)舟木一義(濱 田)土井興夫(小瀬)高村民 男(敦賀)柳村喜一(福井)岡 谷清次郎(金澤)村井助正 (富山)山田尚(津)中村直藏 (山田)東村一藏(明野)水 野後八(岐阜)美馬伊三郎 (高松)東山半之助(丸龜)宮 武福太郎(善通寺)藤田親治 (觀音寺)西内義道(徳島)田 中七三郎(松山)長尾忠雄 (今治)西山鐵三郎(宇和島) 矢頭敏馬(八幡)石丸重義 (高知)弘中傳二(小倉)小南 清澄(八幡)北利民(久留米) 井上靜穂(大牟田)吉野安藏 (大分)山蔭齋(別府)川原田 重二(中津)上田佐平(佐賀) 中村勝市郎(長崎)與栢菊四 郎(佐世保)宇和政行(熊本) 金澤世(鹿兒島)若田三五 (宮崎)吉田秀四郎(臺北)山
---	---	---	--	---

大阪毎日新聞社

昭和二年十一月一日現在

重役	取締役社長 本山 彦一 同 副社長 矢野 文雄 常務取締役 高石眞五郎 同 奥村信太郎 同 松内 則信 同 吉武鶴次郎 同 櫻田松太郎 同 取締役 松本 松藏 同 城戸 元亮 同 監査役 桐島 儼一 同 中村喜代植 同 大久保豊米	柏井孝二郎(兼)林 賢一 地方巡察員 丸中 一保 (兼)富永久三(同)尾崎雄雄 上田正二郎 會計検査員(兼)高村爲三 同(同)堀江敬吉(同)池袋愛 同(同)東京在)上井敬八(同) 守川信吉 事業部長心得伊藤金次郎 同 渡邊周太郎 同 水野 新幸 同 中島 祐文 同 岩崎 愛二 同 林 嘉一 同 高山憲之助 (兼)上田正二郎(同)森田梅 吉(兼)中尾保 航空課長 福地 新次 (兼)世川憲次郎、和田喜三 郎、松下辨二(準)中務春之 丞(兼)南彦馬 東京駐在航空課 羽太 文夫(兼)吉田 貞治	主 幹 高石 眞五郎 總 務 奥村 信太郎 編輯顧問 太田原 在文 同(兼)木下 東作 編輯局 黒田 乙吉 上原 虎重 (兼)成田 篤 小野 秀雄 杉本 鶴一 書記兼庶務係荒木利一郎 ▼客員 小村俊三郎 古島 一雄 吉田 善佐 橋戸 信 櫻井 徹三 ▼社友(法博)堀江 歸一 ▼見習生 澤 重紀 梶本桂太郎 本多 元義 佐々木修一郎 丹治 武雄 天知 俊一 長永 義正 三宅 俊夫 小川市太郎 論 說 課 赤坂 清七 井上吉次郎 澤村幸夫 (兼)渡邊廣重(同)澤村幸夫 (兼)川島清次郎 整理部長 平川 清風 同 副部長 小西 惠次郎 同 田村 省三 前田 龍彦 海老根正三 加茂 勝雄 片山 茂美 岡部 緑 松本 豊三 政治課長(兼)平川 清風	鴨居 悠 奥村恒次郎 薛分外喜男 和田傳五郎 (見習)平野長一(兼)久富達 夫 内閣通信部長橋崎 觀一 同 副部長 上田 正二郎 同 持田 賢士 地方版檢閲係主任 山脇 誠 佐藤 定雄 谷 庄一郎 吹田陸之助 乾 猷平 山田 威 石川謙次郎 武良 禎 吉田 福男 古田 三好 石黒 憲輔 小田 善作(兼)大宅 經三 (準)西谷雅義(同)二瓶千代 (東京在)河野實雄 外國通信部長河野三通士 楠山義太郎 長野 敏夫 永戸 俊雄 吉岡 文六 南條 眞一 小林 英生 久島 午郎 小川 英生 支那課長 澤村 幸夫 三池友佐夫 引田哲一郎 松本於菟男(準)古市美津雄 社會部長 阿部 眞之助 同 副部長 井上 輔二 同 玉置 徳三 同 和氣 律次郎	星野 龍猪 須古 清 堤 爲章 伊藤 恭雄 長岡 憲文 岩崎 榮 長岡 四朗 佐藤 與一 平野 嶺夫 大野 靜馬 梶 秀也 森 秀雄 吉田 福男 久保田政衛 田中 仙丈 久富 達夫 本田 親男 宮野 二郎 富田 幸男 小林 登 和田傳五郎 前田 三男 (兼)高原慶三(見習生)辻修 二(同)山口勝一(同)城戸又 一(同)赤沼實(兼)平田春江 經濟部長 下田 將美 同 副部長 佐藤 善郎 三浦 弘一 川崎 方二 西野入愛一 小野 靜夫 一柳 政夫 松本 榮介 朝倉 孝雄 吳 三連 池松 勝 緒方 和夫 豐川良之助 桐原 眞二 (見習員)伊藤修(同)西村義 雄 學務部長 千葉 龜雄 同 副部長 北尾 鏡之助 名越國三郎 大原 武夫 石川 欣一 高原 慶三
-----------	--	---	---	--	---

渡邊 均 大竹憲太郎 野村 治輔 中島 達 柄澤 廣之 小笠原秀豆 和田 茂生(兼)安成 二郎 (同)沖村常吉 調査課長 石割 松太郎 (兼)村島歸之 松井 信一 石井 潔(兼)渡邊 寛一 中央聯絡部長小室 秀雄 同 副部長 中島 康千代 同 勝田 宗太郎 君島 知徳 北川島太郎 佐藤 賢 福島 乾 椎名 靖 永岡 榮吉 西田 方郎 森 都含 松尾 顯一 阪井 芳三 今田 春治 小谷 精明 黒崎貞治郎 青木 茂作 山根 英郎 川上福三郎 藤澤 信雄 曾根 定一 平野 昇(兼)内海 寛 (同)管井榮治(見習員)池浦 英心 西部聯絡部長藤井 公平 同 副部長 新見 信 市川 三郎 久岡 繁則 首藤 登 山本 貞 瀨口 正夫 森 芳雄 米田 好道 池浦 英心	(兼)尾島靜雄(同)鳩谷 陽 (同)平間芳高 運動部長 本下 東作 同 副部長 星野 龍猪 木造 龍藏 小野三千麿 内海 寛 井川 完 管井 榮治 高須 一雄 岡本 信彦 榎橋朝太郎 渡邊 大陸 中村 元一 吉川 唯志 横澤 三郎 大門 憲文 人見 絹枝 湯淺 虎雄 谷澤 梅雄 (兼)福田雅之助(同)永井花 子(同)大野熊雄(同)奥田祐 道(同)原田武一 校正部長 平野 岑一 同 副部長 中村 謙三 同 柳 澤 茂 大村 吳樓 岡本 鶴吉 井上勝太郎 馬場 由三 清水 可次 畑田 三次 川口寛一郎 長谷 義勝 大工 常造 中西 靜麿 三宅 義昌 香川 源祐 窪田 武 安東 克雄 高橋 二郎 越智志茂造 土岐 豊 門田 秀實 奈良 仁介 澤井 吉雄 阪本 俊一 井谷 孝平	山口 廣一(準)佐柳 數一 英文大阪毎日主筆(兼) 河野 三通士 同 編輯長 毛利八太郎 ハリリー・グードリツチ リース・ハリス 佐藤剣之助 一矢 慧 高見澤民興 北村 守光 正富 笑人 阪本 俊雄 (東京在) 指田文三郎 草野榮三郎 青野 健夫 池田 哲 辻井彌一郎 田中 健兒 山口 基 齋藤 巖洋 白羽 武二 (見習)坂井渡太郎(兼)橋口 次乎 エロノミスト(雜誌) 編輯長 渡邊 廣重 木村孫八郎 木村 繁 正木 千冬 清家 唯一 (兼)片山茂美(兼)大石泰藏 東京駐在編輯次長(兼) 羽野 秀介 谷口彌五郎 川西 正鑑 橋山 五市 塚田 一甫 岩井良太郎(兼)福田雅之 助(見習)島田日出夫 點字大阪毎日中村京太郎 ▼地方機關	京都支局長 岩井 武俊 同 次長 橋本豊三郎 越智 祐男 眞野 秀雄 小倉 三男 服部 武雄 武居 清志 加藤三之雄 中川 幸史 顯考 與一 松井 彰 武田 修 (見習)辻平一(兼)橋本貞吉 神戶支局長 上西半三郎 同 次長 大野木繁太郎 松堂 一雄 桑原 忠夫 松任 克己 平田外喜二郎 中野 竹一 金子 秀三 岡本 重造 森 正藏 小林 信司(見習生)渡瀬亮 輔(同)中井眞登 名古屋支局長名村 寅雄 徳山 鐵治 栗原三千夫 餘部健三郎(準)安保 一夫 (同)木下彰 關門支局長(兼) 藤井 公平 同 次長(兼)新見 信 尾島 幹雄 鳩谷 陽 賀來増太郎 平間 芳高 野中 盛隆 峰浦 重起 藤山 孫雄 金澤支局長多久和新四郎 廣島支局長 楠 五郎	福岡支局長 中島 秀雄 京城支局長 金子伴次郎 今尾 登 芥川 壽作 臺北支局長 小泉 進作 北京支局長 布施 勝治 足利 緝 田知花信量 大連支局長 石村 誠一 同 次 長 長岡 克晴 藤岡 啓 上海支局長 村田 孔郎 大津支局長 藤井 覺猛 奈良支局長 岩井 武俊 松江支局長 喜多 清三 高松支局長 喜多收一郎 ▼各地通信部主任 (奉天)長岡克晴(兼)金森豊 造(伏見)駒原桂藏(和歌山) 安井彦三郎(岐阜)高森 晟 (福井)渡邊謙二(岡山)松本 靖雄(吳)柿本吉良(松山)曾 我鍛(徳島)藤井秀太郎(長 崎)笠井寛(釜山)濱田 實 (平壤)山澤兵部(尼ヶ崎)河 野耕一(津)伊藤信一(鹿兒 島)山口徳次 ▼海外特派員 (倫敦)高田元三郎(莫斯科) 永原茂樹(紐育)高田元三郎 (哈爾濱)玉置房一(廣東)徳
--	---	--	--	--

<p>大阪朝日新聞社 昭和二年十月二十日現在</p>		<p>花園 兼定 岩城義一郎 大塚銀次郎 小笠原語映 土屋 孝次 箕田 充夫 中里 弘多 中野 美樹 西村 徳藏 小池 良吉 中村 侃爾 大久保徳之助 齋藤 軍治 加藤 直士 堀江 敬吉 守川 信吉 伊部與三郎 西川正治郎 田中 賢治 安井 龜三 岡 佐喜藏 山田 眞一</p>	<p>竹蔵 平 杉浦 洋 ▼非職員 木村登四郎 熊崎 正義 西村利之助 藤田 榮吉 竹内 正紀 齋藤蒼石衛門 坂上 太郎 甫喜山茂樹 福良 虎雄 西田 嘉吉 淺井仁三郎 橋詰 良一 佐々木正之助 三浦 喜一 小倉彌太郎</p>
<p>重役 取締役社長 村山 龍平 専務取締役 上野 精一 取締役 下村 宏 同 村山 長舉 同 小西 勝一 同 高原 操 同 今村宗太郎 同 石井光次郎 同 杉村廣太郎 同 辰井 梅吉</p>	<p>相談役 岡野養之助 同 神崎 嘉藏 同 原田棟一郎</p>	<p>總務局 社長、各取締役 總務局勤務 後醍醐正六 監査役付(東京在勤) 志毛井確太郎 文書課 濱田 牧藏 天野 徳三 片岡 勝子 計畫部長 大江 理三郎</p>	
<p>同次長(兼)木村 豊三郎 同 辻村 又男 (兼)五十嵐秀 恩田 和 (兼)格田幸太郎 高尾亮雄 (兼)中村喜一郎 滝見 峻 堀江 猛 松本 健 村上鏡夫(練習生)今井 義 出版編輯部長鎌田敬四郎 同 次長 大道 弘雄 赤井 清司 淺野 義久 荒井 豊 大久保恒次 太田 正九東京在勤允 河野 範 白石 崑 社領丈三郎(同)城山登美子 奈良 晉三 服部政次郎 原田 正男 比佐 友香 古家 新 山中 伊尹 (囑託) Glenn W. Shaw 航空部長(兼)村山 長舉 同 次長(兼)野田 安重 同 (東京在)久松 定夫 次(兼)新宮壽天丸(同)平井 常次郎(同)弘末忠顯 臨時朝日會館委員會 上野 精一 下村 宏 村山 長舉 小西 勝一</p>	<p>同次長(兼)木村 豊三郎 同 辻村 又男 (兼)五十嵐秀 恩田 和 (兼)格田幸太郎 高尾亮雄 (兼)中村喜一郎 滝見 峻 堀江 猛 松本 健 村上鏡夫(練習生)今井 義 出版編輯部長鎌田敬四郎 同 次長 大道 弘雄 赤井 清司 淺野 義久 荒井 豊 大久保恒次 太田 正九東京在勤允 河野 範 白石 崑 社領丈三郎(同)城山登美子 奈良 晉三 服部政次郎 原田 正男 比佐 友香 古家 新 山中 伊尹 (囑託) Glenn W. Shaw 航空部長(兼)村山 長舉 同 次長(兼)野田 安重 同 (東京在)久松 定夫 次(兼)新宮壽天丸(同)平井 常次郎(同)弘末忠顯 臨時朝日會館委員會 上野 精一 下村 宏 村山 長舉 小西 勝一</p>	<p>同次長(兼)木村 豊三郎 同 辻村 又男 (兼)五十嵐秀 恩田 和 (兼)格田幸太郎 高尾亮雄 (兼)中村喜一郎 滝見 峻 堀江 猛 松本 健 村上鏡夫(練習生)今井 義 出版編輯部長鎌田敬四郎 同 次長 大道 弘雄 赤井 清司 淺野 義久 荒井 豊 大久保恒次 太田 正九東京在勤允 河野 範 白石 崑 社領丈三郎(同)城山登美子 奈良 晉三 服部政次郎 原田 正男 比佐 友香 古家 新 山中 伊尹 (囑託) Glenn W. Shaw 航空部長(兼)村山 長舉 同 次長(兼)野田 安重 同 (東京在)久松 定夫 次(兼)新宮壽天丸(同)平井 常次郎(同)弘末忠顯 臨時朝日會館委員會 上野 精一 下村 宏 村山 長舉 小西 勝一</p>	
<p>編輯局 局長 高 原 操 同 幹 岡野 養之助 主 幹 原田 棟一郎 論說委員(兼)大山千代松 (同)岡本 鶴松 (同)神尾 茂 (同)武居 巧 (同)長瀬 昇三 (同)永井 榮藏 (同)藤田進一郎 (同)和田 信夫 編輯局勤務 武居 巧 永井 榮藏 長瀬 昇三 藤木 九三 庶務係主任(兼) 大江 理三郎 近岡 久(囑)中村 平三 編輯局練習生田中 正男 富山 辰雄 松尾 亮平 宮田新八郎 横田 千秋 記事部(兼)原田棟一</p>	<p>同次長(兼)木村 豊三郎 同 辻村 又男 (兼)五十嵐秀 恩田 和 (兼)格田幸太郎 高尾亮雄 (兼)中村喜一郎 滝見 峻 堀江 猛 松本 健 村上鏡夫(練習生)今井 義 出版編輯部長鎌田敬四郎 同 次長 大道 弘雄 赤井 清司 淺野 義久 荒井 豊 大久保恒次 太田 正九東京在勤允 河野 範 白石 崑 社領丈三郎(同)城山登美子 奈良 晉三 服部政次郎 原田 正男 比佐 友香 古家 新 山中 伊尹 (囑託) Glenn W. Shaw 航空部長(兼)村山 長舉 同 次長(兼)野田 安重 同 (東京在)久松 定夫 次(兼)新宮壽天丸(同)平井 常次郎(同)弘末忠顯 臨時朝日會館委員會 上野 精一 下村 宏 村山 長舉 小西 勝一</p>	<p>同次長(兼)木村 豊三郎 同 辻村 又男 (兼)五十嵐秀 恩田 和 (兼)格田幸太郎 高尾亮雄 (兼)中村喜一郎 滝見 峻 堀江 猛 松本 健 村上鏡夫(練習生)今井 義 出版編輯部長鎌田敬四郎 同 次長 大道 弘雄 赤井 清司 淺野 義久 荒井 豊 大久保恒次 太田 正九東京在勤允 河野 範 白石 崑 社領丈三郎(同)城山登美子 奈良 晉三 服部政次郎 原田 正男 比佐 友香 古家 新 山中 伊尹 (囑託) Glenn W. Shaw 航空部長(兼)村山 長舉 同 次長(兼)野田 安重 同 (東京在)久松 定夫 次(兼)新宮壽天丸(同)平井 常次郎(同)弘末忠顯 臨時朝日會館委員會 上野 精一 下村 宏 村山 長舉 小西 勝一</p>	
<p>同次長(兼)木村 豊三郎 同 辻村 又男 (兼)五十嵐秀 恩田 和 (兼)格田幸太郎 高尾亮雄 (兼)中村喜一郎 滝見 峻 堀江 猛 松本 健 村上鏡夫(練習生)今井 義 出版編輯部長鎌田敬四郎 同 次長 大道 弘雄 赤井 清司 淺野 義久 荒井 豊 大久保恒次 太田 正九東京在勤允 河野 範 白石 崑 社領丈三郎(同)城山登美子 奈良 晉三 服部政次郎 原田 正男 比佐 友香 古家 新 山中 伊尹 (囑託) Glenn W. Shaw 航空部長(兼)村山 長舉 同 次長(兼)野田 安重 同 (東京在)久松 定夫 次(兼)新宮壽天丸(同)平井 常次郎(同)弘末忠顯 臨時朝日會館委員會 上野 精一 下村 宏 村山 長舉 小西 勝一</p>	<p>同次長(兼)木村 豊三郎 同 辻村 又男 (兼)五十嵐秀 恩田 和 (兼)格田幸太郎 高尾亮雄 (兼)中村喜一郎 滝見 峻 堀江 猛 松本 健 村上鏡夫(練習生)今井 義 出版編輯部長鎌田敬四郎 同 次長 大道 弘雄 赤井 清司 淺野 義久 荒井 豊 大久保恒次 太田 正九東京在勤允 河野 範 白石 崑 社領丈三郎(同)城山登美子 奈良 晉三 服部政次郎 原田 正男 比佐 友香 古家 新 山中 伊尹 (囑託) Glenn W. Shaw 航空部長(兼)村山 長舉 同 次長(兼)野田 安重 同 (東京在)久松 定夫 次(兼)新宮壽天丸(同)平井 常次郎(同)弘末忠顯 臨時朝日會館委員會 上野 精一 下村 宏 村山 長舉 小西 勝一</p>	<p>同次長(兼)木村 豊三郎 同 辻村 又男 (兼)五十嵐秀 恩田 和 (兼)格田幸太郎 高尾亮雄 (兼)中村喜一郎 滝見 峻 堀江 猛 松本 健 村上鏡夫(練習生)今井 義 出版編輯部長鎌田敬四郎 同 次長 大道 弘雄 赤井 清司 淺野 義久 荒井 豊 大久保恒次 太田 正九東京在勤允 河野 範 白石 崑 社領丈三郎(同)城山登美子 奈良 晉三 服部政次郎 原田 正男 比佐 友香 古家 新 山中 伊尹 (囑託) Glenn W. Shaw 航空部長(兼)村山 長舉 同 次長(兼)野田 安重 同 (東京在)久松 定夫 次(兼)新宮壽天丸(同)平井 常次郎(同)弘末忠顯 臨時朝日會館委員會 上野 精一 下村 宏 村山 長舉 小西 勝一</p>	

<p>富雪夫 局長 櫻田 松太郎 同 主事 小倉 文菊 販賣部長 鹿倉 吉次 同 助役 大多喜瀧治郎 同 富永 久三 山田保次郎 白名 徹夫 千足吉次郎 平野 太郎 淺利末四郎 平田潤次郎 箕輪 治 原 光男 石田 均 伊藤 確治 河口 治雄 上田 常隆 堀河 潔 八幡 良夫 (準)三輪與四郎(同)佐藤滿 出版課長(兼)小倉 文菊 市川 善男(準)西村宗太郎 (兼)高原慶三 計算課長 坂口 義亮 川村 敏雄 高尾 一雄 山崎 昌松(準)村野富美子 ▼販賣部駐在員 平井正衛(名古屋)鴨井辰夫 (兼)中坪八重藏(京城)杉山 勳三、山田淳一(名古屋)濱 口禎一郎(釜山)淺利義作 活動寫眞班主事小野新平 森田 梅吉 内海宮三郎</p>	<p>阪上 昇 毛利 忠男 (準)大橋國弼(同)峯川熊太 郎(同)中川靜(囑)松本秀徳 遞送課長 土井 富藏 同 助役 高橋 象平 兒玉富之丞 水原 正活 田中 利龜(準)森田 支助 (同)中川伊一郎(同)峯川伊 三太郎(同)相原壽一(同)松 崎鶴三郎(囑)小林龜三 市外係 吉成 恒久 小林喜代治(準)橋口 始蔵 廣告部長 重本 長次郎 同 助役 古賀 文雄 撫養 幸男 岸田喜三郎 藤本 哲夫 辻本 寛治 三原 勝英 谷山 良一 佐野 卯平 岩本 信平 笠原 廣 高濱 伴秋 井田 直二 山添 信吉 大畑 橋彦 森 吉兵衛 (準)上野久夫(同)春名民治 校正係主任 小野 一布 池田 壽 桂 直樹 藤岡代三郎 東京駐在員主任清澤 巖 藤本 安治 増田 正徳 河崎 靖夫 小塚 莞爾 (準)谷口和夫</p>	<p>計算課長 橋本初藏 千早 嗣郎 高橋伊三郎 庶務部長 山田 潤二 同 助役 淺井 嘉三郎 高木鉄次郎 林 賢一 今永 忠行 牧 雄吉 南 彦馬 大成 槻 (囑)立半靜雄(同)福良虎雄 (同)小平初子(同)中村三徳 清水金三郎(準)美柑岩次郎 自働車運轉係取締(兼) 南 彦馬 赤井 恭治(準)岡野 英三 (同)小野岩次郎(同)福田熊 吉(同)横井勘吉 守衛長 平井 覺 (準)平川祐太郎(同)岡野喜 一 會計部長 藏田 正次 同 助役 彌津 清 同 業田 興治 山口 一藏 橋本 末男 家永 一夫 橋本 繁藏 眞宮喜代一 矢野 春忠(準)溝口 力 局長(準) 奥村 信太郎 同次長 浦田 芳朗</p>	<p>技師長 秋好 賢 主務(兼) 高平 鶴太郎 田中伊太郎 福岡多實義 村島 歸之(準)吉田 義春 (同)藤井昂六(同)家村尚一 (同)森義雄 活字場長 高平 鶴太郎 同 助役 武田 菊松 同 豐田 英治郎 同 高森 壽太郎 同 島中 辰治郎 井上鶴太郎 ナ橋徳之助 加茂卯三郎 川口 榮吉 高橋 恒三(準)櫻井 三治 (同)森山正之助(同)勝廣次 (同)高森鶴一郎(同)田中福 藏(同)畑淺次郎(同)西山信 一(同)藤原茂太郎(同)宮脇 善高(同)中山正宗(同)宇和 野瀬治(同)利倉清三郎 鉛版場長事務取扱 浦田 芳朗 同 助役 松崎 寅吉 (準)橋口善次郎 印刷場長心得龍野 照吉 同 助役 井上 竹次郎 杉岡忠次郎(準)谷野 清助 (同)雲北徳松(同)牧野眞喜 夫(同)阿部元喜</p>	<p>寫眞場長 館林 武夫 池田仁兵衛 半田 義士 堤 謙吉 高田 正雄 (準)野澤剛一(同)鈴木鐵五 郎(同)青柳茂三郎(同)馬淵 元麗(同)坪田勝十郎(同)吉 村政次郎 グラフィック印刷係長 齋藤 庄之助 (準)平野虎一 インクタイプ係長 吉田 鶴三郎 汽罐係長 高橋 鐵三郎 電氣係長 川端 逸夫</p>
<p>同次長(兼)木村 豊三郎 同 辻村 又男 (兼)五十嵐秀 恩田 和 (兼)格田幸太郎 高尾亮雄 (兼)中村喜一郎 滝見 峻 堀江 猛 松本 健 村上鏡夫(練習生)今井 義 出版編輯部長鎌田敬四郎 同 次長 大道 弘雄 赤井 清司 淺野 義久 荒井 豊 大久保恒次 太田 正九東京在勤允 河野 範 白石 崑 社領丈三郎(同)城山登美子 奈良 晉三 服部政次郎 原田 正男 比佐 友香 古家 新 山中 伊尹 (囑託) Glenn W. Shaw 航空部長(兼)村山 長舉 同 次長(兼)野田 安重 同 (東京在)久松 定夫 次(兼)新宮壽天丸(同)平井 常次郎(同)弘末忠顯 臨時朝日會館委員會 上野 精一 下村 宏 村山 長舉 小西 勝一</p>	<p>同次長(兼)木村 豊三郎 同 辻村 又男 (兼)五十嵐秀 恩田 和 (兼)格田幸太郎 高尾亮雄 (兼)中村喜一郎 滝見 峻 堀江 猛 松本 健 村上鏡夫(練習生)今井 義 出版編輯部長鎌田敬四郎 同 次長 大道 弘雄 赤井 清司 淺野 義久 荒井 豊 大久保恒次 太田 正九東京在勤允 河野 範 白石 崑 社領丈三郎(同)城山登美子 奈良 晉三 服部政次郎 原田 正男 比佐 友香 古家 新 山中 伊尹 (囑託) Glenn W. Shaw 航空部長(兼)村山 長舉 同 次長(兼)野田 安重 同 (東京在)久松 定夫 次(兼)新宮壽天丸(同)平井 常次郎(同)弘末忠顯 臨時朝日會館委員會 上野 精一 下村 宏 村山 長舉 小西 勝一</p>	<p>同次長(兼)木村 豊三郎 同 辻村 又男 (兼)五十嵐秀 恩田 和 (兼)格田幸太郎 高尾亮雄 (兼)中村喜一郎 滝見 峻 堀江 猛 松本 健 村上鏡夫(練習生)今井 義 出版編輯部長鎌田敬四郎 同 次長 大道 弘雄 赤井 清司 淺野 義久 荒井 豊 大久保恒次 太田 正九東京在勤允 河野 範 白石 崑 社領丈三郎(同)城山登美子 奈良 晉三 服部政次郎 原田 正男 比佐 友香 古家 新 山中 伊尹 (囑託) Glenn W. Shaw 航空部長(兼)村山 長舉 同 次長(兼)野田 安重 同 (東京在)久松 定夫 次(兼)新宮壽天丸(同)平井 常次郎(同)弘末忠顯 臨時朝日會館委員會 上野 精一 下村 宏 村山 長舉 小西 勝一</p>	<p>同次長(兼)木村 豊三郎 同 辻村 又男 (兼)五十嵐秀 恩田 和 (兼)格田幸太郎 高尾亮雄 (兼)中村喜一郎 滝見 峻 堀江 猛 松本 健 村上鏡夫(練習生)今井 義 出版編輯部長鎌田敬四郎 同 次長 大道 弘雄 赤井 清司 淺野 義久 荒井 豊 大久保恒次 太田 正九東京在勤允 河野 範 白石 崑 社領丈三郎(同)城山登美子 奈良 晉三 服部政次郎 原田 正男 比佐 友香 古家 新 山中 伊尹 (囑託) Glenn W. Shaw 航空部長(兼)村山 長舉 同 次長(兼)野田 安重 同 (東京在)久松 定夫 次(兼)新宮壽天丸(同)平井 常次郎(同)弘末忠顯 臨時朝日會館委員會 上野 精一 下村 宏 村山 長舉 小西 勝一</p>	
<p>同次長(兼)木村 豊三郎 同 辻村 又男 (兼)五十嵐秀 恩田 和 (兼)格田幸太郎 高尾亮雄 (兼)中村喜一郎 滝見 峻 堀江 猛 松本 健 村上鏡夫(練習生)今井 義 出版編輯部長鎌田敬四郎 同 次長 大道 弘雄 赤井 清司 淺野 義久 荒井 豊 大久保恒次 太田 正九東京在勤允 河野 範 白石 崑 社領丈三郎(同)城山登美子 奈良 晉三 服部政次郎 原田 正男 比佐 友香 古家 新 山中 伊尹 (囑託) Glenn W. Shaw 航空部長(兼)村山 長舉 同 次長(兼)野田 安重 同 (東京在)久松 定夫 次(兼)新宮壽天丸(同)平井 常次郎(同)弘末忠顯 臨時朝日會館委員會 上野 精一 下村 宏 村山 長舉 小西 勝一</p>	<p>同次長(兼)木村 豊三郎 同 辻村 又男 (兼)五十嵐秀 恩田 和 (兼)格田幸太郎 高尾亮雄 (兼)中村喜一郎 滝見 峻 堀江 猛 松本 健 村上鏡夫(練習生)今井 義 出版編輯部長鎌田敬四郎 同 次長 大道 弘雄 赤井 清司 淺野 義久 荒井 豊 大久保恒次 太田 正九東京在勤允 河野 範 白石 崑 社領丈三郎(同)城山登美子 奈良 晉三 服部政次郎 原田 正男 比佐 友香 古家 新 山中 伊尹 (囑託) Glenn W. Shaw 航空部長(兼)村山 長舉 同 次長(兼)野田 安重 同 (東京在)久松 定夫 次(兼)新宮壽天丸(同)平井 常次郎(同)弘末忠顯 臨時朝日會館委員會 上野 精一 下村 宏 村山 長舉 小西 勝一</p>	<p>同次長(兼)木村 豊三郎 同 辻村 又男 (兼)五十嵐秀 恩田 和 (兼)格田幸太郎 高尾亮雄 (兼)中村喜一郎 滝見 峻 堀江 猛 松本 健 村上鏡夫(練習生)今井 義 出版編輯部長鎌田敬四郎 同 次長 大道 弘雄 赤井 清司 淺野 義久 荒井 豊 大久保恒次 太田 正九東京在勤允 河野 範 白石 崑 社領丈三郎(同)城山登美子 奈良 晉三 服部政次郎 原田 正男 比佐 友香 古家 新 山中 伊尹 (囑託) Glenn W. Shaw 航空部長(兼)村山 長舉 同 次長(兼)野田 安重 同 (東京在)久松 定夫 次(兼)新宮壽天丸(同)平井 常次郎(同)弘末忠顯 臨時朝日會館委員會 上野 精一 下村 宏 村山 長舉 小西 勝一</p>	<p>同次長(兼)木村 豊三郎 同 辻村 又男 (兼)五十嵐秀 恩田 和 (兼)格田幸太郎 高尾亮雄 (兼)中村喜一郎 滝見 峻 堀江 猛 松本 健 村上鏡夫(練習生)今井 義 出版編輯部長鎌田敬四郎 同 次長 大道 弘雄 赤井 清司 淺野 義久 荒井 豊 大久保恒次 太田 正九東京在勤允 河野 範 白石 崑 社領丈三郎(同)城山登美子 奈良 晉三 服部政次郎 原田 正男 比佐 友香 古家 新 山中 伊尹 (囑託) Glenn W. Shaw 航空部長(兼)村山 長舉 同 次長(兼)野田 安重 同 (東京在)久松 定夫 次(兼)新宮壽天丸(同)平井 常次郎(同)弘末忠顯 臨時朝日會館委員會 上野 精一 下村 宏 村山 長舉 小西 勝一</p>	

日本新聞聯合社

昭和二年十一月五日現在

理事會

理事	岩永裕吉	伊達源一郎	高田知一郎	松内則信	緒方竹虎	築出敏治郎	高石眞五郎	下村宏	山根眞治郎	伊藤正徳
理事	岩永裕吉	伊達源一郎	高田知一郎	松内則信	緒方竹虎	築出敏治郎	高石眞五郎	下村宏	山根眞治郎	伊藤正徳
理事	岩永裕吉	伊達源一郎	高田知一郎	松内則信	緒方竹虎	築出敏治郎	高石眞五郎	下村宏	山根眞治郎	伊藤正徳

事務理事	岩永裕吉	伊達源一郎	高田知一郎	松内則信	緒方竹虎	築出敏治郎	高石眞五郎	下村宏	山根眞治郎	伊藤正徳
庶務課長	石井衛太	長岡稔	中村豊	石部幸次	水野太一	折橋慶治	藤吉	折橋慶治	藤吉	折橋慶治
會計課長	石部幸次	水野太一	折橋慶治	藤吉	折橋慶治	藤吉	折橋慶治	藤吉	折橋慶治	藤吉
上村藤吉	水野太一	折橋慶治	藤吉	折橋慶治	藤吉	折橋慶治	藤吉	折橋慶治	藤吉	折橋慶治
不波欣一郎	折橋慶治	藤吉	折橋慶治	藤吉	折橋慶治	藤吉	折橋慶治	藤吉	折橋慶治	藤吉
外國通信部長	古野伊之助	田中正太郎	梅津忠良	石黒覺治	筒井敏夫	大平安孝	廣岡光治	同主任	同主任	同主任
事務理事	岩永裕吉	伊達源一郎	高田知一郎	松内則信	緒方竹虎	築出敏治郎	高石眞五郎	下村宏	山根眞治郎	伊藤正徳
庶務課長	石井衛太	長岡稔	中村豊	石部幸次	水野太一	折橋慶治	藤吉	折橋慶治	藤吉	折橋慶治
會計課長	石部幸次	水野太一	折橋慶治	藤吉	折橋慶治	藤吉	折橋慶治	藤吉	折橋慶治	藤吉
上村藤吉	水野太一	折橋慶治	藤吉	折橋慶治	藤吉	折橋慶治	藤吉	折橋慶治	藤吉	折橋慶治
不波欣一郎	折橋慶治	藤吉	折橋慶治	藤吉	折橋慶治	藤吉	折橋慶治	藤吉	折橋慶治	藤吉
外國通信部長	古野伊之助	田中正太郎	梅津忠良	石黒覺治	筒井敏夫	大平安孝	廣岡光治	同主任	同主任	同主任

大阪支社

支社長	東川嘉一	伊勢田富久	多々見力之助	相坂信	稻本國雄	鹽見恒明	高岩吉	高間俊一	山本静子	船瀬章郎	上野茂	外井芳平	角道和三	高田右作	山下義夫	松宮覺次	上野伊三郎
支社長	東川嘉一	伊勢田富久	多々見力之助	相坂信	稻本國雄	鹽見恒明	高岩吉	高間俊一	山本静子	船瀬章郎	上野茂	外井芳平	角道和三	高田右作	山下義夫	松宮覺次	上野伊三郎
支社長	東川嘉一	伊勢田富久	多々見力之助	相坂信	稻本國雄	鹽見恒明	高岩吉	高間俊一	山本静子	船瀬章郎	上野茂	外井芳平	角道和三	高田右作	山下義夫	松宮覺次	上野伊三郎

津田忠一	元井靜一	浦田豐	工藤照一	橋本半次郎	小池丈太郎	田尻直	原田條作	大連支局長	內海安吉
水落三郎	稻留雄一	寫眞課	荒井末吉	函館支局長	青島秀雄	山本啓一	福井輝三	稻葉武	中野繁之助
通信部	堀利勝	藤本護	岩谷泰三	古田二郎	藤井鶴雄	門司支局長	福井輝三	相原敏治	佐藤謙吾
速記課	古川清一郎	武部正雄	大杉快太郎	西澤幸男	間島忠雄	磯部彌太郎	大野健	臺灣支局長	佐藤謙吾
岡本友三郎	土屋志氣雄	砂田純一	大杉快太郎	青森支局長	杉山善之助	進藤吉雄	宮原七郎	荒木英一	樽澤信二
淺井正博	藤谷悠	菅野部内勤	田中正男	山口重藏	鶴田操	吉田正樹	中住繁夫	北京支局長	神子島信郎
石川金二郎	杉野	川添寅一	西田才治郎	仙臺支局長	河巴光城	中村早田	井生武夫	小原留吉	五月女善次郎
政經課	前西兵輔	吉田義夫	津川鑑一	八田入善	岩崎昇	磯部政雄	石川五郎比古	天津支局長	山内令三郎
陳武輝	大橋實	龜崎光次郎	外勤	長野支局長	五味正一	磯部政雄	石川五郎比古	小川澄彦	青島支局長
高橋孝三	龜崎光次郎	田代實助	藤井眞須男	長崎支局長	麻生林策	磯部政雄	石川五郎比古	大井七郎	有路久
潮海秀之助	山田伊作	富永三郎	補利昇	金澤支局長	櫻鐵三郎	磯部政雄	石川五郎比古	中野知恭	漢口支局長
小澤文次	橋爪勝重	春日中和	山田勘次郎	中村政治	荒尾弘	磯部政雄	石川五郎比古	片岡正武	石田貞一
林實太郎	小林知一	高木謙一	坂東勇	京都支局長	丸野秀丈	磯部政雄	石川五郎比古	有賀忠	西國吉
荻田英祥	平野茂	岡本榮一	佐々木良一	大分支局長	中松兵衛	磯部政雄	石川五郎比古	余叔奎	大西秀治
社會部	染井左門	岡本榮一	佐々木良一	神戶支局長	殿村敬一	磯部政雄	石川五郎比古	布田正	竹中三郎
平野茂	黒田利三郎	每木一八	普英	岡山支局長	吉近艶雄	磯部政雄	石川五郎比古	干以華	陳澤堂
平野茂	小野文雄	名古屋支局長	山口普英	定廣喜久二	三垣京一	磯部政雄	石川五郎比古	廣東支局長	田野邊英壽
久野繁樹	松田谷次郎	通信課内勤	林勤	長瀬裕	小川恒次	磯部政雄	石川五郎比古	濟南支局長	仲野
紅友義	渡賢治	石川光三郎	高木文八	鶴田宗左衛門	松田二郎	磯部政雄	石川五郎比古	紐育支局長	水谷涉
編輯課	平井利光	堀井武	田中正春	廣島支局長	寺坂壽	磯部政雄	石川五郎比古	倫敦支局長	中川治平
井上新太郎	吉田健次郎	淺野重三郎	石黒靜雄	加藤正一	樋口徳次郎	磯部政雄	石川五郎比古		
尾上敏	清水元信	石井廣友	山田市助	落千代二	瀨川岩吉	磯部政雄	石川五郎比古		
高村利世	伊田修	外勤	山田市助	松山支局長	伊藤一水	磯部政雄	石川五郎比古		
小林清三	長澤辰藏	外勤	山田市助	下關支局長	主任三増正徳	磯部政雄	石川五郎比古		
山中正憲	山本一雄	外勤	山田市助			磯部政雄	石川五郎比古		
岸芳一	櫻井謙	外勤	山田市助			磯部政雄	石川五郎比古		
大引正夫	淺田種太郎	外勤	山田市助			磯部政雄	石川五郎比古		
松本慶三	上田孝一	外勤	山田市助			磯部政雄	石川五郎比古		
米田兵二	橋口義雄	外勤	山田市助			磯部政雄	石川五郎比古		

東方通信社

昭和二年十月二十五日現在

白木 吉次
 上海支局長 波多 博
 塚本 義隆 池田 安藏
 奥宮 正澄 岡本 一男
 白尾 干城
 奉天支局 原 弘一
 ハルビン支局 加賀美保一
 北條 絳雄

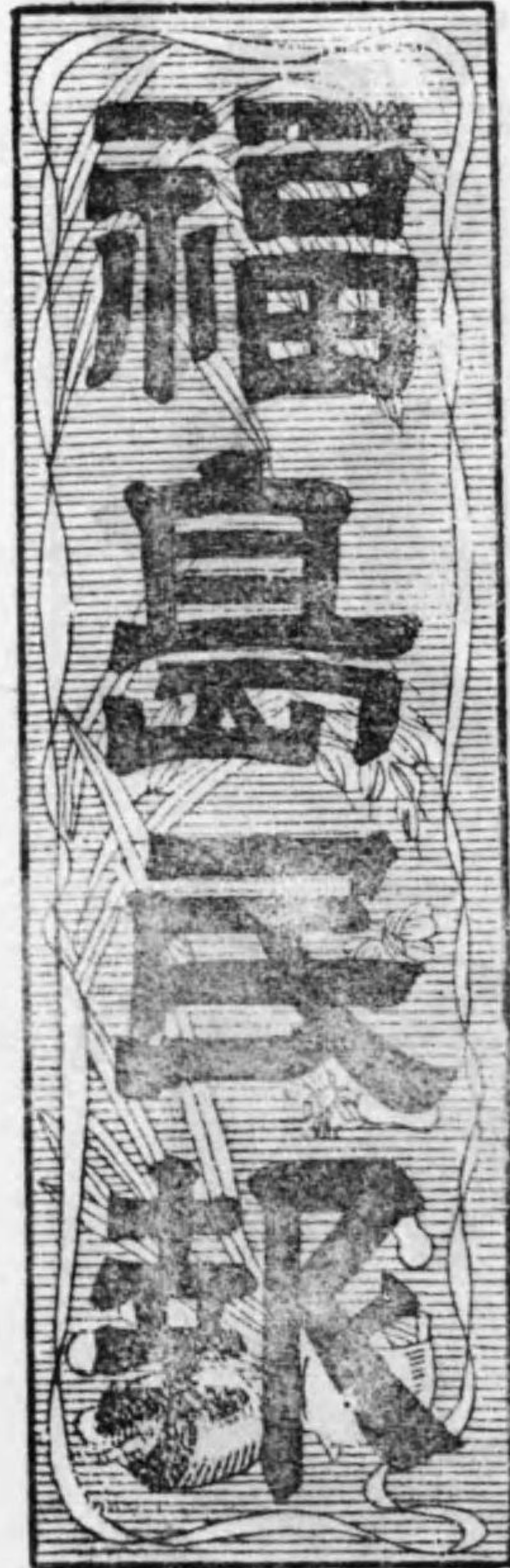
天津支局 岩本 一吉
 青島支局 浦上 叔雄
 漢口支局 後藤 和夫
 長春支局 老木 近信
 香港支局 山上 政義
 ロンドン支局長
 スキート
 巴里支局 稻垣 守克
 紐育支局 ウキリアム
 スディクソン
 ホノルル支局 デヴィス

主 幹 座間 勝平
 理事 大竹 博吉
 通信部長 鈴木 長治郎
 整理部長 川浪 道三
 經理部長 山中 梅生
 政治部長 高井 信義
 通信部 塚原時太郎
 和 田 穆 浅井 三郎
 辻 繁嗣 黒田 朝雄
 太田 康一
 經理部 岡本 義雄

支 社

上海支社長 龍岡 登
 藤田 邦芳 大里 金治
 杉谷 善藏 吉田 松治
 許 善齊 姚 任
 武田 信一 坂本 一郎
 北京支社長 谷口 源吾
 岡本 房男 猪股 芳雄
 鈴木幸次郎 松村 利雄
 白木 吉次 兆 志 安
 奉天支社長 荒 基
 中川 義次 前田 圭

哈爾濱支社長 三田 雅各
 藤本 利雄 岡本 正美
 劉 傑三 イワノフ
 漢口支局主任 横山 良夫
 長春支局 北條 絳雄



河北新報



東風日報

東風日報



岩手日報

<p>電話 二三三三 二三三三 二三三三</p>	<p>△廣告料 一行五字 一行五字 一行五字</p>	<p>△新刊代 一月 二月 三月</p>
<p>社址 岩手縣 盛岡市</p>	<p>發行所 岩手縣 盛岡市</p>	<p>印刷所 岩手縣 盛岡市</p>

精進新聞

(刊休無中年)

北陸毎日新聞

函館新聞

終始一貫 品質本位

東京市九ビル七階
東洋總代理店
太平洋貿易株式會社

エムゼービーコーヒー



夾かな香り

豊かな味

朝刊
夕刊
十頁

新時事新聞

本社
新報市西堀通
支社
東京丸ビル七階

朝刊
夕刊



報道の敏速言論の正鵠は我社の誇り

四國商戰の第一線にこの精銳あり

本社 高松市
東京支局
東京市芝區二本榎西町三
電話高輪五九五八
同出張所
東京市京橋區丸屋町五
電話銀座四五二〇
大阪支局
大阪市北區老松町二〇

新報新聞

THE
CHUGOKU
MIMPO



新人の新聞



時 時

時 時

新聞の第一歩はここから



本 部
支 部
東京大町三丁目

本 部
支 部
東京大町三丁目



發行
九州日报社
福岡市中島町二

豊州新報

明治十九年
創刊

北國新聞

本社 大分市荷揚町二番地 電話 五二七八・五三
東京支局 東京市京橋區元數寄屋町一ノ二 電話 銀座四五三〇
大阪支局 大阪市北區堂島中丁目二二二 電話 北二〇五九

創刊明治三十三年八月

■釜山日報は朝鮮唯一の貿易港にて發刊し大陸的實業の言論機關を以て滿鮮に雄飛す

■釜山日報は不覇獨立の見地に立脚して、政黨政派に偏傾せず、帝國の大陸政策に貢獻しつゝあり

釜山日報

■釜山日報は東亞の咽喉を扼して滿鮮大陸に活躍しつゝあるも最も人口稠密なる南鮮一帶を其根據とし牙城とす

■釜山日報は本紙以外に慶北版、湖南版(全羅南 北兩道)、中鮮版(忠清南 北兩道)、江原版を發刊し南鮮各地の發展を期す

電話
二四〇〇〇〇
〇三〇〇〇〇
〇〇五四三二

釜山日報社

釜山府岸本町
一及四番地

鹿兒島朝日新聞

本社 鹿兒島市易居町二番地

東京支局 京橋區銀座三丁目十八番地

電話京橋 56 五三六四番

大阪支局 西區土佐堀船町十六番地

電話土佐堀 三〇八番

●每號總督府々報、臺北州報臺北市報を附録として添ふ
 ●無休刊新式輪轉機三臺使用每號十頁乃至十二頁二版印刷、夕刊、發行

臺灣日日新報

●南支及南洋に通信機關を有し報道迅速
 ●新聞發行の外圖書の出版販賣各種の印刷、寫眞及印刷機械材料運動用品、理化科學機械の販賣並に代辯業を兼營す

臺北市榮町四丁目三十二番地
 株式會社臺灣日日新報社
 電話 二〇二、二〇三、二〇四、二〇五、二〇六、二〇七、二〇八、二〇九、二一〇、二一一、二一二、二一三、二一四、二一五、二一六、二一七、二一八、二一九、二二〇、二二一、二二二、二二三、二二四、二二五、二二六、二二七、二二八、二二九、二三〇、二三一、二三二、二三三、二三四、二三五、二三六、二三七、二三八、二三九、三四〇、三四一、三四二、三四三、三四四、三四五、三四六、三四七、三四八、三四九、三五〇、三五五、三五六、三五七、三五八、三五九、三六〇、三六一、三六二、三六三、三六四、三六五、三六六、三六七、三六八、三六九、三七〇、三七一、三七二、三七三、三七四、三七五、三七八、三七九、三八〇、三八一、三八二、三八三、三八四、三八五、三八六、三八七、三八八、三八九、三九〇、三九一、三九二、三九三、三九四、三九五、三九六、三九七、三九八、三九九、四〇〇、四〇一、四〇二、四〇三、四〇四、四〇五、四〇六、四〇七、四〇八、四〇九、四一〇、四一一、四一二、四一三、四一四、四一五、四一六、四一七、四一八、四一九、四二〇、四二一、四二二、四二三、四二四、四二五、四二六、四二七、四二八、四二九、四三〇、四三一、四三二、四三三、四三四、四三五、四三六、四三七、四三八、四三九、四四〇、四四一、四四二、四四三、四四四、四四五、四四六、四四七、四四八、四四九、四五〇、四五五、四五六、四五七、五五八、五五九、五六〇、五六一、五六二、五六三、五六四、五六五、五六六、五六七、五六八、五六九、五七〇、五七一、五七二、五七三、五七四、五七五、五七八、五七九、五八〇、五八一、五八二、五八三、五八四、五八五、五八六、五八七、五八八、五八九、五九〇、五九一、五九二、五九三、五九四、五九五、五九六、五九七、五九八、五九九、六〇〇、六〇一、六〇二、六〇三、六〇四、六〇五、六〇六、六〇七、六〇八、六〇九、六一〇、六一一、六一二、六一三、六一四、六一五、六一六、六一七、六一八、六一九、六二〇、六二一、六二二、六二三、六二四、六二五、六二六、六二七、六二八、六二九、六三〇、六三一、六三二、六三三、六三四、六三五、六三六、六三七、六三八、六三九、六四〇、六四一、六四二、六四三、六四四、六四五、六四六、六四七、六四八、六四九、六五〇、六五五、六五六、六五七、六五八、六五九、六六〇、六六一、六六二、六六三、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七一、六七二、六七三、六七四、六七五、六七八、六七九、六八〇、六八一、六八二、六八三、六八四、六八五、六八六、六八七、六八八、六八九、六九〇、六九一、六九二、六九三、六九四、六九五、六九六、六九七、六九八、六九九、七〇〇、七〇一、七〇二、七〇三、七〇四、七〇五、七〇六、七〇七、七〇八、七〇九、七一〇、七一五、七二〇、七二五、七三〇、七三五、七三五番

臺中市寶町
 同 臺中支局
 電話 一〇七番

臺南市錦町二丁目七七番地
 同 臺南支局
 電話 二〇〇番
 振替口座臺灣二〇〇番

東京市京橋區銀座一丁目九番地
 同 東京支局
 電話 京橋一四九番
 振替口座二六〇二番

大阪市内區京町堀通四丁目六番地
 同 大阪支局
 電話(長)土佐堀七四三番
 振替口座大阪四三三五番

東京市日本橋區小傳馬町一丁目九番地

劉川島洋紙店

電話浪花(67) 五二八〇番 五二八一番
 五二八二番 五二八三番
 振替口座東京二六〇六一番

政治・經濟・社會・人事

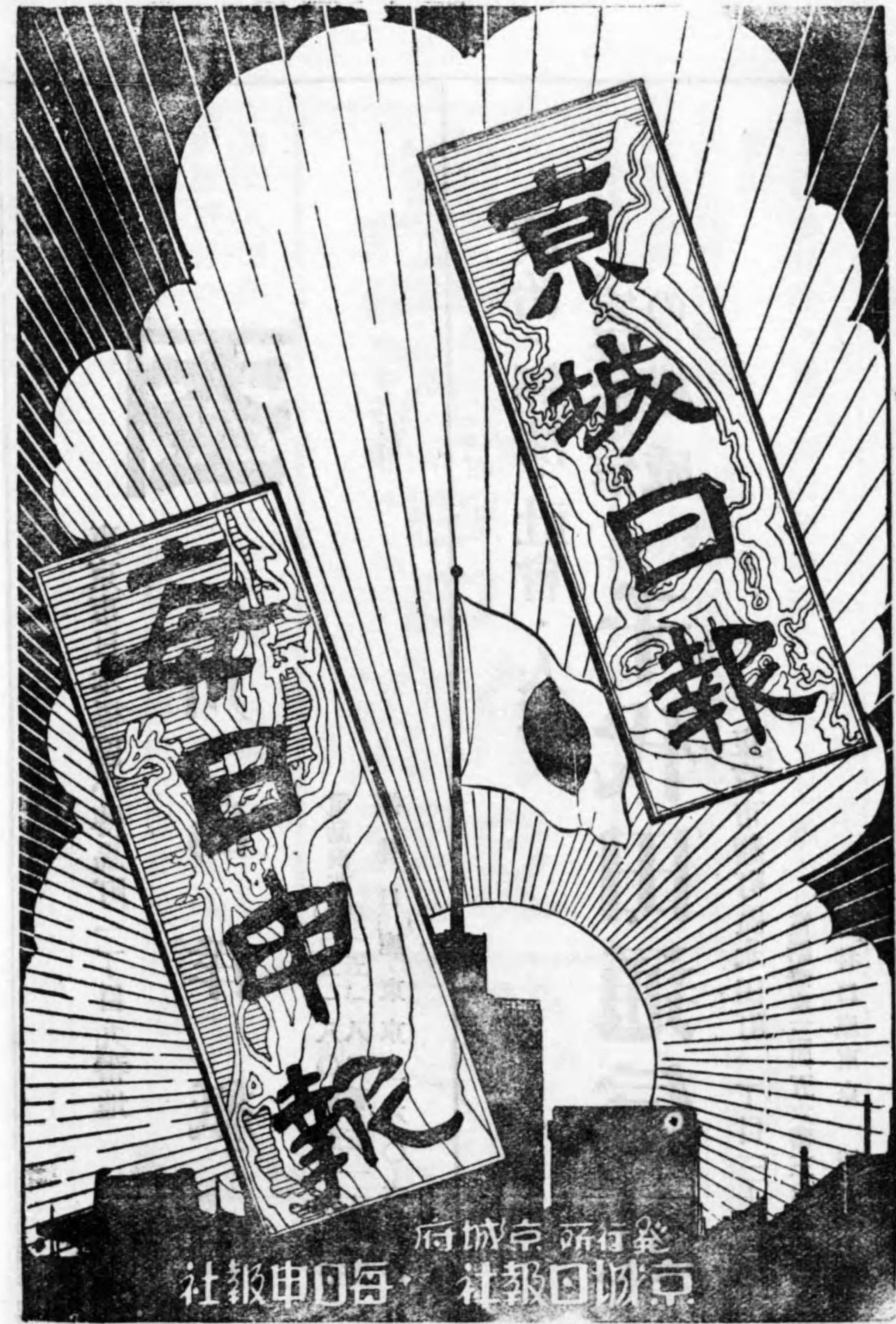
宮廷通信の權威 千代田通信社

東京市麴町區永田町一丁目三十番地
 電話銀座三四五六番三〇九〇番
 振替口座東京一四七七〇番

第四篇
名鑑

— いろは順 —

全國新聞通信社々員
約二千名の個別名鑑



東京新聞社

東京毎日社

東京支局

東京市丸の内通三號館

電話丸ノ内(23)一〇八九

東京日日新聞社

取寄社社長 本山 彦一
同副社長 矢野 文雄
常務取締役 高石 眞五郎
同兼編輯局長 松本 松藏

東京夕刊新報社

社長 中島 鐵哉
編輯局長兼政治部長 米窪 胤人
同副社長 田村 然一

中央新聞社

社長 山口 恒太郎
編輯局長兼社會部長 田村 喜三郎
同副社長 望月 見吉

中外商業新報社

社長 築田 鈞次郎
常務取締役兼業務部長兼營業部長 村上 幸平
同副社長 佐藤 三郎

萬朝報社

取寄社社長 黒岩 日出雄
同副社長 草深 今朝重
編輯局長兼政治部長 高倉 忍

讀賣新聞社

社長兼編輯局長 正力 松太郎
編輯局長 柴田 勝衛
同主事兼經理會計部長 安達 祐四郎

東京日日新聞社

政治部長 吉武 鶴次郎
同副部長 櫻田 松太郎
同副部長 松本 松藏

東京夕刊新報社

政治部長 山口 恒太郎
同副部長 田村 喜三郎
同副部長 望月 見吉

中央新聞社

政治部長 山口 恒太郎
同副部長 田村 喜三郎
同副部長 望月 見吉

中外商業新報社

政治部長 築田 鈞次郎
同副部長 村上 幸平
同副部長 佐藤 三郎

萬朝報社

政治部長 黒岩 日出雄
同副部長 草深 今朝重
同副部長 高倉 忍

讀賣新聞社

政治部長 正力 松太郎
同副部長 柴田 勝衛
同副部長 安達 祐四郎

大阪時事新報社

社長兼總務部長 堀 勘一
同副社長 堀 大助

日本電報通信社

社長兼總務部長 光永 星郎
同副社長 富安 保太郎

大阪每日新聞社

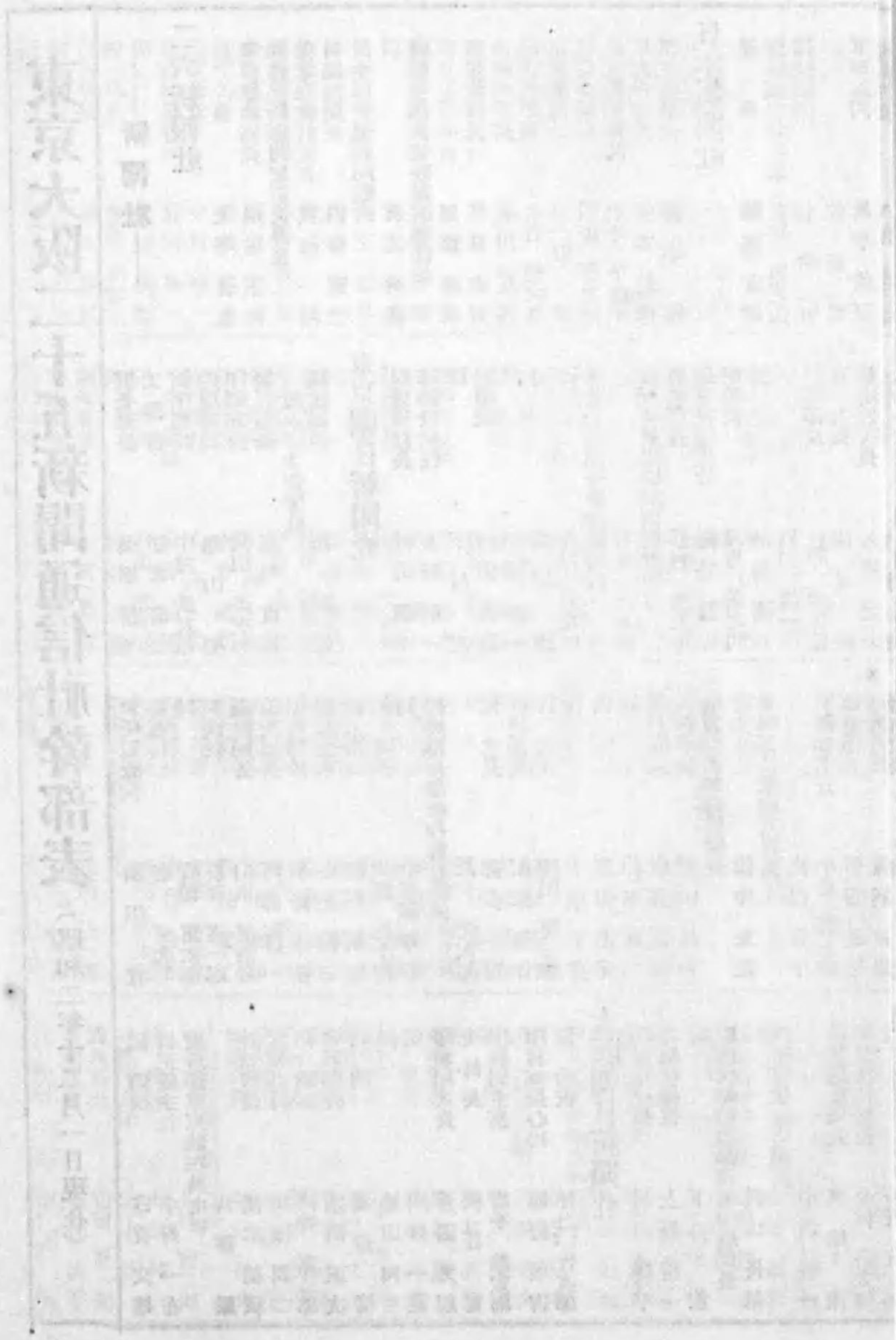
社長 本山 彦一
同副社長 矢野 文雄
同副社長 高石 眞五郎

日本新聞聯合社

社長 岩永 裕吉
同副社長 伊達 源一郎

東方通信社

社長 座間 勝平
同副社長 大竹 博吉



い(ゐ)

イワノフ 東京通信社哈爾濱支社通信部。(現住)哈爾濱埠頭區田地街東方通信社

伊原敬郎 (青々園)都新聞社調査部長(五八歳)。(現住)赤坂青山南町五ノ三五。電話青山一〇六九。

伊藤 巖 大阪時事新報販賣部長。

伊藤平治 信濃毎日新聞伊那支局。(三七歳)。(現住)信州伊那町。(電話二二〇)

伊藤理基 (風草)萬朝報整理部長(明治四三、九入社)。山口縣長(明二〇、七)生。山口中學早大英文科卒業。(新聞歴)萬朝報、大正日日、(著作)闊る女性。(趣味)演藝。(現住)東京市外東大久保四〇二。

伊藤龜雄 國民新聞調査部長。(現住)麴町區飯田町六ノ二三。(電話四谷六九三八)。

伊藤彌太郎 福島民友新聞記者。福島縣(學歷)專修大學(主

義)日蓮主義。(趣味)酒。(現住)福島縣飯坂町字花園。

伊藤啓藏 (蒼天)天業民報社編輯。千葉縣君津郡馬來田村(明三一、九、二九生)國士館高等部卒業。(趣味)旅行、乘馬、蒼天仰望の一瞬。(現住)本郷根津籃染町一福壽館。

伊藤永止 國民新聞社會部。宮城縣生。(主義)現實主義。(趣味)ラジオ、機械類。(現住)瀧野川二四一。

伊藤貞五郎 (抵悟機又は竹山)神戸新聞社、政治部長。愛媛縣(明二、一)生。(主義)皇室中心處世上には半歩主義。(趣味)小鳥。(現住)神戸市梅元町四三番屋敷(電話)元町八二番。

伊藤義一 報知新聞通信部編輯係。群馬縣北甘樂郡富岡町(明二二、一)生。(經歷)明四四年入社今日に至る(趣味)酒。(現住)在原郡在原町戸越。

伊藤喜久治 北海タイムズ社調査部、秋田縣(明三三、七)生。上智大學中途退學。(新聞歴)東京朝日。(趣味)演劇。(現住)札

幌市北二東三巴屋旅館。

伊藤金次郎 東京日日新聞學藝部副部長(三六歳)。(新聞歴)報知新聞より大正七年八月東京日日新聞へ(著書)「地方官と黨人生活」一名うき草の地方長官(趣味)書くこと。

伊藤繁太郎 萬朝報社編輯庶務課長。

伊藤恕憲 時事新報社校正係

伊藤 博 時事新報社山形支局長。千葉縣(明二八、一〇、九)生。私立信達義塾卒業、同専科修業(新聞歴)大正八年一月千葉毎日新聞社入社五月退社、同五月讀賣新聞社入社、八月退社、大正九年六月時事新報社入社、北條銚子各特置員、千葉支局長、横須賀特置員を轉任大正十四年二月山形支局長。(趣味)働く事。(現住)山形市旅籠町五四四番地(電話)山形特長二一六)。

伊藤貫一 東京日日整理部副部長。

伊藤作藏 共同通信社美術部。東京市(明二二)生。(學歷)白井兩山に彫塑を早大理工科に建築

を(經歷)東宮御所御造營局及び千代田鑄金にて彫製製作に、建築彫刻及び鑄金工場經營(趣味)釣り、新内、清元、小唄(現住)在原町下蛇窪三二一。

伊藤爲之助 秋田魁新報社。秋田縣由利郡(明三七)生。(學歷)高等小學校卒業。(經歷)小學校代用教員、由利郡本莊町島海新報社、現職(趣味)運動。(現住)秋田縣由利郡本莊町川崎屋方(電話)二五五番

伊藤正徳 時事新報編輯次長。(大二、入社)。水戸(明二二、一〇)生。家族數人、慶應大學理財科。(新聞歴)經濟部より政治部それより現任、戦時、講和、華府の三度海外に特派。(著作)海戦を想定して、破壊より建設へ改造の戦ひ、潜水艇と潜水戦。(現住)市外大井町金子。

伊藤千吉 (浪華)宮崎新聞社延岡支局主任記者。宮崎縣延岡新小路(明二五、三)生。延岡天眞社二年修業、大阪藥學校第三學期修業中退學。(新聞歴)大正三年宮崎毎日新聞社入社、八年退

社、同十一年宮崎新聞社入社。
 (趣味)運動。(現住)宮崎縣延岡中町(電話長百五十四番)
伊藤清彦 東京毎日新聞、工場長。
伊藤泰藏 高田新聞社長。
伊藤徳兵衛 温泉タイムス社長
伊東孫市 (錦水)豊州新報社、記者兼日出支局長、大分縣速見郡藤原村(明一八、一)生。(新聞)大分縣別府市に於て西海之實業雜誌發行、應刊後、豊州新報社へ入社す。(趣味)新聞事業。(現住)大分縣速見郡日出町。(電話一三番)
伊東圭一郎 東京朝日通信部長。(大分、一八入社)盛岡市(明一八、五)生。母と妻。(新聞)中外商業、静岡民友。(著作)二三あり。(現住)府下千駄谷五三八(電話青山三三三〇)。
伊東浩逸 機山又は萬弦。大阪共同通信社長。神奈川縣小田原(明二)生。(學歷)中央大學及び米國ミシガン大學(經歷)萬朝報、中央新聞、北米カルホルニヤ州殖民地事務會社等。(主義)皇室中心主義(趣味)旅行、弓道(現住)大阪市東成區千林町(電話北五六七〇番)。
伊東利男 いはらき新聞常務兼編輯部長。
伊田 暉 やまと大阪支局長。
伊福善助 東京毎日新聞、經理部長。
伊元富爾 中外商業新報政治部部長。
伊勢 順 福島毎日新聞速記者(福島市(明三四、四、一)生。(現住)福島市豊田町五〇)。
伊勢兵次郎 (盲蛇) 大東京新聞協會顧問。新聞販賣店經營。富山縣(明四、五)生。家族九人。獨學(新聞)二六(明治三三—四〇)中央營業部長(四一—四三)其後東京毎日外各社に關係す。(著作)新聞販賣の科學的研究。外新聞販賣に關するもの數種。(事業)明治四五年新聞販賣組合創立。(趣味)本業即ち趣味也。(現住)麹町區有樂町三ノ一(電話銀座六二二四番)。
井岡亮輔 萬朝報社販賣部長兼發送部長。千葉縣(明一六)生。(現住)府下大井町森前四〇二九
井筒 平 福島毎日新聞政治部記者。福島縣(明三一、五)生。(經歷)福島新聞、福島民友。(現住)福島市高田町
井川 秋 豊州新報社會部長。大分市(明、九)生。(學歷)中學卒業(經歷)兵庫縣刑部部長、東京警監學校卒業、香川縣第四部高等係刑事部長。(趣味)狩獵(現住)大分市荷揚町一八
井内龍雄 (鏡泉) 京都日日新聞編輯局(明二五、一)生。(學歷)同志社大學。(經歷)關西日日新聞、やまと新聞、神戸新聞社等(現住)京都市上長者町室町東入。
井上忠次 株式會社京華社副參事本店營業課助役。大津市(明二四、一二)生。(新聞)大津、六、三入社。(現住)京都市田中上柳町三三(電話上三三九九)。
井上勝好 報知政治部長。(明四三、八入社)京都府(明一八、一二)生。父母妻子あり、京都宣命館、中央大學卒業。(趣味)旅行。(現住)麹町區三番町六五。
井上勝太郎 (魁堂) 秋田魁新報東京支局長。(明二一、九)生。(學歷)專修大學經濟科卒業(經歷)帝國通信社地方課長。十餘年在勤、静岡新報東京支局、多摩川砂利株式會社專務取締役等經營して現在に至る。(趣味)謠曲、仕舞、(現住)京橋區三十間堀三ノ三(電話銀座五〇五八)
井上藤三郎 大阪朝日新聞聯絡部長。(現住)兵庫縣武庫郡若屋中程(電話若屋八〇八)。
井上輝二 大阪毎日社會部副部長。
井上 晃 (光陽) 豊州新報社寫眞部長。徳島縣植麻郡中島村(明三七)生。(經歷)門司新報、朝鮮時報、趣味、寫眞、音樂。(現住)大分市江戶町
井上公夫 (露舟) 東京毎日新聞社々會部。新潟縣(明二六、九)生。中學三年修業退學。(新聞)明四三、三月やまと新聞社入社、大十一、六月報知新聞社入社、大十三、六月二十日現社に入社。(趣味)植木、演藝(現住)神奈川縣鶴見町豊岡(電話四〇一)。
井上圓三 國民新聞社編輯主事

明二七、四)生。(經歷)東海、每夕、中央。(現住)市外東大久保四〇九)。
井上 彰 沼津日日新聞事務兼主筆。
井上雄馬 (不二) 南豫時事新聞社。主幹兼主筆。宇和島市(明一二、九、一七)生。(學歷)愛媛縣尋常中學校(松山)卒。東京專門學校文學部哲學科二年修業中退(經歷)小學校訓導、縣立商業學校教諭、郡書記、新聞記者等、内、南豫時事新聞主幹前後六年大阪電報通信社通信部編輯二年六ヶ月。(主義)超然主義、神人佛魚差別主義。(趣味)文藝、演藝。(現住)宇和島市神田川原(電話六〇八番)。
井上靜穂 大牟田日日主幹(九日大牟田支社長)明二八、六、熊本縣生。(經歷)大九、四月九州日日新聞社に入り同十二、三月宮崎支局長、十四、四月現職(趣味)繪畫と露營。(現住)大牟田市不知火町一丁目(電話二七五)。
井上正明 前帝國通信社通信部長兼中央課長。(現住)東京市外大森山王二六二四(電話大森九〇九)。
井澤 弘 東京日日學藝部副部長(大二入社)栃木縣(明二二、一一)生。
五十嵐璞瑛雄 東京日日新聞地方部。
五十嵐丈夫 米澤新聞社記者米澤市(明三一年)生。米澤中學校(新聞)大正九年入社。(現住)米澤市木場町。
五十嵐重郎 千葉毎日新聞社長。
爲頼母 (不徳鳥) 臺灣新聞社、鹿兒島縣(明治三五、二)生。中央大學中途退學(新聞)臺灣南新報社退社後、大正一三年九月入社。(現住)臺中市楠町一ノ一五九)。
猪股平三郎 (秋霧樓) 京都日日編輯長。大分縣中津町(四十三歲)。(學歷)獨學。(經歷)每夕新聞社政治部長を経て整理部長、中央整理部長となる。(趣味)酒と散策。(現住)本郷區追分町二四)。
猪股直二 報知新聞社通信部長(明三五、一〇、一)生。早稻田大學政治經濟學部。(趣味)運動。(現住)牛込東横町二〇榮新館(電話牛込八三)。
猪股芳雄 東方通信社北京支社通信部長。(現住)北京東城樓鳳樓娘廟七東方通信社。
猪野庄太郎 (神民) 大阪日日新聞社理事。(現住)大阪市天王寺區伶人町百番地(電話南一九七番)。
飯泉 寛 中外商業新報社廣告部茨城縣下館町(明三一、一二)生。(學歷)茨城縣下妻中學校卒業。(經歷)每夕新聞、報知新聞(現住)東京市麻布新廣尾町一ノ一二四)。
飯尾次郎三郎 北國新聞理事長。
飯田榮一 豊州新報記者。大分縣北海部郡坂ノ市町(明三〇、五六)生。(學歷)明大政經科專門部卒。(主義)皇室中心主義。(趣味)旅行。(現住)大分縣北海部郡坂ノ市町)。
飯田 恵 (素之助) 中央新聞社、社會部兼運動部。水戸市(明二八、一〇、一三)生。(學歷)早大理工科修業。(經歷)研究社英文學叢書部並に野球界同人となりやまと社會部より名古屋女學校教員となつて中央新聞社に入り今日に及ぶ。(趣味)スポーツと和樂、新内、長唄。(現住)府下下戸塚四五四)。
飯田三次郎 軍港よろづ新報社長。
飯田 翠 丹波毎日新聞主幹、京都府綾部町(三四歲)。(趣味)旅行、歌作。(現住)京都府綾部町(電話綾部二〇四番)。
飯田三千男 (豊梅) 豊州新報社營業局長。大分市(明二九、一二、五)生。(經歷)大一二、六月入社今日に至る。(主義)立憲帝國主義。(趣味)讀書と釣。(現住)大分市大道町二丁目)。
飯田清作 株式會社正路喜社外交。富山縣(明三一)生。(學歷)大倉商業學校卒。(現住)神田區小川町一)。
飯倉士郎 大分新聞社會部長。(明二七)生。(現住)別府市北末廣町)。

庵原虎之助 報知新聞社營業局長。靜岡縣(明二九、四)生。大正十年東京商科大学卒業。(新聞歴)大正十三年四月現社へ(現住)牛込東根町十四。

一戸岳逸 東奥日報經濟記者。弘前市(明六、八)生。(學歷)東奥義塾。(經歷)私立青森通信圖書館長、明三四、十一月より勤績。(趣味)書畫骨董。(現住)青森市浦町(電話一九五)。

一力健次郎 河北新報社長。仙臺市(文久三年)生。(學歷)仙臺第二高等學校。(現住)仙臺市東一番町八十二(電話二六二)。

一力次郎 河北新報社、副社長。仙臺市(明二六)生。(學歷)京大法律科、米國コロンビア大學、(經歷)辯護士。(現住)仙臺市東一番町八十二番地、電話二六二)。

一矢 慧 大阪毎日新聞英文毎日編輯部(大一一、四入社)。播磨國九會村(明二八、一〇)生。家族父、兄、幼時より英國人に從ひ英語を學ぶ(新聞歴)神戸ジヤパンクロニクル社一年五ヶ月

國際通信社大阪支店に一年八月、東京ジヤパンアドバタイザ一三ヶ月。(思想)デモクラシ。(趣味)讀書。目下洋行中。

一柳學俊(止水) 松山高商新聞副會長。愛媛縣(明、二二)生。(學歷)京都帝大法學士、文學士(經歷)松山高商教授。(趣味)讀書。(現住)松山市味酒。

一瀬新太郎 木浦新報社會部主任。福井縣大飯郡高濱町字鐘寄(明三三)生(趣味)文藝。(現住)木浦府福山町十一番地。

市川 邦 國際映畫通信社專務理事兼事業部長及び獨力活動寫眞研究を経營す。三重縣(明二九、一〇)生。早大政治經濟部に學ぶ。(新聞歴)大阪毎日新聞社經濟部。(趣味)映畫、音學、美術。(現住)京橋區南佐木町七。(電話銀座一五一八)。

市川謙一郎 信濃毎日新聞整理部。長野市(明三六、五)生。(學歷)長野中學校。(主義)感覺第一。(趣味)煙草。(現住)長野市田町。

市來義道 東京毎日新聞社記者

鹿兒島縣日置郡下伊集院村。大正十四年三月慶應義塾經濟部卒業。(現住)代々幡町代々木三一。

市島謙吉 帝國通信社取締役。入澤 滲(片村) 東臺灣新報編輯局次席。群馬縣利根郡片品村(明二一、七、七)生。(經歷)陸軍砲兵軍曹明四四退營、東京に放浪、警察官として大二渡臺、大九臺灣バック記者、十高砂バック記者、十三、一月臺灣新報記者臺北支局詰、同三月臺東支局長、十五、五月現在。(主)皇室中心。(趣味)蒐集。(現住)花蓮港街筑紫橋通り十番戶(電話二二〇)。

岩泉 泰(江東)愛媛新報主筆。盛查役。千葉縣生。六十三歳。(學歷)日本大學卒業。(經歷)松山市に居住二十年、其間海南新聞編輯局長、四國毎日主幹を経て愛媛新報に主筆として入社。(現住)松山市一萬町。

岩橋信二郎(英愁)。日刊民衆新聞社長兼主筆。和歌山市(明一七)生。(經歷)南滿日報主筆

日華公論主幹、京津日日新聞主筆、四國毎日新聞主筆、海南新聞編輯局長兼主筆、日刊民衆新聞社長兼主筆。(主義)無産大衆の味方。(現住)松山市船屋町。(電話一〇四〇番)。

岩田豊秋 東朝字都宮通信部主任。新潟縣中魚沼郡中條村(三十五歳)。(新聞歴)大阪新報、國民新聞、讀賣新聞を経て大一一三七月東朝へ入社。(趣味)煙草、探偵小説。(現住)宇都宮市西塙田町二六六(電話二二二番)。

岩田得三 國民新聞社會部。東京市(明三〇)生。(新聞歴)大勢やまと、東京夕刊、帝通、富山通信、二六。中央。(現住)市外池袋一三三四。

岩田宙造 東京朝日新聞社顧問。法學博士。(現住)麹町區八重洲町一ノ一(電話九の内九七八)。

岩田四郎 横濱貿易新報營業局長。

岩田 實(敬山) 沼津日日新聞社長。靜岡縣小山町(慶應三、九)生。中央大學卒業。(經歷)辯護士、縣會議員、其他町會議

員。(主義)嚴正中立。(趣味)圍棋、謠曲、讀書。(現住)沼津市城內四八八ノ一(電話一〇一)。

岩永裕吉 日本新聞聯合社專務理事。(明一六)生。(學歷)京大法科卒業(經歷)鐵道省文書課長。國際通信社專務取締役。(趣味)ゴルフ。(現住)府下上大崎二二二(電話高輪一七二一)。

岩里良三 大分新聞記者。(現住)大分縣日田町。

岩崎 憲 信濃日日新聞經濟部長。明三〇、七長野市に生る。(學歷)長崎高商卒業。(經歷)鮮銀、長野商業會議所。(趣味)讀書、旅行。(現住)長野市南縣町

岩崎久太 前萬朝報社販賣部長。大分縣(明二三、四)生。成城中學校(新聞歴)大阪新報、大阪時事、大正日日新聞、讀賣新聞中央新聞。(現住)東京市外下邊谷三五(電話青山五二一一)。

岩崎貞雄 東京毎夕新聞製版部長。

岩切猪之助 やまと工場長。

岩本磐門 時事新報司法記者。

(現住)小石川區江戸川町二九。

板井武雄(栗園) 報知新聞特派員。大分縣戸次町(明三三)生(學歷)蠶絲專門學校。(經歷)大分新聞、主義努力。(趣味)圍碁。(現住)福島市新町九〇(電話九四五)。

板倉卓造 時事新報取締役兼主筆、慶應大學教授。(現住)芝區白金三光町四五一(電話芝三七七七)。

板谷治平 東京毎夕新聞整理部長。(三三歳)。(趣味)何でも屋(現住)市外大井町原五二四三。

磯部三郎 新聞通信社長。(現住)麹町區有樂町三ノ一目比谷五番館(電話銀座、二三八九、二五一)。

磯田義治 丹州時報、京都支局長。京都府加佐郡由良村(明二六)生。(學歷)京都同志中學校卒業。(經歷)近江銀行京都支店及び大連正隆銀行に約十年在勤。大一三現社。(現住)京都市烏丸今出川角。

泉徳太郎(禿街) 愛媛新報社内勤(速記者)。明治二五、一二

一六生。(經歷)新聞記者生活大正八年より七年間。(趣味)俳句(現住)愛媛縣松山市紫山下。

泉 哲(法學博士)國民新聞論說委員(明大教授)。北海道。(明六、一〇)生。(學歷)スタンフォード大學、ウイスコンシン大學に政治學、コロンビア大學にて國際法研究。(現住)府下北多摩郡保谷村。

泉 政吉(風浪) 臺南新報社記者。宮城縣仙臺市(明二六)生。明治大學、日本大學、各法政學專攻。(新聞歴)東京の新聞記者生活を経て臺灣新聞から現在(趣味)政治。(現住)臺中市室町一七八(電話一七五)。

稻葉輪一 讀賣新聞廣告部長。

稻原勝治 東京日日新聞整理部長。鳥取市(明一三、一一)生。A B スタンフォード大學、A M ハーヴァード大學卒。(新聞歴)外交時報、大阪朝日新聞、英文東京日日。(趣味)散步讀書。(現住)相州片瀨)。

稻垣伯勝 前讀賣新聞社、經濟部長兼論說委員。大阪市(明一

八、一二、二五)生。明治四十七年七月早稻田大學、商科卒業。(新聞歴)東京朝日新聞政治經濟部記者、大正日日新聞(鳥居素川氏經營時代)經濟部次長兼論說委員。(趣味)音樂、農事。現住)市外世田谷町太子堂三三〇。

稻垣四方雄 京華社東京支社長。長野縣南安曇郡豊科町(明二六、一一)生。東京私立京北中學校卒業、早稻田大學卒業。(經歷)松本信託株式會社立花商店經營。(趣味)文藝、寫眞、園藝。(現住)府下大井町原五三三〇)。

稻垣玄苗 前都新聞廣告部長。(現住)赤坂青山北町六ノ四二。

稻生 積 大分新聞記者。(明三二)生。(現住)大分市西新町)。

稻見大藏 日本新聞社。茨城縣(明三四)生。(學歷)眞岡中學四年修業。(現住)牛込區早稻田南町四〇)。

生地茂一郎 新紀州社會計部長(四十四歳)。(學歷)粉河中學。(經歷)砲兵中尉、帝國在郷軍人那賀聯合會長。(現住)和歌山縣粉河町)。

生田六郎 (録魯男) 東京朝日新聞通信部。千葉市(明二八、五、一五)生。(經歷)大十四、一月國民新聞を退き直ちに東京朝日新聞に入る。(趣味)俳句、釣、(現住)東京府下駒澤町野澤九九

生駒象藏 報知社、調査部長。(現住)東京府下駒澤町野澤九九

今井 純 東京朝日新聞社校正課長。(現住)府下碑倉町大岡山七二。

今井浩三 四國民報專務

今井泰三 新聞研究所。(學歷)立教學院出身。(經歷)東京夕刊新愛知等。(現住)東京府平塚中延三三二。

今井健彦 東京毎日新聞社。代議士。

今村宗太郎 大阪朝日取締役兼廣告部長。(明三九、入社)京都府(明一〇、五)生。家族八人。專修大學理財科卒業。新聞歴本社

今村七平 福井新聞社長。經濟記者(明三九)。廣告部長(大四)。(趣味)讀書。(現住)大阪府外蘆屋北の口一八七ノ一。(電話)蘆五三七。

池部 鈞 國民新聞社繪畫部。

池田一藏 京華社副參事、本店營業課助役。大津市(明二八、三二)生。同志社大學經濟科卒業。(新聞歴)大正八年八月一日入社。(現住)大津市中保町五。

池田龍藏 (南溪) 前大阪毎日新聞社經濟部副部長兼エコーミスト編輯次長兼論說課。山形縣鶴岡市(明二五、一)生。慶應義塾大學理財科卒業、英米國へ二ヶ年留學。(趣味)讀書、酒、著述、旅行。(現住)大阪市天王寺正寺町町六。

池田留三郎 (一溪) 株式日報社主筆兼編輯長。大阪市(明一三三)生。中學校程度。(新聞歴)明治四十年以降一貫。(趣味)風流、書畫、教育獎勵。(現住)尼崎市竹谷新田。

池田傳之助 (愛泥) 南信新聞主筆。信崎小諸町生。四十歲。(學歷)早稻田大學英文科出身。(經歷)横濱毎朝新聞編輯局長。讀賣新聞主筆秘書兼、一面編輯主任。(主義)愛泥主義。(趣味)藝術。(現住)信州飯田町大久保

(電話二一九)。

池田安藏 東方通信上海支局英文課主任。長崎縣島原町。(三十三歲)(新聞歴)大正三年より同五年迄倫敦に滞在し英語の研究を爲す。(現住)上海狄思威路八一二號。(電話北三四八〇)。

池田有二 萬朝報政治部、和歌山縣(明三五、一一、五)生。大正十四年中央大學法學部卒業。(現住)市外瀧ノ川田端六五三。

池田精一郎 株式會社京華社外務員(本店)。福井縣遠敷郡吉田村(明二二、二)生。大一一、六、二四入社。(現住)京都市上京區吉田近衛町。

池田邦夫 帝國通信社。(經歷)高知新聞、やまと新聞。(現住)府下野方町新井六二五。

池内廣正 秋田時事新報社。諫山兵一 大分新聞記者。(現住)大分縣森町。

石井文作 (迷花) 萬朝報社會部長。東京淺草(明一八、五)生。中央大學英法科。(新聞歴)海軍主計官、讀賣新聞記者活動畫報主筆。(現住)京橋區新富町一ノ

九。

石井衛太 日本新聞聯合社庶務課長。上田市(明一八)生。(學歷)早大英文科。(經歷)國際通信編輯係、同庶務課長。(現住)府下下落合一五一〇(電話牛込四八〇八)。

石井光次郎 大朝取締役。東京朝日新聞社營業局長。兼印刷部長。久留米市(明二二、八、一八)生。神戸高等商業學校卒業。東京高等商業學校專攻部領事科卒業。(經歷)行政官試驗合格、警視廳保安課長、臺灣總督秘書官、臺灣總督府參事官。(現住)東京府下大森新井宿二八七九。電話大森一〇七〇)。

石井鈴子 木浦新報社。木浦福山町(明三九、九、九)生。(學歷)木浦高等女學校。(現住)木浦府大正町十七番地。

石原德榮 (桃南) 映中日報社々長。(明三三)生。(學歷)明大法律科。(現住)甲府市錦町一八(電話一七一)。

石橋恒喜 (默蟬) 國民社會部千葉縣(明治三四、一二、二)生。伯利亞出兵に従軍(二十三歲)。(趣味)釣魚。(現住)大垣市南寺内町。(電話一二五)。

東京外國語學校卒業。(趣味)運動。(現住)東京市神田區裏猿樂町九青野方。

石部幸一 日本新聞聯合社、會計課長。

石渡安躬 電通社會部。東京芝三田。(二三、三)慶大文科中途退學。(新聞歴)記者生活十一年(趣味)寫眞。(現住)府下西巢鴨宮仲二〇九三。

石渡泰之助 大毎演劇部副部長(經歷)東日秘書課長。

石割松太郎 大阪毎日調査課長。

石川六郎 東京朝日學藝部長。秋田縣(明一三、三)生。妻。早大英文科出。(新聞歴)勤続十五年。(思想)人道的社會主義とでも申すべきか。(趣味)廣いが淺い。(現住)東京市外下目黒八四四。(電話高輪二三三〇)。

石川辰男 都新聞社記者。政經部。常陸笠間(明二五、九、二)生。(新聞歴)東京日日新聞社。(趣味)墓地探し勝負事。(現住)府下瀧野川町西ヶ原五一一。

石川政芳 (星影) 新潟毎日新聞學藝家庭部長。大一一、八入社。福島縣(明三一、七)生。(新聞歴)新潟毎日、やまと、いはらき、萬朝報、時事新報、月刊趣味の婦人、週刊こども新聞編輯長、歌集銀線その他長短篇小説童話劇の著作あり。(趣味)音樂、園藝。(現住)新潟市學校町

石川順 (成郎) 東京日日外報部。千葉縣成田町(明三五、三七)生。上海東亞同文書院卒業。(新聞歴)新愛知。

石川壽三郎 報知新聞社經濟部(三十六歲)。(現住)在下落合町上落合。

石川秀三郎 國民新聞社地方部

石川要 (柏堂) 四國民報廣告部長。愛媛縣(明二一)生。(學歷)明治學院。(經歷)國民新聞、中國民報。(趣味)讀書、釣魚、旅行。(現住)高松市外磨屋町。

石川武美 國民新聞社、取締役主婦の友社長。(現住)下瀧谷羽根澤一一七(電話青山一〇四六)

石川龍星 日本新聞社。(現住)市外中野町東中野。

石川悌次郎 郵城。國民新聞經濟部。秋田縣(明三六)生。(學歷)上海東亞同文書院。(趣味)なんでも。(現住)下瀧谷四二九

石河幹明 時事新報名譽主筆。(現住)麻布區富士見町九(電話)芝五〇一三)。

石龜 保 株式會社正路喜社調査課長。岩手縣(明二一)生。盛岡高等農林學校中途退學。(現住)府下豐多摩郡野方町上沼袋一九四。

石上留次郎 (秀楠) 北都毎日新聞社社會部長。茨城縣鹿島町(明三六)生。(學歷)明大法律科專門部中途退學。(經歷)日本女子大學出版部、二六新報、茨城日報、東京毎夕、日刊婦人新聞(主義)自由。(趣味)玉突、射的(現住)旭川市五條通十二丁目

石田 繁 (禾洲) 美濃大正新聞編輯長。岐阜縣安八郡南杭瀬村大字外野(明二九、九、二五)生(新聞歴)美濃大正新聞(十九歲)

石井衛太 日本新聞聯合社庶務課長。上田市(明一八)生。(學歷)早大英文科。(經歷)國際通信編輯係、同庶務課長。(現住)府下下落合一五一〇(電話牛込四八〇八)。

石井光次郎 大朝取締役。東京朝日新聞社營業局長。兼印刷部長。久留米市(明二二、八、一八)生。神戸高等商業學校卒業。東京高等商業學校專攻部領事科卒業。(經歷)行政官試驗合格、警視廳保安課長、臺灣總督秘書官、臺灣總督府參事官。(現住)東京府下大森新井宿二八七九。電話大森一〇七〇)。

石井鈴子 木浦新報社。木浦福山町(明三九、九、九)生。(學歷)木浦高等女學校。(現住)木浦府大正町十七番地。

石原德榮 (桃南) 映中日報社々長。(明三三)生。(學歷)明大法律科。(現住)甲府市錦町一八(電話一七一)。

石橋恒喜 (默蟬) 國民社會部千葉縣(明治三四、一二、二)生。伯利亞出兵に従軍(二十三歲)。(趣味)釣魚。(現住)大垣市南寺内町。(電話一二五)。

石川六郎 東京朝日學藝部長。秋田縣(明一三、三)生。妻。早大英文科出。(新聞歴)勤続十五年。(思想)人道的社會主義とでも申すべきか。(趣味)廣いが淺い。(現住)東京市外下目黒八四四。(電話高輪二三三〇)。

石川辰男 都新聞社記者。政經部。常陸笠間(明二五、九、二)生。(新聞歴)東京日日新聞社。(趣味)墓地探し勝負事。(現住)府下瀧野川町西ヶ原五一一。

石川政芳 (星影) 新潟毎日新聞學藝家庭部長。大一一、八入社。福島縣(明三一、七)生。(新聞歴)新潟毎日、やまと、いはらき、萬朝報、時事新報、月刊趣味の婦人、週刊こども新聞編輯長、歌集銀線その他長短篇小説童話劇の著作あり。(趣味)音樂、園藝。(現住)新潟市學校町

石川順 (成郎) 東京日日外報部。千葉縣成田町(明三五、三七)生。上海東亞同文書院卒業。(新聞歴)新愛知。

石川壽三郎 報知新聞社經濟部(三十六歲)。(現住)在下落合町上落合。

石川秀三郎 國民新聞社地方部

石川要 (柏堂) 四國民報廣告部長。愛媛縣(明二一)生。(學歷)明治學院。(經歷)國民新聞、中國民報。(趣味)讀書、釣魚、旅行。(現住)高松市外磨屋町。

石川武美 國民新聞社、取締役主婦の友社長。(現住)下瀧谷羽根澤一一七(電話青山一〇四六)

石川龍星 日本新聞社。(現住)市外中野町東中野。

石川悌次郎 郵城。國民新聞經濟部。秋田縣(明三六)生。(學歷)上海東亞同文書院。(趣味)なんでも。(現住)下瀧谷四二九

石河幹明 時事新報名譽主筆。(現住)麻布區富士見町九(電話)芝五〇一三)。

石龜 保 株式會社正路喜社調査課長。岩手縣(明二一)生。盛岡高等農林學校中途退學。(現住)府下豐多摩郡野方町上沼袋一九四。

石上留次郎 (秀楠) 北都毎日新聞社社會部長。茨城縣鹿島町(明三六)生。(學歷)明大法律科專門部中途退學。(經歷)日本女子大學出版部、二六新報、茨城日報、東京毎夕、日刊婦人新聞(主義)自由。(趣味)玉突、射的(現住)旭川市五條通十二丁目

石田 繁 (禾洲) 美濃大正新聞編輯長。岐阜縣安八郡南杭瀬村大字外野(明二九、九、二五)生(新聞歴)美濃大正新聞(十九歲)

石井衛太 日本新聞聯合社庶務課長。上田市(明一八)生。(學歷)早大英文科。(經歷)國際通信編輯係、同庶務課長。(現住)府下下落合一五一〇(電話牛込四八〇八)。

石井光次郎 大朝取締役。東京朝日新聞社營業局長。兼印刷部長。久留米市(明二二、八、一八)生。神戸高等商業學校卒業。東京高等商業學校專攻部領事科卒業。(經歷)行政官試驗合格、警視廳保安課長、臺灣總督秘書官、臺灣總督府參事官。(現住)東京府下大森新井宿二八七九。電話大森一〇七〇)。

石井鈴子 木浦新報社。木浦福山町(明三九、九、九)生。(學歷)木浦高等女學校。(現住)木浦府大正町十七番地。

石原德榮 (桃南) 映中日報社々長。(明三三)生。(學歷)明大法律科。(現住)甲府市錦町一八(電話一七一)。

石橋恒喜 (默蟬) 國民社會部千葉縣(明治三四、一二、二)生。伯利亞出兵に従軍(二十三歲)。(趣味)釣魚。(現住)大垣市南寺内町。(電話一二五)。

花と會談。(現住)大連大毎支局
石黒仁三郎 (二三) やまと新聞商況部。大江戸(明三九、一〇)生。(主義)自然主義。(趣味)スポーツ全般。(現住)本所區吉田町二六。
石田雄二 大阪朝日新聞社會部次長。(現住)北區船大工町五〇(電話北三九七〇)。
石田與市 帝國新聞編輯長。
石田武太郎 中外商業新報政治部長兼外報部長。大阪府(明二三)生。(學歷)早大政治經濟學科。(經歷)中外商業ニユーイク特派員。(現住)在原郡碑倉町字袋二二三八。
石丸重義 土陽新聞編輯長。(明一九、一〇)生。(新聞歴)土佐新聞社。(現住)高知市大川筋六〇(電話二二一〇)。
石坂喜太郎 (閉月子) 報知新聞社熊谷支局主任。群馬縣(明一八、六)生。(新聞歴)明三十九年七月報知新聞社芝第二分局の店員になり、明四十二年五月社員に採用販賣部に入る。(趣味)文藝。(現住)埼玉縣熊谷町

本町四丁目。
石坂湖郎 やまと新聞社政治部貴族院擔任。埼玉縣大里郡奈良村(明二九、七、二三)生。京都帝國大學法學部政治學科卒(大十三)。(新聞歴)大十、九月國民新聞入社、大十二、十一月退社、十三、五月やまと入社。(趣味)各種の運動競技、遊び事。(現住)市外淀橋町角袋二〇三。
石崎喜夫 讀賣新聞。滋賀縣(明二八、一一、二七)生。(學歷)日本大學法科卒業。(經歷)大〇〇現社に入社。(趣味)讀書。(現住)東京府北豐島郡中新井村一二一給前方。
石島悌次郎 國民新聞社社會部。東京神田(二六、一〇)生。(經歷)時事、讀賣、國民。(趣味)劇と江戸趣味。(現住)池袋一〇八六。
石森久彌 (五城樓 迫川) 朝鮮公論社長、朝鮮新聞理事(三十三六歳)。仙臺東北中學卒業、明大商科、外語。(新聞歴)大正十四年五月朝鮮公論社の全權利を繼承して社主兼社長となる。(趣味)

味)觀劇、長唄、柔道、野球、書畫。(現住)京城市大和町三ノ六(電話三二二八)。
石母田文雄 東京大勢新聞政治部長。宮城縣(明二六)生。(經歷)やまと、國民、毎夕、東夕、中央、地方新聞、著書(主義)國家至上主義(趣味)酒と讀書。(現住)東京府下王子町上十條一四一九。
ろ
六久保一永 丹州時報社硬派編輯。高知市(明三〇、一二、六)生。(經歷)大七土陽新聞見習記者、八、一月記者、一二、一一日新東北社會部長、同九月編輯長、一一、四月土陽記者復歸、十三、フランスを覗く、十五、四月現在(主義)美の生活主義。

羽野秀介 大阪毎日エコーノミスト東京駐在編輯次長。
羽生田源三 信濃日日新聞社編輯主事。長野縣更級郡眞島村(明三一、一一)生。(現住)長野縣更級郡眞島村。
波多 博 日本新聞聯合上海支局長。
波多野乾一 (終南、老沙場客) 時事新報北京特派員。明二三、一一、一八日、大分縣大分郡野津原村生。(學歷)東亞同文書院卒業(經歷)大二大阪朝日入社、同六大阪毎日入社、七年東京日日に轉、九年北京派遣、十二年退社、北京新聞を創立、十四年退社、同年時事入社。(著書)「支那の政黨」「現代支那」解説と提唱「支那政黨系位表」(英文)「支那關稅會議」「支那劇五百番」「支那劇及其名優」(趣味)觀劇、野球、庭球、住宅研究、煙草道樂。(現住)北京東城洋溢胡同五五。(電話東四五五六)。
波津久清 中外商業新報社經濟部長。早稻田大學出身。(現住)赤坂區青山南町五ノ八四(電話

青山二二七六)。
馬場直美 中外商業新報編輯主事。福島縣(明治一六)生。早大に學んだことあり、校友に推薦さる。(新聞歴)明三八、五月萬朝報社に入社、政經部編輯部長首論を擔當、大正一三年五月退社、同八月現社に入る。(著書)下らないもの數種。(趣味)旅行(現住)府下大井町四九一二(電話大森一一五五)。
馬場龍海 東京朝日社會部次長佐賀市(明一八)生。(學歷)駒澤大學(經歷)尼港事件從軍(主義)大乘佛教主義(趣味)旅行と酒少量。(現住)杉並町高圓寺四四六。
馬場義雄 日本電報通信社。福島縣(明二八)生。(學歷)中學卒業。(經歷)福日、電報(現住)東中野一〇六六。
馬場達夫 二六新報理事兼整理部長兼映畫部長。神田今川小路(學歷)早大英文科(新聞歴)やまと、二六、中央、東京毎夕。(現住)府下大井町坂下二七二三。
馬場 常 福島毎日新聞記者。

福島縣南會津郡八幡村。(現住)福島市曾根田後田一番地。
馬場常太郎 大阪時事新報社京都支局勤務。京都府紀伊郡納所村(明二七、七)生。(現住)京都府紀伊郡堀内村字泰長老。電話伏見五八二番)。
馬場恒吾 前國民新聞編輯局長岡山縣(明八、七)生。母妻、仙臺第二高等學校、同志社、早稻田等。(新聞歴)ジャパン、タイムスに十年、紐育オリエンタル、レビューに四年。(著作)改造の叫ぶ労働問題と普通選舉(思想)自由主義。(趣味)旅行。(現住)四谷區南寺町一〇。
棒原徳三郎 (秋頌) 國粹日日新聞社工場職員。京都市(明三〇、一一、六)生。(學歷)中學卒業。(經歷)京都日の出新聞、大阪時事新報を経て今日に及ぶ(主義)國粹主義。(現住)大阪市西淀川區大仁町一一一ノ一(電話架設中)。
土生 彰 (笹東又は梧竹) 福井新聞主筆。福井縣武生町(元治元、九、二二)生。獨學。(經

歴) 武生町長、福井縣會議員、福井市會議員、衆議院議員(現在)。(趣味)漢詩歌俳句。(現住)福井縣武生町浪花十七(電話四六六)。
土生太郎 國民通信社主幹(上州(明二五)生。(主義)皇室中心日本主義。(趣味)旅行、運動、(現住)巢鴨町上駒込國民通信社氣附)。
春山武松 大阪朝日新聞記者。(大八、四入社)。姫路(明一八、七)生。妻、都文館中學、一高等を経て東京帝大文科哲學科美術專攻卒業大學院に三年間繪畫史研究。(新聞歴)東朝の客員となり美術方面に關係し後大阪朝日に轉じ文藝美術擔當。(著作)宗達と光琳、光悦と乾山。日本の繪畫。(現住)兵庫縣武庫郡蘆屋字濱吳川六。
服部敬雄 東京朝日新聞社編輯局長。山形市(明三二、一二)生(學歷)十三年早稻田大學政治經濟學部卒業後同大學院に入學十四年退く。(經歷)早稻田大學新聞の創刊を發起實現十四年東京朝

日新聞社に入る。(主義)ソリタリズム(趣味)民謡をたづねる。(現住)東京小石川小日向水道町久世山ハウス。(電話小石川一四六)。
服部錠三 都新聞第一部長。鶴岡市(明一六)生。(學歷)早大政治部卒業。(經歷)報知新聞高田新聞主筆。(趣味)謠曲。(現住)東京市外下荻窪一八八(電話荻窪一七二番)。
服部敬吉 山形新聞取締役支配人。
服部龜三郎 東京朝日新聞政治部長。(現住)市外大井町出石五一〇(電話大井一四五〇)。
八田宗吉 福島民報副社長。
八田武治 時事新報連聯部長。
畠田淳郎 兵神日報社主。兵庫縣(明二五)生。(學歷)洲本中學。(經歷)大正日日新聞神戸支局。(主義)帝國中心主義(趣味)庭球。(現住)神戸市島上町三九(電話兵庫一〇一三番)。
花井卓藏 東京朝日新聞社顧問法學博士。(現住)神田區錦町一ノ二(電話神田八八〇)。